

北区

道合遺跡 赤羽上ノ台遺跡

—赤羽台団地(第Ⅳ期)建替事業に伴う埋蔵文化財発掘調査—

第3分冊



2024・3

東京都埋蔵文化財センター

北区

道合遺跡 赤羽上ノ台遺跡

—赤羽台団地(第Ⅳ期)建替事業に伴う埋蔵文化財発掘調査—

第3分冊



2024・3

東京都埋蔵文化財センター

目 次

Ⅶ 付編—旧日本陸軍被服本廠および近代遺構に関して—	1
引用・参考文献	330
写真図版	349
報告書抄録	374

挿 図 目 次

第 1 図 道合遺跡 塹壕 (1/1,000)	6	第 20 図 陶磁器類 5 (湯呑 1)	66
第 2 図 塹壕参考図 1	7	第 21 図 陶磁器類 6 (湯呑 2)	67
第 3 図 塹壕参考図 2	8	第 22 図 陶磁器類 7 (湯呑 3)	68
第 4 図 天覧演習 1	9	第 23 図 陶磁器類 8 (湯呑 4)	69
第 5 図 天覧演習 2	10	第 24 図 陶磁器類 9 (湯呑 5・湯呑蓋・飯碗 1)	70
第 6 図 天覧演習 3	11	第 25 図 陶磁器類 10 (飯碗 2・丼 1)	71
第 7 図 道合遺跡 被服本廠関連遺構 (1/1,000)	19	第 26 図 陶磁器類 11 (丼 2)	72
第 8 図 赤羽上ノ台遺跡 被服本廠関連遺構 (1/400)	20	第 27 図 陶磁器類 12 (丼 3)	73
第 9 図 大六天・道合・赤羽上ノ台遺跡 被服本廠関連遺構 (1/2,500)	21	第 28 図 陶磁器類 13 (丼蓋 1)	74
第 10 図 道合遺跡第Ⅱ～Ⅳ次調査 被服本廠関連遺構 (1/1,000)	23	第 29 図 陶磁器類 14 (丼蓋 2)	75
第 11 図 道合遺跡第Ⅴ・Ⅵ次調査 被服本廠関連遺構 (1/1,000)	25	第 30 図 陶磁器類 15 (碗・皿 1)	76
第 12 図 赤羽上ノ台遺跡 被服本廠関連遺構 (1/1,000)	27	第 31 図 陶磁器類 16 (皿 2)	77
第 13 図 被服本廠建物配置図 1 (原図)	29	第 32 図 陶磁器類 17 (皿 3)	78
第 14 図 被服本廠建物配置図 2 (トレース図)	31	第 33 図 陶磁器類 18 (皿 4)	79
第 15 図 調査で検出された被服本廠建物	33	第 34 図 陶磁器類 19 (皿 5・鉢・蓋物)	80
第 16 図 陶磁器類 1	62	第 35 図 陶磁器類 20 (蓋物蓋・小杯・土瓶)	81
第 17 図 陶磁器類 2	63	第 36 図 陶磁器類 21 (急須・土瓶蓋)	82
第 18 図 陶磁器類 3	64	第 37 図 陶磁器類 22 (急須蓋・カップ・ソーサー・燗徳利)	83
第 19 図 陶磁器類 4	65	第 38 図 陶磁器類 23 (徳利・灰皿 1)	84
		第 39 図 陶磁器類 24 (灰皿 2)	85
		第 40 図 陶磁器類 25 (代用陶器 飲料・化粧品・糊・インク瓶)	86
		第 41 図 陶磁器類 26	

(文房具・煙管・理化学用品・衛生陶器) ……87	第75図 各国認識票模式図……………121
第42図 陶磁器類27(硫酸瓶・罎子)……………88	第76図 認識票1……………122
第43図 陶磁器の意匠各種、 被購食堂食器マーク変遷……………89	第77図 認識票2……………123
第44図 ガラス製品1……………90	第78図 認識票3……………124
第45図 ガラス製品2……………91	第79図 認識票4……………125
第46図 ガラス製品3(ビール瓶1)……………92	第80図 認識票5……………126
第47図 ガラス製品4(ビール瓶2)……………93	第81図 認識票6……………127
第48図 ガラス製品5(ビール瓶3)……………94	第82図 認識票7……………128
第49図 ガラス製品6(洋酒・清酒・焼酎瓶)……………95	第83図 認識票8……………129
第50図 ガラス製品7(清涼飲料瓶1)……………96	第84図 認識票9……………130
第51図 ガラス製品8(清涼飲料瓶2・ジュース瓶) ……………97	第85図 認識票10……………131
第52図 ガラス製品9(シロップ・牛乳瓶1)……………98	第86図 認識票11……………132
第53図 ガラス製品10 (牛乳瓶2・乳酸菌飲料瓶・調味料瓶1)……………99	第87図 認識票12……………133
第54図 ガラス製品11(調味料瓶2・食品瓶1) ……………100	第88図 認識票13(CT画像)……………134
第55図 ガラス製品12(食品瓶2・薬瓶1)……………101	第89図 煉瓦1(普通煉瓦1)……………135
第56図 ガラス製品13(薬瓶2)……………102	第90図 煉瓦2(普通煉瓦2)……………136
第57図 ガラス製品14(薬瓶3)……………103	第91図 煉瓦3(普通煉瓦3)……………137
第58図 ガラス製品15(化粧品瓶・インク瓶1) ……………104	第92図 煉瓦4(普通煉瓦4)……………138
第59図 ガラス製品16(インク瓶2・ インク壺・オイル瓶)……………105	第93図 煉瓦5(普通煉瓦5)……………139
第60図 ガラス製品17(糊瓶・文房具・ 靴墨瓶・理化学用品他)……………106	第94図 煉瓦6(普通煉瓦6)……………140
第61図 合成樹脂製品1(食券)……………107	第95図 煉瓦7(普通煉瓦7)……………141
第62図 合成樹脂製品2(歯刷牙他)……………108	第96図 煉瓦8(普通煉瓦8)……………142
第63図 皮革製品1(見本帳・手袋)……………109	第97図 煉瓦9(普通煉瓦9)……………143
第64図 手袋・編上げ靴仕様図……………110	第98図 煉瓦10(普通煉瓦10)……………144
第65図 皮革製品2(靴・雪駄)……………111	第99図 煉瓦11(普通煉瓦11)……………145
第66図 皮革製品3(端切れ)……………112	第100図 煉瓦12(普通煉瓦12)……………146
第67図 皮革製品4(素材)……………113	第101図 煉瓦13(普通煉瓦13)……………147
第68図 繊維製品1……………114	第102図 煉瓦14(普通煉瓦14)……………148
第69図 繊維製品2・ゴム製品……………115	第103図 煉瓦15(普通煉瓦15)……………149
第70図 金属製品1(コハゼ・徽章・釘・ 尾錠・コキ・弾薬・鉄帽)……………116	第104図 煉瓦16(普通煉瓦16)……………150
第71図 金属製品2(門匙、防毒面関連)……………117	第105図 煉瓦17(普通煉瓦17)……………151
第72図 金属製品3(釘・建築材・軌条)……………118	第106図 煉瓦18(普通煉瓦18)……………152
第73図 金属製品4(鉄扉)……………119	第107図 煉瓦19(普通煉瓦19)……………153
第74図 認識票仕様図……………120	第108図 煉瓦20(普通煉瓦20)……………154
	第109図 煉瓦21(普通煉瓦21)……………155
	第110図 煉瓦22(普通煉瓦22)……………156
	第111図 煉瓦23(耐火煉瓦)・瓦1……………157
	第112図 瓦2……………158
	第113図 煉瓦刻印出土地点……………159
	第114図 被服本廠建物変遷図1……………169
	第115図 被服本廠建物変遷図2……………170
	第116図 被服本廠建物変遷図3……………171

第 117 図	被服本廠建物測量図 1 (3号倉庫 1)	第 144 図	被服本廠出土遺物集成 11
.....	172	陶磁器類 11 (井蓋 2).....	234
第 118 図	被服本廠建物測量図 2 (3号倉庫 2)	第 145 図	被服本廠出土遺物集成 12
.....	173	陶磁器類 12 (碗・軍用食器)...	235
第 119 図	被服本廠建物測量図 3	第 146 図	被服本廠出土遺物集成 13
(3号倉庫 3—扉・窓).....	174	陶磁器類 13 (皿 1・軍用食器 1)...	236
第 120 図	被服本廠建物測量図 4	第 147 図	被服本廠出土遺物集成 14
(6・7・22号倉庫、煙突).....	175	陶磁器類 14 (皿 2・軍用食器 2)...	237
第 121 図	被服本廠建物測量図 5	第 148 図	被服本廠出土遺物集成 15
(22号倉庫).....	176	陶磁器類 15 (皿 3・軍用食器 3)...	238
第 122 図	被服本廠 写真 1	第 149 図	被服本廠出土遺物集成 16
第 123 図	被服本廠 写真 2	陶磁器類 16 (皿 4・鉢).....	239
第 124 図	被服本廠 写真 3	第 150 図	被服本廠出土遺物集成 17 陶磁器類 17
第 125 図	被服本廠 写真 4	(カップ・ポット・ソーサー他).....	240
第 126 図	被服本廠 写真 5	第 151 図	被服本廠出土遺物集成 18
第 127 図	被服本廠 写真 6	陶磁器類 18 (徳利).....	241
第 128 図	被服本廠臨時構造物調査全体図	第 152 図	被服本廠出土遺物集成 19
第 129 図	被服本廠臨時構造物 1	陶磁器類 19 (猪口).....	242
第 130 図	被服本廠臨時構造物 2	第 153 図	被服本廠出土遺物集成 20
第 131 図	被服本廠臨時構造物 3	陶磁器類 20 (土瓶).....	243
第 132 図	被服本廠臨時構造物 4	第 154 図	被服本廠出土遺物集成 21
第 133 図	被服本廠臨時構造物 5	陶磁器類 21 (土瓶・急須・蓋).....	244
第 134 図	被服本廠出土遺物集成 1	第 155 図	被服本廠出土遺物集成 22
陶磁器類 1 (湯呑 1).....	224	陶磁器類 22 (羽釜・土鍋).....	245
第 135 図	被服本廠出土遺物集成 2	第 156 図	被服本廠出土遺物集成 23
陶磁器類 2 (湯呑 2).....	225	陶磁器類 23 (電気傘).....	246
第 136 図	被服本廠出土遺物集成 3	第 157 図	被服本廠出土遺物集成 24
陶磁器類 3 (湯呑 3).....	226	陶磁器類 24 (灰皿他).....	247
第 137 図	被服本廠出土遺物集成 4	第 158 図	被服本廠出土遺物集成 25
陶磁器類 4 (湯呑蓋).....	227	ガラス製品 1 (ビール瓶 1) ...	248
第 138 図	被服本廠出土遺物集成 5	第 159 図	被服本廠出土遺物集成 26
陶磁器類 5 (飯碗).....	228	ガラス製品 2 (ビール瓶 2) ...	249
第 139 図	被服本廠出土遺物集成 6	第 160 図	被服本廠出土遺物集成 27
陶磁器類 6 (丼 1・軍用食器 1) ...	229	ガラス製品 3 (洋酒瓶).....	250
第 140 図	被服本廠出土遺物集成 7	第 161 図	被服本廠出土遺物集成 28
陶磁器類 7 (丼 2・軍用食器 2) ...	230	ガラス製品 4 (ワイン瓶).....	251
第 141 図	被服本廠出土遺物集成 8	第 162 図	被服本廠出土遺物集成 29 ガラス製品 5
陶磁器類 8 (丼 3).....	231	(清酒・焼酎瓶).....	252
第 142 図	被服本廠出土遺物集成 9	第 163 図	被服本廠出土遺物集成 30 ガラス製品 6
陶磁器類 9 (丼 4).....	232	(清涼飲料瓶 1 サイダー瓶 1).....	253
第 143 図	被服本廠出土遺物集成 10	第 164 図	被服本廠出土遺物集成 31 ガラス製品 7
陶磁器類 10 (井蓋 1).....	233	(清涼飲料瓶 2 サイダー瓶 2).....	254

第 165 図	被服本廠出土遺物集成 32 ガラス製品 8 (清涼飲料瓶 3) …… 255	(インク壺、オイル瓶) …… 275
第 166 図	被服本廠出土遺物集成 33 ガラス製品 9 (シロップ・ジュース瓶) …… 256	第 186 図 被服本廠出土遺物集成 53 ガラス製品 29 (糊瓶) …… 276
第 167 図	被服本廠出土遺物集成 34 ガラス製品 10 (乳飲料瓶 1) …… 257	第 187 図 被服本廠出土遺物集成 54 ガラス製品 30 (文房具他) …… 277
第 168 図	被服本廠出土遺物集成 35 ガラス製品 11 (乳飲料瓶 2) …… 258	第 188 図 被服本廠出土遺物集成 55 ガラス製品 31 (靴墨瓶・刷子) …… 278
第 169 図	被服本廠出土遺物集成 36 ガラス製品 12 (調味料瓶 1 みりん・醤油) …… 259	第 189 図 被服本廠出土遺物集成 56 ガラス製品 32 (消火弾他) …… 279
第 170 図	被服本廠出土遺物集成 37 ガラス製品 13 (調味料瓶 2 ソース・ ケチャップ・マヨネーズ) …… 260	第 190 図 被服本廠出土遺物集成 57 合成樹脂製品 1 (食券 1) …… 280
第 171 図	被服本廠出土遺物集成 38 ガラス製品 14 (調味料瓶 3 塩・胡椒他) …… 261	第 191 図 被服本廠出土遺物集成 58 合成樹脂製品 2 (食券 2) …… 281
第 172 図	被服本廠出土遺物集成 39 ガラス製品 15 (調味料瓶 4 汁もの他) …… 262	第 192 図 被服本廠出土遺物集成 59 合成樹脂製品 3 (歯刷子) …… 282
第 173 図	被服本廠出土遺物集成 40 ガラス製品 16 (食品瓶) …… 263	第 193 図 被服本廠出土遺物集成 60 皮革製品 1 (靴 1) …… 283
第 174 図	被服本廠出土遺物集成 41 ガラス製品 17 (薬瓶 1 投薬・薬品瓶 1) …… 264	第 194 図 被服本廠出土遺物集成 61 皮革製品 1 (靴 2) …… 284
第 175 図	被服本廠出土遺物集成 42 ガラス製品 18 (薬瓶 2 薬品瓶 2) …… 265	第 195 図 被服本廠出土遺物集成 62 金属製品 1 (徽章・バッジ・釦・尾錠・コキ) …… 285
第 176 図	被服本廠出土遺物集成 43 ガラス製品 19 (薬瓶 3 市販薬 1・目薬) …… 266	第 196 図 被服本廠出土遺物集成 63 金属製品 2 (防毒面関連) …… 286
第 177 図	被服本廠出土遺物集成 44 ガラス製品 20 (薬瓶 4 市販薬 2 他) …… 267	第 197 図 被服本廠出土遺物集成 64 金属製品 3 (鉄帽) …… 287
第 178 図	被服本廠出土遺物集成 45 ガラス製品 21 (磁器・栓・器具他) …… 268	第 198 図 被服本廠出土遺物集成 65 金属製品 4 (銭貨) …… 288
第 179 図	被服本廠出土遺物集成 46 ガラス製品 22 (化粧品瓶 1 クリーム) …… 269	第 199 図 被服本廠出土遺物集成 66 金属製品 5 (計測機器) …… 289
第 180 図	被服本廠出土遺物集成 47 ガラス製品 23 (化粧品瓶 2 ローション・オイル・乳液) …… 270	第 200 図 被服本廠出土遺物集成 67 金属製品 6 (鉄道関連) …… 290
第 181 図	被服本廠出土遺物集成 48 ガラス製品 24 (化粧品瓶 3 アメリカ製・整髪料・染料他) …… 271	第 201 図 被服本廠出土遺物集成 68 煉瓦 1 (小管集治監) …… 291
第 182 図	被服本廠出土遺物集成 49 ガラス製品 25 (インク瓶 1) …… 272	第 202 図 被服本廠出土遺物集成 69 煉瓦 2 (金町煉瓦) …… 292
第 183 図	被服本廠出土遺物集成 50 ガラス製品 26 (インク瓶 2) …… 273	第 203 図 被服本廠出土遺物集成 70 煉瓦 3 (各会社) …… 293
第 184 図	被服本廠出土遺物集成 51 ガラス製品 27 (インク瓶 3・マジック他) …… 274	第 204 図 被服本廠出土遺物集成 71 煉瓦 4 (耐火煉瓦) …… 294
第 185 図	被服本廠出土遺物集成 52 ガラス製品 28	

表 目 次

第1表	確認された生産者表示記号一覧（道合第IX次、赤羽上ノ台第VI次）	43
第2表	確認された生産者表示記号一覧（道合第II～IX次、赤羽上ノ台第II～VI次）	44
第3表	被服本廠 製造品目	166
第4表	被服本廠建物名称変更一覧	166
第5表	遺物観察表	301

図 版 目 次

図版 1	1 塹壕	8 9号倉庫 地中基礎レンガ（南）
図版 2	1 塹壕・被服本廠建物等切り合い関係（1） 2 塹壕・被服本廠建物等切り合い関係（2）	図版 11 1 10号倉庫（南） 2 還送品整理場（南） 3 工具休憩所（南） 4 トロッコ線路跡（南） 5 棚包場（南） 6 棚包場（南） 7 引き込み線・貯水タンク（北）
図版 3	1 3B区塹壕（南） 2 3B区塹壕（南）	図版 12 1 引き込み線・貯水タンク（南） 2 引き込み線砂利敷（東） 3 引き込み線砂利敷（西） 4 貯水タンク地中部分（南東） 5 貯水タンク地中部分（東） 6 貯蔵タンク（解体取り上げ後） 7 貯蔵タンク（解体取り上げ後）
図版 4	1 3B区塹壕（南） 2 3A区塹壕（南）	図版 13 1 146号防空退避壕（西） 2 146号防空退避壕（南） 3 146号防空退避壕出入口階段（南） 4 149号防空退避壕（北） 5 149号防空退避壕出入口階段（西） 6 150号防空退避壕（南） 7 151号防空退避壕（南） 8 152号防空退避壕（南）
図版 5	1 3A区塹壕（南東） 2 4A区塹壕（南） 3 4A区塹壕張り出し部（南） 4 4A区塹壕張り出し部（南）	図版 14 1 153号防空退避壕（南） 2 321号土坑（西） 3 322号土坑（東） 4 322号土坑土層断面（東） 5 323号土坑（東） 6 323号土坑土層断面（東） 7 324号土坑（北）
図版 6	1 被服本廠関連遺構	
図版 7	1 5号倉庫（羊毛倉庫）（南） 2 5号倉庫（羊毛倉庫）（北） 3 5号倉庫基礎レンガ（東） 4 5号倉庫基礎レンガ（東）	
図版 8	1 5号倉庫基礎レンガ（東） 2 5号倉庫基礎レンガ（南） 3 5号倉庫基礎レンガ（南） 4 5号倉庫基礎レンガ保存用切り出し 5 9号倉庫（南）	
図版 9	1 9号倉庫（東） 2 9号倉庫（東）	
図版 10	1 9号倉庫（南） 2 9号倉庫（西） 3 9号倉庫（西） 4 9号倉庫（東） 5 9号倉庫 地中基礎レンガ（南西） 6 9号倉庫 地中基礎レンガ（南） 7 9号倉庫 地中基礎レンガ（南）	

- 図版 15 1 赤羽上ノ台 被服本廠関連遺構(西)
- 図版 16 1 18号倉庫基礎(東)
 2 20号倉庫基礎(渡り廊下)(南)
 3 20号倉庫基礎(倉庫・廊下隔壁)(南)
 4 20号倉庫基礎 関東大震災後の補強
 (右側鉄筋コンクリート)
 5 20号倉庫基礎 関東大震災後の補強
 6 20号倉庫基礎 関東大震災後の補強
 7 20号倉庫基礎 関東大震災後の補強
- 図版 17 1 1・2号建物跡(中央部小柱穴が1号)(西)
 2 1号建物跡柱基礎(南)
 3 2号建物跡柱基礎(南)
 4 2号建物跡柱基礎(南)
 5 1・2号建物跡柱新旧関係(左上1号)(南)
 6 第三貯水池脇建物(東)
 7 第三貯水池基礎(東)
 8 第三貯水池基礎(北)
- 図版 18 1 20号倉庫東際トロッコ枕木跡(北)
 2 20号倉庫東際トロッコ枕木跡(東)
 3 20号倉庫東際トロッコ枕木跡(西)
 4 20号倉庫東際トロッコ枕木跡(南)
 5 18号倉庫北側前面排水路
 (奥:1・2号建物跡)(南)
 6 18号倉庫北側前面排水路
 (矢印:水流方向)(東)
 7 18号倉庫北側前面排水路 石蓋(東)
 8 18号倉庫北側前面排水路
 枝管結合部柵(西)
- 図版 19 1 18号倉庫北側前面排水路
 枝管設置場所(東)
 2 18号倉庫北側前面排水路
 枝管設置場所(北)
 3 18号倉庫北側前面排水路
 石蓋除去状況(矢印:水流方向)(東)
- 4 18号倉庫北側前面排水路
 西端部石蓋設置状況(東)
 5 18号倉庫北側前面排水路
 側石・底面煉瓦敷状況(東)
 6 18号倉庫北側前面排水路
 底面煉瓦敷(東)
- 図版 20 1 排水路石蓋接合状況
 2 排水路石蓋接合状況
 3 排水路石蓋接合状況
 4 排水路石蓋接合状況
 5 排水路枝管方向転換部柵
 (矢印:水流方向)(北)
 6 排水路枝管(北)
 7 排水路枝管 本管への連結部
 8 排水路 本管と枝管
- 図版 21 1 排水路枝管(矢印:水流方向)(南)
 2 排水路枝管(矢印:水流方向)(北)
 3 排水路枝管(矢印:水流方向)(北)
 4 1号防空避難壕
 5 1号防空避難壕 出入口階段(南)
- 図版 22 1 2号防空避難壕(北)
 2 2号防空避難壕 底面炭化材(北)
 3 2号防空避難壕完掘(北)
 4 2号防空避難壕 壁面壁材(炭化)(北)
 5 3号防空避難壕(南)
 6 3号防空避難壕 出入口階段部分(南)
 7 3号防空避難壕 出入口階段部分(北)
- 図版 23 1 5号防空避難壕(南)
 2 5号防空避難壕 出入口階段部分(南)
 3 7号防空避難壕(北西)
 4 7号防空避難壕 出入口階段部分(北東)
 5 8号防空避難壕(北西)
 6 9号防空避難壕(北西)

Ⅶ 付編

—旧日本陸軍被服本廠および近代遺構に関して—

本遺跡が位置する赤羽台団地一帯は、旧日本陸軍被服本廠が置かれた場所で、都合9回の調査において、工場・倉庫などの建物基礎、防空退避壕、線路跡などや工場製品・当時の生活什器類など多数の遺構・遺物が検出された。本報告では、過去の調査成果を含め、明らかになった被服本廠の施設、出土遺物についてまとめてみたい。

「軍都赤羽」と呼称されるように、この赤羽地区一帯は旧陸軍関連施設が密集していた地域であり、当地の旧日本陸軍被服本廠もその一翼を担っていたものである。数次に亘る調査において検出された遺構・遺物を地域の歴史資料の一つとして記録すべきものとの判断において、概要をここに収録する。

旧日本陸軍被服本廠の変革については、Ⅱ次調査報告で概観したが、今回の報告で再度、沿革、業務、施設の規模・変遷を纏める。具体的な検出された遺構・遺物については、今回の調査資料を略述し、これまでの成果を含めて通観する。

さらには、今回の調査で「塹壕」と思われる溝状遺構が検出された。Ⅱ次調査においても「塹壕」とした溝が検出されており、これら溝が本当に「塹壕」であったのか、そしてその「塹壕」が何時、如何なる状況で構築・使用されたのかを検証してみたい。

1 塹壕について

はじめに（第1～3図、図版1～5）

今回の調査において、3A・B、4A区から直行・蛇行を繰り返す溝状遺構が検出された（第1図）。南北に走る2条と東西に走る1条で、南北の2条は、北からほぼT Tライン上で延び、南側で東側（V Vライン上）に振れるものと、北側WWラインから南側Z Zラインにかけてほぼ直線に伸びるものがある。前者は南側で分岐し両者の間にもう1条が伸びている。後者は北側で西側にクランク状に屈折し再び直線状に南に延びる。このクランク部分で西側の溝と連結している。この両者とも約10mごとに東側にU字状に湾曲している。東西に走るものは一部の検出であるが、これも同様にU字状の湾曲部を有す。規模は、幅0.5～1m、深さ1.5～1.8mを測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に近い立ち上がりである。

これら溝は、被服本廠羊毛倉庫（5号倉庫）、引き込み線、工員休憩所などの施設に切られ（図版2）、近世とした溝を切って構築されている。被服本廠の上記施設は大正初期の建設であり、溝の構築年代は明治時代に限定される。溝の構造をみると、近世の耕作面に広がる区画溝とは様相を異にしている。畑の区画溝は深さが10～30cm（確認面からであり、削平の影響により本来の深度ではない）と浅く、本遺構の深さと隔絶している。また、ほぼ等間隔でU字状に湾曲する構造も他の溝にはみられないものである。

これらの構造・特徴を有する溝状遺構に類似する施設として「塹壕」の存在が挙げられる。大正4年にここ赤羽の地で、大正天皇臨席の中、陸軍の演習が行われた。その詳細は写真帖として記録保存

されているが、その中に本遺跡で検出された溝状遺構と酷似するものが映し出されている。第6図はその演習の一場面であるが、「小島堡壘」と名付けられた陣地は、外壕と呼ばれる幅・深さのある溝が台形状に掘られ、その区画内に幅が狭く、人間の身長ほどの深さの溝が配置されている。その溝は等間隔でU字状に湾曲し、その部分に兵隊が配置されているのである。また、この堡壘を攻撃する部隊の陣地（対壕）は、攻める方向の壁が段を有し、その段の上に兵士が並んで配置されている。これと同様の構造の溝が本遺跡第Ⅱ次調査で検出されている。東側壁に2段の犬走を設け、西側は段が設けられていない（丹野 2010 第2分冊P195 図版7-4）。この溝も被服本廠建物に切られており、今回の溝と同様に明治時代の所産と思われる。

これらの溝の構造・配置などを知る手掛かりとして、日本陸軍の士官学校・兵士などの教本としても用いられた「築城学教程」「野戦築城教範」がある（第2・3図）。第2図上の写真は演習用に造られた陣地である。方形の区画から多方向に蛇行しながら溝が伸びており、今回検出された溝と同様の形状を呈す。同図下は歩兵陣地の概略図である。陣地外郭の溝は等間隔でU字状の施設を配している。横牆・背牆と呼ばれるもので、第2図下のように、敵側（陣地外方）に向かって造り出しを設ける。前面に土・草木などにより胸牆を付け、防護壁としている。また散兵壕・掩壕と称する溝・防護壁では（第3図上）、兵士が配置する側が有段となり、この段上で銃を構えるものである。

今回検出された溝、第Ⅱ次調査で検出された溝は、前者は大正年間の天覽演習資料、第2図の陣地写真・図から判断するに陣地の塹壕、後者は散兵壕の可能性が高い。すなわち防衛用の陣地壕と攻撃用の散兵壕であろうと思われる。その時期は上記のとおり、明治年間の所産と考えられる。

天覽演習について（第4～6図）

本項では、これら塹壕が何時、どのように使用されたのか検証してみたい。その前提としてはこれらの塹壕が陸軍の演習用のものであり、一時的な使用であるという事である。

明治から大正年間にかけて、ここ赤羽の地で陸軍の天覽演習が都合4回実施されている。まずは以下が各演習の年月日と引用資料である。

1. 明治7年9月19日

- a 「実地行軍 天覽に付近衛東京鎮台警備諸隊西丸へ整列付行軍式演習式等」
JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C08070744900 明治7年 陸軍省達全書 布第350号
（防衛省防衛研究所）
- b 「第4章 皇室と吾連隊」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C14110939000
近衛歩兵第1連隊史（防衛省防衛研究所）
- c 「第3章 皇室と我連隊」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C14110940800
近衛歩兵第2連隊史 明治7.1.20～昭和5.9.20（防衛省防衛研究所）

2. 明治7年12月7日（雨天のため、12月3日から7日に延期）

- a 「第95号11月30日、12月2、3、5、7日」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C08010411500
明治7年 陸軍省日誌 貞 貞丙 第95号付録（防衛省防衛研究所）
- b 「陸軍一般へ来る十二月三日東京元蓮沼村へ実地行軍」JACAR（アジア歴史資料センター）
Ref.CO4026027500 明治7年「大日記 官省使及本省布令 11月布 陸軍第1局」（防衛省防衛研究所）
- c 「宮内省より蓮沼村実地行軍式云々」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.CO40025448000

明治7年「大日記 諸省使之部月 12月」(防衛省防衛研究所)

- d 「外務省へ練兵天覧に付各国公使並官吏共参観被差許許居に付云々懸合」
 JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.C04025960800 明治7年「大日記 官省使府県 送達 11月土
 陸軍第一局」(防衛省防衛研究所)
- e 「近衛局へ進沼村辺に於て演習式延引達し」JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.C040025562900
 明治7年「大日記 諸局 12月水 伺届弁諸達書 陸軍第一局」(防衛省防衛研究所)
- f 「陸軍一般へ陸軍中将山形有朋進沼村演習師団総指揮官」JACAR (アジア歴史資料センター)
 Ref.C07041086200 明治7年「大日記 官省使及本省布令 11月布 陸軍第1局」(防衛省防衛研究所)

3. 明治19年4月13日

- a 「板橋地方に於て演習天覧の通達」JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.C03030020800 豊大日記
 明治19年3月 (防衛省防衛研究所)
- b 「近衛演習天覧の通達」JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.C03030036700 豊大日記
 明治19年4月 (防衛省防衛研究所)
- c 「近衛演習天覧の義申入」JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.C07041086200 参大日記
 明治19年4月 (防衛省防衛研究所)
- d 「近衛諸兵春季演習天覧の義申入」JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.C07041078300 参大日記
 明治19年3月 (防衛省防衛研究所)
- e 「5. 4月13日板橋近傍に於て近衛諸兵演習之節馬丁飛弾之為め負傷に係る件 (1)」
 JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.C13070669200 陸軍諸条例縦 2/3
 明治19. 1. 4 ~ 19. 11. 30 (防衛省防衛研究所)
- f 「5. 4月13日板橋近傍に於て近衛諸兵演習之節馬丁飛弾之為め負傷に係る件 (2)」
 JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.C13070669300 陸軍諸条例縦 2/3
 明治19. 1. 4 ~ 19. 11. 30 (防衛省防衛研究所)

4. 大正4年6月18日

「大正4年6月 天覧演習写真帖」宮内庁図書寮文庫

これら4回の演習についてその内容を上記資料から吟味し、今回検出された溝(斬壕)との関連を
 検討してみたい。

1. 明治7年9月演習 (第4図上)

明治新政府は戊辰戦争の函館の戦いに勝利した後、近代陸軍の創設・法制整備を急務とし、大村益
 次郎を中心に1872(明治5)年までに官制がまとめられた。同年には「徴兵令」が公布、翌年に施
 行された。陸軍は近衛を中心に演習を実行するが、最初の演習が1873(明治6)年の千葉県習志野(現
 在の地名)であった。明治天皇に西郷隆盛が供奉している。第2回目が1874(明治7)年の赤羽で、
 翌年には再び習志野で実施されている。

資料1aには当日の行軍式(西の丸から板橋驛)、演習式の次第が記載されている。式前日の日付
 で近衛局 東京鎮台 嚮導団より通達が発せられている。規模は歩兵約3,000人、砲18門、騎兵
 250騎、工兵約150人、楽隊約30人、とある。

板橋驛から北東方向の赤羽村を以て仮の敵軍の方位とする旨があり、この「敵軍」に向けて本軍が

攻撃を仕掛けていく次第となっている。本軍は二手に分かれ、中央兵は敵正面に向かい（恐らくは板橋街道）、右翼兵は稲付村道に布陣、中央兵後備に左翼兵を配置した。中央兵はそのまま前進し、右翼兵は小河川沿いに前進、左翼兵も右翼の援護射撃とともに前進する。中央・右翼兵が敵軍を攻囲・侵襲した時点で終了となり、順次還軍となった。

この次第をみるに、陣地に籠る敵軍を本軍が攻めるパターンであり、両軍が機動した演習ではない事がわかる。すなわち、仮想敵軍は「何らかの陣地」に拠っている状況であり、そこに防衛施設が介在している可能性が大きい。

なお、この演習に関して、「天覧」と称されているが、上記資料では「行軍式」の項に「天覧」の記述があるが、「演習式」の項には触れられていない。しかしながら、後述する大塚古墳の記念碑に関する記述によれば「天覧」はあったとされている。

2. 明治7年12月演習（第4図下）

当初、12月3日に予定していたが、雨天のため、7日に延引して実施された。資料2 aに「行軍式」「演習式」の次第が記載されている。「天覧」のため、在留各国公使・官吏の来観もあったようである。この演習は「対抗運動」と称されたもので、甲・乙部に分かれて機動演習を行うパターンである。甲部は鎮台兵で、歩兵2大隊、騎兵1大隊、砲兵1小隊、工兵半小隊の規模、司令官は中将・曾我祐準（後の貴族院議員）、参謀官の一人には少佐・桂太郎（後の総理大臣、日英同盟締結、日露戦争終結など）も参列している。乙部は近衛を主体に鎮台が混じる。歩兵7大隊、騎兵2大隊、砲兵3小隊、工兵半小隊、輜重兵1小隊の規模、指揮長官に中将・山縣有朋、前衛司令官に少将・種田政明、参謀長に野津道貫（日露戦争時、第4軍司令官）、伝令使の一人に乃木希典（日露戦争時、第3軍司令官）が名を連ねている。人員等の規模は乙部が甲部の2～3倍と開きがある。行軍は甲部が小川町練兵場、乙部が日比谷練兵場からそれぞれ出立し、甲部は前衛が前野村、本軍が蓮沼村に配置した。乙部は十条村口、稲付村口、赤羽村口に配置する。甲部本隊の十条村への進軍に始まり、乙部十条・稲付部隊の応戦、甲部前衛の小豆沢村進出と乙部赤羽部隊の応戦などから、甲部の撤退、乙部の急襲などで演習は終了する。これらの推移をみるに、両軍各部隊は前進・後退を繰り返し、陣地に拠って戦う様子はみられない。従って「塹壕戦」ではないと考えられる。

3. 明治19年4月演習（第5図上）

この演習に関しては、行軍式・演習式などの次第が記載された資料がなく、詳細は不明である。しかしながら、資料3 eに部分的に当日の状況が載っている。当日、演習の最終局面において天皇が駐蹕する付近に居た馬丁が被弾するという事故が発生した。その顛末を記した報告の中に、最終段階での部隊配置が描かれている。また、文中に「南北両軍」とあり、演習が進捗した段階で第5図上の位置に、部隊の移動とともに天皇も移動していた事が判明している。両軍は川を挟み対峙している状況であり、大正4年の演習における午後の状況と似ている。午前中の状況は不明と言わざるを得ないが、大正4年同様、板橋街道より北側の範囲で部隊展開していたと思われる。

4. 大正4年6月演習（第5図下・第6図）

この演習の資料は「天覧演習写真帖」として残っており、当日の写真記録・部隊編成・演習式次第・配置図などにより詳細が明らかになっている。被服本廠北側（本廠移転前で倉庫群のみ 板橋街道も付け替え前で現在の赤羽台団地内うつり坂通り）の工兵第一大隊、近衛工兵大隊、練兵場、射撃訓練場、

作業場などの敷地内において展開しており、南北両軍の塹壕戦・機動演習などを行っている。午前中は南東側・被服本廠に接した位置に「南軍」本部、西側の板橋陸軍火薬庫付近に「北軍」本部を設置した。南軍は左右に堡塁（防脚陣地）を置き（小島堡塁・火薬庫西北端堡塁）、防脚態を採る。北軍は小島堡塁に近接して対壕を配置して攻撃態勢を採る。演習開始から程なく火薬庫側の堡塁が陥落し、北軍が優勢で午後に入る。午後は機動戦で詳細は不鮮明であるが、川の対岸に部隊が移動して退却行・橋の爆破なども行われている。

この演習については写真・配置図などにより詳細が明らかであり、被服本廠外での行動が明確である。被服本廠は東側はすでに倉庫群が立ち並び、西側も4年後に控えた本部移転に伴う建物建設が進行中であつたと思われ、演習を行う余地は無かつたと思われる。因みに、南軍本部の置かれた位置は後の被服本廠診療所付近と思われる。

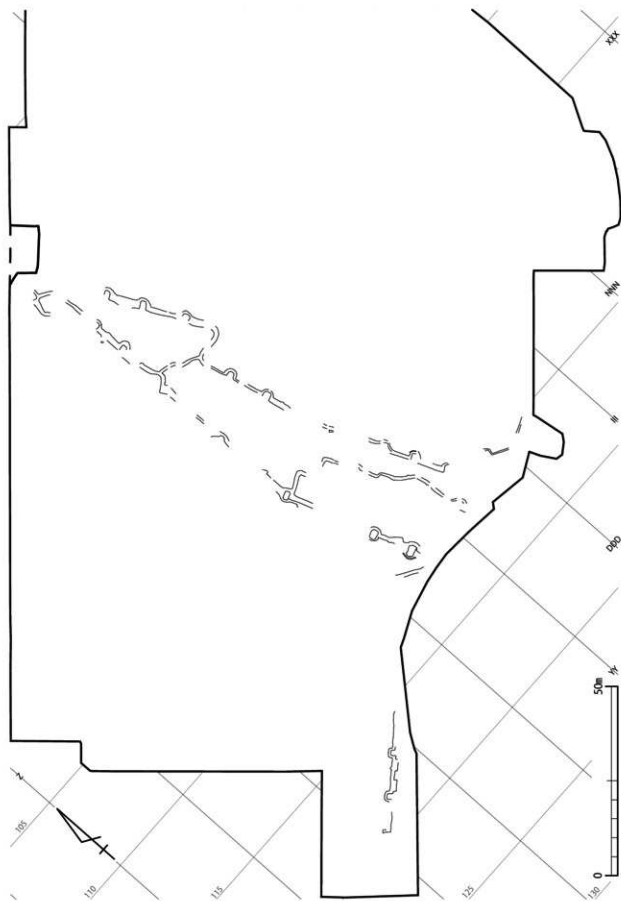
小結

前項で4回の演習に関してその内容を検討した。この中で、大正4年演習は記録が完備されており、被服本廠外という事が判明した。明治7年12月演習は「対抗運動」で陣地の攻防は認められない。明治19年演習は詳細が不明ではあるが、最終戦線配置からみて、大正4年演習と同様の用地であつたと考える。残る明治7年9月演習は陣地に籠る「敵軍」を本軍が攻撃する演習であつた。この年の演習ではまだ詳細な地図は製作されていないと思われ、陣地の位置も不詳ではある。しかしながら、今回検出された溝一塹壕が明治年間の所産（被服本廠用地拡大・建物増設以前）であること、上記検討の中から類推するに、明治7年9月演習に使用された塹壕であると考えたい。

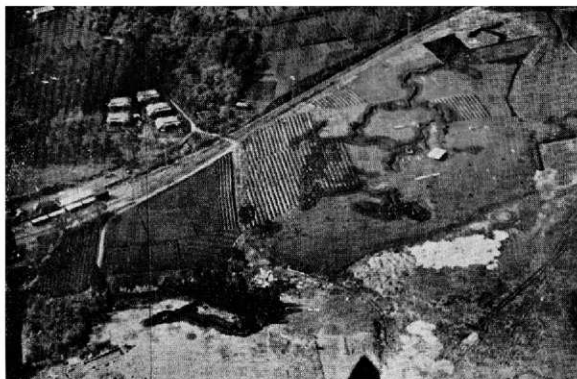
検出された塹壕は、南北に走るものは西側に向けて壕を配置している。また東西に走るものは南側に向けて設置している。これは敵側が西・南側から攻撃してくる事を想定したものであり、上記資料で検討した「本軍」が西と南から攻撃を行っている事と合致する。第2次調査で検出された塹壕は、この陣地の対壕であろうと思われる。大正4年演習の際の「小島堡塁」と対壕との関係と相似している。従つて、本遺跡で検出された塹壕は明治7年9月19日に使用し、廃絶された遺構としたい。その掘削については同月前半の時期であろうと思われる。大正4年演習の小島堡塁は5日間で掘り上げたと記載されている（投入人員は不詳）。

最後に、本遺跡の西側に存在した「大塚古墳」とこれら演習との関わりについて触れておきたい。

終戦後しばらくの間まで、この大塚古墳の墳頂に青銅製の大砲を用いた碑が建っていた（第4図上の写真）。岩淵町郷土誌（櫻井・平野 1930）に詳しいが、この碑は、「明治天皇駐蹕之跡」と銘文がある。明治7年9月19日および12月7日の陸軍演習の際、明治天皇の親臨閱兵があり、大塚古墳の上で遊覧されたとある。それを記念して昭和4年に建立されたものである。碑は、文久3年に埼玉県川口で鋳造された青銅製の舊式砲身であった。砲弾が周囲に立ち並んでいたという。1947（昭和22）年の米軍による航空写真をみると被服本廠の西側、現在の公務員宿舎の敷地内、南西端に円形の古墳ないしは塚と思われるものが映っている。墳頂には砲身の碑が腫脹しながら確認でき、南側正面の階段などもみえる。ところが1956（昭和31）年の航空写真では、平屋の国家公務員宿舎の建設が進捗している状況が確認できるが、大塚古墳の姿は消えている。古墳のあった位置は平坦になっていると思われ、輪郭が腫脹に分かるのみである。実際、この間（9年間）のどの段階で煙滅したのかは不明ではあるが、人為的に削平した事は明らかである。その墳頂にあった碑（砲身）も、その後



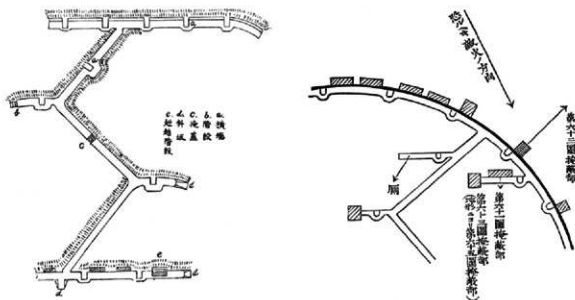
第1図 道合遺跡 壱塚 (1/1,000)



陣地空中写真(昭和15年)

築城学教程 全 陸軍航空士官学校 附図 19 昭和 17 年

酒石凡平氏 所蔵



歩兵陣地

築城学教程 卷一 第 20 図 大正 9 年改訂

野戦築城教範改正草案 第 25 図 (P56) 明治 41 年

「日本陸軍野戦築城概観」 P20

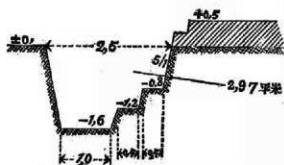
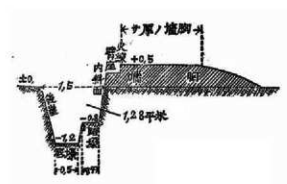
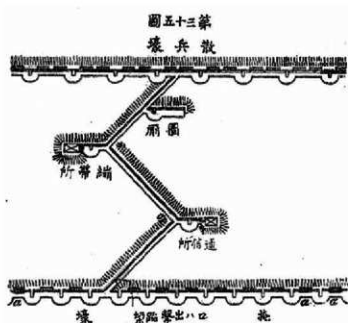
国立国会図書館デジタルコレクションより転載

第 2 図 塹壕参考図 1

散兵壕・掩壕

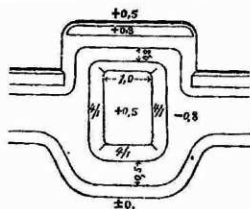
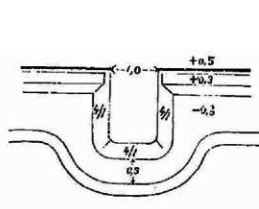
獨野戰築城教範草案 第53回
明治40年

国立国会図書館デジタルコレクション
より転載



野戰築城教範改正草案 左：第4回 (P25) 右：第5回 (P27) 明治41年

国立国会図書館デジタルコレクションより転載

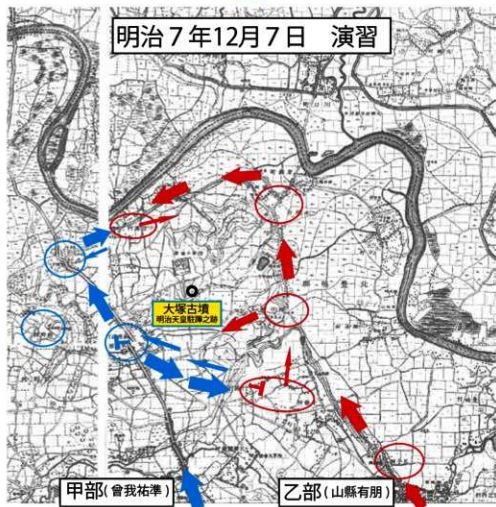


横牆・背牆

野戰築城教範改正草案 左：第11回 (P40) 右：第12回 (P41) 明治41年

国立国会図書館デジタルコレクションより転載

第3回 塹壕参考図2

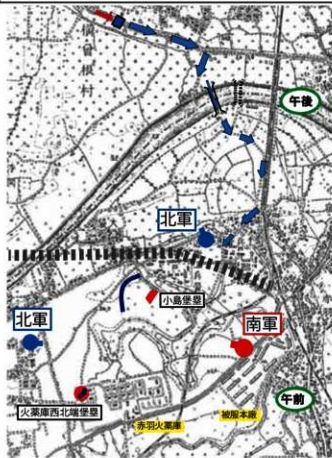


地図：柏書房「明治前期-昭和前期 東京都地図2 東京北部」より転載 所蔵：国土地理院

第4図 天覽演習1

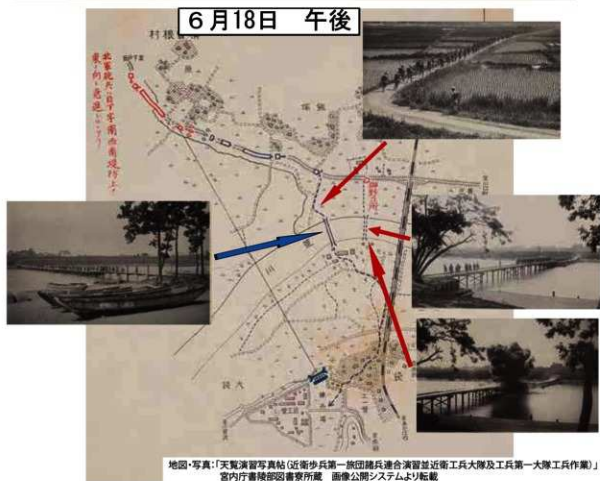
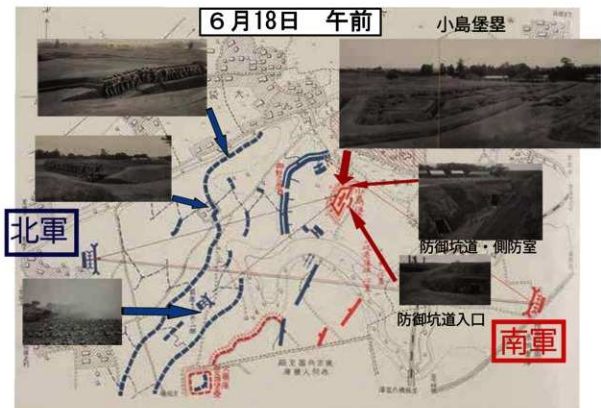


大正4年6月18日 演習 概略図



地図：柏書房「明治前期・昭和前期
東京都市地図2 東京北部」
より転載 所蔵：国土地理院

第5図 天覽演習2



地図・写真：「天覽演習写真帖（近衛歩兵第一旅団陸兵連合演習並近衛工兵大隊及工兵第一大隊工兵作業）」
宮内庁書陵部図書所蔵 画像公開システムより転載

第6図 天覽演習3

の所在は不明のままである。古領軍が赤羽に進駐していた時期に碑を取り外したという風聞もあるが定かではない。いずれにしても貴重な文化財が人知れず跡形もなく破壊されていた事だけは事実である。現在、大塚古墳があった場所の西側に建つ善徳寺の門前に「富士見坂」の案内板が立っているが、そこに往時の大塚古墳と「明治天皇駐蹕之跡」記念碑のスケッチが描かれている。その存在さえも歴史の間に埋もれた、消えた古墳と記念碑の謎は、解明されないまま時間を刻んでいくのであろうか。

この記念碑の建立に至る経緯が掲載された資料は以下のとおりである。

- a 「陸軍被服本廠土地の一部記念碑建設敷地として使用許可の件」JACAR（アジア歴史資料センター）
RefC01006120200 永存書類乙集第2類第1冊 昭和3年（防衛省防衛研究所）
- b 「記念碑建設の為陸軍用地の一部使用の件」JACAR（アジア歴史資料センター）RefC01006224700
永存書類乙集第2類第1冊 昭和4年（防衛省防衛研究所）
- c 「廃兵器寄贈の件」JACAR（アジア歴史資料センター）RefC01006151000
永存書類乙集第2類第3冊 昭和3年（防衛省防衛研究所）

2 被服本廠について

本遺跡（道合、赤羽上ノ台）の調査は、今回を含め都合10回を数える。被服本廠の施設の検出も西側を除きほぼ明らかになってきた。そこで、従前までの調査成果を含めて、これまでに解明された知見を纏めてみたい。まずは、今回の調査で検出された遺構・遺物を報告する。次に、第Ⅱ次調査報告書（丹野 2010）にも掲載したが、改めて被服本廠の歴史の概要に触れ、最後に今回を含む出土資料を集成して概観する。

A 検出遺構（第7～12図、図版6～23）

今回の調査も従前の調査と同様、陸軍被服本廠関連の遺構は、トータルステーションによる測量と写真撮影を主体とし、個々の実測、微細・断面図などは行っていない。また、調査は道合、赤羽上ノ台遺跡に分かれているが、被服本廠は両遺跡を包括した範囲に広がっており、一括して報告する。建物等の名称・番号は、第Ⅱ次調査では森谷論文（森谷 1996）掲載の建物配置図を参照し、それ以降の調査でもそれを踏襲していたが、詳細な配置図（第13図）が確認された事で、その配置図に基づき、施設名・番号等を用いる事とした（第14図）。建物配置・名称等の詳細は後述する。

検出された遺構は、倉庫建物6棟（5号：羊毛倉庫、9～11・18・20号）、運送品整理場、梱包場、不明建物、第3貯水池、引き込み線および水・油タンク、排水路、トロック線跡四ヶ所、防空退避壕15基、土坑5基などである。

・建物

倉庫建物

5号倉庫（羊毛倉庫）（第7図、図版7・8）被服本廠中央南寄り、引き込み線の直北側に2棟並んだ東側の倉庫である。西側の梁間には基礎は検出されず、団地建物により北辺の大半が削平されている。現存で桁行88m、梁間20mを測る。本廠内の大半の倉庫のように間仕切り構造はみられず、渡り廊下も確認されなかった。基礎構造は煉瓦造布基礎で、間内柱土台・東土台なども検出されていない。配置図からみると、規模は他の倉庫と同様と思われる（桁行91.6×梁間18.7m）、西側は3mほどの位置に梁間がくると思われる。なお外壁柱部分の煉瓦積みも覆うように鉄筋コンクリートが巻かれている。1923（大正12）年の関東大震災の後、被服本廠建物の大規模補修・補強が行われたと

あり、その施行の一部であろうと思われる。

9号倉庫（第7図、図版8～10）5号倉庫の東側、北から6～8号と立ち並ぶ倉庫群に南端に位置する。団地高層住棟などに削平を受けているが、概ね全容は窺い知れる。なお、東側の一部は調査範囲外となっている。桁行91.6×梁間18.7mで柱のスパンでは17×4となる。被服本廠における基本的な倉庫の規模である。基礎構造は煉瓦造布基礎で、間取りは、北側に渡り廊下を配し、倉庫室は3部屋に分かれている。柱のスパンでみると5-7-5と中央が広い。床下には間内柱土台・東土台があり、前者は中央室が6×2列、左右が4×2列である。煉瓦積みである。後者はほぼ0.9m（半間）置きに無筋コンクリートが全面に並ぶ。中央室が41個×11列、左右室が28個×11列である。渡り廊下は東土台が2列で並んでいる。本号は鉄筋コンクリートによる補強はなされていない。地震による被害がなかったのではあろうか。

10号倉庫（第7図、図版11-1）引き込み線の南側に位置する。他の倉庫に比べて規模が小さい。団地住棟の間にあるが、攪乱が著しく、遺存状態は悪い。上記配置図を基に、残存基礎と照合して特定した。北西側コーナーと西側梁間の基礎、北側桁行の基礎の一部と渡り廊下と倉庫室との間仕切り壁基礎の一部を確認した。東側の基礎は削平されており、建物全体の規模は不明である。残存部は桁行30×梁間13mを測る。

第13図によれば、北側に渡り廊下、倉庫は3室に分かれているが、渡り廊下基礎の一部は確認したが、部屋の間仕切り壁基礎は不明であった。出入口は北側にあると思われる。

11号倉庫（第7図）被服本廠中央南端部、10号倉庫南側に位置する。北・西側の基礎の一部が確認されたのみであったが、位置関係などから11号倉庫基礎と判断した。残存部の桁行34.2×梁間7.0mを測る。渡り廊下と倉庫室との間仕切り基礎がみられる。渡り廊下の位置から、出入口は北側と思われる。

18号倉庫（第8図、図版15・16-1）被服本廠東側一赤羽上ノ台遺跡内に位置する。三角形に配置された3棟（18～20号倉庫）の中の西側に建てられたものである。ちなみにこの3棟は内側に出入口が向いており、三角形の内区にトロック線路が巡っている。団地造成・保育園解体に伴う削平により南東側上部、西側の一部を失い、北西側は調査範囲外に延びている。残存部の桁行53×梁間13.8mを測る。6号倉庫などの立ち並んだ倉庫群に比べて梁間が狭い造りである。倉庫室は残存部で4室が確認された。1室の桁行15～16mで、他の倉庫と桁行は同様の規模と思われるので、都合6室が想定される。床下には間内柱土台・東土台があるが、梁間が狭い関係からか間内柱土台は1列で3～4か所の設置と思われる。東土台は1列11個の7列が確認された。煉瓦による外壁基礎の外側は鉄筋コンクリートによる補強がみられる。関東大震災後の施工であろう。

20号倉庫（第8図、図版15・16-2～7）被服本廠最東端の倉庫である。赤羽上ノ台遺跡第Ⅱ次調査（丹野 2015）において一部を検出しており、今回の調査で南・北側を確認した。北側の1/4ほどは調査範囲外となっている。上部の攪乱・削平が著しく、特に床下構造の遺存状態は不良であった。18号と同様に倉庫室は桁行15～16mごとに間仕切り壁基礎が確認された。間内柱土台は各室3個、東土台はごく一部の遺存に止まる。本号も鉄筋コンクリートによる補強がみられる。

運送品整理場（第7図、図版11-2）

9号倉庫の南側に並行して建てられているもので、位置関係などから特定した。9号倉庫と西側壁

面を揃えて配置されており、後述の梱包場も同様である。部分的に外壁基礎が検出され、全体規模は判明している。桁行 60.4 × 梁間 11.2 m を測る。東側に間仕切り壁基礎がみられる。西側は団地住棟基礎により寸断されているが、位置的にその部分にも間仕切り壁が想定され、3室構造のものと思われる。床下構造は不明である。

梱包場（第7図、図版11-5・6）

還送品整理場の南側に並行して建てられている。削平により遺存状態は不良であるが、部分的に外壁基礎が残存しており、位置関係などから特定した。桁行 55.4 × 梁間 19.0 m を測る。建物内部南側の床下には 3 × 2 m の長方形を呈した煉瓦積基礎が 6 m 間隔で横に並んでいる。西側 2 基は完存していたが、中央部のは部分的で、西側の団地住棟基礎にかかる部分に一部が残存していた。等間隔に配置していたとすれば計 5 基が並ぶ。屋内の設備の土台基礎と思われる。それを示唆する資料として前掲の森谷論文中に「圧搾梱包」と題する写真が掲載されている（11 頁左下）。おそらくは梱包場の内部の景観と思われる、写真右側に「圧搾器」と思しき機械が並んでいる。横長で等間隔に並んでおり、検出された土台に対応する可能性がある。圧搾にかかる圧力のために堅牢な土台の上に設置したものである。

掘立柱建物（第8図、図版17-1～5）

赤羽上ノ台遺跡内、18号倉庫の東側（三角形内区）に位置する。新旧2基がある。新段階は一辺 20cm の方形ピットが南北 7 m（7基）×東西 15 m（13基）に並ぶ。西側は調査範囲外まで延びるとと思われる。旧段階は一辺 40cm の方形ピット内に川原石・水路などに使用する凝灰岩ブロック（欠失品？）などを並びだめたもので、南北 8.1 m（5基）×東西 15 m（10基）の範囲に並ぶ。軸方向は両者とも同じで、一部のピットが重複しており、その前後関係から新旧を判断した。旧段階は桁行・梁間の外壁部のみであるが、新段階は東土台と同様の密度で配される。また西側には同じ建物の柱基礎と思われるピット（旧段階）が南北に並ぶが、削平・調査範囲外などにより全体が不詳である。なお旧段階南東隅ピットから南に排水管が伸び、後述する石組排水管本管に接続している。西側にも同様の排水管が配されている。この建物は、明治 42 年の地図に記載されているものと考えられる。大正 6 年の地図では姿を消しているため、明治年間においてのみ使用されたものであり、煉瓦積みの堅牢な倉庫ではなく、仮倉庫的なものであろうかと考える。ここから延びる排水管と接続した本管の時期を推測する資料となろう。

不明建物（第7図、図版6）

10号倉庫の北側、タンクの東側に位置する。桁行 10.4 × 梁間 5.8 m を測る。外壁基礎が 3/4 ほど残存していた。第 13 図中ではその位置に該当する建物はなく、ややずれた位置に「工具休憩所」があるが、規模が相違する。1947（昭和 22）年の航空写真にはこの建物の位置に空襲で被災したと思われる建物の跡があり、これと同等の建物が北側にもう 1 棟建っている。第 13 図の配置図は特に引き込み線のホーム近辺は航空写真と相違する部分があり、建て替え・新設などが行われたと思われる。不明な建物の存在も幾ばくか存在している。この建物もそれらの一つであろう。

第3貯水池（第8図、図版17-7・8）

被服本廠東側、赤羽上ノ台遺跡内に位置する。円弧状の煉瓦積基礎が 1/8 ほど検出され、配置図と照合した結果、第 3 貯水池と判明した。団地住棟直下であり、大半は削平されていた。残存部の円

弧から推定して直径 12 m の円形となる。被服本廠内には三ヶ所の貯水池があり、第 1 は北側の本部棟エリア、第 2 は 14 号倉庫南側で、両者とも従前の調査で検出されている。この第 3 貯水池に隣接して 4 × 2 m の長方形の建物基礎が検出されたが、配置図によれば、「東門」の守衛詰所が 2 棟記載されている。北側の小さい建物と位置は合致するが向きが異なっている。

引き込み線、水・油タンク（第 7 図、図版 11-7・12）

被服本廠には明治末期に引き込み線が敷設された。それ以前、1908（明治 41）年に赤羽停車場（現：赤羽駅）から陸軍板橋兵器庫（後の陸軍兵器補給廠）を結ぶ軍用鉄道が開通していたが、被服本廠西端部から分岐して本廠内に延ばしたものである。分岐地点から南側崖線沿いに折れ、羊毛倉庫（4・5 号倉庫）の南側にプラットホームを設けていたとされる。この線路を敷設する時点で羊毛倉庫など西側倉庫群も建設されていたと思われ、線路は隙間を這うようにして設置されたのであろう。ないしは西側への倉庫群拡張計画段階で、この鉄道敷設も俎上が上がっていて、その計画の一部であった可能性もある。ホーム北に隣接する「荷物整理場」はこの線路敷設に伴う輸送品の上げ下ろしに用いる施設と推測される。検出された引き込み線は長さ 89m、幅 8.4 m で、西側は調査範囲外となる。東側は後述するタンクがあり、車両止めとなる。軌条・枕木などは遺存していない。軌条が敷設された部分は幅 6 m で硬化面となっており、小砂利が敷かれていた。配置図などには単線から最後は複線となっているが、その証左は定かではない。しかしながら、この鉄道は赤羽停車場に乗り入れており、ゲージ（軌間）は現：東北線と同じ 1,067mm と考えられる。旧日本陸軍が使用していた貨車の全幅が 2.5 m であることから、6 m 幅の中に 2 両が並んで収まると思われる。前述の航空写真には列車も映っており、やや離れた位置ではあるが、軌条を別にしており、複線であった事がわかる。この軌条部分の北側は凝灰岩のブロックを 1 列積み上げた壁状の施設が検出された（幅 25cm）。長手を上下に、細長く積んだもので、2 個おきに 90 度向きを変えて外方に突出させている。終着点付近には 2 段目が遺存していた。その先端終着点には鉄製の円筒管（径 50cm）が立っている。南側は幅 60cm のコンクリートの基礎（壁）がありその外側に凝灰岩ブロックによる暗渠（幅 80cm）が設置されている。また南側終着点には幅 1.8 m、現存長 2.4 m の長方形を呈するコンクリート基礎がある、その機能・用途は不明であるが、2 条の軌条の南側に対応しているかと思われる。

前出の森谷論文での配置図にはプラットホームが描かれているが、検出されたものはこの軌条部分と両脇の壁状施設のみであった。大正～終戦時の航空写真では線路脇には「荷物整理場」「假倉庫」が密接して建つ状況が看取される。いずれも屋根があって線路際の様相は明確ではないが、北側の「荷物整理場」はほぼ線路に接しており、ホームとしての機能を併せ持った施設の可能性がある。凝灰岩の壁体は荷物整理場床面レベルまでのものかも知れない。南側の「假倉庫」はやや線路から離れており、航空写真には體気ながらコンクリート壁・暗渠と思しきものが軌条に沿って映っている。いずれにしても、この引き込み線の終着地点の構造は不鮮明と言わざるを得ない。

次に水・油タンク施設であるが、10.6 × 4.0 m の長方形を呈したコンクリート製の施設が軌条部先端の位置に確認された。長軸が軌条に対して 90 度に設置されている。地上部と考えられる部分は断面台形状を呈す。地下構造部分の幅 4 m の 1/2 の 2 m と狭くなる。地下部分は地上から 5 m 近くまで達している。上面の中央には一辺 1 m の方形の切り込みがあり、鉄管が 2 本内部から立ち上がって、軌条側壁面に向けて延びている。切り込み部は管が 90 度屈折する接続部で、その点検・補修用

の穴で蓋が掛けられていたと思われる。軌条側の壁面上端部にはこの2本の管が突出していた。また切り込みの北側には極小の孔が穿たれており、細い棒を差し込んで確認したところ、油が付着した。この施設の内部は空洞になっており、鉄製のタンクが2基設置されていた事が解体工事の際に確認された(図版12-6・7)。以上の検出状況から推測するに、この施設は車両止めとしての機能とともに、給水・給油設備であろうと思われる。南側タンクに水、北側タンクに油を貯蔵し、内部から上部へ、そして軌条側壁面を抜けて延びる管を通して補給していたのであろう。その管からの外部設備は取り払われて遺存していない状態である。上面の小孔は残量計測のための点検口であろうと思われる。この貯蔵施設は被服本廠配置図にはなく、各年代の航空写真でも確認し得なかった。これはすなわち検出されたコンクリート製の外壁は地下構造物であった可能性が高い。上面が当時の地表面となり、検査孔などは蓋で保護していたのであろう。ちなみにこの施設と上面の標高と北側に位置する羊毛倉庫(5号倉庫)の残存する煉瓦基礎の上面の標高がほぼ一致しており、この施設が地下構造物である事の証左となろう。西側にある2本の配管も埋設管として給水塔などに接続していたのであろう。この貯蔵施設の上端部が当時の地表面とすると、軌条部分の検出面が約1.2m下のレベルであり、地上構造物の形状は不明であると言わざるを得ない。

排水路(第8図、図版18-5～8・19～21)

赤羽上ノ台遺跡内に位置する。18号倉庫の北側、掘立柱建物との中間に並行して配置された本管があり、枝管が18号倉庫渡り廊下から延び、前述のように掘立柱建物からも枝管が延びている。西から東にかけてわずかに傾斜しており、東側が下流となる。上流側は調査範囲外まで延びている。東側は掘削・削平のため、掘り方の痕跡がわずかに認められたのみであるが、残存長48mの部分で南に屈折、さらに20mほどの地点で東に屈折して延びている。

本管は幅約1mの掘り方で壁は垂直である。底面の両脇に凝灰岩の切り石(長さ90、小口30×30cmないしは30×20cm)を並べ、内部に煉瓦を敷き詰める。幅は煉瓦1個分強であるので切断した破片で隙間を埋めている。そして両脇と同じ凝灰岩の切り石を1/2に切断して蓋石としている。遺存していた切り石は両脇が37×2=74個、蓋石は127個であった。この蓋石は90cmの切り石を半切したものであり、接合したものが20例確認された。切断作業において半切に失敗したのも多くあるようで、長さは不揃いとなっている。短く蓋として利用できないものは建物柱穴の根石などに利用したと思われる。本管の途中には東側・西側双方からの枝管の合流部に浸透枿が設置されている。1mの方形で凝灰岩切り石で方形に囲い、上下流口は切断した切り石を両脇に立て、流入・流出口を造出している。

枝管は、西側18号倉庫からのものが5本、東側掘立柱建物からのものが2本、20号倉庫ならびに北側(上流部は不明)からのものが2本、本管の西側に隣接・並行して走るものが1本確認された。18号倉庫からのものは概ね10m間隔で設置されている。20号倉庫からのものは、同倉庫西側で検出された浸透枿を有す管から延びるもので、何度かの屈折を繰り返して、本管へと繋がる。20号倉庫排水管は南側は削平のため明確ではないが、そのまま倉庫と並行して南流し、上記本管へと繋がると思われる。二股で排水路を設置したものである。またこの枝管の途中、本管に近い位置(枝管屈折部)には2.8×1.1mの長方形の枿がある。底面には凝灰岩で囲い、内部に煉瓦を並べた施設がある。何かの枝管からの汚水を一旦溜める枿と思われる。これら枝管は基本的に土管が設置され、本管との

合流部はこの土管を設置するために切り石をU字状に削り込んでいる。

なお、建物に伴う排水路が明確に確認されたのは赤羽上ノ台遺跡内で、道合遺跡内では削平・攪乱の影響で明確に捉えられなかった。

トロッコ線路跡（第7・8図、図版11-3・4、18-1～4）

従前の調査において、トロッコの軌道と思われる枕木跡が随所に検出された。第13・14図の被服本廠配置図には本棟棟エリアを除いて、工場・倉庫群全域にこの線路が敷設され、引き込み線脇の荷物整理場・假倉庫群へと繋がっている。第122図左写真のように各倉庫から搬出した被服品を運搬するためのものであり、機動はなく人力に拠っている。道合第Ⅱ・Ⅳ次、赤羽上ノ台第Ⅱ次調査においてはR1～R7までの番号を付与したが、全ての軌道は接続しており、今回報告するものには番号は付与せず、その位置のみを明記したい。なお、トロッコ関連の遺物として、軌条（レール）、軌軸、枕木鋼板なども出土している。この枕木鋼板長790mmから軌間が610mm（2フィート）のトロッコであろう事が判明している。軌条は6kg・10kgが出土しているが後者が主体である。

検出されたのは四ヶ所である。いずれも100×20～30cmの長方形の浅い窪みで30～40cm間隔で並ぶ。内部には小砂利が詰まっているものが多い。以下、検出位置および範囲である。

10号倉庫北西側 長さ9mの範囲で検出された。この軌道は、西側は假倉庫群に続き、東側は同倉庫北東角で屈曲し、南側の11号倉庫に続く線と北側の6～9号倉庫西側を直進する線となる。

・11号倉庫北西側 約10mの範囲に検出された。この軌道は、西側は同倉庫梁間を回り南側に出る。東側は倉庫中央で屈曲して10号倉庫からの軌道に合流して北進する。

・18号倉庫東側 18～20号倉庫の三角形内区を巡るものの一部である。2mほどの長さのみで、周囲は削平のため消失している。

・20号倉庫東側 19mの範囲で遺存していた。三角配置倉庫群の外区を巡る軌道で内区線と合流して南北2線が西進する。

以上であるが、この線路跡はいずれも浅いものであり、団地造成などの削平により大半が消失している。被服本廠の主たる範囲の調査がほぼ終了した現在、このトロッコ線路の検出は不可能となった。今回の調査を含めた成果からいえる事は、一部には過ぎないが、第13図記載の線路網が実際に確認し得た事であろうか。

防空退避壕（第7・8図、図版13・14-1、22・23）

道合遺跡内に6基、赤羽上ノ台遺跡内に9基、計15基が検出された。調査工程上、完掘に至らず、プラン確認・測量で終了したものもある（155・157・160～162号）。小形のものも多く、地下の部屋（壕）と造り付けの昇降用の階段がある。以下、形態・規模・分布について触れてみたい。

形態 部屋の幅、階段の付き方・数などで幾つかの形態がみられる。

A:片側階段タイプ 部屋の片側にのみ昇降階段が付けられるもので、階段の方向（部屋に対して）によって3種がある。直角形、鋭角形（第Ⅱ次報告での45度形）、直線形である。

1：直角形一部屋の長軸に対して階段がほぼ直角方向に付けられたもの。最も数が多い。

150・155・156・159～161号

2：鋭角形一部屋の長軸に対して階段がほぼ30～45度前後の角度に付けられたもの。

149・158号

3：直線形一部屋の長軸方向の延長上に階段が設けられたもの。

(151)・162号

B：両側階段タイプ 部屋の両端に昇降用階段が付けられたもので、概ね直角形になる。

146・154号

C：方形タイプ 部屋が狭小の長方形ではなくほぼ正方形を呈すもので、大形・小形がある。

152・153号

D：その他形態不明 削平などにより全体の形態が不明なもの

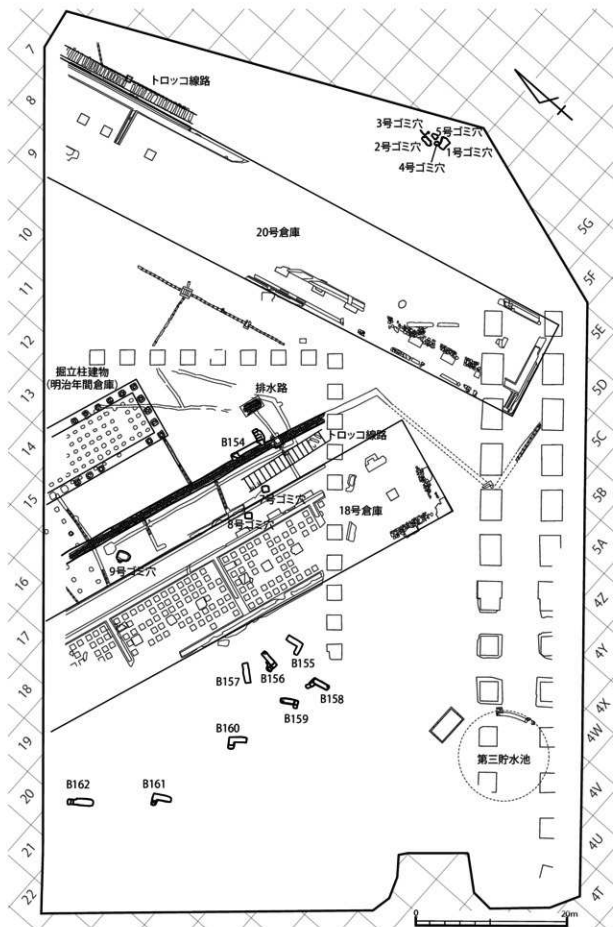
規模 地下の部屋は、長軸で最も小さいもので60cm(152・153号)、最大では660cm(146号)を測る。多くは250～260cm(155～162号)で、300～320cm(149～151号)が続く。深さは約120～150cmと約180～200cmの2種類がみられる。幅は70～80cmが最も多く(155～162号)、80～90cm(150・151号)、120cm(146号)、200cm(151号)などがある。「簡易市民防空壕築造早わかり」(日本建築協会 1941)によれば、地下室の構造に関して以下の類別を示している。長軸壁沿いに腰掛けを設けるが、それが片側と両側の2種類あり、片側席では小型が幅70cm、大型が幅80cm、防毒的構造で幅80cmとある。両側席では小型が幅100cm、大型が幅120cm、防毒的構造で幅140cmとある。腰掛幅はいずれも30cm、一人当たりの長さ45cmとなっている。今回検出された防空壕をこの基準に充当すると、多くが片側席タイプとなろう。両側席タイプは151号が相当しよう。ちなみに大日本防空協会発行の「防空壕構築指導要領」に照らせば、146・154号は「大型地下式(片側席)」、149・150号が「小型地下式(片側席)」に準拠しよう。155～162は階段の向きの相違があるが、規模としては同等であり、上記「簡易市民防空壕築造早わかり」(1940年版)の片側席タイプに準拠している。

深さに関しては、上記類別などでは小型で140cm、大型で150cmとあり、天井板を渡して土盛りする構造となっている。検出された防空壕は、調査諸事情により底面まで完掘できなかったものもあり正確ではないが、大きく二種類に分かれる。上記のとおり120～150cmのもの、180～200cmのものである。前者は規格どおりのものであろう。後者は部屋で立てられるものである。18号倉庫近辺に並ぶ154～162号がそれに当たる(未掘のものも推定も含め)。

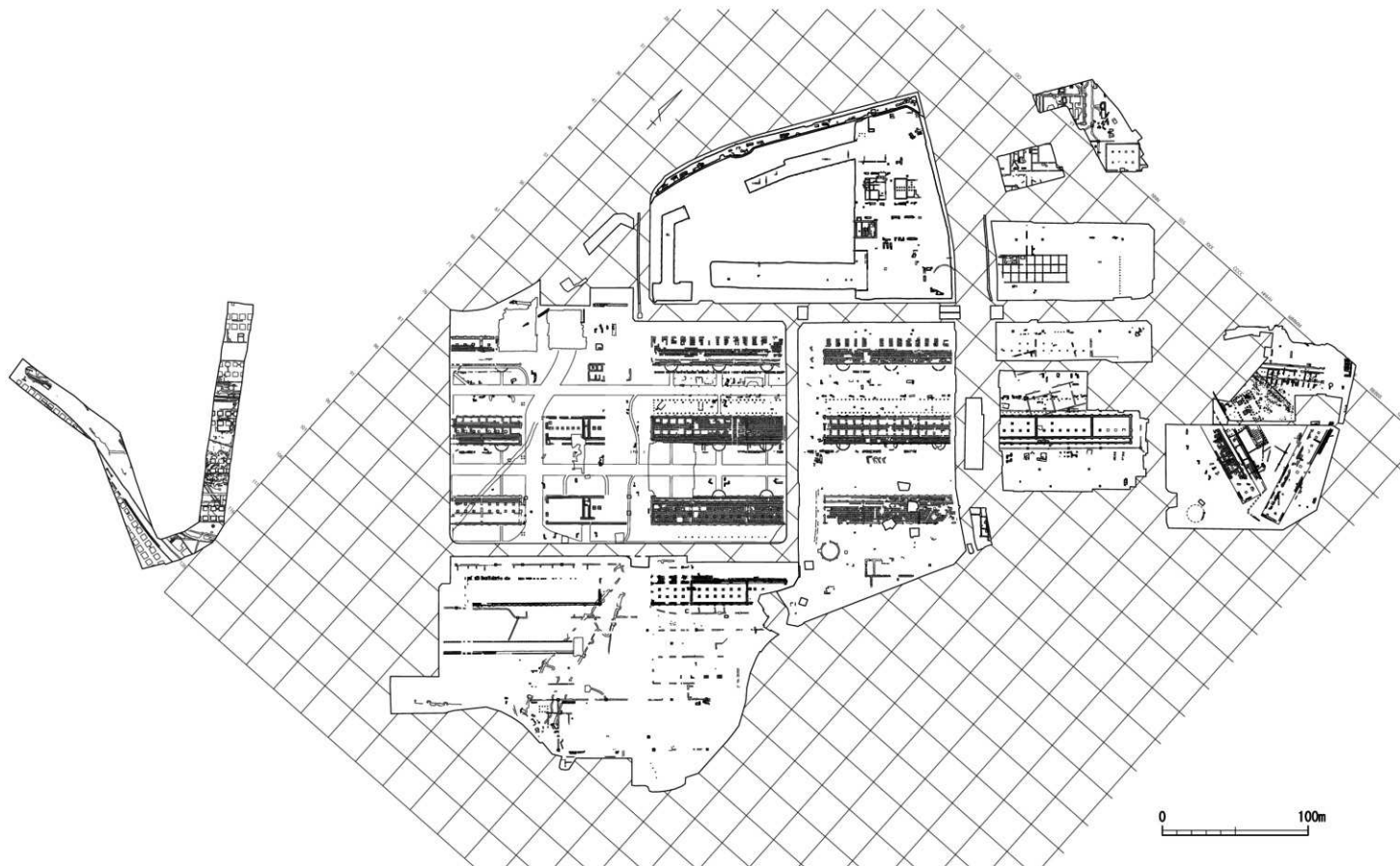
小形のタイプでは、152・153号は底面が円～方形で面積的には人が一人入るのがやっという規模である。いわゆる蝸壺の形状を呈す。

この他、完掘した事例の中には壁沿いに柱穴が検出されたものがある。150号は長軸5本、単軸3本の柱穴があり、丸太材が遺存していた。152号も不揃いではあるが柱穴が認められる。壁板押さえと天井板支えの柱であらう。158号の底面には一面に炭化材が認められた。天井板が焼け落ちたものであろうか。

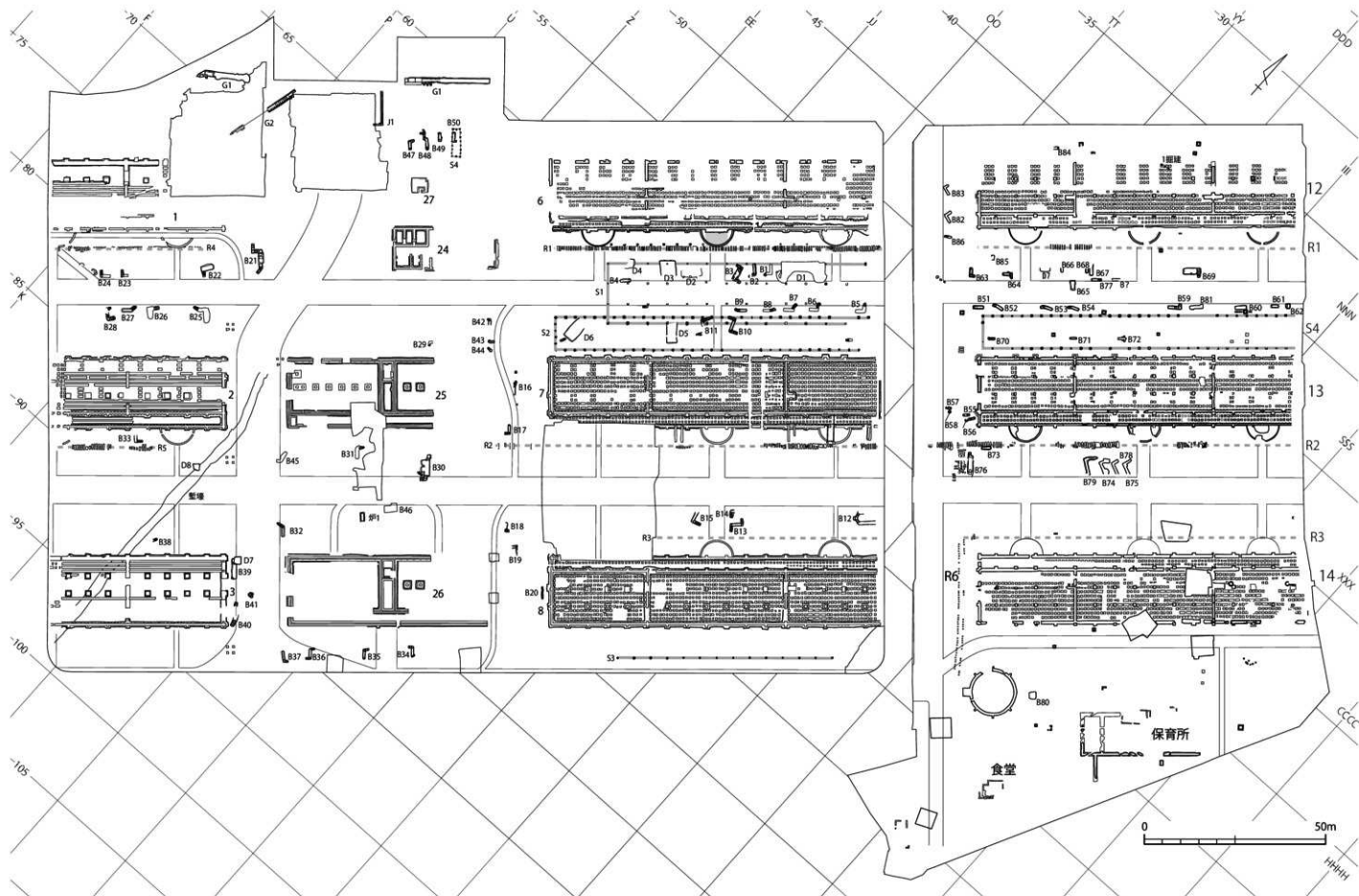
分布 基本的に各建物に付随するものと思われる。道合遺跡内では、146号は10号倉庫西壁際、149号は選送品整理場の東側、150・151号は梱包場南側、152・153号は假倉庫群(未検出)南側にそれぞれ構築されている。赤羽上ノ台遺跡内で検出された154～162号は18号倉庫に付随するものである。154号は単独で同倉庫北側三角内区にあるが、155～162号は同倉庫南側に並ぶ。すなわち155～157号の列(離れて162号)と158～161号の2列である。これらの周囲は削平が深く、消失したのもあろうかと思われる。18号倉庫は東側に渡り廊下を持つが、その反対側も各



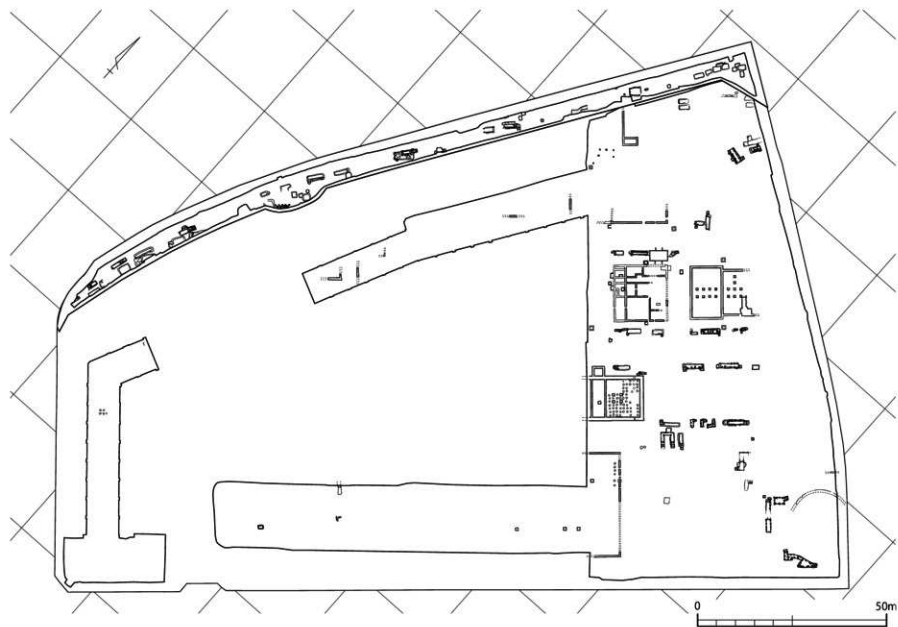
第8図 赤羽上ノ台遺跡 被服工廠関連遺構 (1/400)



第9圖 大天・道合・赤羽上ノ台遺跡被服本廠関連遺構 (1/2,500)



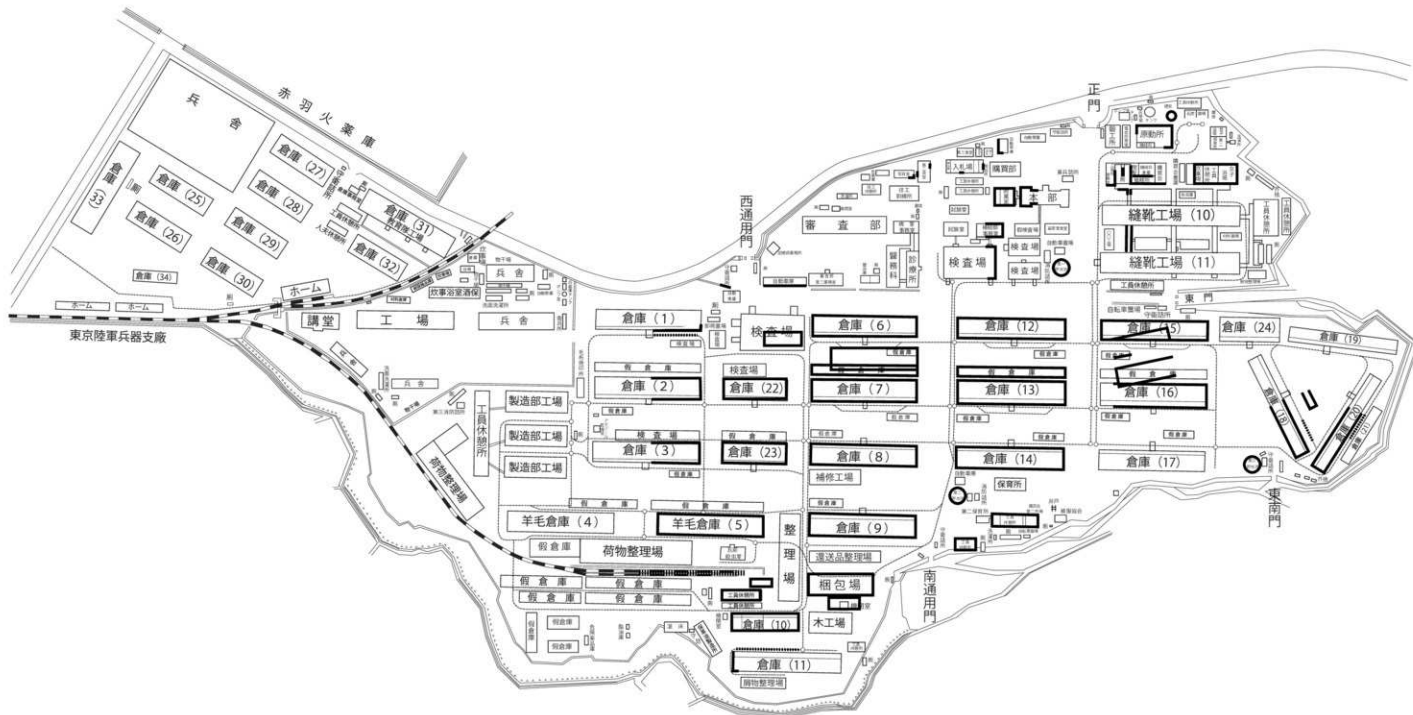
第 10 図 道合遺跡第Ⅱ～Ⅳ次調査 被服本廠関連遺構 (1/1,000)



第 11 図 道合遺跡第 V・VI 次調査 被服本廠関連遺構 (1/1,000)



第12図 赤羽上ノ台遺跡 裾野本廠閣下遺構 (1/1,000)



第 15 図 調査で検出された被服本廠建物

部屋に出入口の扉があったと思われ、配置図（第13・14図）によれば、この西側には建物は無く、航空写真からは樹木が植えられている範囲に当たる。この樹間に構築されたものである。

・土坑（第7図、図版14-2～8）

方形・長方形プランの掘り込みで、機能・用途が不明な一群を土坑とした。道合遺跡内で5基が確認されている。321・322号は9号倉庫南側に位置し、3×2mの長方形を呈す。323～325号は10号倉庫の西側に纏まる。324号は小形だが、323・325号は一辺4m強の大形である。この3基の覆土中には軍用食器・ガラス製品などが大量に入っており、纏めて廃棄処分にした状況が窺える。

これら土坑は、終戦時にゴミ穴として投棄・廃棄がなされていたが、その目的のために掘り込んだのか、すでに存在したものを再利用したのかは明確ではない。一応、土坑として報告する。

B 遺物（第16～113図）

今回の調査（道合遺跡・赤羽上ノ台遺跡）で出土した遺物（明治～昭和30年代：被服本廠倉庫建設～進駐軍接收解除・赤羽台団地建設時期）はコンテナ約100箱を数える。これまでの調査と同様に、関連遺物は多岐に亘った。武器・工場建材（瓦・煉瓦含む）・日常生活用品・鉄道関連などがみられた。出土遺物の多くは、防空退避壕や土坑から纏まって検出されたもので、主に終戦段階で焼却・廃棄処分された状況が窺える。その他は、団地造成に伴う掘削・削平などで攪乱された表土層からの出土である。煉瓦に関しては、倉庫建物などの基礎部分、樹などからの採取で、基本的に刻印を有するものに絞っている。ただし掲載した刻印が各々の建物・施設に使用された煉瓦刻印の全てではない事を付記しておく。

以下、種別に概観するが、個別の詳細は観察表（第5表）に記載しており、本項では概略および特徴的な遺物の記載を行う。陶磁器類は外形の実測図に写真を組み込んだものを掲載、ガラス製品・金属製品などは写真掲載とした。

・陶磁器類（第16～42図1～324）

防空退避壕、土坑（ゴミ穴）を中心に出土した。被服本廠の終焉とともに廃棄・投棄されたものと思われる。また、進駐軍（TOD：東京兵器補給廠 第3地区）の使用期間（昭和20～33年）、赤羽台団地造成期間（昭和35～37年）と思われるものも含まれている。以下、器種別に概観する。

湯呑茶碗・蓋（1～141）

・茶碗（1～135）

形態的には、以下のとおり大別して5種類が確認された。

① 筒形 体部が円筒形を呈すもの

A 器高が高いもの（6～7cm）

1 口縁端部直立（端反りなし）（1～9・13～30・32・34～38・40～46・49～51・57・58・62～65・70）

2 口縁端部外反（端反り）（31・33・39）

B 器高が低いもの（5cm代）

1 端反りなし（10～12・47・48・52～56・59～61・66～69・71）

2 端反り

② 半筒形 腰部で屈曲し、体部～口縁部は直立する（112）

③ コップ形（細身の筒形）

- A 体部直立（73・129・130・132～135）
B 体部丸味を帯びて立ち上がる（130・131）

④ 丸形

- A 腰部から丸味を帯びて立ち上がり、体部～口縁部外傾
1 端反りなし（74～76・82～98・100・101・107・123）
2 端反り（77・118）
B 腰部から丸味を帯びて立ち上がり、体部～口縁部直立
1 端反りなし（99・102～106・108～111・113～115・122・128）
2 端反り（126）
C 腰部屈曲から直線的に開く
1 端反りなし（80・81・124・127）
2 端反り（78・79）

⑤ ダルマ形 体部下半に最大径を有す下膨れ形態（72・116・117・119・120・125）

⑥ 平形 体部～口縁部は直線的に開く

以上に分類した。⑥は今回の調査では出土していないが、道合遺跡第IV次調査で認められた。主体となるのは、①Aの筒形と④A・Bの器種で、前者は軍用食器として使用されているものを含む。

次に、材質であるが、磁器と陶器がある。1～45・72～122が磁器で、46～71・123～135が陶器である。器種との対比では陶器は①B 1類（器高が低い筒形）・3類（コップ形）のみである。両器種は大半が陶器で、磁器はごくわずかである。その他の器種はすべて磁器が占めている。

磁器においては、文様はゴム版、銅板転写、吹絵などによる施文が多く、染付を中心に緑釉や褐釉、ピンク色の釉薬、上色絵や金彩の施されたものも一定量ある。また、高台内に朱書による「九谷」銘のあるものが散見されるが、実際に九谷で生産されたものかは定かではなく、高級感を狙った販売戦略の可能性が指摘されている（黒尾 2003）。時期的には概ね20世紀第2四半期、すなわち昭和初年から太平洋戦争末期にかけての所産と考えられるが、19世紀第4四半期～20世紀第1四半期、すなわち明治後半～大正年間の所産のもの（74～83）、20世紀第3四半期以降、すなわち戦後の所産のもの（112・117～119）も認められる。前者は被服本廠赤羽倉庫の建設（明治24年）から被服本廠移転（大正8年）にかけての時期に持ち込まれて使用されたものと思われ、後者は終戦後の進駐軍駐留の期間（昭和20～33年）、返還後～赤羽台団地造成の時期（昭和35～37年）に使用されたものと思われる。

陶器においては、一般的な胎質のものとしては、青灰色釉と鉄釉の掛け分けで立体的な造形が特徴的な大堀相馬焼が目立つ（47・49～51）が、淡黄色で細粒・軽量の、一般的な陶器の胎質とは異なる一群（53～71・123・125・128～135）が認められる。分析の結果、磁器成分を含み、一般的な陶器より高温、磁器より低温で焼成され、吸水性が高い事が確認された（註1）。鮮やかな色の釉薬を多用し、吹き絵や手描きによるのびやかな施文が特徴的である。デザイン性の高い文様も多く、レリーフ状の装飾などもみられる。

以下、特徴的なものについて記述する。1～9はいわゆる軍用食器である。被服本廠内において湯

呑として使用されたものである。形態的に口径が大きいものと小さいものがある。器高については、これまでの調査で出土した同種では高いものがみられたが、今回は概ね低いタイプである。口縁部に二重圏線が巡るものと無文のものがある。体部には、「被購食堂」、○に五芒星を入れたもの、個人名が描かれたものがある。大別して、属所的なものと同人的なものがあり、前者には口縁部に二重圏線が入る。さらにこれらにはプリントと手書きとがある。後者は、個人名以外は無文である。二重圏線入りのものは、被服本廠施設名が入り、個人名は入らない(註2)。さらには、二重圏線以外は無文のものがあるが、これは発注先の窯元において二重圏線のみを入れて納品し、被服本廠において、銘入れを行っているものと思われる。7は手書きの「被購食堂」であり、納品後に書き込んだものであろう。8のプリント銘入りは発注時に指定したものである。2は手書きによって「凱旋記念贈 岡安」とあり、何らかの記念に描いたものであろう。6の「下曾田 小板橋 水車」は詳細不明である。二重圏線入りのもので○に五芒星(被服本廠マーク)が入ったものはプリントで納品時には銘入りとなっているが、二重圏線入り・無文のものはストック分として納品され、属所的なものは欠品等の時に、二重圏線無しの場合は、被服本廠入所時に新たに個人名入れするために着ていたものであろう。

52は高台内「相馬吉忠」の刻印銘から、東日本大震災まで操業していた大堀相馬焼の竹鳳窯(ちくぼうがま)製品であることが知られる(註3)。59には、桜花の文様や「鉄道第二聯隊」「記念」の金文字があることから、鉄道第二聯隊に関わる何らかの祝賀記念品と考えられる。当地には鉄道引き込み線が敷設されていたことから、その維持補修のために鉄道部隊の工兵が出入りしていたと考えられ、鉄道第二聯隊が1918(大正7)年に新設されていることを考え合わせると、その際の記念品である可能性が高い。72は群馬県高崎市慈眼院境内にある高崎白衣観音の参拝記念品である。高崎白衣観音は、高崎に駐屯する陸軍歩兵第15連隊の戦没者慰霊などのため、地元実業家の井上保三郎が昭和11(1936)年に建立したコンクリート製の観音像である。本資料の製造年代ははっきりわからないが、カタカナ表記が見られること、長さの単位として「尺」が用いられていることなどを考え合わせると、20世紀半ば頃までのものと思われる。

・茶碗蓋(136～141)

各種湯呑茶碗の蓋である。茶碗同様の施文がなされている。136～140が磁器、141が陶器である。140は39の碗と対応すると思われる。

飯碗(142～162)

すべて磁器である。形態分類は長佐古氏による近現代磁器碗の器形分類を援用する(註4)。今回出土したものは同氏分類のB～E類である。類別特徴などは以下のとおりである。

B類：体部に丸味を帯びる(143・144)

C類：体部の丸味がわずかで、背が低い(145～149)

D類：わずかに丸味を帯びながらも直線的に開く深い体部を有す(150～156)

E類：体部は直線的に開き、高台が高い(157～160)

長佐古がD類とした一群が主体を占める一方で、B類、C類、E類なども見られる。うち、C類の148・149はいわゆる子ども茶碗である。その他、162は濃緑釉を施した腰折れ形で、漆感を意識している可能性がある。年代観は、概ね、B類が19世紀第3四半期～第4四半期、C類が20世紀第

1 四半期～第2 四半期、D類が20 世紀第2 四半期、E類が20 世紀第3 四半期以降の所産と考えられる。なお、144 は器形的にはB類と推定できるが、統制番号があることから、20 世紀第2 四半期のものとした。なお、142 は唯一軍用食器で、口縁部に二重圏線が巡る。底部には鳥マーク（第43 図4）の一部が残存しており、同様の資料から、統制番号（生産者別標示番号）もあったものと思われる。

井・井蓋（163～204）

飯食器およびうどんなどの麵類の井とそれらの蓋である。いずれも磁器である。

・井（163～189）

163～177 は軍用食器である。163～176 は蓋受けの段を有すもので、飯食器である。口縁部に二重圏線文が巡る。体部・底部高台内に被服本廠を示すスタンプ・プリントが付されている。163・164 は高台内に○に六芒星がみられる。本来、日本陸軍は五芒星を用いているが、○に六芒星のスタンプはこれまでの調査でも検出されている。いずれも井で、統制番号「岐49」が付されている。何故五芒星ではなく六芒星としているのかは判然としない。少なくとも窯元での押印と思われ、発注時に指定があったものと考えられる。165 は高台内に扇マーク（第43 図6）がプリントされている。これは美濃窯業製陶部の商標と判明している。166～168 は○に五芒星と「陸軍被服本廠」の文字が入る。169～171 は○に五芒星と「被購食堂」の文字が入る。被服本廠購買部食堂の略である。172 は枠内に「被服本廠購買部」の文字が入る。173 は二重圏線以外、無文である。これら文字（名称）の相違が何に起因するかは不明であるが、統制番号の有無をみると、「被服本廠購買部」は無し、「被購食堂」は両者、「陸軍被服本廠」は有り、となる（第43 図右下）。統制番号が昭和16 年前後からのものであると言われており、付されていないものはそれ以前の製品という事になるかと思われ、それに基づく年代観が想定し得るかもしれない。177 は蓋受けの段がないやや小ぶりで浅い井で、「被購うどん」の文字が手書きで入る。これまでの調査でも一定量の出土が認められる。この器はおしなべて「品17」の統制番号が入っており、器種と窯元との関連性が窺える。

178～189 は軍用食器以外の井である。178～184 は蓋受けの段を有するものである。185～189 は蓋受けのないやや小振りで浅いものである。うどんなど麵類用の器と思われる。178～182 は飯碗C類に並行し、20 世紀第1 四半期～第2 四半期の所産と考えられる。文様は、181・185 が瓢箪文、178・179・182 が竹垣文、188・189 は竹垣文が見込みにも施文される。

・井蓋（190～204）

190～197 が軍用食器、198～204 がそれ以外のものである。190 は○に五芒星と「陸軍被服本廠」、191・192 は○に五芒星と「被購食堂」、193 は枠に「被服本廠購買部」が付される。198～204 は瓢箪文・竹垣文などが施文されている。文字・文様などから、190 は166・167 に、192 は170 に、191 は171 に、193 は172 に、198 は178 に、199 は180 に、200 は181 に、201 は179 にそれぞれ対応するものと思われる。

碗（205～210）

いずれも軍用食器である。器形的には、腰部は丸く、体部～口縁部は直立する。高台がハ字状に開くもの（205）、高台が直立するもの（206～208）、器高・高台が低いもの（209）、陶器で高台が低いもの（210）などがある。すべて口縁部に二重圏線文が入る。205～208 は○に五芒星と「被

購食堂」の文字が入る。205 は青色である。209 は○に五芒星と「陸軍被服本廠」、210 は無文である。井の文字・インクなどと比較すると、205 は井 171、206～208 は井 169・170、209 は井 166～168 に対応し、それぞれのセットになるものと思われる。208 の高台内には扇マーク、209 には鳥マーク（第 43 図 4）＋統制番号「岐 260」、210 には「日本硬陶」が入っている。

皿（211～232）

211～226 が軍用食器、227～232 がそれ以外のものである。軍用食器は大皿（211～219・223・224）と小皿（220～222）、洋皿（225・226）とがある。大皿・小皿は井・碗類同様、付されたマーク・文字により類別され得る。211・212 は○に五芒星と「被購食堂」（青色）で井・170 に、213～216 は○に五芒星と「被購食堂」で井 169・170 に、217・218 は○に五芒星と「陸軍被服本廠」で井 166～168 にそれぞれ対応するものと思われる。小皿の 220 は井 171、221・222 は破片のため明確ではないが、井 170 に対応するものと思われる。223・224 は陶器で、淡黄色・細粒・軽量の特徴を有すものである。洋皿は二重圏線文＋見込み一重圏線文（225）、二重圏線文（226）とがある。211・216 の高台内には美濃窯業製陶部の扇マーク、217・218 には鳥マーク＋「岐 260」、214 には「瀬 114」、219 には「瀬 207」の統制番号が入る。

227～232 は軍用食器以外で、銅板転写、吹絵などによる施文がなされる。232 は高台内に「Russel Right Yamato porcelain DESIGNED IN JAPAN」とあり、瀬戸の大和製陶がアメリカ人工業デザイナーラッセル・ライトのデザインで 1960 年代後半に製造したものである（註 5）。洋皿であろう。

鉢（233・234）

2 点とも磁器である。233 は口縁部に瓔珞文様、見込みに山水老松楼閣文と探美仙人号の詩歌が描かれる（註 6）。同一品が道合遺跡第Ⅱ・Ⅴ次調査でも出土しており、一定量が被服本廠において使用されていたと思われる。234 はやや深めの鉢である。

蓋物・蓋（235～240）

いずれも陶器である。237 以外は、淡黄色・細粒・軽量の胎質を有すものである。235 と 239、236 と 240 はそれぞれ対応する。手描きの笹文、吹絵の梅花文などが施文される。235・237 は小振り、236・238（蓋）は大振りである。

小杯（241～245）

いわゆる猪口である。肝油用（241）と清酒用（242～245）とがある。いずれも磁器である。241 は肝油猪口で、鼻眼鏡マークと「今日も明日も欠かさずのんで強いからだに奈里ませう」の文字が描かれている。伊藤千太郎商会（現：ワカサ株式会社）の眼鏡肝油飲用猪口である。大正 15 年の広島における学校集団服用を皮切りに全国に広がった肝油飲用の波の中で、同商会が販売促進用に製造したものである。道合遺跡第Ⅱ次調査では、防空退避壕から約 40 個体が纏まって出土している。被服本廠においても肝油服用が勵行されていたのであろう。なお、本遺跡では出土していないが、注ぎ口が付いた同種の猪口も存在している。

242～245 は清酒用の猪口である。242 は大振りで口縁部は直立する。243・244 は小振りで端反り、245 は筒形で端反りの形態である。244 は「黒鷹」、245 は「清酒力士」の銘が入っており、販売促進用と思われる。

土瓶・急須類（246～267）

土瓶は胴の上部につる状の持ち手が付き、急須は胴の横に棒状の持ち手が付く。土瓶は陶器、急須は磁器・陶器がある。蓋に関しては、摘みがあり、空気抜きのあるものを土瓶・急須類の蓋としたが、文様などからセットとなるもの(257 - 265)以外はどちらのものか明確ではない。

246 ~ 252 が土瓶、253 ~ 260 が急須、261 ~ 267 が蓋である。陶器のものは、淡黄色・細粒・軽量胎質のものが多い。施文には湯呑茶碗と同様の傾向があり、同一モチーフのものもみられる。257 の湯呑茶碗と 265 の急須は、同じ手描色絵梅樹文でありセットと思われる。底部内面に泥漿鋳込み成形の際にできる泥漿溜りがみられるものが多い。

カップ・ソーサー類 (268 ~ 275)

268 ~ 273 がカップ、274・275 がソーサーである。269 はラスタ彩、271 はシルクスクリーンを用いたプリントで施文されている。いずれも大正期から昭和初期にかけて開発された技法である。また、当該期には 269・270 に見られるような繊細なデザインのハンドルが流行した。274 は薄手で丁寧なつくり、銅板転写が鮮やかである。水辺で枝垂桜の下にたえずむ鷺と飛翔する雀という日本的な絵柄で、底部外面に「大日本」の路があることから、輸出用と考えられる。275 のソーサーには、高台内に東洋陶器小倉工場のマーク(第 43 図 8)がある。マークの意匠は、同社の陶食器に使用された商標で、1925(大正 14)年に商標登録とある(TOTO100 年史 資料 P768)。本品は意匠登録番号も描かれており、それ以降の製品となろう。なお同種商標で「登録出願中」としたものもあり、同社が陶食器製造を開始した 1921(大正 10)年からマーク自体は使われていたようである。

燗徳利・徳利 (276 ~ 280)

磁器の燗徳利(276 ~ 278)、陶器の徳利(279・280)である。277 は底面に「元年」と描かれており、紀元 2600 年(1940/昭和 15 年)を示すものと思われる。278 は「らむねや 電赤 74 番」とあり、赤羽界隈の飲食店であろうか。

279・280 はいわゆる貧乏徳利である。279 は麻布十番の阿波屋、280 は赤羽の沼野、と店舗名と屋号が描かれており、酒屋の貸徳利であろう。一升入りである。

灰皿 (281 ~ 288)

磁器(281)と陶器(282 ~ 288)がある。281 は戦後の所産であろう。282 ~ 286 は淡黄色・細粒・軽量胎土の陶器で、マッチの摺板スタンドが付いた箱形の灰皿である。泥漿鋳込み成型で、本体と摺板スタンドを個別成形し、貼り合わせたものである。282・285・286 は幾何学レリーフ文が入る。283・284 は無文である。282 には青字スタンプで、284 には黒字スタンプで、283 には陽刻で「万 74」の統制番号が記されている。万古焼である。287・288 も同様の胎質で、平形のタイプである。内面に旋が陽刻されており、日本海軍のものかとも思われる。

飲料・化粧品瓶 (289・290)

両者ともガラスの代用品である。統制番号を持つ。289 は森永キャンディーストア(現:森永製菓株式会社)の滋養強壯飲料フェルボアの容器である。フェルボアは、福島県の吾妻山麓に自生するブラック・フェルボア(クロマメノキノミ)を主原料として製造された滋養強壯飲料で、甘味が強く、滋養強壯のほか疲労倦怠・胃腸障害・婦人病などにも効能があるとされた。100cc 入りの小瓶と 250cc 入りの大瓶があり、本資料は後者にあたる。290 は高橋東洋堂(現:株式会社コンテス)のアイデアル化粧水瓶である。プラスチックのスクリュウ蓋も遺存する。

糊容器 (291～295)

ガラスの代用品で、291～294が磁器、295が陶器である。円筒形で紙蓋となる。291は底面にヤマト糊の商標（丸的に当たり矢一桜花枠）が陽刻されている。293にも桜花の陽刻がみられる。

インクボトル (296～298)

陶器のインクボトルで、298には丸善マークのスタンプ陰刻がある。296の内面には、たたら引きの痕跡である線条痕が顕著に見られる。たたら引きで切り出した板状粘土を筒状に巻いて胴部を作り、その一端に円形に切り抜いた板状粘土を貼り付けて底部としている。297は肩部以上が欠損しており、底部中央に穿孔されていることから植木鉢に転用されたと考えられる。

インクスタンド (299)

磁器で、ガラスの代用品である。底面に「日の丸 コクエキ A2」とある。

墨池 (300)

磁器の墨池で、肩の突起は筆置きであろう。開明墨池と陽刻されており、田口商会（現：開明株式会社）の製品である。内部に乾燥した墨汁が残る。

文鎮 (301)

磁器で、波を蹴立てて進む戦艦をモチーフとした「軍艦文鎮」である。本来は金属光沢のある黒色塗料が塗布されていたようだが、ほとんど剥落している。栄養菓子グリコに添付された引換券30枚と交換できる景品で、昭和10年代のものである。

醤油皿 (302)

磁器で、崎陽軒のシウマイ弁当付属の醤油皿である。1955（昭和30）年以降のものである。

煙管 (303)

陶器の煙管で、金属製品の代用品である。吸口から雁首までが一体成型されており、胴部に「実用新案第二八九二九六」とある。吸い口の先端部、雁首部を欠損する。

理化学用品 (304～312)

硬質陶器で、蒸発皿 (304～307)、デシケーター中板 (308)、坩堝 (309)、坩堝蓋 (310～312) などがある。被服本廠内理化学試験室（第122図）で使用されたものであろう。

衛生容器 (313～315)

硬質陶器の痰壺である。313・314は小形の蓋と壺、315は大型の壺である。セットとしての漏斗は出土していない。

硫酸瓶 (316)

陶器で厚手の造りである。硫酸の保管用で、口縁内部にはスクリーンが切っており、陶器製の栓で密閉するものである。本体と栓が出土しているが、大きさが整合せず、2個体分と思われる。

碍子 (317～324)

硬質陶器である。318～320はノップ、321・322は電球ソケット、323は電球ソケットカバー、324は送電線用である。

以上、陶磁器類を概観したが、最後に「軍用食器」ならびに「裏印」「生産者別標示記号（統制番号）」について触れておきたい。

軍用食器について

軍用食器は、湯呑・飯碗・丼・皿・鉢などに、二重圏線や五芒星（第43図1）、陸軍被服本廠名が入っているものである。口縁部に巡る二重圏線が基本となり、そこに各種マーク・施設名が入る。○に五芒星は被服本廠のマークとされる。近隣の赤羽台に存在した工兵第一大隊、近衛工兵大隊などは○が付かず、星の各辺の縦半が塗られている意匠（第43図3）となる。また、丼に限られているが、○に六芒星（第43図2）の意匠がみられる。この丼は後述する統制番号と関連して、「岐49」が付く。湯呑：筒形湯呑（無地）の多くは個人名が入るが、二重圏線が巡るものには施設名を入れたものが多い傾向である。二重圏線の有無によって陸軍施設共用器と、無地の銘々器（個人名入り）との区別がなされていたのであろうか。丼（うどん等含む）・飯碗・皿などには、二重圏線に加えて、「被服本廠購買部」「被購食堂」「陸軍被服本廠」「被購うどん」などの文字が入る。被服本廠購買部食堂で供される食事に使用された器であろう。文字の差違は前述したように年代差かとも思われる（第43図右下）。購買部、被購食堂の青文字は古く、被購食堂の緑文字がその次、陸軍被服本廠の文字が新しい段階と考える。陸軍被服本廠名入りは統制番号付きであり、昭和16年以降の製造と思われる。統制番号入りの器の使用期間は終戦までのわずかに4～5年であり、それ以前製造の器に比べ総じて表面の使用痕は少ない。なお、二重圏線のみのも、無地（二重圏線なし）の筒形湯呑も存在しており、施設名・個人名が納品後に入れられた場合もあるのであろう。破損などの補充用に備蓄して、その時々で描きこんだのであろうか。

裏印について

器の底面に付される裏印には、製造会社の商標・名称や、生産者を示すであろう意匠、生産者別標示記号（統制番号）などが認められる。商標・意匠などについては、幾つか意匠を復元している。

第43図6の扇を模った意匠は「美濃窯業製陶部」のマークである。資料によって扇の形状に差違がみられ、会社名（漢字・英字）が入るものと扇のみのものである。今回出土した資料は扇のみのものである。

第43図4は鳥が羽を広げたような意匠に「TOKI KOSHITU」とローマ字が入る。同じ意匠で「KIYOA SEETO」の文字が入るものも存在する（本遺跡では出土していない）。鳥の意匠は同時代の東洋陶器（現：TOTO）の商標（第43図7）が夙に著名であるが、それを簡略して模したかのようなデザインである。文字の「TOKI KOSHITU」は「硬質陶器」とも読めるが、陶器ではなく「土岐」であるとの指摘がある（註7）。岐阜県土岐津陶磁器工業組合の「土岐」の可能性もある。「KOSHITU」は硬質陶器の硬質であろう。同図5の文字「KIYOA SEETO」は同県西南部陶磁器工業組合傘下で多治見市笠原の共垂製陶と思われる。同じ意匠を用いているのは、この意匠自体は特定の組合・生産者を示しているものではなく、より広範な組織を示しているものと思われる。戦時中の陶磁器を含む生産統制により、陶磁器生産も広範な共販組合（例えば岐阜県では一つ）に組織改編され、公定価格により販売されていた。その時期に用いられた意匠であろうと思われる。

生産者別標示記号（統制番号）について

底面に「岐」「瀬」などと番号が付されたものは、いわゆる統制番号といわれるもので、正式には「生産者別標示記号」とされる（桃井 1997）。岐阜県陶磁器工業組合連合会が作成した「生産者別標示記号」リスト（昭和16年3月現在）が発見され、生産された市町村、業者などを特定する事が可能

第1表 確認された生産者表示記号一覧（適合第Ⅸ次、赤羽上ノ台第Ⅵ次）

	銘柄番号	No.	素材	器種	備考
有 31	袋付スタンプ「有 31」	236	磁器	鉢	ゴム製袋付山水和紙繪文
波 20	袋付スタンプ「波 20」	39	磁器	湯呑碗	手描袋付紅葉文
絨 49 (共進製陶)	縁輪スタンプ「〇に六芒星/絨 49」	166	磁器	軍用食器	縁輪二重隈線文
絨 223 (竹山製陶所)	縁輪スタンプ「絨/223内枠」	167	磁器	井	縁輪二重隈線文
絨 260 (山五製陶所)	縁輪スタンプ「島マーク/絨 260」	220	磁器	軍用食器	口縁直
		221	磁器	大瓶	縁輪二重隈線文 縁輪スタンプ「〇に五芒星/陸軍機服本服」
	縁輪スタンプ「島マーク/絨 260」	212	磁器	軍用食器	靑紙
		169	磁器	碗	縁輪二重隈線文 縁輪スタンプ「〇に五芒星/陸軍機服本服」
	縁輪スタンプ「絨/260」	169	磁器	軍用食器	縁輪二重隈線文
	陶刷「絨 260」	1	磁器	井	縁輪スタンプ「〇に五芒星/陸軍機服本服」
陶刷「絨/260」	170	磁器	軍用食器	縁輪二重隈線文	
陶刷「絨/260」 反転	178	磁器	軍用食器	井	縁輪スタンプ「〇に五芒星/陸軍機服本服」
179	磁器	軍用食器	井		
絨 298 (伊藤まき子の)	陶刷「絨/298」	295	磁器	磁器器	代用品
絨 2 □□	縁輪スタンプ「絨/2 □□」	107	磁器	湯呑碗	吹絵袋付富士山文
絨 301 (輪割製陶所)	縁輪プリント「絨/301」	11	磁器	湯呑碗	ゴム藍色絵草花文
絨 362 (丸栄製陶)	陶刷「絨/362」	43	磁器	湯呑碗	
絨 396 (山田製陶所)	縁輪スタンプ「絨/396」	42	磁器	湯呑碗	手描袋付文字文
絨 396	陶刷「絨/396」	44	磁器	湯呑碗	手描袋付白化粧土いっちゃん世文
絨 403 (角山製陶所)	袋付スタンプ「絨/403」	84	磁器	湯呑碗	ゴム製袋付亀甲草花文
絨 48 □	縁輪スタンプ「絨/48 □」	10	磁器	湯呑碗	シルクスクリーンプリント色絵草花文 朱書スタンプ「九谷」
絨 500 (山田製陶所)	縁輪スタンプ「絨/500」	121	磁器	湯呑碗	
絨 59 □	縁輪スタンプ「絨/59 □」	271	磁器	カップ	
絨 603 (後藤製陶所)	陶刷「絨 603」 反転	296	磁器	磁器器	
絨 763 (ヤマリ)	陶刷「絨/763」	279	磁器	燗徳利	手描陶刷二彩置文
絨 814 (山田製陶所)	袋付スタンプ「絨/814」	292	磁器	飲料瓶	薄縁輪
絨 1065 (美濃美濃製陶)	縁輪プリント「絨/1065」	177	磁器	軍用食器	皿蓋飲料フェルホアの容器 代用品
絨 1163 (仲根組製陶製陶所)	青スタンプ「絨/1163」	298	陶器	磁器器	代用品
薫 114	縁輪スタンプ「薫/114」	217	磁器	軍用食器	口縁直 縁輪二重隈線文 縁輪プリント「←被服食器・〇に五芒星」
薫 207	袋付スタンプ「薫/207」	222	磁器	軍用食器	口縁丸
セ 653	陶刷「セ/653」	293	磁器	化粧瓶	大瓶 縁輪二重隈線文 白色
薫 774	袋付スタンプ「薫/774」	172	磁器	軍用食器	IDEAL 化粧瓶の容器 代用品
薫 933	縁輪スタンプ「薫/933」	147	磁器	飯碗	縁輪二重隈線文 縁輪スタンプ「←被服食器・〇に五芒星」
品 17	陶刷「品/17」	180	磁器	軍用食器	手描色絵本碗文 青磁袋付二彩草花文
万 74	袋付スタンプ「万/74」	285	陶器	灰皿	井 手描袋付「←被服うどん」
万 74	陶刷「万/74」	286	陶器	灰皿	透明輪
万 74	縁輪スタンプ「万/74」	287	陶器	灰皿	透明輪
判読不可	陶刷	26	磁器	湯呑碗	ゴム藍色絵草花文

* /は改行、**は右書きを示す

第2表 確認された生産者表示記号一覧(適合第Ⅱ～Ⅵ次、赤羽上ノ台第Ⅱ～Ⅵ次) (1)

No	生産者 表示記号	器種	陶磁器 工業組合	工場所在地	生産者 氏名	会社・工場名 屋号	生産品	備考
1	岐14	クリーム瓶	西南部	笠原町灌呂	柴田森三	カネス	サハシ 湯呑(松風) 灰皿 飯茶碗 汁茶碗 灰皿(束付大小2種) 湯呑(束付 軽字) カップ・ソーサー (「高麗陶磁器 TOMI TOKI」銘) 六寸皿	②図 3-6-20-5 3-6-46-6-2・6 ②図 65-10 ②図 3-6-20-4
2	岐17	茶碗	西南部	笠原町灌呂	柴田英次	カネ平	湯呑(束付大小3種)	②図 64-168
3	岐20	茶碗	西南部	笠原町灌呂	佐藤新九郎	ヤマ新	小皿(束付 イッテン) 盃(吹付板)	②図 3-6-46-6-3
4	岐26	クリーム瓶	西南部	多治見市大畑	加藤計夫	丸計製陶所	盃(ゴム版 種口)	②図 3-6-46-6-6
5	岐28	クリーム瓶	西南部	多治見市大畑	川畑文平		飯茶碗(国民食器「TOKIKOSHITU」銘 「SEITO」銘)	②図 240-4 ②図 47-15
6	岐49	丼	西南部	多治見市笠原	加藤傳三	(有)共進製陶	汁茶碗 戸巾(陶製機引手 特高陶製大和車)	②図 3-6-26-1
7	岐78	戸車	西南部	多治見市笠原	水野高平	幹文製陶所	キセル スプーン(白ページュ2種 金属代 用品)	②図 64-167
8	岐118	茶碗	西南部	笠原町灌呂	柴田敏郎		飯茶碗(束付 湯呑)	②図 56-48
9	岐130	茶碗	西南部	多治見	吉川往九郎	マル正製陶所	飯茶碗(束付) 子伏茶碗(兵須印) 湯付湯呑 蓋付茶碗	②図 245-3・4
10	岐191	窯口	西南部	多治見市市之倉	柳田松二郎	(有)新生窯業	盃(「支那軍記念」 皿)	②図 46-30
11	岐208	香器	西南部	多治見市市之倉	小嶋徳安	(有)丸中窯業		
12	岐223	丼	西南部	多治見市市之倉	渡邊 治	竹山製陶所	盃台(吹付 富士山)	②図 63-161
13	岐232	茶碗	西南部	多治見市市之倉	高木 茂	茂山製陶所	小皿(手摺付 ひょうたん) 湯呑(手摺付 楕)	②図 3-6-46-6-4
14	岐245	クリーム瓶	西南部	笠原町灌呂	加藤愛助	山愛製陶所	ミルク注し(「高麗陶磁器」銘)	②図 3-6-46-6-1
15	岐258	クリーム瓶 筒形湯呑 碗	西南部	笠原町灌呂	柴田 實		カップ・ソーサー(「高麗陶磁器」銘) 蓋付丼(国民食器) 湯呑(国民食器)	②図 236-3 ②図 327-1 ②図 239-17
16	岐260	丼 皿 小皿	西南部	笠原町灌呂	柴田虎二郎	山五製陶所		②図 244-1 ②図 53-155・56-57 ②図 65-6 237-4・5・8・15・16・20 238-1・3・6・8
17	岐272	筒形湯呑	土岐津	高山	安藤茂樹		湯付湯呑(杉栄)	②図 53-3・6・51

第2表 確認された生産者表示記号一覧 (適合第Ⅱ～Ⅵ次、赤羽上ノ台第Ⅱ～Ⅵ次) (2)

No	生産者 表示記号	器種	陶磁器 工業組合	工場所在地	生産者 氏名	会社・工場名 屋号	生産品	備考
18	岐 290	筒形湯呑	土岐津	高山	伊藤剛次郎	マル伊製陶所	墨付煎茶碗(転写 松) 湯呑(筒形 クロム印 植物文) 湯呑(国民食器「皇紀二千六百年記念 品」用区)	①国版 237-16 ② 3-6-14-36
19	岐 298	瓢瓶	土岐津	久夙	伊藤まさの			
20	岐 301	筒形湯呑	土岐津	長野	石橋悦郎	(有) 順製陶所		①国 56-46
21	岐 308	茶碗	土岐津	高山	大塚久一	大塚製陶所		①国版 236-13
22	岐 336	筒形湯呑	土岐津	高山	神戶 港			①国 63-163
23	岐 341	茶碗	土岐津	高山	水塚勝三郎	水塚製陶所		
24	岐 362	筒形湯呑	土岐津	高山	後藤丈三郎	(有) 丸米製陶	カップ(ゴム版 花束 ゴム版 手駒付 鏝) 子皿湯呑 墨付湯呑	①国 46-26 ①国 3-6-14-20
25	岐 363	筒形湯呑	土岐津	高山	後藤 晃			
26	岐 364	瓢瓶	土岐津	定林寺	澤田周一		墨付丼(国民食器「風」銘) 煎茶碗(ゴム版用) スープ皿	①国版 238-14 ①国 56-47
27	岐 367	茶碗	土岐津	定林寺	澤田周一	(有) 昭東窯業		①国 3-6-34-1
28	岐 396	筒形湯呑	土岐津	高山	鈴木真一	山富製陶所	墨付煎茶碗(ゴム版 吹皿) 容器(化粧品用) 煎茶碗(型田富士山雲) 湯呑(クロム印)	①国版 238-12・13 ①国 56-43・63-158 ①国 53-149 ①国 53-150
29	岐 403	茶碗	土岐津	久夙	鈴木舞一	角山製陶所		
30	岐 405	茶碗	土岐津	土岐口	曾根金雄	(有) 富士窯業	子供茶碗(ゴム版 相撲をとる子供 相配等 クロム印)	①国 3-6-62-2・3
31	岐 446	筒形湯呑	土岐津	高山	長江久太郎		煎茶碗(ゴム版 樹下一屋 彩色)	①国 236-17
32	岐 448	筒形湯呑	土岐津	高山	長瀬房男	山長製陶所		①国 3-6-14-33
33	岐 449	瓢瓶	土岐津	高山	中野玄之丞			①国 65-4
34	岐 482	蓋物	土岐津	土岐口	松井義忠	松井製陶所(株)		
35	岐 496	瓢瓶	土岐津	土岐口	岷藤崎三郎		日耳民(助燃器白素焼) 煎茶碗(転写 南天) 注皿	① 3-6-14-23
36	岐 497	茶碗	土岐津	定林寺	水野吉六	(有) 大陶窯業	煎茶碗(吹付 富士) 煎茶碗(吹付 葡萄葉) 湯呑(国民食器 つる植物 彩色 型田)	①国版 238-16 ①国 3-6-71-3
37	岐 500	茶碗	土岐津	定林寺	水野道郎	山道製陶所	煎茶碗(吹付 扇蔵) 湯呑(国民食器)	
38	岐 501	茶碗	土岐津	定林寺	水野 登	山道製陶所	煎茶碗(クロム印) 皿(甲斐食器)	①国 56-44・45

第2表 確認された生産者表示記号一覧（適合第Ⅱ～Ⅵ次、赤羽上ノ台第Ⅱ～Ⅵ次）（3）

No	生産者 表示記号	器種	陶磁器 工業組合	工場所在地	生産者 氏名	会社・工場名 屋号	生産品	備考
39	岐 518	筒形湯呑	土岐津	高山	吉本菊夫	山ヶ 吉本陶器（株）	煎茶瓶（配字花透飾） 飯茶瓶（吹付富士山全面薄緑釉） 煎茶瓶（イッチン手彫付）	①国取236.4・5・7・8・12・15・16・18 237.1・2・6・11・12・17・19 238.2 ②国取335.154 ③国65.8
40	岐 603	朝瓶	土岐津	土岐口	後藤政一	後藤製陶所	飯茶瓶（国民食器） 五寸皿（国民食器）	④国64.172 ⑤国3.6.14.29
41	岐 616	朝瓶	土岐津	高山	山内國一		四寸皿（クロム印） 皿（呉須印） 湯呑 容器（化粧品用） 湯呑（国民食器（中和製） 筋）	⑥国3.6.14.26
42	岐 668	片	妻木	妻木町	熊谷三郎	マルタ製陶所	瓶 皿	⑦国3.6.14.25
43	岐 670	朝瓶	妻木	妻木町	酒井志喜三		容器（化粧品瓶白）（サンスキーン）	⑧国3.6.14.21・28
44	岐 674	朝瓶	妻木	妻木町	鈴木平九郎	金平製陶所	小皿（日立航空機・薬に用・丸印など5種 国民食器）	⑨国3.6.14.24
45	岐 680	朝瓶	妻木	妻木町	鈴木清一	（有）西山製陶	容器（薬品瓶 白 呉須印） 燗台	⑩国64.175
46	岐 682	朝瓶	妻木	妻木町	仙石周太郎		燗徳利（鉄兜 星章（配念））	
47	岐 722	朝瓶	妻木	妻木町	鈴木久次郎	（有）野田製陶	容器（化粧本瓶緑青「メダミ瓶」 「お津々」	
48	岐 751	香炉	下石	下石町	林森之助	ヤマ森製陶所	香油2種 八角花瓶（柳印 呉須印） 善立	
49	岐 763	燗徳利	下石	下石町	土本正二	ヤマリ	水筒（金属代用品） 瓶（「滋養飲料フェルボア」 文字浮出 青磁風） 瓶香立て	⑪国64.173
50	岐 814	飲料瓶	下石	下石町	加藤島平	山志製陶所	仏化瓶（クロム釉）	
51	岐 834	ローション瓶	下石	下石町	加藤周一	ヤマ平製陶所	容器（薬品瓶 蓋付容器瓶形） 燗徳利（クロム印 およろたん紋）	⑫国取239.15
52	岐 1021	碗	駄知	駄知町	加藤啓蔵 加藤源治	昭和製陶所	茶碗（呉須印） 蓋付湯呑（鉄印・2種） 小鉢（鉄印） 輪花小鉢（鉄印） カップ・ソーサー 湯呑 燗香立て	

第2表 確認された生産者表示記号一覧（道合第Ⅱ～Ⅵ次、赤羽上ノ台第Ⅱ～Ⅵ次）(4)

No	生産者 表示記号	器種	陶磁器 工業組合	工場所在地	生産者 氏名	会社・工場名 屋号	生産品	備考
53	岐 1065	丼	瑞浪	瑞浪町	太田武一	美濃窯業(株)	スープ皿(工場食器見込に新マーク風のマークなど) 湯呑(国民食器 工場食器「大門口」) 六寸角深皿(ゴム版 松岡家 裏に松尾屋マーク) 蓋付丼(国民食器) 三寸皿(国民食器) 茶碗 三寸皿(クロム印 裏付) 茶碗 香器(化粧品版)	
54	岐 1103	化粧瓶	恵那	岡町	西尾剛治	山加(ヤマカ)	カップ・ソーサー(吹付緑富土山) 皿(昌清樹目ソーサーに除付)	至徳 56-63
55	岐 1163	翻瓶	恵那	岡町	曾根啓三	曾根製陶製陶 所	洋皿(ピンク緑線「松岡陶器会社」銘) 鉢(赤絵印) ティーセット(「SHOFU CHI-NAI」銘) 香器(化粧品瓶 平楕器)	

* ① 道合道跡第Ⅱ次調査 2010 「道合道跡」東京都陶磁文化財センター調査報告 第247集

② 道合道跡第Ⅲ次調査 2013 「道合道跡」東京都陶磁文化財センター調査報告 第280集

③ 道合道跡第Ⅳ次・赤羽上ノ台道跡第Ⅱ次調査 2015 「道合道跡 赤羽上ノ台道跡」東京都陶磁文化財センター調査報告 第303集

④ 道合道跡第Ⅴ次調査 2016 「道合道跡」東京都陶磁文化財センター調査報告 第307集

⑤ 道合道跡第Ⅵ次調査 2017 「道合道跡」東京都陶磁文化財センター調査報告 第317集

⑥ 道合道跡第Ⅶ次・赤羽上ノ台道跡第Ⅲ次調査 2017 「道合道跡 赤羽上ノ台道跡」東京都陶磁文化財センター調査報告 第318集

⑦ 道合道跡第Ⅷ次調査 2019 「道合道跡」東京都陶磁文化財センター調査報告 第339集

⑧ 赤羽上ノ台道跡第Ⅲ次調査 2016 「赤羽上ノ台道跡」武蔵文化財研究所

⑨ 赤羽上ノ台道跡第Ⅴ次調査 2021 「赤羽上ノ台道跡」武蔵文化財研究所

⑩ 道合道跡第Ⅵ次・赤羽上ノ台道跡第Ⅴ次調査 今回報告分 道合道跡第Ⅵ次・赤羽上ノ台道跡第Ⅴ次調査 今回報告分

となった。このリストの年号から、生産者別標示記号が付された陶磁器の製造年代が絞り込まれる(昭和16年～)。現在までのところ、岐阜県以外(瀬戸や有田など)のリストは不明であり、裏印記号から産地は特定できるが生産者などの情報は不詳と言わざるを得ない。また、上記リストが、制定された最初のものかどうかも明確ではない。生産者別標示記号の付与を正式に布告した資料が明らかでない現状で、何時からこの付与が開始されたのかは未だ詳らかではない。大まかに昭和16年3月にはこの制度が履行されていた事が判明している状況ではある。少なくとも生産者別標示記号が付与された陶磁器類(金属・ガラス製品などの代用陶磁器を含む)の製造時期が昭和16年以降となる事は判明した。その終焉に関しては、終戦時の昭和20年かどうかも不詳ではあるが、概ねその後程なくして終了したものとは考えられる。

今回出土した陶磁器類の中で、この生産者別標示記号が付された資料は計38点である(第1表)。内訳は「岐」が26点、「瀬」「セ」(愛知県瀬戸陶磁器工業組合)が5点、「万」(三重県萬古陶磁器工業組合)が3点、「有」(佐賀県有田陶磁器工業組合)、「波」(長崎県佐佐見陶磁器工業組合)、「品」(愛知県品野陶磁器工業組合)が各1点、不明1点である。最も多い「岐」は生産者別標示記号により生産場所・生産者などが判明しており、陶磁器工業組合別では、西南部陶磁器工業組合が11点、土岐津陶磁器工業組合が10点、西南部ないしは土岐津陶磁器工業組合が1点、下石陶磁器工業組合が2点、瑞浪陶磁器工業組合、恵那陶磁器工業組合が各1点となる。「岐」の中では、西南部・土岐津の量が抜きでいる。さらに西南部の中でも「岐260」が8点、「岐49」が2点みられた。

前者は笠原町の山五製陶所で、軍用食器の丼・湯呑・皿を生産しているとされる。今回の資料では「鳥マーク」(「TOKI KOSHITU」)が付いたものが3点出土している。「岐49」は同じく笠原の共重製陶で、軍用食器の飯碗の生産をしているとされる。今回の資料は丼で○に六芒星がスタンプされた特殊な製品である。岐49には前述したように鳥マークに「KIYOA SEETO」の文字が入った資料も散見されている。両者とも鳥マークがあり、関連性が窺われる。岐以外では「品」はうどん丼にのみ確認された。従前までの調査においても同様である。「万」は灰皿に付与されている。「瀬」は軍用食器の皿・丼・碗である。これらを見ると、生産者別標示記号と器種には関連性があり、器の種類によって発注先がある程度限定されている事がわかる。生産者側で、ある程度作る器の種類を限定していたかとも考えられ、例えば、軍用食器の丼ならばこの製陶所・窯に発注する、などである。

・ガラス製品(第44～60図、325～492)

陶磁器類同様、防空避難壕、土坑(ゴミ穴)を中心に出土している。以下、種別ごとに概観する。

飲料瓶(325～364)

ビール・ワイン・洋酒・清酒・焼酎・清涼飲料・ジュース・シロップ・牛乳・乳酸菌飲料その他などがある。

ビール瓶(325～331) メーカーの種類としては、大日本麦酒(325～327)、麒麟麦酒(328)、日本麦酒鉱泉(329・330)、日英醸造(331)が確認された。

大日本麦酒では325・326が大瓶、327が小瓶で、326・327は透明瓶である。陽刻をみると、底部は326が「13」、325・327が☆が入る。また、胴部のローマ字社名の「Co」部分において、325はC₀、326はC₀の違いがある。同社瓶で底部に☆が付くものは「C₀」と点が付かないものが多く、「J」、「L」のものは、底部はカタカナ・アルファベット・数字のものが多く。今回の資料では

326 が底部：数字－「」、325 が底部☆－「,」となる。底部☆印の有無は、無→有と時期差であるとの指摘（櫻井 2006）があるが、それによれば 326 は古く、325 は☆と「,」の組み合わせで中間に当たるのであろうか。327 は小瓶である。

麒麟麦酒は 1 点のみで、透明でなで肩の小瓶である。日本麦酒鉱泉は大瓶（329）と小瓶（330）とがある。

日英醸造は欠損品で、胴下部～底部の資料であるが、陽刻が遺存しており、同社製造と判明した。同種瓶は道合遺跡第 IV 次調査でも出土している。詳細は譲るが（東京都埋蔵文化財センター調査報告第 303 集 第 2 分冊 75 頁・99 頁註 14）、大正 8 年に輸出用を主眼において設立された会社で、国内向けには、同 9 年に「カスケードビール」を発売している。本資料は陽刻からみて輸出用と思われる。なお、昭和 3 年に同社は壽屋（現：サントリー）に買収されている。すなわち、1919（大正 8）～1928（昭和 3）年のわずか 10 年弱の期間の所産である。

ビール大瓶の内容量は現在では 633ml であるが、これは昭和 15 年の酒税法改正により、種々雑多であった内容量の統一を図るため、当時の大日本麦酒・麒麟麦酒の工場での計測結果を受けて、最小値の 633ml にすることとし、この容量より大きいサイズは注水量を調節して販売されたが、同 19 年からはこの内容量に即した瓶に統一された。今回の大瓶資料 3 点の内容量は、注水計量による推定で、325 が 625ml、326 が 710ml、327 が 580ml であった。いずれも統一容量とは差があり、少なくとも昭和 19 年の統一前の製造瓶であろうと考えられる。

ワイン・洋酒瓶（332～335） 332 は蜂印香露葡萄酒の容器である。初代神谷傳兵衛が 1881（明治 14）年に開発・発売した香露葡萄酒は輸入ワインに蜂蜜や各種香辛料・漢方薬を配合した甘味葡萄酒で、明治末年には全国的に人気を博した。なお、初代神谷傳兵衛は、電気ブランの開発・販売者としても著名である。赤羽上ノ台遺跡第 III 次調査（武蔵文化財研究所 2016）でも出土している。333 は東洋製菓の「赤旗ポートワイン」である。同社が大正 7・10 年に商標登録をしていることから、大正年間を中心とした時期に販売されていた製品と思われる。大正 9 年の大阪毎日新聞の広告には「天空に翻る赤旗 それは絶大なる威力を標榜する 改造の叫びである……」などとある。334 はウイスキー瓶で、ニッカウキスキーのオールドパーである。丸正マークがあることから、1956（昭和 31）年以降の生産であろう。335 はニッカウキスキーのポケット瓶である。同様に丸正マークを持つ。

清酒・焼酎瓶（336・337） 336 は清酒の 4 合瓶である。機械栓は欠失している。337 は焼酎瓶である。ラベルの一部が遺存しており、「万上 特急焼酎」の文字が判別できる。野田醤油株式会社の製品で、丸正マークがあることから、1956（昭和 31）年以降の製造となろう。

清涼飲料水瓶（338～347） 338 は断面六角形で肩部に四ヶ所の窪みを有するラムネ瓶形を呈す。ニッキ水の瓶と思われる。

339～341 はサイダー瓶である。339 は日本麦酒鉱泉銘で三ツ矢マークを付す。340 は肩部に三ツ矢マーク、胴下端部に朝日麦酒のローマ字銘が入る。341 は肩部に三ツ矢サイダーの陽刻が入り、丸正マークもあることから 1956（昭和 31）年以降の製造である。

342 はアメリカ製のミネラルウォーターないしはジンジャーエールの瓶である。1871 年設立のホワイトロック社の製品で、1920 年代にはアメリカ最大のミネラルウォーターメーカーの一つであっ

た。本資料は胴部に細かいエンボスが入るもので、同社製品のミネラルウォーターかジンジャーエールかと思われる。肩部に「White Rock」、胴下端部に「AUTHORIZED BOTTLER E.J. GRIFFITH & COMPANY INC.」底部に White Rock の銘と 1957、「石」に相似した陽刻が入る。胴下端のエンボスは製瓶会社で、グリフィス社の製造であろう。底部の「石」は日本の製瓶会社である石塚硝子が用いていたロゴに酷似しているが、同社のものではない事が確認されている（註8）。

343～346 はコカ・コーラ瓶である。343 はいわゆる第一世代と呼ばれる輸入品時代の所産で、ロゴは陽刻で表す。「Coca-Cola」の下に配された「TRADE - MARK」は 35mm 幅で、ハイフンが入る。同世代にはハイフン無しのもはや幅 52mm のものもある。1946～1956 年の所産といわれる。344 はロゴが白文字・ACL 印刷で、カタカナ表記である。その下の「登録商標」などは陽刻となる。第四世代と呼ばれるもので 1960 年代前半の所産である。345 は 500ml のファミリーサイズである。肩の 500ml の表記が小文字であり、2 代目と呼ばれる段階の中頃であり 1960 年代末葉期とされる。346 はスーパー 300 である。寸胴で背の低い 300ml 入りでスクリュウ蓋である。1980 年代前半の所産といわれる。

347 は大塚製菓のオロナミン C である。王冠タイプで、1965（昭和 40）年の発売当初からスクリュウ蓋になる 1971（昭和 46）年までの期間の製造である。

ジュース・シロップ瓶（348・349）

348 はリボンジュースである。日本麦酒の製品で、1952（昭和 27）年の発売開始から、1964（昭和 39）年のサッポロビールへの社名変更までの期間の製品である。

349 は明治製菓会社（現：明治製菓株式会社）のフルーツシロップの容器である。フルーツシロップは元々缶詰だったが、1938（昭和 13）年、金属の統制によってガラス瓶を用いるようになったという。金属製品の代用品である。1924（大正 13）年の会社名変更（明治製菓会社）から 1951（昭和 26）年の製造終了までの期間の製品である。

牛乳（350～359）

351～354 は首が長く、なで肩の瓶である。350・351 は「永勝軒」の銘が入る。牧場名であろう。350 は機械栓で「全乳 5 勺」、351 は口縁部が欠損のため栓の形状は不明である。「葉清全乳 1 合」とある。352 は口縁部欠損で形状は不明である。「武蔵野ミルクプラント」「高温滅菌 全乳 5 勺入」とある。殺菌プラント名であろう。353 は王冠で、「均質牛乳」とある。354 も王冠で首下部に六芒星の陽刻が入る。

355～359 は紙栓・広口瓶で大手メーカーの牛乳瓶である。いずれもロゴはプリントで、356 以外は胴下端に丸正マークが陽刻で入る。355・356 は明治乳業で、355 は胴部中央に入るロゴの帯のみで、下部にプリントはみられない事から昭和 30 年代後期の製造と思われる。石塚硝子の商標がみられる。356 は角瓶で、ビタ牛乳である。昭和 29 年販売開始の製品である。丸正マークが入っておらず、昭和 31 年以前、29～31 年の期間の製造であろうか。357 は森永乳業で、エンゼルマーク・ホモちゃんマークが入る。エンゼルマークの下に英字が入るタイプで、昭和 30 年代初頭～中期とされるものである。東洋硝子の商標が付される。358 は雪印乳業で、肩に印刷されるロゴなどで昭和 30 年代のものと思われる。日本硝子の商標が入る。359 は江崎グリコで、同じく昭和 30 年代の所産と思われる。山村硝子の商標が入る。

乳酸菌飲料瓶 (360～364) 360・361はヤクルト瓶である。1968(昭和43)年のプラスチック容器誕生前のガラス瓶である。2種類あり、1950年代後半のものは細身で、1960年代前半のものは太めで、プラスチック登場まで使用された。360が前者で、底面に「38.4」の陽刻があり、昭和38年4月の製造(瓶)、361は後者で、「43. || ||」が陽刻されており、昭和43年11月製造の瓶とわかる。プラスチック容器のようにワンウェイではなく、回収してリユースするシステム(牛乳瓶と同様)であったため、瓶の製造年月日と最終廃棄時期にはズレが生じるが、361の年月日はプラスチックの登場年であり、飲用後程なくしての廃棄と考えられる。360にはプリントの痕跡は残っていないが、瓶の形状などからヤクルト瓶(前期細長タイプ)と判断した。361にはプリントの痕跡が確認された。ヤクルトのロゴ・社章などとともに、「特殊栄養食品」マークが付いている。これは1952(昭和27)年に成立した栄養改善法に基づき、「特に栄養的に優秀な食品について、それが表示事項と間違いないことを保証し、消費者が安心して入手できるように考慮したものである。『単なる客観的な栄養成分を含有する事実の表示ではなく、特定の栄養成分の補強を行い、その栄養成分が積極的に補給され得る旨の表示をしたもの』とある。当時の厚生省大臣許可によるものである。本資料には「100g中VC65mg強化」とあり、ビタミンC成分の補強を行った事が分かる。ヤクルトがこの申請→認可を受けた時期は不明であるが、本資料の後期型ガラス瓶はもとより、細長の前期型ガラス瓶にもこのマークがプリントされているものもある。前期型へのプリントは、リユース品である事から、認可後に新たに付加したものとも考えられる。いずれ昭和30年代末～40年代初期の事象であろうと思われる。

362はヨーグルトの瓶である。フルーツヨーグルトの「ピルマン」である。同製品は、1956(昭和31)年、明治乳業・カルピス・三島海雲(カルピス創業者)らの共同出資により設立された「ピルマン製造」の商品である。同社は1960(昭和35)年に乳酸菌飲料「バンビー」を発売、1968年に「バンビー飲料製造」に社名変更している。ピルマン製造の「ピルマン」は1956～1968年の期間に生産されたものである。底面の陽刻から、昭和59年7月の製造(瓶)である。

363は明治パイゲンCである。1967(昭和42)年販売開始とある。本資料には「0 ||:」の陽刻があり、下一桁0年6月となる。昭和50年製瓶であろうか。石塚硝子である。

364は「森永ミルク」と陽刻が入ったもので、森永乳業の前身である「日本練乳株式会社」の乳酸菌飲料かと思われるが、定かではない。

調味料・食品瓶 (365～386)

調味料 (365～376)、食品 (377～386) の瓶であるが、内容物が特定し得なかったものもあり、推定したものを含む。

醤油瓶 (365・366) 365は一升瓶で、キッコーマンマークが陽刻されている。野田醤油株式会社である。366はヒゲタ醤油の小瓶である。

ソース瓶 (367) 商標などの陽刻・ラベルは遺存していないが、瓶の形状などからソース瓶と判断した。本遺跡第VI次調査出土の「チキンソース」と同様のフォルムである。

ケチャップ瓶 (368～370) 368は愛知トマトソース製造株式会社のトマトソースである。底面にカゴメマーク(○に六芒星:籠目文)が陽刻されている。金属蓋が残存する。369は胴下半部が扁平八角形となる。商標などはないが、瓶の形状などからケチャップ瓶とした。370は胴下半部が

八角形を呈す。コルク栓である。商標などはないが、「カゴメケチャップ」の商標入りの瓶に同様のフォルムの瓶が知られており、ケチャップ瓶と判断した。しかしながら、道合遺跡第IV次調査では同様のフォルムの瓶で「島田屋 おいしい」銘の汁瓶が出土しており判断に迷うところではある。

マヨネーズ瓶 (371) 下膨れて扁平である。胴下部にナーリング加工を施す。底面に◇+Q・◇+Pの陽刻が入る。瓶の形状、陽刻から、キューピーマヨネーズの瓶と判断した。同社マヨネーズは1925(大正14)年に発売された。1958(昭和33)年にはポリボトルが登場するが、本資料はその形状が酷似する。この容器登場の前段階の製品であろうか。因みに現在の社名に変更されたのは1957(昭和32)年の事である。本資料は丸正マークが付されておらず、1956(昭和31)年以前の製造と考えれば、キューピー以前の社名「食品工業株式会社」時代のものかと思われる。なお、同社英文商号は2010(平成22)年までは、「Q.P. Corporation」で、同年以降「Kewpie Corporation」となった。底面のロゴはこのQ.P.であろうと考えられる。

化学調味料瓶 (373・374) 2点とも胴部は10角形を呈す。373はいわゆる大瓶、374は小瓶である。味の素の瓶かと思われるが、底面に陽刻が入っていない。1929(昭和4)年に「味の素」の特許が切れ、類似品が多く登場した経緯があり、本資料もそれらの一つである可能性も考えられる。コルク栓で同様製品の中では古い様相を呈す。

調味料瓶 (372・375・376) 372は底面八角形で、首は細い。ごく浅い注ぎ口を有す。青海苔の容器と思われるが、メーカーは不明である。

375は胴部に「かねにんべん」、底面に「かねにんべん」マークが入る。「にんべん」の製品であろうが、内容物の特定には至らない。底面のロゴは、曲尺と○にイである。通常、「にんべん」のロゴは曲尺とイで、○は用いない。

376は「西洋御料理」の陽刻が入る角瓶である。同種瓶の中では大形である。肉汁用とする指摘もあるが、定かではない。「西洋御料理」=肉汁である根拠が不明である。戦前、栄養補助食品として肉汁飲用の習慣があるとされ、旧陸軍での食事レシピを取めた「軍隊調理法」にも特別食-流動食の中にスープ類に混じり「肉汁」の作り方が掲載されている。なお、ほぼ同様のフォルムの瓶で、「出前ソース」と陽刻されたものが存在する。本資料もソース瓶の可能性が考えられるが、中身を特定していない「西洋御料理」という陽刻から判断すれば、ソース・醤油・デミグラスソースなど、西洋料理に使用する調味料を入れる容器とも考えられる。いわゆる汎用瓶とも言える。「出前ソース」とあるように、この資料も持ち帰り用に付くものであろうか。

食品瓶 (377～386)

377は葛餅の蜜入れである。胴部に「く寿餅」と陽刻が入る。

378～380は桃屋の「江戸むらさき」(海苔佃煮)の瓶である。桃屋マークが底面に入る。特徴的な瓶のフォルムである。江戸むらさきは1950(昭和25)年発売で、本資料は蓋がスクリューになっており二代目の瓶である。

381は磯じまん株式会社の「磯じまん」(海苔佃煮)である。

382は雲丹瓶である。中蓋が遺存する。底面の山笠に小のロゴから山口県下関市の「小川うに」の製品であろう。

383～385は海苔佃煮瓶かと思われる。

386はアンカーコップである。アンカーコップは缶詰の代用品で、本来はアルミ製のかぶせ蓋で上面を閉じてある。中身は缶詰同様、煮物、果物のシロップ煮などで、食べ終わった後でコップとして再利用することも多かったという。最後はコップという事でアンカーコップの名称なのであろうか。底部外面の山羊のマークはガラスメーカー石塚硝子の商標で、この商標を用いていたのは昭和10年代から20年代ごろと言われている。

薬瓶 (387～435)

投薬瓶、薬品瓶、市販薬瓶、目薬瓶、栓などが出土している。

387～394は投薬瓶で、病院などで処方された薬の容器である。胴部横断面が楕円形のもの(387～390)、円形のもの(391～394)がある。いずれもコルク栓で、胴部脇に内容量・服用量の目安となるメモリが陽刻される。387は「陸軍被服本廠」、388・389・391は「陸軍被服本廠診療所」の陽刻が入る。それ以外にも病院・醫院名などのラベルを貼付する枠が作られている(394は無し)。楕円形・円形タイプとも大中小の容量の異なるサイズがみられる。

395～412は薬品瓶である。形態的には細口(395～410)、広口(411・412)があり、前者はコルク栓、後者はガラス栓である。又、無色透明ないしは薄青透明瓶(395～405・411)と褐色を呈した遮光瓶(406～410)、濃青色の遮光瓶(412)などがある。色の付いた遮光瓶は紫外線による劣化・変質の恐れのある薬品類に使用したのであろう。底面に製薬会社の陽刻が入るものもある。396は○+▲で武田製薬、397・407は○+Sで帝国製薬、406は◇+Sで三共製薬の商標と思われる。395は屋号と思われる曲尺に0が入るが、詳細は不明である。また、401には「六號」の陽刻があり、瓶のサイズかと思われる。404には白色の粉末が残留していた。

413～421は一般の市販薬およびそれに類するものである。413は消化・整腸・栄養剤わかもとの容器である。コルク栓で首に「わかもと」の陽刻が入る。1955(昭和30)年から販売された三代目の瓶と思われる。414・415は底面に「T.M.」の陽刻が入る。商品名は不明である。416は八角形の小瓶で、底面に三宝製薬のマークが入る。417は陸軍衛生材料本廠で製造されたクレオソート丸(註9)である。陸軍内において配給されたものであろう。各種「正露丸」の基本となったものである。418は神戸衛生実験所の整腸剤ジオフェルミンの容器である。419・420は東京市電氣局共済組合の組合員頒布品である一粒丸(註10)である。421は扁平瓶で「ライフ」の陽刻が入る。コルク栓で、仁丹類似の丸薬容器であろう。422・423は薬瓶と思われるが、詳細は不明である。

424～428は目薬の容器である。424は現在も長野県長野市善光寺門前に店舗を構える笠原十兵衛薬局の雲切目薬の容器である。雲切目薬は、1543(天文12)年の創製と伝えられ、効能は疲れ目・充血・目のかすみなどとされる。角のへこんだ部分に点眼用のスポイトが装着される。425は会社名不詳である。426は田口參天堂(現:參天製薬株式会社)の大学目薬である。427・428はセットと思われ、容器本体とスポイト兼用の蓋である。底面に会社商標と思われる陽刻が入るが、摩耗のため不詳である。

429は木村製薬所(現:白元アース株式会社)の家庭用殺虫剤アースの容器である。1929(昭和4)年発売である。

430～434は薬瓶の栓である。430～432は広口瓶の栓、433・434は細口瓶の栓である。430～433は中空、434は中実の摘まみが付く。

435 はデミジョンボトルで、濃緑の遮光瓶である。医療用アルコールなどの容器に使用されたとされるが、詳細は不明である。被服本廠診療所ないしは理化学試験室で使用されたものであろう。

化粧品瓶 (436 ~ 450)

化粧クリーム瓶、椿油瓶、化粧水瓶などが出土している。

436 ~ 444 は化粧クリーム瓶である。444 以外は乳白色を呈す。436 ~ 438 はウテナクリームである。底面に花弁にウテナの文字を入れた商標が陽刻されている。439 は高橋東洋堂のアイデアルクリームである。底面に「AIDEAL」の文字が入る。440 はジュジュ化粧品のクリームである。底面に「JUJU」の文字がみえる。441・442 は胸部の装飾などからレートクリームの瓶と思われる。441 が大瓶、442 が中瓶である。443 は小瓶で商品名は不明である。444 は褐色を呈す。商品名は不明である。ジュジュ化粧品は戦後の 1950 年創業であり、ウテナ・アイデアル・レートは昭和以前の創業である。

445 ~ 447 は椿油瓶である。445 には二連山笠に椿花のモチーフが陽刻されている。他の 2 点に陽刻はみられないが、瓶のフォルムなどから椿油瓶とした。

448 ~ 450 は化粧液の容器と思われる。いずれも会社・商品名は不明であるが、瓶のフォルムなどから化粧液と判断した。

文具瓶 (451 ~ 481)

インク瓶、マジック瓶、絵具瓶、インク壺、画材オイル瓶、ライターオイル瓶、糊瓶、海綿容器、ガラスペンなどが出土している。

451 ~ 458 はインク瓶である。451・452 は大形のボトルで、陽刻は無く、メーカーは不明である。453 ~ 455 は丸善のインク瓶である。底面に○+M の丸善マークが付く。453 はアテナインクである。456 は篠崎ライトインクである。底面に「RIGHT INK」が陽刻されている。457 はダイヤモンドインクで、十角形の胴部と高台が特徴的である。458 はパイロットインクで角型である。1950 年代のものであろう。

459 はマジックインク瓶で、フェルトが付くスクリュウ栓は欠失している。内部に濃紺の残留物がみられる。

460 ~ 464 は絵具瓶である。460・461 は三星絵具製造所で★3 個がトレードマークである。461 にはオレンジの絵具が残る。462 ~ 464 は桜木絵具の手工用絵具である。それぞれ絵具が残留する。

465 ~ 473 はインク壺およびその蓋である。いずれも 2 穴式である。465・466 は長方形で中央部に分銅形の穴を設ける。467 ~ 469 は長方形でインク用の 2 穴のみ、前面にペン置き溝が付く。473 の蓋は 467 に対応するものと思われる。470 は半円形で 2 穴はそれぞれ花びらのデザインが付く。471 は扇形である。472 は円形小形でインク溜めは円形の中央部を仕切って 2 穴としている。

474 は老舗画材メーカーであるホルペインのワニス（透明度の高い有機塗料で、絵具の希釈や画面の保護剤、光沢剤として油彩に用いる）容器である（註 11）。

475・476 はライターオイル瓶である。文房具類ではないが、ここに記載する。475 の内部にはストロー状のパイプが残存していた。オイル注入時にライターのオイルタンクに差し込み、瓶から伝って流れるようにするためのものである（第 59 図模式図）。蓋も遺存していた。476 には商標登

録番号が陽刻されている。オイルライターは1907(明治40)年創業のオーストリアの「IMCO」が嚆矢とされ、第一次世界大戦(1914～1918、大正3～7年)では同社の「イーフア」が流行した。1920(大正9)年にはドイツで片手で着火するタイプが発売され、1932(昭和7)年に「ジッポ」、1941(昭和16)年には「デュボン」から発売されている。日本では1920(大正9)年以降に普及したとされる。瓶の種類は種々あるようである。

477はヤマト糊の容器である。底面に「ヤマト」と入る。478は象印のアラビヤ糊と思われる。断片的に残るラベルから、中央の象の右下後ろ足、その下に入る「MUCILAGE」のGEの一部、さらにその下の「EVER READY」のADYが読み取れる。

479・480は海綿容器である。事務仕事での指先を濡らすためのものである。

481はカーボン紙を用いて複数枚の書類などを作成するのに使う筆記用具である。中空の軸の中に「バイオニヤ印硝子複寫筆」とある。大正年間にはこの方法で複写すなわちコピーを取っていたとされる。インクも複写専用インクで、同時代のインク壺にはこのインクを入れる穴があり、3穴構造となっていた。

靴墨瓶(482～484)

482・483の底面には「被服協会」の文字が入る。本廠において製造された靴墨に「被服協会」の名前を付けて販売し、協会の資金調達の一部にしていた(井内 2010)(註12)。484は「日靴塗聯」の陽刻がある。日東皮革塗料工業(現:コロンプス)ともいわれるが、明確ではない。この陽刻を持つ瓶には種々の会社のラベルが付いている資料があり、汎用瓶の可能性はある。

理化学用品(485～489)

理化学試験室で使用したと思われるものを一括した。管瓶(485)、試験管(486)、蒸留管(487)、メスシリンダー(488)、フラスコ(489)などである。被服本廠では各種の製造の他、研究・開発業務を行っており、これら資料はその証左となろう。

その他(490～492)

490は口縁部が一旦外方に広がった後、垂直に立ち上がる特殊な形状を呈す。日常容器とは考え難いものである。陽刻された「東京 東商会」は戦前に喘息など気管支系疾患用の吸入器(現在のネブライザー)である「昭和吸入器」を製造していた会社である。本資料はこの吸入器の上台に設置する液葉コップ(金属蓋が付く)かとも思われるが定かではない。吸入器は大正～昭和25年頃まで各種会社で製造・販売しており、液葉コップは緑色遮光瓶が多くみられる。また、胴部に陽刻された桜マーク(中にW)は、陸上自衛隊の官給品に付される意匠に酷似する。桜は自衛隊で用いられる意匠であるが、桜のみが陸上で、海上は礎、航空は左右に翼の意匠がそれぞれ付く。桜の中に描かれるアルファベットは種類があり、W(weapon:武器科物品)、Q(Quartermaster:需品)、S(通信)、E(施設)、M(衛生)などが知られる。Wは銃火器・車両などに付されるもので、本資料もマークからみれば武器科物品の中に含まれるものとなる。その形状など不明な点が多く、この桜マークが陸上自衛隊のものかも含め、今後の同様の資料の検出に期待したい。なお、自衛隊の発足は1954(昭和29)年で、本地区では進駐軍が戦車修理工場として使用していた期間である(昭和33年接収解除)。

491は首が細く、胴部は半球形を呈すものである。スクリュウ蓋である。香水(アトマイザー)、インクなどの可能性があるが、特定に至らなかった。

492 は小形の角瓶である。薬品の可能性もあるが、「N.T.K.」の陽刻とともに不明である。

化学製品 (493～506)

合成樹脂製の製品で、食券、歯刷子、櫛、鉛、仁丹ケース、マスクなどが出土している。

493～497 は食券である。被服本廠購買部食堂で使用されたものである。493 は「朝食」、447 は「夕並辨」、495～497 は「うどん・ウドン」である。493・494 は楕円形、495～497 は長方形を呈す。本遺跡でこれまで出土した食券は 13 種で、朝食・夜食・並辨・夕並辨・飯・菜・うどん（長方形）・ウドン・うどん（分銅形）・晝（亀戸作業所）・夕（亀戸作業所）・アイスクリームで、食券ではないが、顔刺券・米袋券なども確認された。今まで被服本廠名の「晝飯」が無く、今回の調査で期待していたが、確認されなかった。

498～500 は歯刷子である。498 は資生堂のシセイ歯刷子、499 は資生堂のパール歯刷子、500 は摩耗のため明確ではないが、ミスズ歯刷子かと思われる。シセイ歯刷子・ミスズ歯刷子は以前の調査で確認されているが、パール歯刷子は初出である。

501 は和櫛の解櫛で、歯はほとんど欠落している。

502 は釦で 4 穴である。軍装品と思われる。

503 は仁丹ケースである。胴部に「JINTAN」の印刻が入る。金銀砂模様をあしらった「モダン容器」である。

504・505 はマスクの部品かと思われる。軍装品であろうか。

506 は硬質で円形を呈す。軍装品と思われるが詳細は不明である。

皮革製品 (507～513)

507 は革見本帳である。「NIHON GIKAKU KAISHA」とあり、日本擬革株式会社（現：共和レザー株式会社）のことかと思われる。共和レザーは 1935（昭和 10）年に日本擬革を含む 4 社を合併して設立しており、それ以前のものであろう。

508 は防寒大手袋（九六式）である。第 64 図上は「陸軍被服品仕様集」を再トレースしたもので、親指・人差し・他 3 本に分かれて挿入する形態を採る。人差しが独立しているのは銃などの引き金を引くためのものである。皇紀 1596（昭和 11）年採用の製品である。

509 は編上げ靴で、海軍仕様のものである。第 64 図下のとおり、陸軍（陸軍被服品仕様）と海軍（海軍被服品規格）の編上げ靴には相違点があり、まず紐通しは、陸軍が 5 穴、海軍は 5 穴 + 4 フック（紐掛け）、トゥ（前）では陸軍はプレーン、海軍はストレートチップが入る。本資料は海軍仕様に相当する。陸軍の施設で海軍の靴がどのような経緯で廃されたかは不明である。

510 は雪駄である。サイズは 24.0cm 前後である。

511・512 は端切れ、513 は一枚革で、四つ折りに畳んである。

繊維製品 (514～518)

514～516 は繊維製品で、514・515 はほとんど炭化しており、織目が部分的に確認できるのみである。516 は綾織の織目がみられ、端縫いされているが、全体の形状は不明である。

517・518 はブラシで、518 は靴磨き用のブラシである。「陸軍被服品仕様集」によれば「靴刷」と呼称されている。ほぼ同様の形状で「洗濯刷」があるが、毛を埋め込む穴の配列で、靴が左右弧状 3 列、洗濯は左右 3 列で中央に直列が入っている。本資料は前者の配列であり、靴刷とした。

ゴム製品 (519・520)

519 はベルトで、軍装品であろう。520 は地下足袋の底である。サイズは 23cm 前後である。

金属製品 (521～744)

軍装品 (コハゼ・徽章・釦・尾錠・円匙・鉄帽・防毒マスク関連・弾薬・他)、建築材、扉、軌条、認識票などが出土した。

521～523 はコハゼである。地下足袋に付くものである。「陸軍被服品仕様聚」には地下足袋用として縫留穴 3 穴のものが掲載されている。長軸 22mm、単軸 21mm である。今回の資料は 523 が 3 穴、521・522 が 2 穴で、長軸 17～18mm と仕様比ベ一回り小さい。軍装品ではなく、職工などが使用していた市販品の可能性がある。

524～526 は徽章である。524 は帽子用の星章で脚が付く。525 はバッチで○に五芒星の意匠である。裏にピンが付く。526 はピンバッチで五芒星と稲穂の意匠である。

527～536 は釦 (ボタン) である。大きさに 3 種あり、大は径 24mm、中は 20mm、小は 15mm を測る。529・530・533 は上面が球形となる。その他は平坦である。529・530 は桜花の意匠がみられる。「陸軍被服品仕様聚」の「鉢銅釦」(銅と亜鉛の混合)の釦では、大が径 20mm、小が径 15mm となっており、出土資料の中・小に当たる。

537～542 は尾錠・コキの類である。537～539 が尾錠 (バックル)、540～542 が紐調節金具のコキである。537 は 50mm 前後のナカイチ尾錠で、ベルトに装着したものと思われる。538～542 は水筒紐の金具と思われる。538・539 は舟型ナカイチ尾錠 (複錠尾錠) である。同種で計 16 個が出土した。出土地点の差違で両者を掲載している。540 は二本コキで、先端部に接続用の爪が付く。541 は日コキ (複錠) で、同種で計 19 個が出土した。542 は角コキ (角錠) で、同種で 20 個が出土した。538・539・541・542 は「陸軍被服品仕様聚」掲載のコキ (錠) と同様のもので、538・539 は 27 × 25mm、541 は 32 × 23mm、542 は 32 × 12mm を測る。同書の「水筒用錠」は、複錠尾錠 (28 × 27mm)、複錠 (28 × 26mm)、角錠 (28 × 13mm) とある。出土資料との比較では、複錠尾錠が合致するが、複錠・角錠は出土資料の幅 (32mm) が大きい。この両者は紐幅が同一 (25mm) であり、同じ製品に使用されたと思われる。複錠尾錠は仕様掲載の水筒用であろう。

543 は弾頭で、30 口径弾である。旧日本陸軍の九一式小銃用かと思われる。544 は弾薬で、30 口径である。三八式歩兵銃用かと思われる。

545 は鉄帽である。形状から九〇式鉄帽と思われる。

546 は円匙で、旧日本陸軍のものと思われる。陸軍仕様には大・中・小があり、中・小は皿部と柄部を分離して携行するタイプで、皿の基部に一か所「いた穴」があり、装着の際にロープで緊縛する。また、中央部に二ヶ所小穴があり、防御用として顔を覆う際の視界用に用いた。大は柄部固定式で穴はない。本資料はこの大円匙と思われる、皿部のみである。

547～553 は旧日本陸軍の防毒マスク関連製品である。「九五式被甲」と思われる製品で、吸気缶をホースで接続するタイプである。547 が吸気缶で、「化工 昭和 7-10」が描かれており、昭和 7 年 10 月、昭和化学工業製と思われる。548 がゴーグルレンズ枠、549 がレンズ、550 はゴーグルレンズ曇止板、551 はそのケース、552 は装着用ベルトの調節金具で、ベルトの布が残存している。553 はホースカバーである。レンズ・曇止板などは多量に出土しており、纏めて処分したものと思

われる。

554も防毒マスクの部品であるが、日本陸軍製造のものではない。中国国民党軍仕様のもので「二七式防毒面」の呼称である。吸気缶を直接取り付けするタイプである。この防毒面の祖型はチェコスロバキアの「FM-3」で、第二次世界大戦中、ヨーロッパ・中国などに輸出され、さらには各国でライセンスを取得して現地で生産されていた。中国では、香港においては「二七式防毒面」として生産された（二七は中華民国年号で、1938年に当たる）。製造工場は四ヶ所といわれ、その中のJianmin Company（堅民公司）製造によるものが本資料である。呼気弁カバーの意匠（笛を吹く男と「堅民商標」の文字）は同会社のマークである。1941年、日本軍による香港占領に伴い、二七式の在庫は工場ごと接収され、日本に送られた。日本において「大東亜戦争戦利品防毒面」として民間に販売された。本資料はその中の一つと考えられ、被服本廠職工など非軍人の所有であったか、もしくは見本として被服本廠に保管していたものであろうか。

555～558は缶類である。555は大形で浅い缶である。556・557は小形で浅い缶である。556は蓋紙が遺存しており、「昭和拾四 ○にフ」の文字が書かれている。557は底紙に文字が書かれているが不明である。558は缶詰と思われる。紙ラベルの一部が残る。

559は薬缶の蓋である。560はかぶせ蓋で、サンスターの半練歯磨の容器である。561はボウルかと思われる。

562～567は建材・部品である。562・563はC字形金具で、563は6個が連結している。565・566は帯状の補強材である。567は半截の鉄管である。

568は鉄扉である。高さ180cm、幅55cmを測る。観音開きの片側で、上部はアーチ状になる。幅4cmの鉄板枠に鉄板が釘止めされる。上中下3か所に横向きに鉄板が止められ、開閉用の鉄棒を通す鎖が付けられる。3号倉庫扉測量図（第119図）①に相当するものであろう。ほとんどの窓（上げ下げ窓）の外側にはこの鉄製扉が付いている（第118図）。

569は軌条である。高さ60mm、底部幅55mm、頭部幅30mmを測る。白黒の塗装が施されている。今までに本遺跡から検出された軌条は、6kg（高50.8、底幅50.8、頭幅25.4mm）、10kg（高66.6、底幅66.6、頭幅34.1mm）の規格レールで、いわゆるトロッキ軌道用の軽レールと、規格外（高78、底幅68、頭幅33mm）のものがある。軽レールは6・9・10・12・15・22kgなどがあるが、いずれも高さで底部幅が同一の規模となっている。規格外のは、第Ⅱ次調査で検出されたが、天井懸架クレーンの走行用レールの可能性を考えた。本資料も軽レールの規格に該当せず、底部幅に比べ高さがある。これも同じくクレーンの走行用レールの可能性がある。第122図中の写真に懸架クレーンを用いた作業が写っており、このクレーンのレールかとも思われる。白黒の塗装は不明である。

570～743は日本陸軍の認識票である（第76～87図）。いずれも、縦45mm、横33mmの楕円形で、厚さ1mmを測る。装着用平紐を通すためのスリットが2か所ある。陸軍被服品仕様集掲載の仕様図（第74図下）どおりの形状を呈す。赤羽上ノ台遺跡1号防空壕から1点、2号ゴミ穴から338点が出土しており、打刻のないもの1点（570：1号防空壕出土）と何らかの打刻のあるもの（571～743：2号ゴミ穴出土）177点を報告した。2号ゴミ穴出土の338点は重なった状態で出土しており、紙や布片が付着したものも見られることから、まとめて梱包されて、廃棄された可能性が高い。打刻のある177点のうち、両面打刻は2点、片面打刻は171点、縦書きで文字方向が不揃いなものも多い

ことから、一文字一文字が個別の活字のようなもので打刻されたと推定できる。内容は、片面171件(1面×171枚)と両面4件(2面×2枚)の合計175件中、識別番号と考えられるものが16件、人名と考えられるものが138件、その他が21件である。識別番号は、所属部隊と個人番号の組み合わせで表現され、縦書き三行で打刻されている(第74図上)。例えば、「鉄一」は鉄道第一大隊、「臨鉄」は臨時鉄道大隊の略、「中一」は第一中隊を示すと考えられる。人名は中心に姓、左側に名がカタカナと漢数字を用いて記されており、打刻途中と思われる例が12例12件、同名と思われる打刻例が11例24件見られる。その他、739の「ヒフクシヨ」は「被服廠」、587の「イワフチ アカバネ」は「岩淵 赤羽」を示すと思われる、両面打刻の588の片面にある「ワタシガ シンダラ アレタノム」は「私が死んだら、あれ頼む」と読める。戦争の暗澹たる雰囲気を感じさせる資料である。

旧日本陸軍の認識票は、出征兵士1人に1枚が支給され、個人番号が刻印される(内地兵には支給されず)。基本的に認識票は被服本廠において製造・保管していたもの(註13)で、この時点では無地である。出征部隊が編制されると、「戦用諸品定数表」に基づき、兵員個人装備の人数分が被服本廠から部隊に交付される。編成地に動員された段階で各部隊人員の番号付与・認識票への刻印がなされる(註14)。同時に個人装備品も支給される。出征した部隊の帰還時には支給された装備品と認識票を返還するが、その段階で認識票が無い兵士は戦死もしくは行方不明として記録される。

この認識票運用の仕様から、保管場所である被服本廠には基本的に打刻の無い未使用品のみが存在し、正式に打刻されたものは各部隊で保管していた事になる。終戦段階で、本廠疎開先の埼玉県朝霞支廠には3万枚の認識票が保管されていた(註15)。今回の出土資料はa:未使用品 b:部隊名(片面打刻) c:氏名など(片面・両面打刻)の3種がある。aは保管品と考えられる。bは陸軍の仕様則った打刻(部隊名・番号が2行、個人番号が左1行 片面のみ)である。cは仕様のものではない。基本的に認識票は片面のみの打刻で、個人名は将校以上のみで、通常は番号である。これらの事から、本資料群は、打刻の試し打ちではないかと考えられる。bの仕様に沿った打刻も本来は被服本廠に有るものではない。cなどは打刻のテストの可能性もある。本来、認識票の打刻は被服本廠業務にはないが、認識票本体とともに「活字」を製造していた可能性もあり、その活字や本体の状態を検査する目的で試行していた事も考えられる。刻印された多くの氏名は職工違本人であろうか。数字などは部隊・兵員番号に用いるものであろう。

744は旧日本軍のものではない認識票である(第88図)。円形で、縁辺に3か所の孔、中央よりやや偏った位置に刻みを伴う小穴列(折り取り線か)があり、縁辺の孔にチェーンが通してある。本体、チェーンともに真鍮製ニッケルメッキ(註16)製で、打刻はなく未使用と考えられる。2枚がチェーンで巻かれた状態で癒着しており、分離困難であった。また、陸軍用箋らしき紙片に梱包されていたような痕跡が見られる。本資料の形状・素材などから推測するに、フランス軍の認識票の可能性もある。以下、フランスを含む第二次世界大戦前～中の各国の認識票について概観したい。

近代の認識票は、普仏戦争時の1870年にプロイセン軍が導入したのが嚆矢とされている。第二次世界大戦中の各国の認識票を比較すると(第75図)、使用方法としては分割式・2枚式・1枚式などがある。基本的には、兵士が個人識別用に身に着け、戦死などの場合に収容する方法である。分割式は折り取り用の小穴列があり、戦死時にこれを折り取って部隊に持ち帰る。2枚式は1枚を持ち帰るものである。因みに旧ソ連では2枚セットであるが、1枚は部隊本部に保管し、兵士は1枚を装着

していた。1枚式は日本であるが、戦死時も認識票はそのままで、部隊の帰還時に認識票を回収して出征時と照合し、認識票が無い兵士が戦死（ないしは行方不明）とした。形状としては、円形、楕円形、隅丸長方形、多角形などがある。ヨーロッパ各国は分割式が多く、2枚式はアメリカ・イギリスが採用していた（イギリスは円形と多角形がセットで円形が回収用）。

本資料は円形で小穴列を有す形状であり、フランス軍が採用していたものと相似する。折り取り用の円形小穴列を採用しているのはフランスのみで、他国は横長のスリットが多い、このフランス軍（陸軍）の認識票は、基本的には横長の不整楕円形で、チェーンを通す左右の穴がやや飛び出る形状になっている。小穴列はその下に配される。上下の円弧は個体差があり、上下・左右が不均等なものも多い。大きさも4.5×3.5cmを基本とするが、4.0×3.3cmなどばらつきがみられる。これは認識票板製造時にこの形状を造り出したものではなく、後に削り出して楕円状の円弧を造出している可能性も考えられる。フランス軍は1881年から認識票を制定したが、この時は2枚式で、3.5×2.5cmの横長楕円形であった。1918年に1枚式に変更し、折り取り式とした。第二次世界大戦中もこの形式で、戦後の1950年の改定まで使用していた。同国海軍も同様のプレートであるが、小穴列の数が陸軍は10個、海軍は11個といわれているが、例外もあったらしい。また、円形プレートも採用している。空軍（1934年創設）も陸軍プレートを使用していたが、1936年に円形プレートを採用している。飛行隊員が円形2枚式、地上隊員が陸軍プレート1枚式であったらしい。

本資料は円形で、折り取り用小穴列11個の特徴から、フランス軍の認識票の可能性が高いが、確証は得られていない。各国の認識票の比較においてフランス軍（3軍の何れかは不明）であろうと思われる。それでは何故フランス軍と思われる認識票が日本軍の認識票と一緒に廃棄されていたのか（被服本廠に保管されていたか）検討してみたい。

明治後期における日本は日英同盟（1902～1923：明治35～大正12年）から日露戦争（1904～1905：明治37～38年）、第一次世界大戦（1914～1918：大正3～7年）の参戦という歴史の流れにおいて、イギリス・フランスなどヨーロッパの主要国との交流を深めていた。特に軍部においては様々な情報・物資の交換・提供などが行われていた。イギリスとの交流では、1921（大正10）年に、同国陸軍省から被服装具一式を貰い受けて（註17）おり、その中に同国の認識票も含まれていた。1939（昭和14）年にも認識票の交換（日本側1・英国側2）を行っている（註17）。フランスについては、1910（明治43）年に日本から軍隊手帳・認識票・朝鮮半島の地図をフランスの要望により寄贈した（註18）。1917（大正6）年には同国陸軍から軍服類標本一式として軍装品の寄贈を受け、それらを被服本廠に交付するとの通牒がでている（註19）（その一覧には認識票は記載されてはなかった）。前述したように認識票は被服類の一つとして被服本廠で保管・管理し、各種部隊編成の際に他の被服類と一緒に部隊に交付されるものであった。これからみるに、他国の認識票も被服本廠において保管されていたと考えられる。フランス軍の認識票が廃されたとの記録は無いが、英国からの寄贈被服に認識票も含まれている事から、この1917年の一式ではなくとも、フランス軍からの交換・寄贈があった可能性は考えられる。英国からの認識票は2個と記録にあり（被服本廠で保管していたと思われるが今回までの調査では検出されていない）、本資料も未使用2点という事で、見本品として保管されていたもの（陸軍用箋らしき紙に梱包されていた痕跡がある）と考えたい。終戦を迎え、日本軍の認識票とともに（保管場所は同所であろう）廃棄されたものと判断する。

煉瓦 (745～879)

煉瓦は被服本廠建物の建築素材として使用されたものである。基礎・土台・壁などに用いられている。従前の調査と同様に、建物基礎が遺存するのみであったが、その量は膨大なものであり、その大半は処分となった。ここで報告するものは、主に道合遺跡に位置する9号倉庫、梱包場基礎、煉瓦柵より刻印を主眼に抽出・採取したものである。135点を掲載した。大きく普通煉瓦(赤煉瓦)・耐火煉瓦に種別される。

普通煉瓦 道合遺跡1A区に位置する煉瓦建物(9号倉庫、梱包場、煉瓦柵)を構成するものについては、刻印が視認できたものを中心に、一定数を点上げて取り上げた(第113図)。また、遺構外出土のものについては、変わった形状のもの、墨書や出土例の少ない刻印のものなどを中心に採取した。遺構のものは普通煉瓦のみで、平手に板目のあるものとチリメン状のチヂレ目のあるものが見られる。板目は板状工具によるナデ調整痕、チヂレ目はワイヤーカット成形で、前者はワイヤーカット式の機械成形機の導入以前(明治前半期から半ば頃まで)、後者は機械成形機導入後(明治半ばから後半以降)のものと考えられる。9号倉庫のものは44点中40点が板目で4点がチヂレ目、梱包場のもの38点、煉瓦柵のもの41点はすべてチヂレ目である。

煉瓦の刻印の内訳は以下のとおりである。

9号倉庫(44点 745～788)

小菅集治監(745～776・787)

「桜花マーク」単弁(一重) 花卉のみ:1点 花卉+一:3点

複弁(二重) 花卉のみ:2点 花卉+一:5点 花卉+二:3点

花卉+三:7点 花卉+×:2点

「蛇の目」10点

日本煉瓦製造(777・778・780～782)

「上敷免製」5点(横書き右→左4点・左→右1点、板目3点・チヂレ目2点)

金町煉瓦(779・783・784)

E(ヨの反転か?):2点 キ:1点

山本工場(785)

山笠+本:1点

製造所不明 3点(786～788)

梱包場(38点 789～826)

日本煉瓦製造所(789～817)

「上敷免製」29点(横書き右→左28点・左→右1点)

金町煉瓦(818～821)

E(ヨの反転か?):1点 U一:1点 イ・チ:1点 チ:1点

製造所不明 5点(822～826)

煉瓦柵(41点 827～867)

金町煉瓦(827～865)

輪違:7点 輪違+イ:7点 輪違+ハ:1点 輪違+ニ:1点 輪違+ホ:2点



1 軍用食器



2 軍用食器 湯呑 1



3 軍用食器 湯呑 2



5 軍用食器 飯碗 1



6 軍用食器 飯碗 2

第 16 図 陶磁器類 1



1 軍用食器 丼1



2 軍用食器 丼2



3 軍用食器 丼蓋1



4 軍用食器 丼蓋2



5 軍用食器 丼・蓋セット1



6 軍用食器 丼・蓋セット2



7 軍用食器 皿

第17図 陶磁器類2



1 筒形湯呑



2 湯呑



3 飯碗

第 18 図 陶磁器類 3



1 井・蓋



2 土瓶・急須



3 インクボトル



4 灰皿



5 德利・猪口

第19図 陶磁器類4



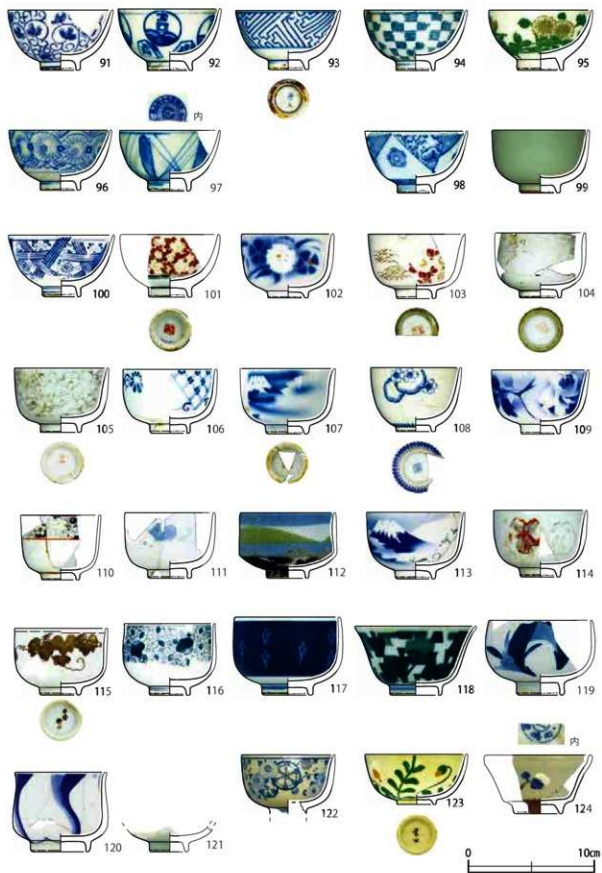
第20図 陶磁器類5 (湯呑1)



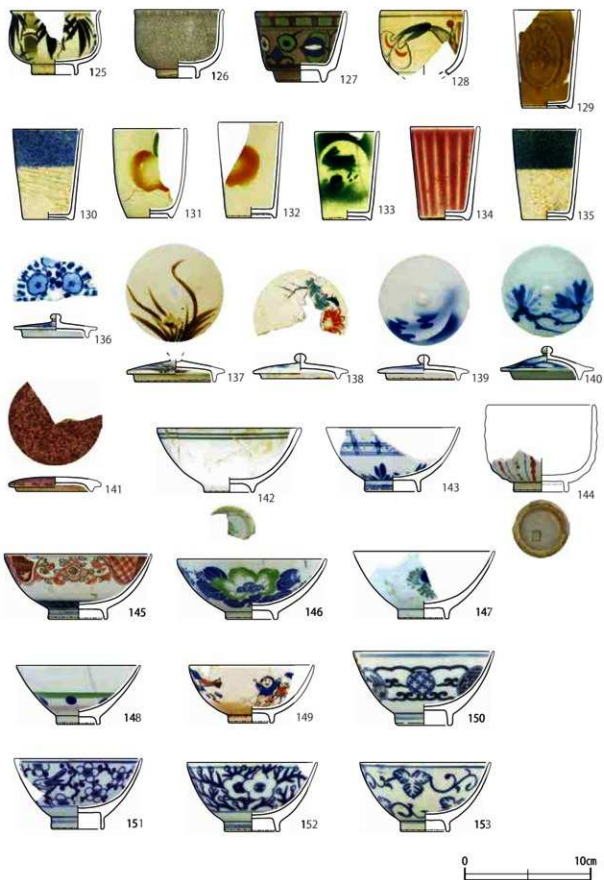
第21図 陶磁器類6 (湯呑2)



第22図 陶磁器類7 (湯呑3)



第23図 陶磁器類8 (湯呑4)



第 24 图 陶磁器類 9 (湯呑 5・湯呑蓋・飯碗 1)



第25図 陶磁器類10 (飯碗2・并1)



第 26 図 陶磁器類 11 (并 2)



第27図 陶磁器類 12 (并3)



第 28 图 陶磁器類 13 (井蓋 1)



第29図 陶磁器類 14 (井蓋 2)



第30图 陶磁器類 15 (碗・皿1)



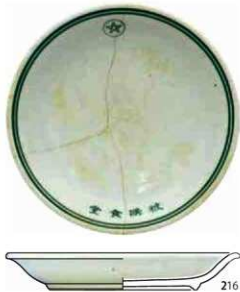
213



214



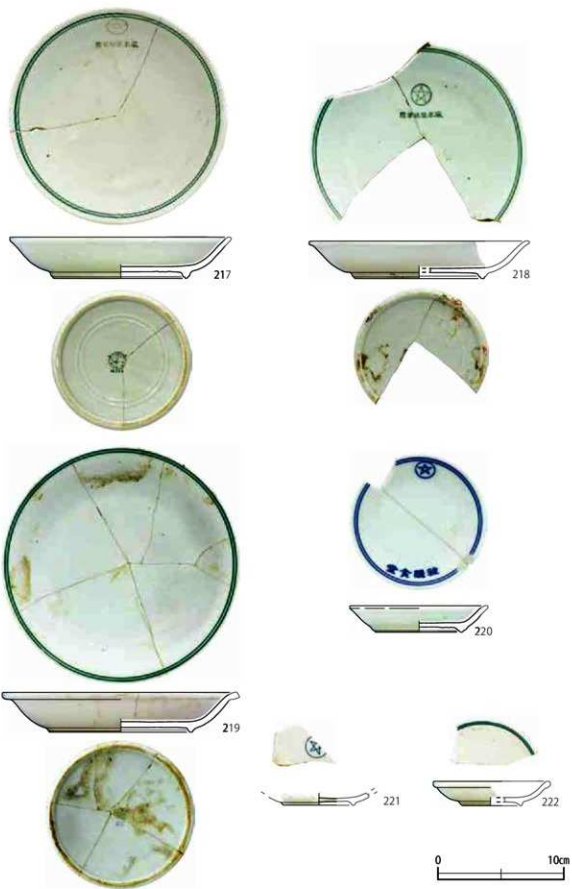
215



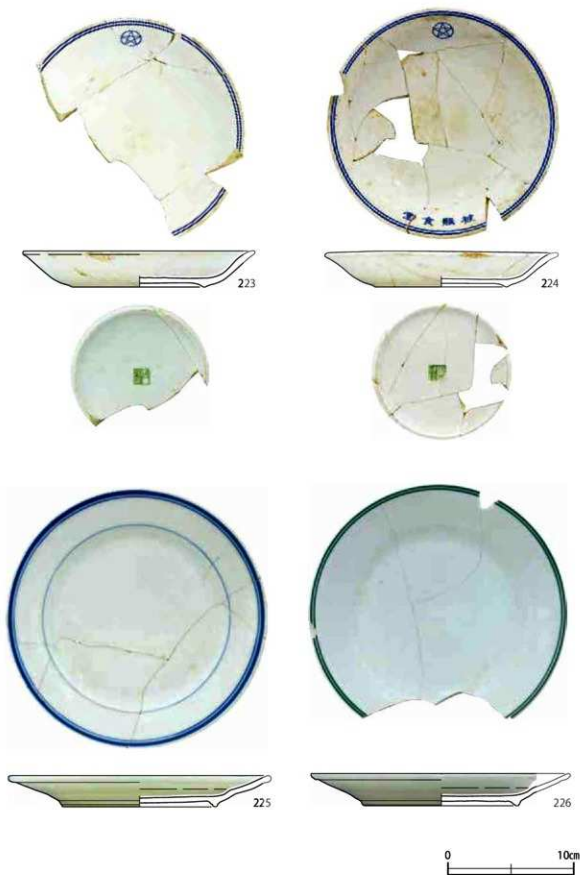
216



第31図 陶磁器類 16 (皿2)



第32図 陶磁器類 17 (皿3)



第33圖 陶磁器類 18 (皿4)



227



229



230



233



234



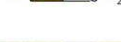
228



231



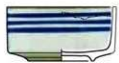
232



235



236



237



第 34 图 陶磁器類 19 (皿 5 · 鉢 · 蓋物)



第 35 图 陶磁器類 20 (蓋物蓋・小杯・土瓶)



第 36 图 陶磁器類 21 (急須・土瓶蓋)



第37図 陶磁器類22 (急須蓋・カップ・ソーサー・燗徳利)



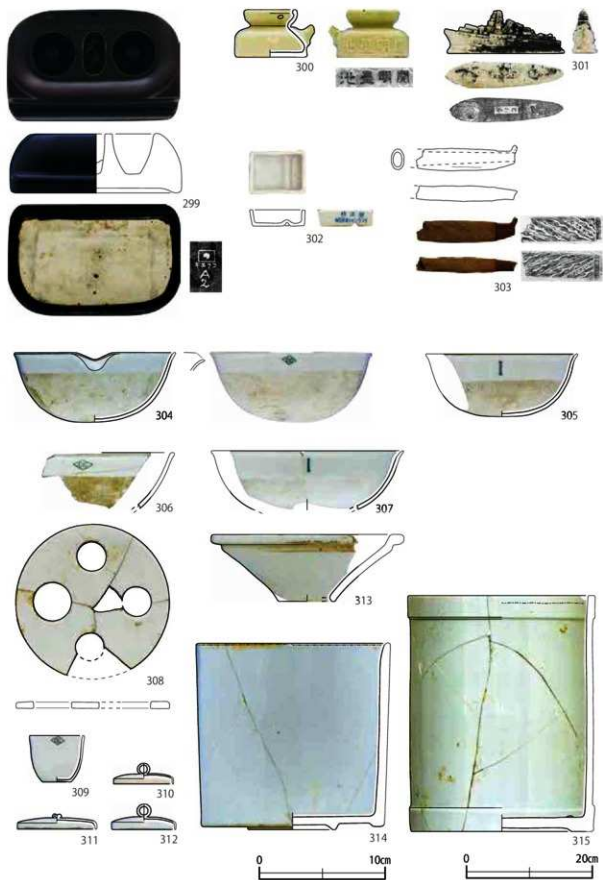
第 38 图 陶磁器類 23 (德利・灰皿 1)



第 39 図 陶磁器類 24 (灰皿 2)



第40図 陶磁器類 25 (代用陶器 飲料・化粧品・糊・インク瓶)



第41图 陶磁器類 26 (文房具・煙管・理化学用品・衛生陶器)



316



317



318



319



320



321



322



323



324



0 10cm

第42図 陶磁器類 27 (硫酸瓶・碍子)



1 丸に五芒星
被服本廠



2 丸に六芒星
被服本廠



3 五芒星
近衛工兵大隊
工兵第一大隊



4 TOKI:土岐
KOSHITU:硬質



5 KIYOA:共亜
SEETŌ:製陶



6 美濃窯業製陶部

原マーク:細部不詳,相違するもの有り
本道跡出土は扇マークのみの裏印

鳥?マーク:細部不詳,相違するもの有り



7 東洋陶器
衛生陶器 1943~1948
細部不詳 下部地球内部省略



8 東洋陶器
陶食器 1925商標登録

	表記文字・マーク	生産者標示記号
OLD	被服本廠購買部	×
↓	被購食堂	×
	被購食堂	× 昭和16年 ○ 瀬 114・774
	陸軍被服本廠	○ 岐 260
NEW	被購食堂 食器	マーク変遷

第43図 陶磁器の意匠各種、被購食堂食器マーク変遷



1 ガラス瓶(飲料)



2 ガラス瓶(化粧品)

第44図 ガラス製品 1



1 ガラス瓶(調味料・食品)



2 ガラス瓶(薬)



3 ガラス瓶(文房具)

第45図 ガラス製品2



325



326



第 46 図 ガラス製品 3 (ビール瓶 1)



© 明治製糖株式会社 日本酒

327

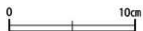


明治製糖株式会社 日本酒

明治製糖株式会社

明治製糖株式会社

328



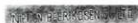
第 47 図 ガラス製品 4 (ビール瓶 2)



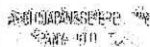
329



330



331



332



第 48 図 ガラス製品 5 (ビール瓶 3)



第49図 ガラス製品6 (洋酒・清酒・焼酎瓶)



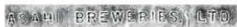
338



339



340



341



第 50 図 ガラス製品 7 (清涼飲料瓶 1)



第 51 図 ガラス製品 8 (清涼飲料瓶 2・ジュース瓶)



第52図 ガラス製品9 (シロップ・牛乳瓶1)



第53図 ガラス製品10 (牛乳瓶2・乳酸菌飲料瓶・調味料瓶1)



第 54 図 ガラス製品 11 (調味料瓶 2・食品瓶 1)



第55図 ガラス製品12 (食品瓶2・薬瓶1)



第 56 図 ガラス製品 13 (薬瓶 2)



第 57 図 ガラス製品 14 (薬瓶 3)



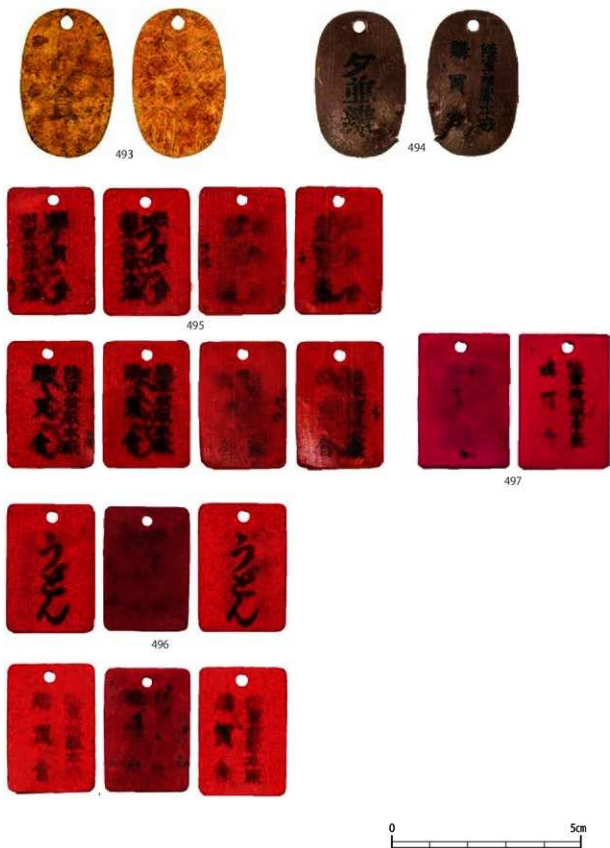
第 58 図 ガラス製品 15 (化粧品瓶・インク瓶 1)



第59図 ガラス製品 16 (インク瓶2・インク壺・オイル瓶)



第 60 図 ガラス製品 17 (糊瓶・文房具・靴墨瓶・理化学用品他)



第 61 図 合成樹脂製品 1 (食券)



第 62 圖 合成樹脂製品 2 (齒刷子他)



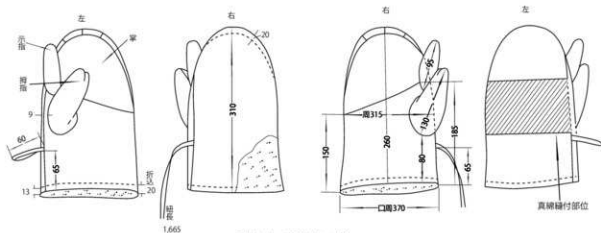
507



508

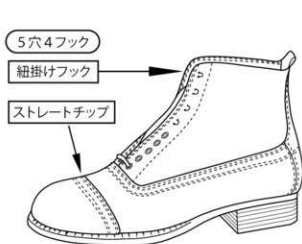
0 10cm

第63図 皮革製品1 (見本帳・手袋)



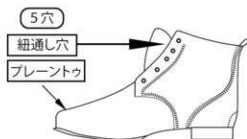
防寒大手袋(96式) 508

陸軍被服品仕様聚 上巻(製品) P333 を再トレース
 国立国会図書館デジタルコレクション



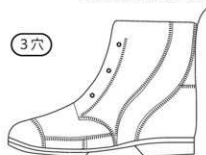
海軍編上げ靴 509

「海軍被服品規格」より 再トレース
 防衛研究所戦史研究センター所蔵



陸軍編上げ靴(昭5式)

陸軍被服品仕様聚 上巻(製品)より再トレース
 国立国会図書館デジタルコレクション



陸軍ゴム底編上げ靴(昭5式)

陸軍被服品仕様聚 下巻 より再トレース
 国立国会図書館デジタルコレクション



509



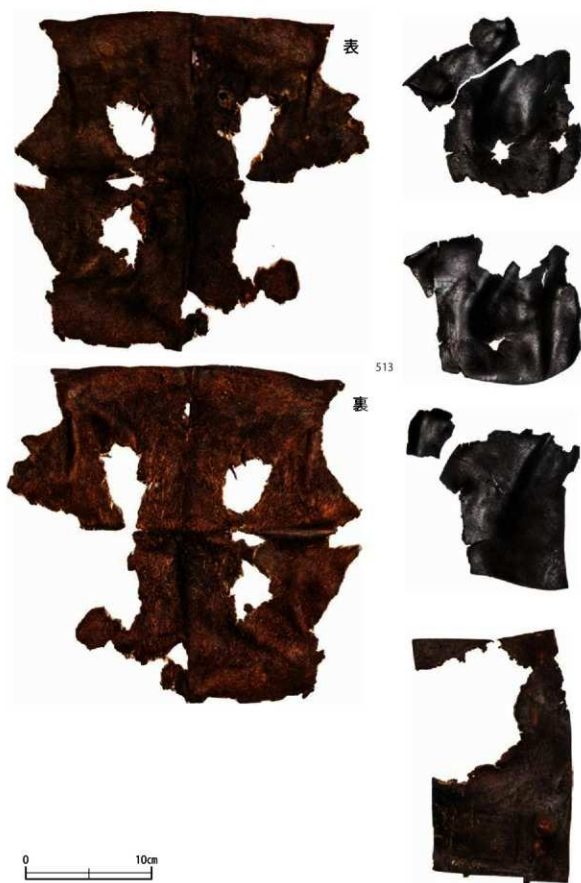
510

0 10cm

第 65 図 皮革製品 2 (靴・雪駄)



第 66 図 皮革製品 3 (端切れ)



第 67 図 皮革製品 4 (素材)



第 68 図 織維製品 1



516



517



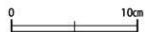
518



519



520



第 69 図 繊維製品 2・ゴム製品



第70図 金属製品1 (コハゼ・徽章・釘・尾錠・コキ、弾薬、鉄帽)



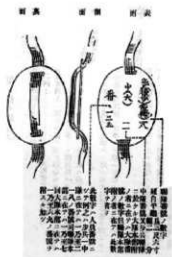
第71図 金属製品2（円匙、防毒面関連）



第72図 金属製品3 (缶、建築材、軌条)

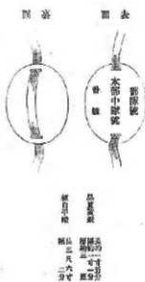


第73図 金属製品4（鉄扉）



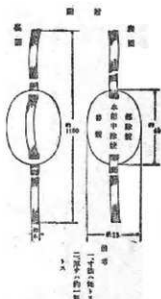
明治27年 陸軍省達書
第63号より

国立国会図書館デジタルコレクション



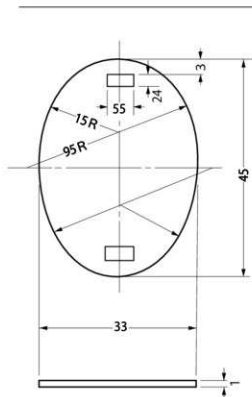
大正6年 陸軍省達書
第44号より

国立国会図書館デジタルコレクション



昭和18年 陸軍省達書
第90号より

国立国会図書館デジタルコレクション



陸軍被服品仕様聚 上巻(製品)
P705を再トレース

- 其二五 認識票仕様書
- 大正八年一月九日(陸軍省第八一號制定)
昭和二年五月二日(陸軍省第四七號改正)
昭和六年五月二日(陸軍省第七七號改正)
昭和八年三月五日(陸軍省第九九號改正)
- 一 材料
- 1 イ 黄銅ノ場合銅六七%、亜鉛三三%標準
九三%以上
 - ロ アルミニウム合金ノ場合(アルミニウム純分
九三%以上)
 - ハ 極軟銅板ノ場合(標準規格厚度ニ準拠トス)
 - ニ 白打紙(別ニ定ムル仕様書ニ準拠)
 - 三 形状寸法 圖ノ如シ
 - 四 重量(二個ニ付標準)
 - イ 眞鍮ノ場合 九〇瓦
 - ロ アルミニウム合金ノ場合 三三瓦
 - ハ 極軟銅板ノ場合 二限ル
 - 四 鍍(金極軟銅板ニ限ル)
- 整年ナル眞鍮鍍金ヲ為ス
但シ鍍金ノ程度八五%ノ食鹽水中ニ五時間浸漬シタル後空氣中ニ五時間放置ス
- 五 防錆法(アルミニウム合金製ノ場合)
 - 六 成形面ニゴムワニス又ハ合成樹脂ワニスヲ焼付塗裝ス
 - 其ノ他
 - イ 再生黄銅使用ノモノニアリテハ銅及亞鉛ノ配合割合ハ一定シ難キモノトス
 - ロ 本書ニ記載ナキ事項ハ標準ニ準ル

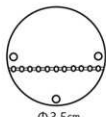
同左 P705より

第74図 認識票仕様圖

分割式

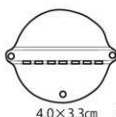
フランス軍

ドイツ軍



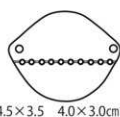
Φ3.5cm

赤羽上ノ台遺跡出土
未使用品



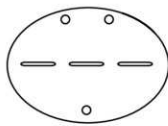
4.0×3.3cm

1918年モデル



4.5×3.5 4.0×3.0cmなど

刺印入り(使用品)



7.0×5.0cm

イタリア軍

カナダ軍

ベルギー軍

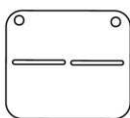
フィンランド軍



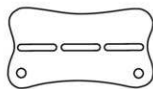
3.5×4.5cm



4.5×4.5cm



6.0×5.0cm



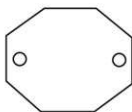
2枚式

イギリス軍

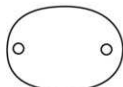
アメリカ軍



回収用
Φ3.5cm



陸軍
5.0×2.9cm



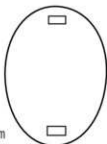
海軍・海兵隊
3.8×3.1cm



1枚式

日本陸軍

4.5×3.3cm



第 75 図 各国認識票模式図

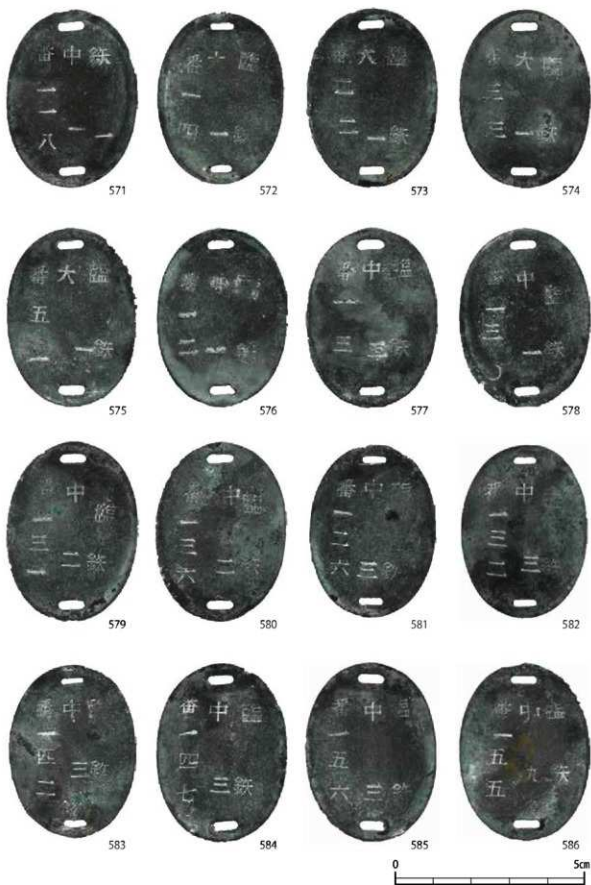


1 認識票 (打刻なし) (570)

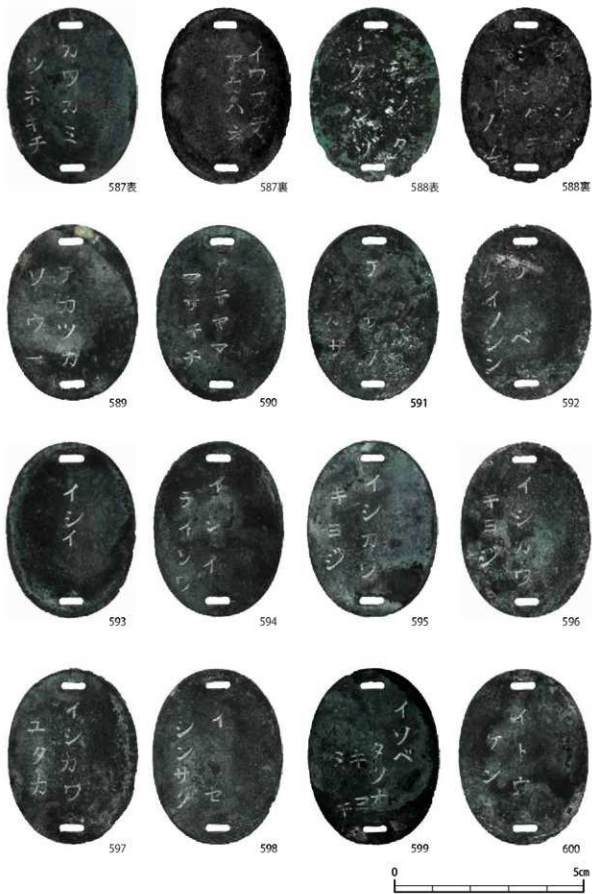


2 認識票 (打刻あり)

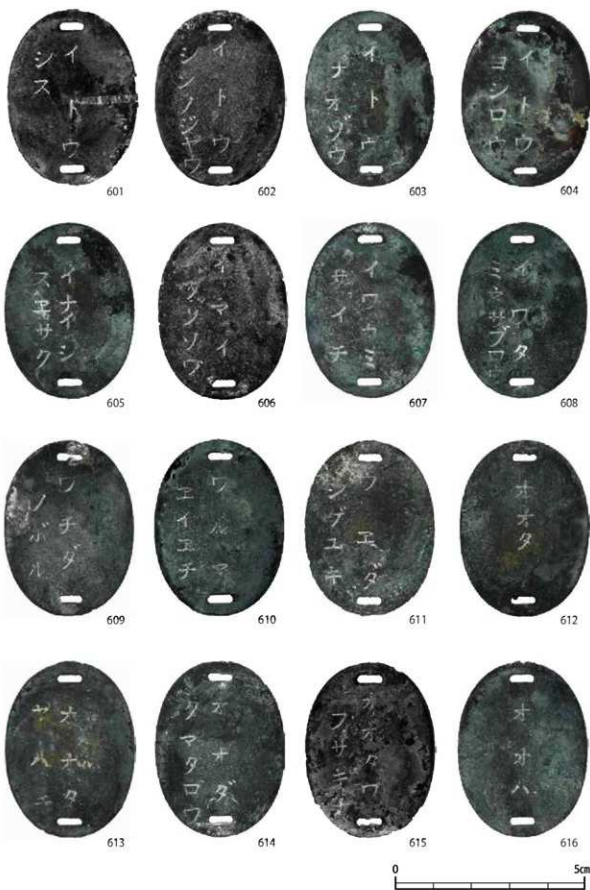
第 76 図 認識票 1



第77図 認識票2



第78図 認識票3



第79図 認識票4



617



618



619



620



621



622



623



624



625



626



627



628



629



630



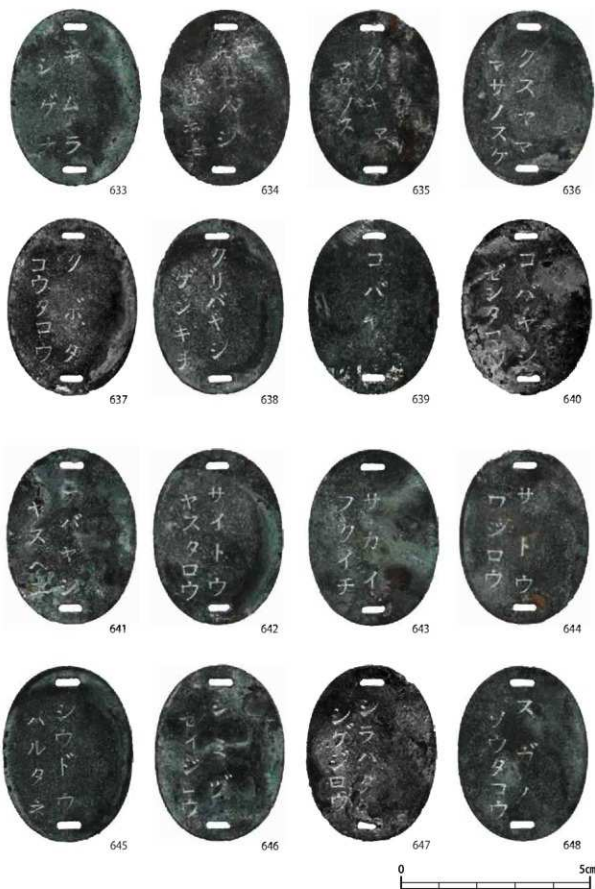
631



632



第 80 図 認識票 5



第 81 図 認識票 6



649



650



651



652



653



654



655



656



657



658



659



660



661



662



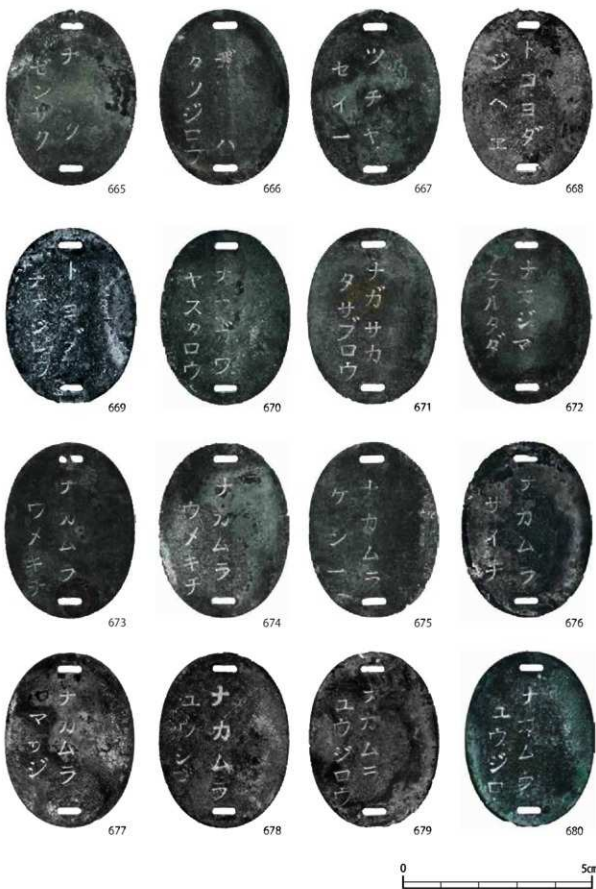
663



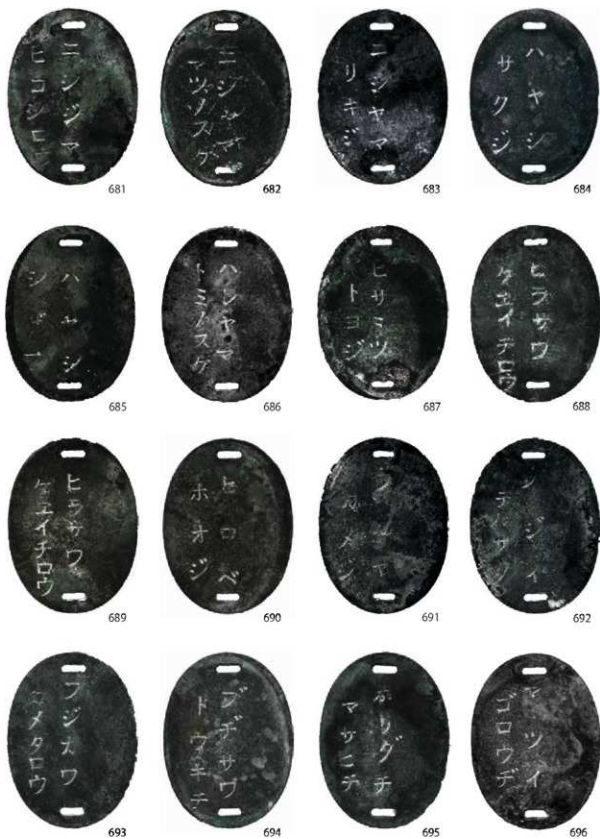
664



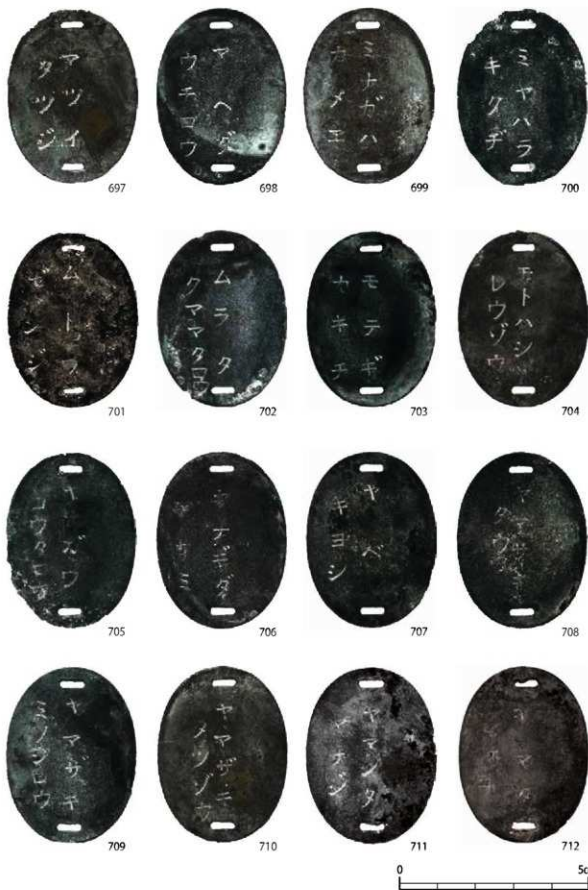
第 82 図 認識票 7



第 83 図 認識票 8



第 84 図 認識票 9



第 85 図 認識票 10



713



714



715



716



717



718



719



720



721



722



723



724



725



726



727



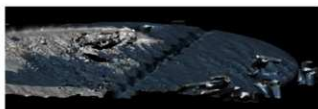
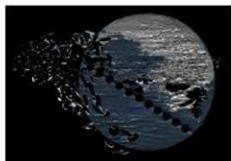
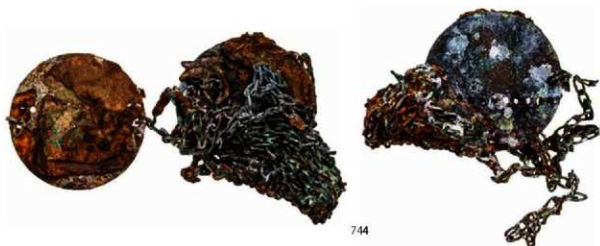
728



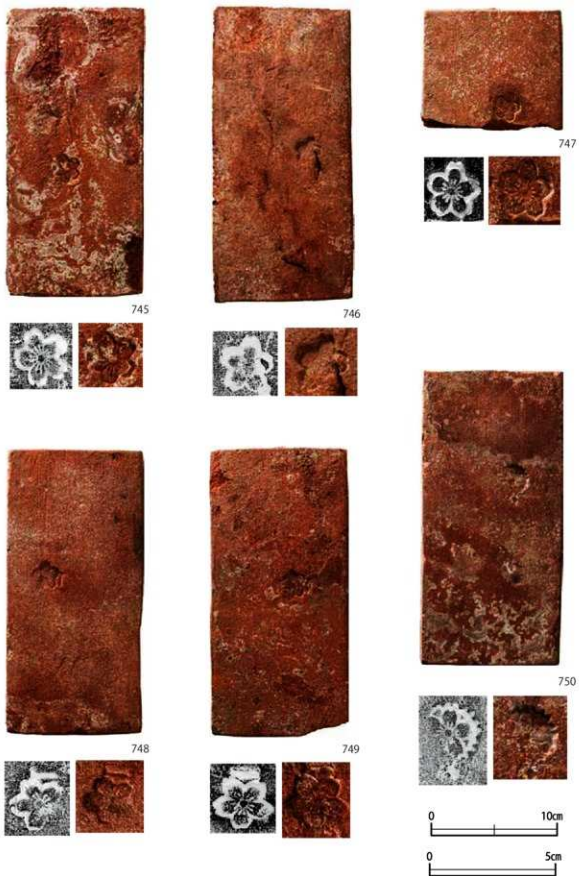
第 86 図 認識票 11



第 87 図 認識票 12



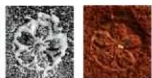
第 88 図 認識票 13 (CT 画像)



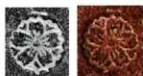
第 89 図 煉瓦 1 (普通煉瓦 1)



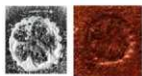
751



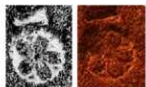
752



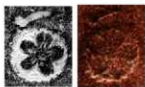
753



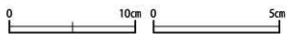
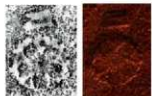
754



755



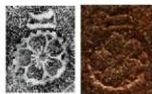
756



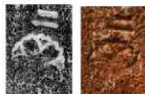
第90図 煉瓦2 (普通煉瓦2)



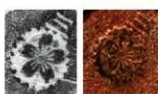
757



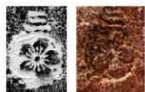
758



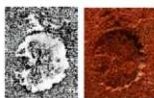
759



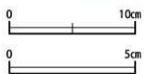
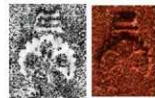
760



761



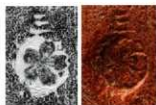
762



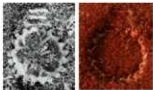
第91図 煉瓦3 (普通煉瓦3)



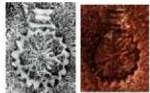
763



764



765



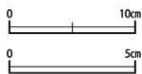
766



767



768



第92図 煉瓦4 (普通煉瓦4)



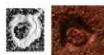
769



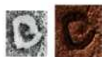
770



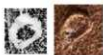
771



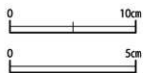
772



773



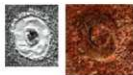
774



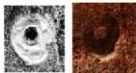
第 93 図 煉瓦 5 (普通煉瓦 5)



775



776



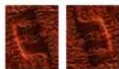
777



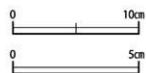
778



779



780



第94図 煉瓦6 (普通煉瓦6)



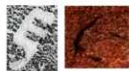
781



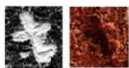
782



783



784

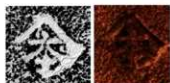


原寸

S=2/3



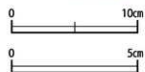
785



原寸



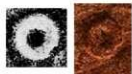
786



第95図 煉瓦7（普通煉瓦7）



787



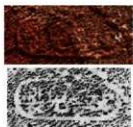
788



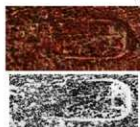
789



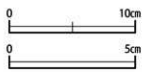
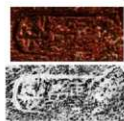
790



791



792



第 96 図 煉瓦 8 (普通煉瓦 8)



第97図 煉瓦9（普通煉瓦9）



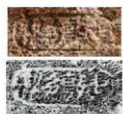
799



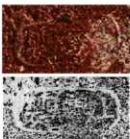
800



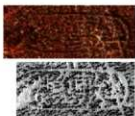
801



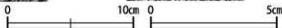
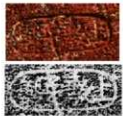
802



803



804



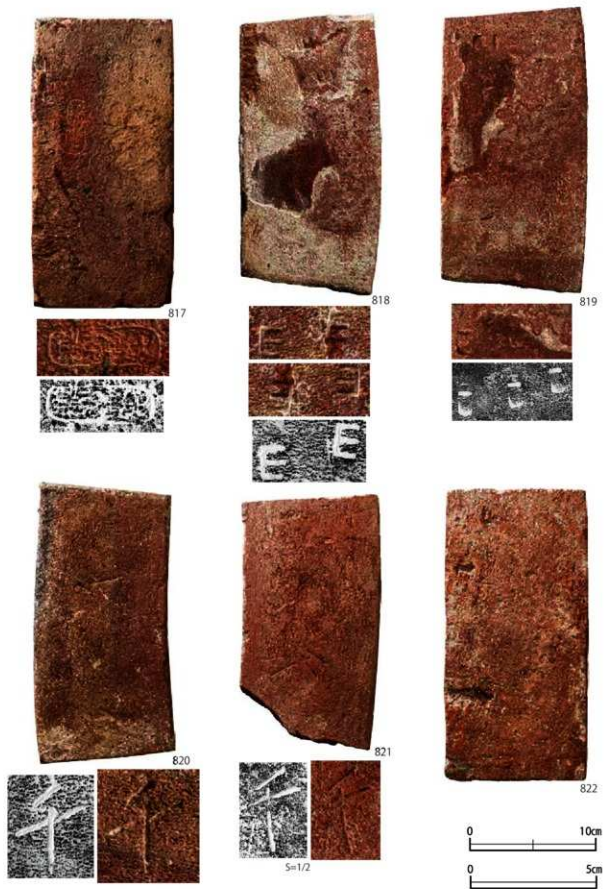
第98图 煉瓦, 10 (普通煉瓦, 10)



第 99 図 煉瓦 11 (普通煉瓦 11)



第 100 図 煉瓦 12 (普通煉瓦 12)



第101図 煉瓦13 (普通煉瓦13)



823



824



825



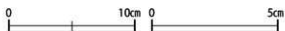
826



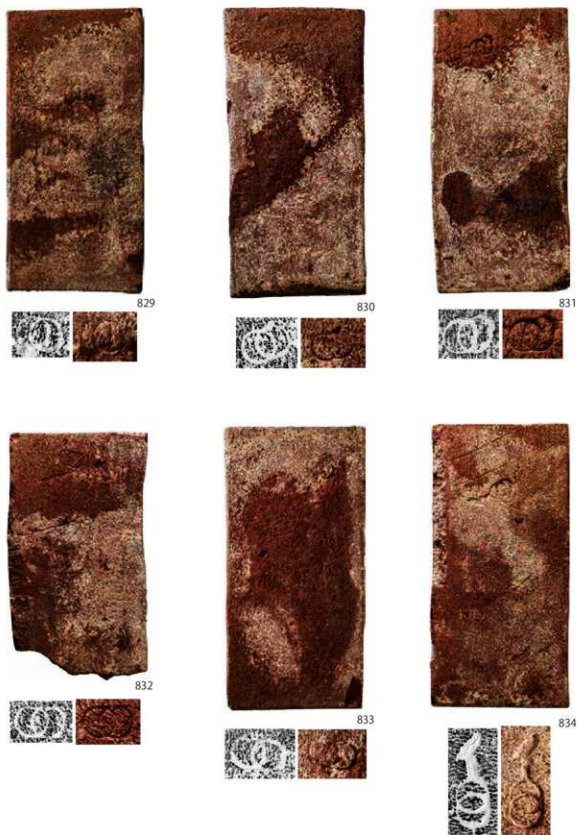
827



828



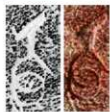
第 102 図 煉瓦 14 (普通煉瓦 14)



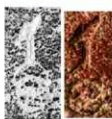
第103図 煉瓦15（普通煉瓦15）



835



836



837



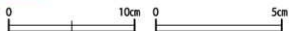
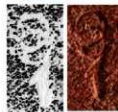
838



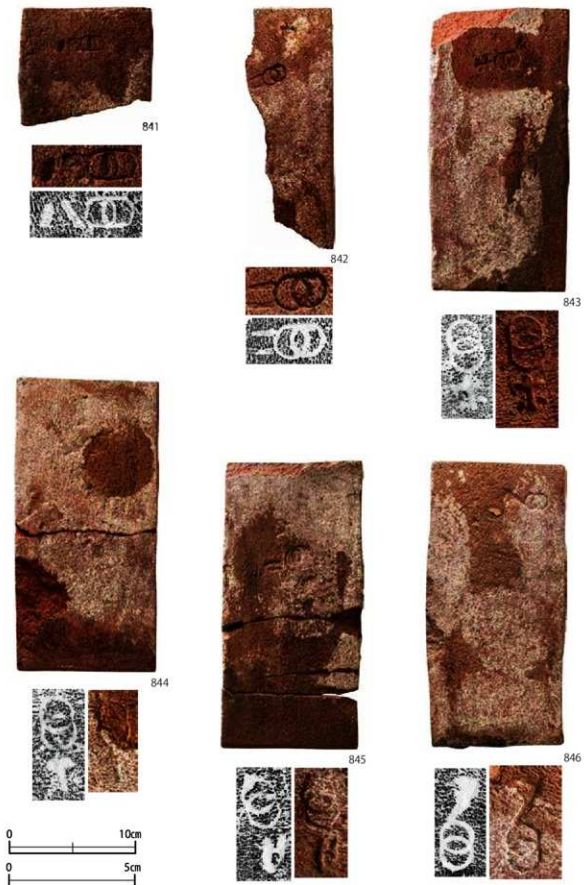
839



840



第104図 煉瓦16 (普通煉瓦16)



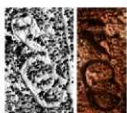
第105図 煉瓦17（普通煉瓦17）



847



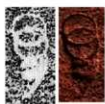
848



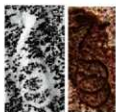
849



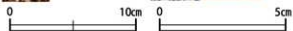
850



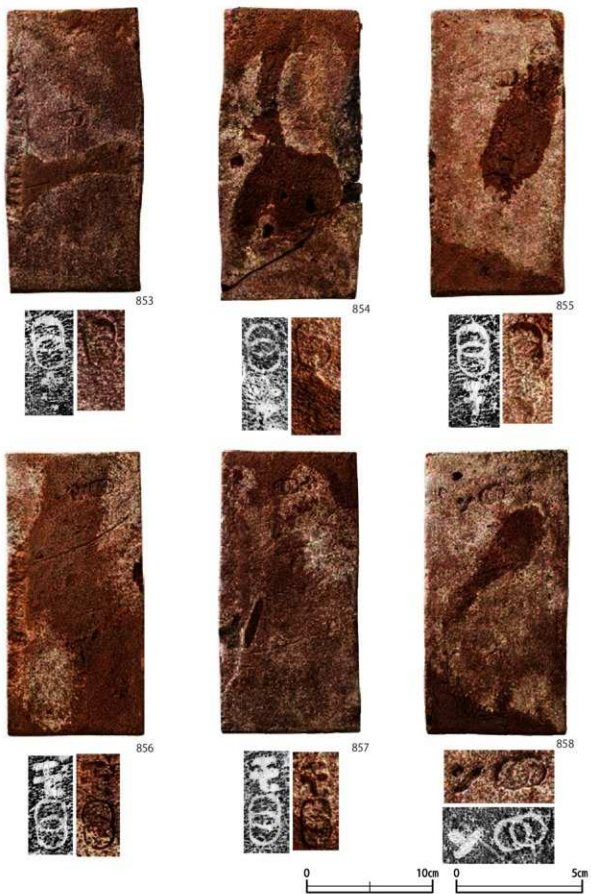
851



852



第106図 煉瓦 18 (普通煉瓦 18)



第107図 煉瓦19（普通煉瓦19）



第108図 煉瓦 20 (普通煉瓦 20)



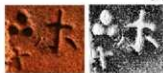
第109図 煉瓦 21 (普通煉瓦 21)



872



873



875



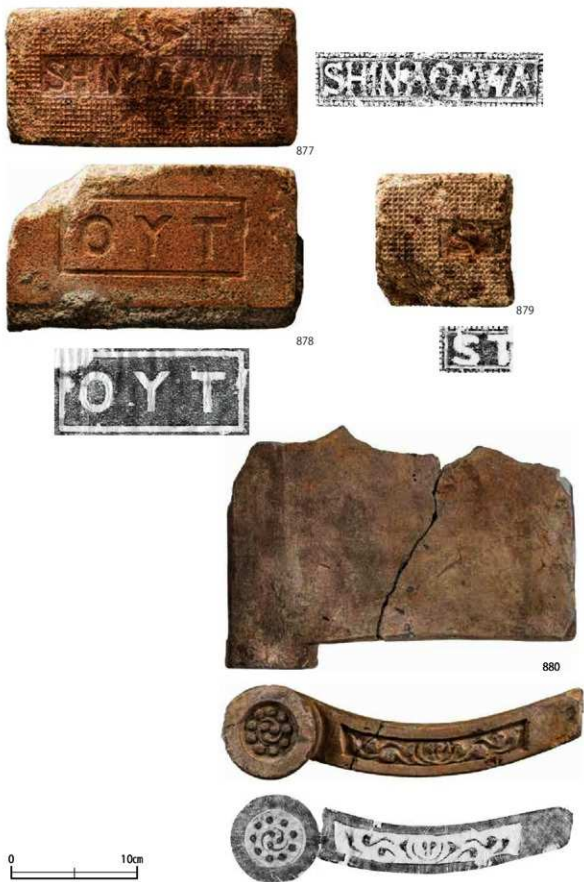
874



876



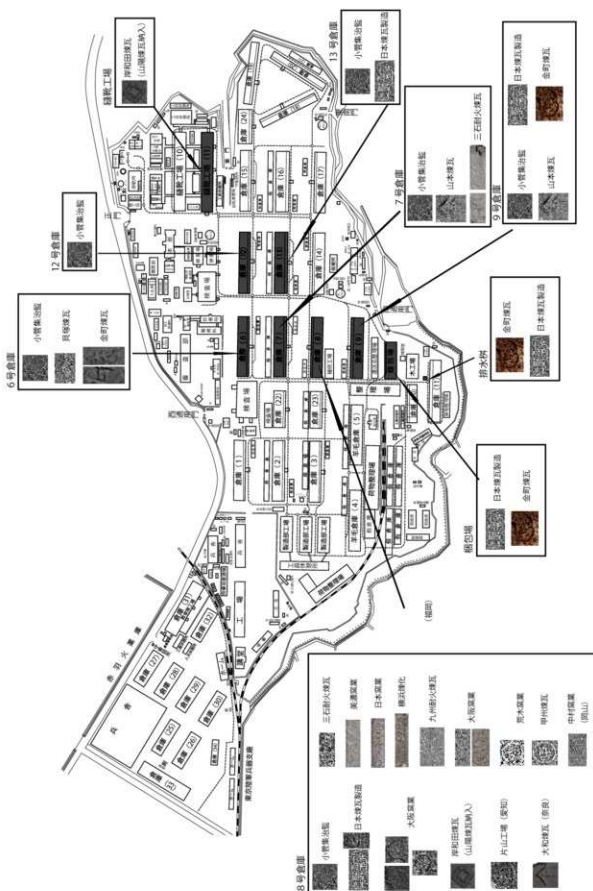
第 110 図 煉瓦 22 (普通煉瓦 22)



第111図 煉瓦23(耐火煉瓦)、瓦1



第 112 图 瓦 2



第 113 图 煉瓦刻印出土地点

輪違+リ：1点 輪違+ヲ：1点 輪違+つ：1点 輪違+ラ：3点 輪違+フ：1点
輪違+キ：3点 輪違+モ：2点 輪違+・：1点 輪違+一：1点 輪違+E：5点
輪違+■（不明）：1点 * Eはヨの反転の可能性もある

製造所不明 2点（866・867）

その他

大和煉瓦（868）山笠+ト

下野煉瓦？（869）◇+S

製造所不明（870～876）

○にイ（870）○にア（871）井桁菱に二（872）六ホ+（873）

「桜花マーク」は小菅集治監の製品を示し、単弁（一重）・複弁（二重）・蕾が知られるが、今回の資料には蕾はみられなかった。さらに花弁の脇に漢数字を中心とする付属印のあるものが多い。蛇の目（◎）マークも小菅集治監かと思われる。

「上敷免製」は埼玉県深谷市の日本煉瓦製造上敷免工場を示し、楕円枠で、文字は右から左へ書く右横書きのものが大方を占めるが、まれに左横書きのものもある。また、同社製造の煉瓦刻印は「上敷免製」→「日煉」→「日本」と変遷する。第Ⅱ次調査において「日本」が確認されている。

「輪違」は○が2個部分重複した意匠で、葛飾区四つ木の金町煉瓦製造所の製品である。創業は1888（明治21）年で、1918（大正7）年に日本煉瓦製造に吸収合併されている。従って「輪違」の刻印は明治中～後期から大正前半期の所産と考えられる。カタカナ「イロハ」を中心とした付属印のあるものがほとんどで、反転文字と思われるものもある（リ・ラ）。今回の資料の中で、Eと読める文字のものがあがるが、ヨの反転文字の可能性も考えられる。

「山笠+本」は荒川区尾久の山本煉瓦工場の製品である。操業期間は1898（明治31）年～大正末年頃とされている。

「山笠+ト」は奈良県の大和煉瓦と思われる。第Ⅱ次調査でもこの刻印は確認されている。

「◇+S」は栃木県の下野煉瓦の製品かと思われるが定かではない。

他に○にア、イや井桁菱に二などがあるが、製造所の特定には至らなかった。

各建物の煉瓦構成からみるに、9号倉庫は小菅集治監製の煉瓦、梱包場は日本煉瓦製造上敷免工場製の煉瓦、煉瓦枡は金町煉瓦製造所製の煉瓦を中心として建てられたと考えられる。建設時期については、9号倉庫は板目のものを中心としていることから明治前半から半ばにかけて、梱包場と煉瓦枡はチヂレ目のものを使用していることから明治後半から大正前半にかけてと推定される。なお、同じチヂレ目のものでも、煉瓦枡は東京低地で生産する金町煉瓦製造所、梱包場は内陸の埼玉県深谷市で生産する日本煉瓦製造上敷免工場の煉瓦を使用している。日本煉瓦製造上敷免工場の製品は、操業開始当初は利根川舟運（江戸川経由）によって東京に出荷されていたが、舟運が不調であったことから1895（明治28）年に工場—高崎線深谷駅間の専用軌道を敷設して、鉄道輸送に切り替えている（註20）。こういったことを考え合わせると、煉瓦枡は明治後半の早い時期に建設されたため、安定した調達ができる金町煉瓦により、梱包場は明治後半の遅い時期以降に建設されたため、鉄道輸送によって調達しやすくなった日本煉瓦製造上敷免工場の煉瓦によったと考えることも可能であろう。

耐火煉瓦 (877～879)

3点が確認された。877が品川白煉瓦株式会社製、878が大阪窯業耐火煉瓦株式会社製。879は大阪府の三和煉瓦製造所製の可能性がある。

瓦 (880～885)

880が軒棧瓦、881～883が軒平瓦、884・885が平瓦である。881～883はスタンプ陰刻で横書き右→左に、それぞれ本瓦五、本瓦國、石濱川が押印されている。884はヤマ大 野口、885は参拾號□安□が押印されている。

C 被服本廠の概要

本項では被服廠の沿革および業務、被服本廠の規模・建物の変遷について述べる。道合遺跡第Ⅱ次調査報告(丹野 2010)においてこれらを纏めたが、訂正・追加を加え再録したい。被服本廠に関する研究は森谷氏論文(森谷 1996・1998)に拠るところが多く、又、中村氏の論文(中村 2008)でも昭和期の詳細な研究がなされている。以下でもこれら論文からの引用を主として若干の補足を行った。建物などの配置に関しては、第14図およびUR都市機構所蔵資料、各時代地図・航空写真などに基づき検討している。なお本項での年号表記は元号(西暦)表記とした。

・沿革

明治5(1872)年、明治政府は軍制の近代化に着手、兵部省を廃し、陸海軍省を設置した。その際、陸軍省会計局に貯蔵係を置き、被服諸品の保管・出納を管轄した。これが被服廠の前身である。

明治17(1884)年には会計局に服庫課が設置され、庁舎を麴町有楽町、倉庫を京橋区築地明石町、深川区西大工町に置き、業務拡張がなされる。

明治19(1886)年に被服廠条例が制定された。会計局長隸属となり、軍で使用される被服の調弁・分配、戦用予備被服の貯蔵を掌る独立機関とされた。

明治24(1891)年、倉庫が上記二ヶ所から北豊島郡岩淵町赤羽に新築・移転する。

明治30(1897)年、庁舎を本所区横網町に移し、赤羽を支倉庫とした。

明治35(1902)年、被服廠条例が改正となり、従来の調弁・貯蔵に加え、被服の製造を行うことになる。さらに被服に係わる試験を行い、又、陸軍大臣直隸となった。前年に軍靴製造工場を設立し、翌年には初めて編上靴を製作する。

明治36(1903)年、大阪支廠が設立され、その後設けられた広島支廠とともに3廠で全陸軍の被服補給を掌ることとなる(明治41年被服廠条例改正)。

明治41・42(1908・9)年の書簡(肆大日記)によると、第一・第二倉庫は明治22年建築であり修繕が必要とある。又、当時の赤羽倉庫は大小21棟が立ち並んでいたが、新たに6棟の新築計画を起している。靴工場も赤羽構内に設置された。

明治45(1912)年には赤羽構内に鉄道敷設がなされる。これは板橋兵器庫から赤羽停車場(現：赤羽駅)の北に乗り入れる軍用引込み線からさらに分岐し、被服本廠内に設けられたもので、現在の赤羽台西小学校・あかいとり幼稚園の敷地を通り、その東側にプラットホームが設置された。本廠内生産・保管品の搬出・搬入は爾後鉄道輸送が主体となる。

大正年間に入り、本廠の庁舎(横網)と倉庫(赤羽)が分置されているため不便であるとのことで、これらを赤羽に集中することとなった。大正8(1919)年、新築工事が完成し、本廠の全機関が赤

羽に移転した。以後、赤羽において被服本廠業務が行われることとなる。

大正 12 (1923) 年の関東大震災では、元の本廠があった本所横網では被災民が焼死する大惨事となった。赤羽の本廠内の建物の被害が僅少であったとされるが、検出された建物にも補修・補強の跡が各所にみられる。

昭和に入り、戦争の激化と共に被服本廠業務も拡大する。被服品の補給の他、戦用品の研究・開発にも携わり、防寒・防暑被服、航空服、被服移動修理車、汚毒被服処理車、天幕等の実験・開発、戦地への供給を行っていった。

昭和 4 (1929) 年、被服廠構内西端、大塚古墳に「明治天皇駐蹕之碑」が建立される。

昭和 14 (1939) 年には満州国奉天に支廠を設置、国内各地にも支廠・出張所を設ける。

本廠と支廠の業務内容の相違は、被服品の研究、教育に関しては赤羽の被服本廠のみが行い、それ以外の製造・貯蔵・補給等の業務、軍需工場の管理・監督業務に関しては本支廠とも同様に行われた。

昭和 17 (1942) 年、被服本廠に女子挺身隊が入廠する。

昭和 19 (1944) 年、戦局の悪化に伴い、製造設備や貯蔵品の疎開が実施される。本廠内の製造設備・研究施設はまず埼玉県朝霞市へ疎開し、さらに栃木県豊岡村に移転した。豊岡村は本廠の全施設を挙げて移設したもので、第一次の後、20 年にも第二次疎開(研究部門)が行われた。この際、本廠西側(大六天遺跡) 一帯の倉庫・仮倉庫を解体して所要資材とした。

昭和 20 (1945) 年 4 月、赤羽地区に空襲があり、被服本廠も南西部の 7・12・14・15 番倉庫が消失した。同年 8 月、終戦とともに被服廠もその役割を終え、残務処理の後、閉鎖となる。9 月には米軍が接収のため被服本廠に進駐した。

占領期間中は連合軍の管理下に置かれ、被服本廠地区は TOD 第 3 地区(赤羽ハイツ)と呼ばれた。TOD は東京兵器補給廠(TOKYO ORDNANCE DEPOT)の略で、規模縮小の後、TOS(TOKYO ORDNANCE SHOP)と改称された。TOD 第 3 地区は米軍の戦車等の修理工場となり、構内には日本製鋼・ブリジストン両株式会社修理担当者として入っていた。

昭和 33 (1958) 年、TOD 第 3 地区、239,223㎡(88,700 坪)は接収解除となり、大蔵省の所管となった。その後、土地利用に関しては議論があったが、最終的には翌年、日本住宅公団に払い下げとなり、37 年には 23 区随一といわれた赤羽台団地が誕生した。平成に入り、建物の老朽化が進み、建替事業が計画化されるとともに、埋蔵文化財の確認・調査が始動した。現在、新しい団地は「ヌーベル赤羽台」として今日に至っている。

次に被服廠関連事象の中で、赤羽に関する事項を列記していきたい。

- ・明治 23 (1890) 年 被服廠建設敷地(約 4,600 坪)の用地買収に関して通達が出ている。
「近督より被服廠敷地買収の件」JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.C07050265100 (防衛省防衛研究所)
- ・明治 30 (1897) 年 9 月 赤羽の倉庫新築と思われる通達が上がっている。
「廠建より被服廠倉庫配置の件」JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.C07041417500 参大日記(防衛省防衛研究所)
- ・明治 31 (1898) 年 12 月 上記倉庫落成の報告である。
「赤羽被服廠倉庫其他工事落成報告」JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.C10061740900 陸軍省雑 官房 3 号編冊 臨時建築 3 冊の 3 (防衛省防衛研究所)
- ・明治 37 (1904) 年 12 月 赤羽倉庫構内で火事が発生したらしく、防火水槽の設置が急務とある。

- 「被服廠赤羽倉庫構内へ水槽新設の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03026040400 陸満普大日記（防衛省防衛研究所）
- ・明治40（1907）年3月 先般に買収した敷地2,000坪に二階建倉庫を建設する設計案が上がる。
「被服倉庫建築の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03027484100 陸満普大日記（防衛省防衛研究所）
 - ・明治42（1909）年12月 赤羽に最初に建設された倉庫の修繕に関する通達である。
「赤羽倉庫修繕工事の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C07072341300 肆大日記 2月（防衛省防衛研究所）
 - ・明治42年11～12月 赤羽倉庫関連建築工事の経費増額の申し入れの中に、日露戦争以来の大拡張で、大小21棟の建物が建ち、さらに6棟の建設を計画中、とある。本部移転以前の時期であり、北側の旧板橋街道以北の建物群はまだなく、倉庫群のみの事と考えられるが、東側の18～20号倉庫から西側の1号倉庫までの建物群の数とほぼ一致している。この年末段階で南側倉庫群が概ね完成していたと思われる。
「経費増額の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C07051370600 伍大日記 11月12月（防衛省防衛研究所）
 - ・明治42（1909）年12月 倉庫・羊毛倉庫新築工事計画の通達の中に、「荷物整理場」建築中止・露天プラットフォームに変更、貯水池設置、などが盛り込まれている。
「被服本廠赤羽倉庫構内被服倉庫及羊毛倉庫新築其他工事の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C07072718400 肆大日記 1月（明治43年）（防衛省防衛研究所）
 - ・明治43（1910）年2月 上記において中止となった「荷物整理場」の新設予算が確保された記事である。
「荷物整理場及貯水池工事実施の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C06084929000 貳大日記 3月（防衛省防衛研究所）
 - ・明治44（1911）年3月 荷物整理場の小屋の設計変更が図られた記事である。「プラットフォーム」としての機能を有すものであろう事から、貨車との荷物出入荷作業に支障をきたさないよう、設計を二度三度変更している。
「赤羽被服庫構内荷物整理場鉄造小屋設計変更の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C02031345700 大日記乙組第2類 第2冊（防衛省防衛研究所）
 - ・明治44（1911）年10月 医務室の増築で診療所の拡充を図っている。
「陸軍被服廠構内医務室増築の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C02031382200 大日記乙組第2類 第3冊（防衛省防衛研究所）
 - ・大正2（1914）年1月 赤羽被服倉庫の新設設計・経費などの申請が出されている。
「陸軍被服本廠赤羽被服倉庫新設の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C02031591100 大日記乙組第2類 第3冊（防衛省防衛研究所）
 - ・大正6（1917）年2月 被服本廠の赤羽移転に掛かる工事の設計・経費の要領が提出されている。
「大正6年度工事実施の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03010937600 大日記乙組第2類 第3冊（防衛省防衛研究所）
 - ・大正7（1918）年6月 赤羽移転に伴う敷地買収に伴う土地調査、予算書などが提出されている。
「陸軍被服本廠移転敷地買収の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03011008700 大日記乙組第2類 第1冊（防衛省防衛研究所）

・大正7（1918）年7月 前年度に続き、移転に掛かる工事設計・経費・計画変更などの要領である。
「大正7年度工事実施の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03011051500 大日記乙冊第2類 第3冊（防衛省防衛研究所）

・大正8（1919）年 移転に伴う各種工事の発注・変更などの申請が出されている。

・「陸軍被服本廠本部及工場其他移転改増築工事の内貯水槽新設其他工事の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03011149500 大日記乙冊第2類 第4冊（防衛省防衛研究所）

・「陸軍被服本廠本部及工場其他移転改増築工事の内縫靴工場附属厨新築工事の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03011149400 大日記乙冊第2類 第4冊（防衛省防衛研究所）

・「陸軍被服本廠既設縫靴工場へ電燈配線工事の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03011155300 大日記乙冊第2類 第4冊（防衛省防衛研究所）

・「陸軍被服本廠本部及工場其他移転改増築工事の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03011170800 大日記乙冊第2類 第4冊（防衛省防衛研究所）

・「被服本廠移転地構内外線工事の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03011169400 大日記乙冊第2類 第4冊（防衛省防衛研究所）

・「陸軍被服本廠建造物移転改増築工事の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03011176600 大日記乙冊第2類 第4冊（防衛省防衛研究所）

・「陸軍被服本廠原動所内諸機械其他移転据付工事の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03011189300 大日記乙冊第2類 第4冊（防衛省防衛研究所）

なお、同年に工事延期が図られているが、「時局の為」とある。前年からのロシア革命と同年8月の日本軍シベリア出兵が影響しているのであろうか。

「陸軍被服本廠移転改増築工事延期の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03011149300 大日記乙冊第2類 第4冊（防衛省防衛研究所）

・大正9（1920）年2月 羊毛倉庫（5号）南に近接する「瓦斯殺虫室」が新設されている。

「陸軍被服本廠建造物移転改増築工事の内瓦斯殺虫新築其他工事の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03011303300 大日記乙冊第2類 第3冊（防衛省防衛研究所）

・大正9（1920）年4月 移転に伴う電気配線工事が続いている。

「陸軍被服本廠建造物移転改増築工事の内外線及電燈配線工事の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03011317000 大日記乙冊第2類 第3冊（防衛省防衛研究所）

・大正9（1920）年7月 出産・育児のために離職する女性工員が多い事から保育所を設置する。

「保育所設置の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03011332700 大日記乙冊第2類 第3冊（防衛省防衛研究所）

・大正14（1925）年 関東大震災による被害を受けて復旧工事が発注されている。

「大正14年度震災復旧工事の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03012068700 大日記乙冊第2類 第2冊（防衛省防衛研究所）

・昭和2（1927）年12月 同じく震災復旧工事の発注である。

「陸軍被服本廠鑿井揚水設備震災復旧工事実施の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C01006045700 大日記乙冊第2類 第1冊（防衛省防衛研究所）

・昭和2（1927）年3月 従前よりある治療所を「陸軍職工規則」に則り、「診療所」として新たに

設置する事としている。設備も拡充したようである。

「陸軍被服本廠に診療所設置の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C01000981800 大日記甲輯第3類（防衛省防衛研究所）

・昭和12（1937）年8月 被服本廠西側（軍用線西側）に養成部の兵舎などの建築を行う。養成部は後の教育部である。

「陸軍被服本廠養成部兵舎新築其他工事実施の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C01002213100 大日記乙輯第2類 第1冊（防衛省防衛研究所）

・昭和15（1940）年8月 埼玉県朝霞に分廠を新設する。後に本廠疎開場所となる所である。

「陸軍被服本廠朝霞分廠新設工事実施の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C01002353100 大日記乙輯第2類 第1冊（防衛省防衛研究所）

・昭和20（1945）年8月 戦局の悪化に伴い、本廠の疎開計画が立案されている。

「陸軍被服本廠構内（赤羽・朝霞地区）建物疎開計画」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C15011064000 施設関係綴（防衛省防衛研究所）

最後に、本廠内に敷設された軍用鉄道およびトロッキに関する事項を列記する。

・明治37（1904）年2月 被服廠内に敷設されている軽便鉄道（トロック）が現状では迅速な作業がなし得ず、これを増設して効率化を図ろうとしている。すなわち、この時点ですでにトロックは構内全域とはいえないまでも敷設されていた事が分かる。

「被服廠内軽便鉄道増設の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03025469100 満大日記 2月 坤 乙（防衛省防衛研究所）

・明治40（1907）年4月 赤羽停車場から陸軍兵器支廠を結ぶ軍用鉄道敷設工事の通達である。土地買収、移転賠償などを含む予算書を提出している。

「鉄道工事実施の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03027550500 満大日記 5月（防衛省防衛研究所）

・明治42（1909）年6月 上記軍用鉄道の管理に関する通達である。この時点で敷設は完了しており、陸軍から鉄道省に官吏転換を行うとの事である。

「軍用鉄道線路等管理換の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C07072700400 肆大日記 12月（防衛省防衛研究所）

・大正元（1912）年8月 被服本廠赤羽倉庫内に敷設した鉄道（上記軍用線の枝線）の保管転換に関する通達である。これにより、明治末年には赤羽倉庫内の引き込み線は完成していた事が分かる。

「軌道保管転換の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C02031538100 大日記乙輯第2類 第7冊（防衛省防衛研究所）

以上、被服本廠の沿革ならびに赤羽倉庫群～被服本廠にかけての関連事項、軍用鉄道関連事項を列記した。旧陸軍の違書・日記類からのものであり、抜け落ちもあろうかと思われる。一応、被服本廠の設立から終戦、占領軍の進駐から接収解除、赤羽台団地の建設から現在に至るまでの流れは把握し得ると考える。

・業務

被服廠は、明治年間の日清戦争（明治27・28年）までは、被服品の貯蔵・保管、補給の業務を行っていたが、三国干渉の結果、ロシアを仮想敵国とした軍備増強の流れに伴い、陸軍補給機関におい

第3表 被服本廠 製造品目

通 常 品		特 殊 品		
軍帽 略帽	背囊 背負袋	防寒被服	航空用被服	挺身隊用被服
鉄帽	踵裏 固裏	防寒帽	航空頭巾	服 靴 靴履
軍衣袴 綿製 夏衣袴	飯盒 飯付箱	防寒覆面	航空覆面	手袋
冬衣袴	水筒	防寒外套(外衣)	航空服	偽裝個人用
絨製 冬衣袴	携帶天幕(幕布)支柱	防寒手袋(手套)	航空手袋(手套)	鉄帽
福祥 夏福祥	毛巾 絨製	防寒手袋(手套)	航空メリヤス手袋	
福祥 冬福祥	綿製	防寒靴	航空靴	
袴下 夏袴下	蒲団 蒲団皮	防寒長靴	航空襪	落下傘部隊用
冬袴下	包布	防寒靴下	航空眼鏡	長靴(編上靴)
編上靴(有釘)	敷布	防寒半袴	航空浮衣	
編上靴(無釘)	枕 枕覆	防寒飯盒覆	航空浮衣	
長靴	販巻	防寒水筒覆		通信隊用
綿ゴム靴	被服手工具	防寒脚絆		防寒大手袋
地下足袋	小刀 糸巻 鉄			
宮内靴(革 ゴム)	刷(ハケ) 洗濯刷	防護被服	防毒用	作業用 防寒被服
上靴 靴紐	靴刷 靴刷覆 絨刷	防護帽	防毒用(甲)	防寒衣袴
巻脚絆	保革油	防蚊手袋(手套)	防毒手袋	防寒靴
革脚絆	石鹼 洗濯石鹼	防蚊面	防毒脚絆	防寒大手袋(手套)
外靴(外衣) 雨外套(外靴)	標章 胸章 背章	蚊帳	吸吸缶	
作業衣袴	認識票	患者用	防寒被服修理工具	
作業帽	軍隊手帳 戰陣訓	被服 マント 帯	防毒脚絆(乙)	八難形天幕
標布 靴下	偽裝網	足袋 真綿蒲団	動物用吸取出	

第4表 被服本廠建物名称変更一覧

調査年次	遺構名称(旧)	遺構名称(新)
MC 第Ⅱ次(2010) 理文第247集	1～3・6～8号建物	1～3・6～8号倉庫
倉庫群中央北側	24号建物	検査場
	25号建物	22号倉庫
	26号建物	23号倉庫
	S-1・S-2	假倉庫(7号倉庫北)
	S-3	補修工場(8号倉庫南)
MC 第Ⅲ次(2013) 理文第280集	G-1(東側)	自動車庫南壁
第Ⅱ次調査区北側	G-1(西側)	西通用門西壁
MC 第Ⅳ次(2015) 理文第303集	12～14号建物	12～14号倉庫
本部棟周囲	S-4	假倉庫(13号倉庫北)
	円形台座	第二貯水池
	保育所	工員休憩所
	食堂	工員休憩所
	MC 第Ⅴ次(2016) 理文第307集	A 1号建物
倉庫群東側	A 2号建物	本部附属家
	D号建物	補給部事務室
	H号建物	自動車庫
	I号建物	購買部
	J号建物	入札場
	K号建物	検査場
	L号建物	第二食堂・写真室
	I号建物	11号縫靴工場
A U 第Ⅱ次(2015) 理文第303集	15号建物	15号倉庫
工場～倉庫群東側	M-1建物	M-1倉庫
	20号建物	20号倉庫
	22号建物	21号倉庫
	A U 第Ⅲ次(2016) 武蔵文化財研究所	煙突
工場以北	1号建物	原動所
	2号建物	不明
	3号建物	女子浴場・工員休憩所・炊事場
	4～6号建物	購買会・給所所・機械化倉庫・理髪・工場科事務室・廁
	AU 第Ⅴ次(2021) 武蔵文化財研究所	KSB 1
倉庫群東側(AU Ⅱ次南側)	KSB 2	M-2倉庫
	KSB 3	M-1倉庫
	KSSP 1・2	假倉庫(16号倉庫北)

でも戦備充実を図ることとなった。明治35年の条例改正により、被服品の製造が開始され、同41年改正条例においては被服廠の業務の中に下士官の養成(教育)が組み込まれた。これにより、被服品の貯蔵・保管・補給業務から、被服品の製造とこれに携わる下士官の教育へと主眼が移行していった。最終的に昭和20年8月当時の業務内容は、被服品及びその修理器具の購買、製造、修理、貯蔵及び補給を掌り、被服品及びその修理器具の審査、研究並びに試験を行い、又経理部幹部候補生及び経技下士官候補者に対し必要な教育を行うことであった。

被服廠において生産された品目は多岐に亘る(第3表)。およそ兵員が身に付けるもの全てに及ぶが、帽子(鉄帽を含む)・服・靴下・下着・靴の他、日常生活品(寝具類、洗面用具、風呂・洗濯用品、被服手入れ用具)、認識票、防寒・防暑被服、航空用被服、防毒用被服、天幕等々がある。

研究開発した戦用品としては以下のもの等がある。防寒・防暑被服、航空被服・防寒天幕は制式化した。木造機帆船は運航前に終戦となった。原油用油槽(ゴム・綿布)は実用化した。食料品輸送用袋(ゴム)も実用化している。被服移動修理車・汚毒被服処理車も配備された。

・被服本廠の規模・施設

被服本廠の規模・施設に関しては、『岩淵町郷土誌』に昭和4年当時の記録がある。それによると敷地面積約9万坪、建物の建坪約1万6千坪とある。昭和20年における敷地面積は、96,484坪となっている(『新修北区史』)。昭和20年の被服本廠配置図(第13図)、昭和22年の米軍による航空写真などによると、中央部に24棟の倉庫群が整然と立ち並び、北側に本廠本部機能を持つ建物が並ぶ。南側には引込み線とホームがあり、西側には教育部(養成部)、兵器庫からの線路を挟んで西倉庫群が並ぶ。中央倉庫群とホームとは、トロック軌道が構内の補給作業用に網目状に設置され、発送ホームで鉄道貨車に積み込み、赤羽貨物駅に運ばれたとある。北東側にある製造工場は2棟(二階建て)で、階上で被服の縫製、階下では被服生地・皮革の裁断、製靴部門の製甲・中底下・仕上げなどを行っていた。本廠内での製造は軍服と軍靴を主に行っていたが、後には軍服用の生地の裁断作業のみとなり、裁断された材料を民間工場に卸し、縫製加工を委託していたとされる。

以上の様に、本廠内の全体の建物配置などに関してはほぼ明らかになっているが、明治年間の倉庫建設から大正年間の本廠移転、昭和の終戦を経て、米軍の占領時代に至る過程で、敷地の拡大、建物の増改築などの変遷が看取される。以下、各時代の地図・写真などに沿って、追跡してみたい。その前提として、建物の番号に関して、本報告では第13・14図の配置図に拠っている。道合遺跡第Ⅱ次調査報告(丹野 2010)では森谷論文(森谷 1996)中の配置図に拠っており、それ以降の調査でも独自の建物名称・番号を付したものもある。今回の報告ではこれらを統一して修正しておきたい。第15図では調査で検出された建物等、第4表は旧名称・番号と新名称・番号の対比表である。

建物変遷

第114図上：本廠移転前の明治42(1909)年の地図から起こしたものである。現在の団地中央南北道路より東側に建物群が立ち並ぶ。北側を走る板橋街道は西から直線的に走り、現在の団地商店街通り部分を抜け岩淵に至るルートとなっている。6～9・12～14・18～21号倉庫は第13・14図配置図と同じ位置・規模・配置であるが、同図15・16号倉庫の範囲には長軸の向きが異なる建物が2棟ある。大正期の地図などではみられず、明治後半期のみ存在した建物である。赤羽上ノ台遺跡第Ⅱ・Ⅴ次調査で検出されたM-1・2号倉庫がこれにあたる。24号倉庫は昭和期に比して小振

りである。また、18～20号倉庫の三角配置内区には小振りな建物が描かれている。今回の調査で検出された掘立柱建物で、新旧2段階が認められる。排水本管・枝管などの状況からみて、18号倉庫と同時期の建設と思われる。なお、前述した沿革の項で、明治42年末の日記には倉庫群大小21棟…の記載があり、この図の東半部の倉庫数を上回る。これに1～3・22・23号倉庫を加えた数がこの記載に近似する事から、明治42年末には倉庫群の範囲拡張・増築が部分的になされていたものと考えられる。さらに羊毛倉庫新築も同時期である。すなわち、この明治42年地図の測量は倉庫群が東半部のみで済んだ時期に行われたと思われ、作成～印刷の時間幅も考慮すれば、同年の早い時期の測量と推察される。

第114図中：大正6（1917）年の地図から起こしたものである。本廠機関移転の2年前であるが、明治末より行われた西側への拡張・増設および引き込み線が認められる。1～3号倉庫、羊毛倉庫（4・5号）、10・11号倉庫、梱包場などが新設されている。すでにこの年には移転計画は確定しており、8年の移転に向けて拡張・建設が始まる時期である。地図には本部等・工場が建設される範囲—旧板橋街道北側部分は未だ造成などは行われておらず、街道の付け替え前の状況である。この地図測量の後に敷地拡張・道路付け替え工事などが行われたのであろう。なお西側の製造部・養成部が置かれる範囲も空き地となっている。

第114図下：本廠移転から10余年経過した昭和7（1932）年の地図から起こしたものである。本部機能・工場の移転に伴い、北側に敷地を拡張し、旧板橋街道を現在の都道の位置に付け替えている。北側建物は倉庫に比して小形のものが多く、地図上に表記していないものもあり、この図で特定した建物が全てではないと思われる。南側引き込み線脇の假倉庫・荷物整理場も建ち並んでいる。依然、西側は空き地である。

第115図上：昭和11（1936）年の航空写真から起こしたものである。羊毛倉庫（4号）以東の建物はほぼ確認し得た。西側製造部・養成部は未だ建設されていない。

第115図中：昭和19（1944）年の航空写真から起こしたものである。西側の製造部・養成部（教育部）の建物群も立ち並び、最終的な配置が完了している。製造部工場・木工場などが点線表記してあるが、写真には基礎はあるものの、上屋がみられない。空襲による損壊であろうか。

第115図下：昭和20（1945）年の地図から起こしたものである。空襲被害による点線表記の建物が増加しており、特に中央部の倉庫群の被害が大きい。本部棟周囲・西側は地図上に記載されていない建物が多い。

第116図上：昭和22（1947）年の米軍による航空写真から起こしたものである。進駐軍が使用している時期である。昭和20年と大差ないが、中央部の22・23号倉庫が、昭和20年では基礎のみであったが、この段階では上屋が建っている。必要に応じて、基礎を生かしつつ上屋を建てたのであろう。

第116図中：昭和32（1957）年の地図・航空写真を参照して起こしたものである。進駐軍の接収解除の前年である。進駐軍による建物の建築が諸所行われている。東から18～20号倉庫内区はほぼ建物で埋まっている。焼失した20・21号倉庫は再建されている。24号倉庫跡地には4棟の小形建物が並ぶ。19号倉庫北側には小振りな建物が隣接する。13・14号倉庫も再建されている。中央7号倉庫は損壊していたが、建て直し、南側に梁間を延ばして倍にしている。1・6号倉庫間には



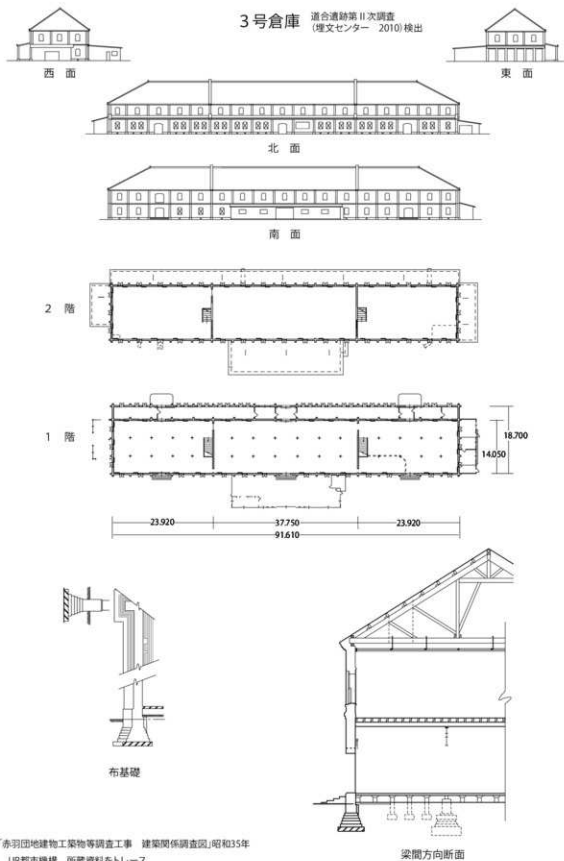
第 114 図 被服本廠建物変遷図 1



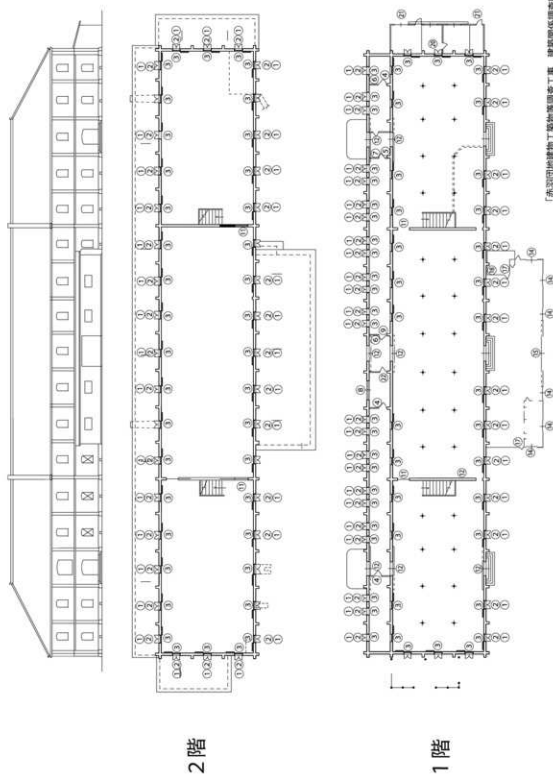
第 115 図 被服本廠建物変遷図 2



第 116 図 被服本廠建物変遷図 3

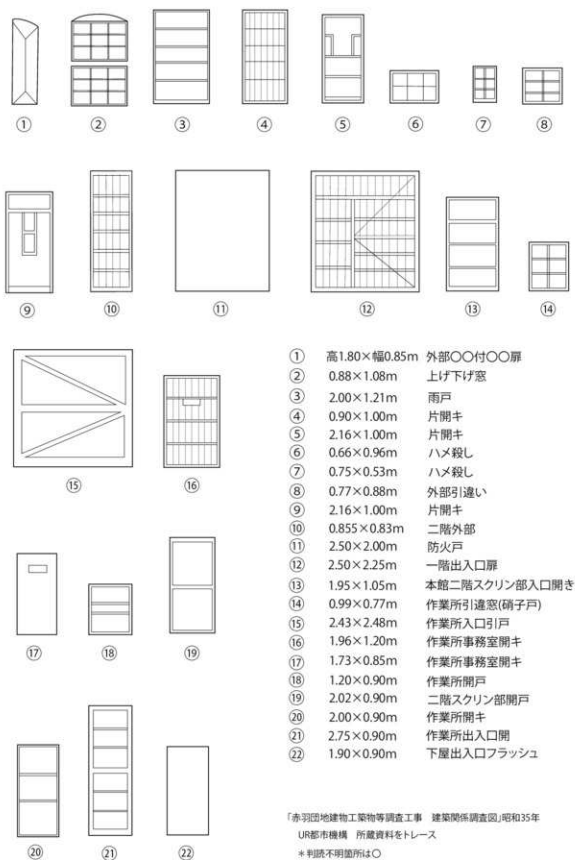


第 117 図 被服本廠建物測量図 1 (3号倉庫 1)



「赤沼田地建物工築地等調査工事 建築関係調査図」昭和35年
 U市都市機構 所蔵資料花トレース

第 118 図 被服本廠建物測量図 2 (3号倉庫 2)

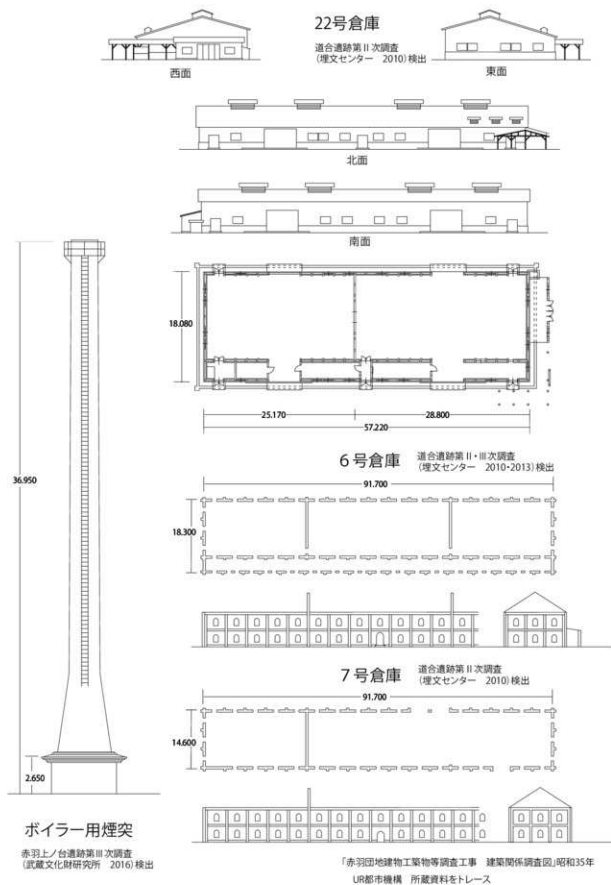


- ① 高1.80×幅0.85m 外部〇〇付〇〇扉
- ② 0.88×1.08m 上げ下げ窓
- ③ 2.00×1.21m 雨戸
- ④ 0.90×1.00m 片開キ
- ⑤ 2.16×1.00m 片開キ
- ⑥ 0.66×0.96m ハメ殺し
- ⑦ 0.75×0.53m ハメ殺し
- ⑧ 0.77×0.88m 外部引違い
- ⑨ 2.16×1.00m 片開キ
- ⑩ 0.855×0.83m 二階外部
- ⑪ 2.50×2.00m 防火戸
- ⑫ 2.50×2.25m 一階出入口扉
- ⑬ 1.95×1.05m 本館二階スクリーン部入口開き
- ⑭ 0.99×0.77m 作業所引違い(硝子戸)
- ⑮ 2.43×2.48m 作業所入口引戸
- ⑯ 1.96×1.20m 作業所事務室開キ
- ⑰ 1.73×0.85m 作業所事務室開キ
- ⑱ 1.20×0.90m 作業所開戸
- ⑲ 2.02×0.90m 二階スクリーン部開戸
- ⑳ 2.00×0.90m 作業所開キ
- ㉑ 2.75×0.90m 作業所出入口開
- ㉒ 1.90×0.90m 下屋出入口フラッシュ

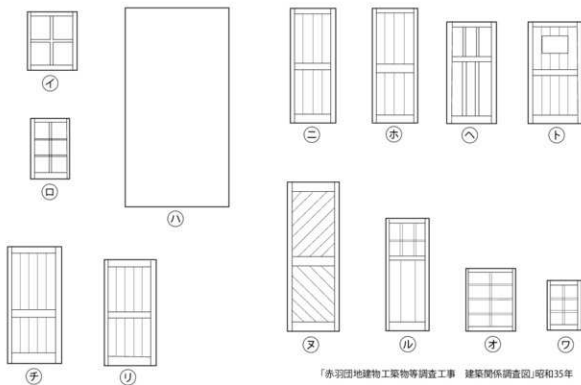
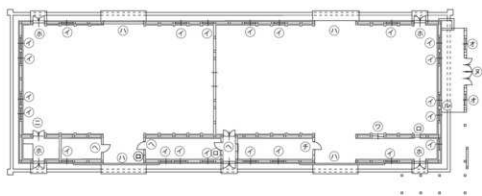
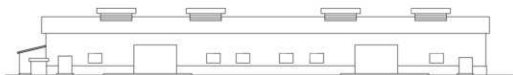
「赤羽団地建物工築物等調査工事 建築関係調査図」昭和35年
UR都市機構 所蔵資料をトレース

*判断不明箇所は〇

第 119 図 被服本廠建物測量図 3 (3号倉庫 3-扉・窓)



第120図 被服本廠建物測量図4 (6・7・22号倉庫、煙突)



「赤羽団地建物工業物等調査工事 建築関係調査図」昭和35年
UR都市機構 所蔵資料をトレース

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| ① 高1.07×0.865 外部 窓 | ④ 2.03×0.906 内部片開戸 |
| ② 1.07×0.68m はめ殺 窓 | ⑤ 1.87×0.91m 内部片開戸 |
| ③ 3.51×1.83m ハンガードア両面鉄板 | ⑥ 2.64×0.87m 外部4枚開戸 |
| ④ 2.06×0.78m 内部両開戸 | ⑦ 2.00×0.72m 外部開戸 |
| ⑤ 2.05×0.79m 外部両開戸 | ⑧ 1.07×0.90m 外部引違戸 |
| ⑥ 1.80×0.85m 内部片開戸 | ⑨ 1.07×0.70m 内部引違窓 |
| ⑦ 2.02×0.908m 内部片引戸 | |

第121図 被服本廠建物測量図5 (22号倉庫)

★倉庫クレーン作業



③養成部（後の教育部）



理化学試験室



★① 正門



被服品検査場



引き込み線

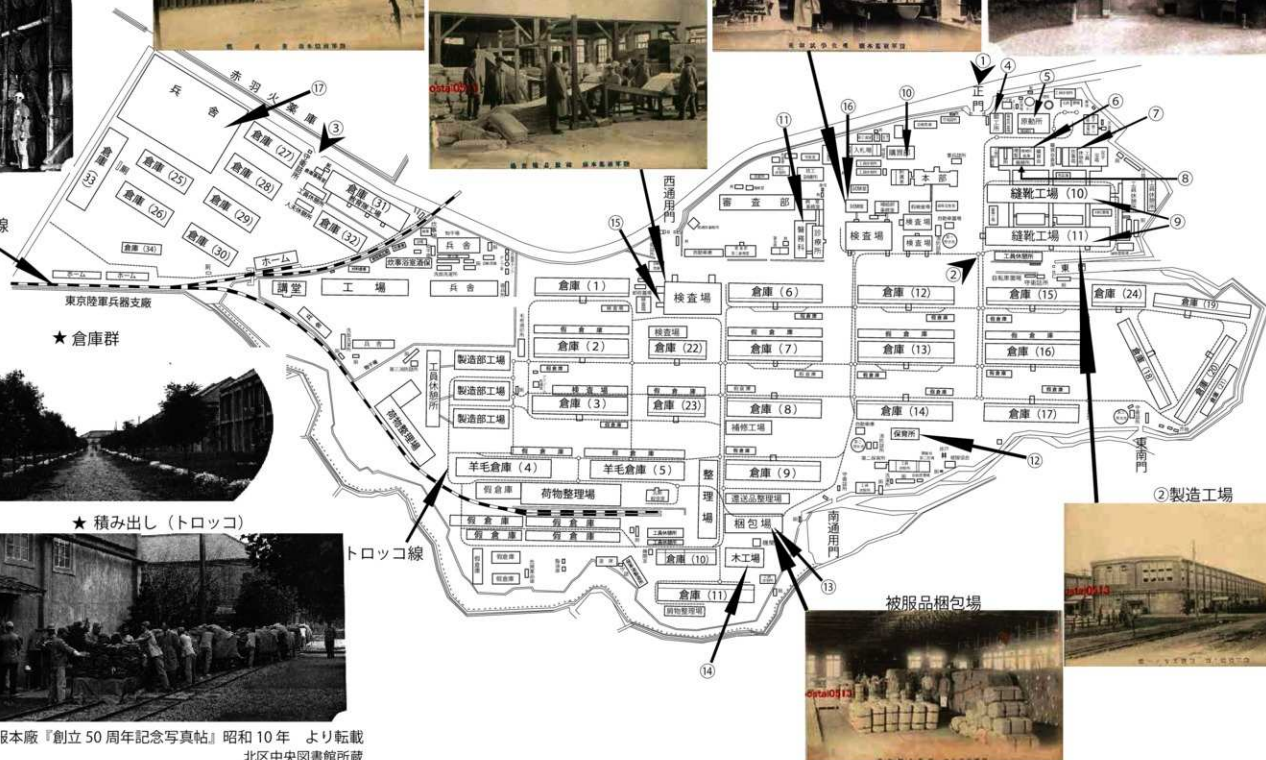
★倉庫群



★積み出し（トロッコ）



★：陸軍被服本廠『創立50周年記念写真帖』昭和10年より転載
北区中央図書館所蔵



第122図 被服本廠 写真1

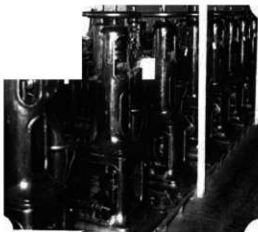
④ 鍛工場



⑤ 原動所



⑥ 機械格納室



⑦ 炊事場



⑧ 搗精所



⑨ 裁縫工場



裁縫裁断工場



陸軍被服本廠『創立 50 周年記念写真帖』昭和 10 年より転載 北区中央図書館所蔵

第 123 図 被服本廠 写真 2

製靴工場



製靴裁断工場



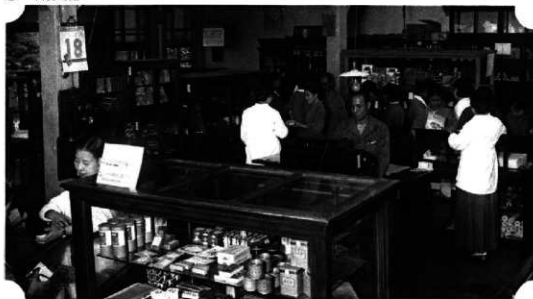
甲革張込機



蒸気仕上機



⑩ 購買部



陸軍被服本廠『創立50周年記念写真帖』昭和10年より転載 北区中央図書館所蔵

第124図 被服本廠 写真3

⑪ 診療所



調剤室



X線室



外科・内科



歯科治療室



病室

⑫ 保育所



⑬ 圧搾梱包



陸軍被服本廠『創立50周年記念写真帖』昭和10年より転載 北区中央図書館所蔵

第125図 被服本廠 写真4

⑭ 木工場



⑮ 綿布類検査



皮革類検査



製品検査



⑯ 織物化学試験



皮革化学検査



黴研究



蟲研究



陸軍被服本廠『創立 50 周年記念写真帖』昭和 10 年 より転載 北区中央図書館所蔵
第 126 図 被服本廠 写真 5

⑰ 養成部



教練



学科



兵舎



靴工科



縫工科



工員休憩所



運動会



櫻花時の正門



従業員花見

陸軍被服本廠『創立50周年記念写真帖』昭和10年より転載 北区中央図書館所蔵

第127図 被服本廠 写真6

検査場があったが、ごく小さい建物2棟とボイラー用煙突が建っている。1号倉庫も北側に拡充している。西側の工場と兵舎が連結して長い建物となっている。西門東側では建物配置が本廠時代とやや相違し、焼失家屋跡地に新たな建物を建てたと思われる。また航空写真によれば、8号倉庫～木工場の範囲、製造部工場の範囲、北側検査場以北は駐車場となり、車両（車種不明、戦車駆体か？）が整然と並んでいるのが看取される。朝鮮戦争のバックヤードとして、主に戦車の修理工場として機能しており、近隣・河川敷などで試走していた。

以上、明治期～昭和期の進駐軍時代までの被服本廠建物群の変遷を追ってみた。赤羽倉庫時代、明治末期の拡張・増設、本部移転に伴う拡張・増設、昭和期の戦局悪化に伴う空襲被害、終戦以降の占領軍時代など、建物・敷地の時期的な流れは大まかに把握し得たと考える。

昭和33年の接収解除後、当時の日本住宅公団への土地払い下げ、赤羽台団地建設の過程の中で、造成工事の前段階として、残存していた倉庫などの棄却が行われたが、その際に、残存建物・基礎の測量が実施されている。UR都市機構に所蔵されている資料には3号倉庫・22号倉庫の詳細な測量図があり、今回、同機構のご厚意により、参考資料として掲載した（第117～121図）。平面・立面図の他に電気配線図など、精緻に亘るが、今回は建物規模・構造（窓・扉などを含む）が分かる図を抽出した。図中の「煙突」については、基礎は赤羽上ノ台遺跡第Ⅲ次調査で検出されているが、上部構造は、被服本廠とほぼ同時代の「東京砲兵工廠銃砲製造所」（北区十条）の建造物調査報告からの引用である。

この測量図にある3号倉庫は大形の倉庫であるが、調査で検出された他の倉庫群の基礎構造・規模も同一であり、渡り廊下の配置が南北逆転するのみであった。

構造

以上、地図による建物配置の変遷をみたが、構造（基礎構造も含む）に関しては同時代に建設された同じ北区内にある現在の陸上自衛隊十条駐屯地—旧陸軍東京砲兵工廠銃砲製造所の建物が参考になる。同製造所は、小石川地区に分散していた製造所を明治38年、十条に集中移転させたもので、同年に建築、大正・昭和年間にも増築・改築が施されている。これらの建物の取り壊しに先立ち、平成5～7年に建造物調査が実施され、詳細な報告がなされている（初田 1996）。報告書には建物の実測図も掲載され、明治～昭和にかけて建築された建物構造の時代別変遷などが論及されている。その中の建築技術の変遷（同書62～72頁）では、製造所内建物の構造・基礎・煉瓦積みなどから構造形式を纏め、建築年代別の特徴を抽出している。以下、構造形式と時代別変遷を列挙する。

構造形式	木骨煉瓦造	煉瓦壁頂部の小屋組、側柱・間内柱が木材
	鉄骨煉瓦造	煉瓦壁頂部の小屋組、側柱・間内柱が鉄骨
	煉瓦造	外壁側（煉瓦壁）頂部に小屋組を直接乗せている。
時代	明治	木骨煉瓦造が基本で、高温を発する用途を持ったものは小屋組が不燃材である鉄骨煉瓦造
	大正	鉄骨煉瓦造が基本で、電気・火薬を取り扱う電触防止の用途を持ったものは木骨煉瓦造。
基礎構造	明治	煉瓦造布基礎（下部に無筋コンクリート）
	大正	鉄筋コンクリート独立基礎（下部にコンプレッソル杭・松丸太杭など）

以上の変遷が認められるとしている。これらの解析は、同時代に建設された周辺の陸軍諸施設を分析する上での指針となるものであり、被服本廠建物にも応用できるであろう。ちなみに、明治時代のM-1・2号建物は、無筋コンクリート基礎の上に煉瓦を乗せている。また、22・23号倉庫、縫靴工場はコンクリート基礎構造である。その他の倉庫は煉瓦造布基礎構造となる。各建物基礎には煉瓦を巻くように鉄筋コンクリートが付随しているが、これは関東大震災後の補修・補強である。

なお、昭和32年の地図および31年の航空写真にある円形の構造物は、鋼製煙突と思われる。これは銃砲製造所に4基あった煙突と同じもの（報告書図4-13参照 初田 1996）であり、明治28年の同所建設の際に建てられたものである。被服本廠時代の地図にはそれに該当する記載はみられないが、米軍接収解除の時には間違いなく銃砲製造所と同じ煙突が立っていた。

最後に、被服本廠内の建物で、煉瓦造り倉庫以外の建物に関して、その規模が判明したものがある。「陸軍被服本廠臨時構築物調査 図面」に掲載されているもので、主に西・南側の倉庫・假倉庫・検査場・工員休憩所、北側の小規模建物などである（第128図）。図面は床平面図のみであり、上屋構造は一部記載があるのみである。主な建物は再トレースして第129～133図に掲載した。なお、この調査が作成された年代は記載がなく、詳細は不明であるが、この中に「タイムレコード置場」の図面が記載されている。このタイムレコードに関しては、昭和20年の被服本廠会報録（廠長・各部の部長による会議議事録）の同年8月30日の記述に、米英語の禁止解除とともに、「明日ヨリ従業員ノ出勤ハ新タニ「タイムレコード」ニ拠ル…（後略）…」とあり、昭和20年9月から実施されたと考えられる。この調査にタイムレコード置場の図面が掲載されている事から、この期日以降に作成された可能性が高い。9月には米軍が被服本廠に進駐しており（期日不明）、この調査が進駐直前のものか、進駐軍主導のものか不明ではあるが、少なくとも終戦後である事は確かであろう。引き渡しに関連する資料の一部であろうか。以下、建物に関して概観する。なお、図面には桁行・梁間の間数の記載のみで、実寸は不明である。一つの手がかりとして、7号倉庫北側に隣接する假倉庫（59）がある。桁行50間×梁間5間となっている。この建物は、道合遺跡第Ⅱ次調査で検出されたS2号建物が該当する。梁間と桁行の柱間はそれぞれ1.8mと2.7mで、桁行1間は梁間1.5間となる。桁行は東側が未確認のために全長が不明であるが、梁間は9mと判明している。この梁間の柱間1.8mがおおよそこの調査の1間の実寸に相当するものと思われる。50×5間は90m×9mとなる。この假倉庫は7号倉庫と桁行が同じであり（第13・14図より）、7号倉庫の桁行91.6mにほぼ近似する。以上の事からこの調査の建物の間数は1間1.8mで換算できるとと思われる。

養成（教育）部建物（西側倉庫群）

・25～34号倉庫・倉庫事務室・工員休憩所・入夫休憩所・ホーム

25～29号倉庫（第128図中1～5）は同一規模で、桁行30間×梁間10間である。南側に渡り廊下（幅2間）がみられる。出入口は桁行左右7間から2間、南北に計4か所設置されている。床は板張りである。

30号倉庫（6）は、全体規模は25号などと同様であるが、渡り廊下の幅が1.5間と狭くなっている。床は板張りである。また、出入口が渡り廊下側に2か所となる。

31号倉庫（7）は、44間×11間で、渡り廊下（幅2間）が付く。床は板張りである。出入口は廊下側3か所である。

32号倉庫(8)は、28間×10間で、渡り廊下(幅1.5間)が付く。床は板張りである。出入口は廊下側に1か所(西寄り)となる。

33号倉庫(9)は、49間×12間で、渡り廊下(幅2間)が付く。床は板張りである。出入口は廊下側2か所で中央と南側に片寄る。

34号倉庫(10)は、この一群の中では小形の建物である。20間×6間で、床は板張りである。出入口は桁行に2か所×2で4か所である。

倉庫事務室(11)は、6間×3間で、西側に小便室が設置されている。床は事務室が板張り、小便室はコンクリート叩きである。出入口は南側桁行中央に1か所である。

工員休憩所(12)は、12間×4間で、床板張りである。出入口は南側桁行に2か所設置している。

人夫休憩所(13)は、10間×3間で、土間である。出入口は南側桁行に2か所設置している。

ホーム(14)は22間×6間で床板張りである。片側がスロープになっている。

製造部建物

・製造部工場・工員休憩所・荷物整理場・毛皮焼印所

3棟並ぶ工場と西側の工員休憩所はそれぞれ渡り廊下で繋がっている。工場(16～18)は30間×10間で、床板張りである。出入口は桁行に3か所、梁間に2か所の計10か所である。渡り廊下はそれぞれ工員休憩所側の南出入口に設置されている。

工員休憩所(19)は工場の西側に位置する。40間×7間で、出入口は桁行に4か所×2で8か所あり、東側の3か所は工場への渡り廊下が付く。

荷物整理場(20)は引き込み線に沿って設置されている。20間×10間で、床板張りである。出入口は4面にそれぞれ2か所、計8か所である。

毛皮焼印所(21)は2号倉庫の西側に位置する。9間×3間で、床はコンクリート叩き、屋根・内外壁は亜鉛鍍鉄板で覆っている。

南側補給部建物

・假倉庫・工員休憩所・屑物整理場・木工場

引き込み線北側荷物整理場の西側に接続している假倉庫(22)は、23間×6間で、土間である。壁部分の表記が点線となっており、柱(2間ごと)と屋根のみで、壁はない建物と思われる。屋根は亜鉛鍍鉄で葺いている。搬出入荷物の仮置き場と考えられる。

線路終着の南側に2棟×2棟が近接して設置された假倉庫は、線路際の23・24が壁なしの建物で、23が32間×6間、24が50間×6間の規模である。土間で屋根には亜鉛鍍鉄板が葺かれている。23の南側に隣接する25は、38間×6間で、土間造りであるが壁は建てられている。屋根は亜鉛鍍鉄板葺きである。桁行に南北それぞれ対応するように出入口が設けられているが扉が無く、オープンになっている。西側の開放口にはトロッコが通っていたと思われる。23の西端をも抜け、南北に線路が延びている。24の南側の26は24と同規模であるが壁立てである。屋根は同じく亜鉛鍍鉄板葺きである。出入口は桁行にそれぞれ4か所の計8か所みられる。

25南側の27は、15間×6間、土間で屋根は亜鉛鍍鉄板葺きである。開放口が4か所設けられる。その南側の28は、18間×6間、土間で屋根は亜鉛鍍鉄板葺きである。南側に開放口が2か所付く。

11号倉庫の南側にある屑物整理場(30)は、20間×5間で、床板張り、内外壁は板張り、屋根

は亜鉛鍍鉄板葺きである。出入口は、桁行にそれぞれ2か所、梁間にそれぞれ1か所の計6か所付く。

木工場(31)は、20間×10間、床は板張りである。出入口は桁行に各3か所の計6か所付く。

その南側の工員休憩所(32)は、8間×5間で床はコンクリート叩きである。出入口は2か所付く。

北側製造部建物

・工員休憩所・電工作業場・炊事場・鍛展工場・材料置場・屑物整理場

最北端の工員休憩所(33)は、12間×5間で、床はコンクリート叩きである。出入口は4か所設けられる。

東端の工員休憩所(34)は、17間×4間で、床は板張り、出入口は西側桁行に3か所ある。

電工作業場(35)は、11間×4間で、床はコンクリート叩きである。出入口は計4か所ある。

炊事場(36)は、既存の西側に増築している。9.5間×3.5間で床はコンクリート叩きである。北側に2×2間の区画を2か所設けている。北側が板張り、南側がコンクリート叩きである。カマド関連設備であろう。東側に既存炊事場との出入口、南北・西側に1か所ずつの出入口が付く。

鍛展工場(37)は皮革の鍛を延ばす工場である。9間×5間で、床・壁は板張り、屋根は亜鉛鍍鉄板葺きである。内部の点線範囲は「鍛展機」である。北側の工場へと繋がる廊下が設けられ、出入口は東・南側にそれぞれ付く。

材料置場(38)は12間×4間で、床・壁は板張り、屋根は亜鉛鍍鉄板葺きである。出入口は北・東・南に3か所設けられる。

屑物整理場(39)は、8間×3間で、床・壁は板張り、屋根は亜鉛鍍鉄板葺きである。天井は無い。出入口は東・南側に2か所設けられる。

北側本部棟周囲建物

・第三食堂・運送人詰所・商人詰所・憲兵詰所・工員休憩所・検査場

第三食堂(40)は「筆生食堂」とある。8間×4間で床はコンクリート叩きである。出入口は南側に2か所設けられる。

運送人詰所(41)は、4間×3.5間で、床はコンクリート叩きである。出入口は南北に2か所ある。

商人詰所(42)は、5間×4間で、2室に隔てられている。東側に2間幅の運送人詰所、西側に3間幅の商人詰所である。床はコンクリート叩きである。

憲兵詰所(43)は、5間×3間で、3部屋に分かれる。西側に1.5間幅で詰所、中央は1.5間幅の畳部屋で押し入れを有す。西側は2間幅の面会所である。左右の部屋はコンクリート叩きである。

工員休憩所(44)は隣接して2棟ある。13間×3間で、床はコンクリート叩きである。出入口は南北にそれぞれ2か所付く。

検査場(45)は、同規模のものが2棟並び、西側に大きいものが1棟ある。図面は前者である。13間×8間で、床・壁は板張り、天井は無く、屋根は亜鉛鍍鉄板葺きである。

審査部周囲建物

・第二食堂・医務科・自動車庫

第二食堂(46)は、10間×6間で、床はコンクリート叩きである。出入口は桁行片側に2か所ある。おそらくは東側と思われる。

医務科(47)は、20間×5間で、中央に廊下を設け、東西に部屋が区画される。廊下は東側の診療所、

北側の病室事務室に繋がる。東側の区画は、北から病室4室・待合室、廊下を挟んで内科がある。西側区画は、北から治療室、診断室、洗面所、病室2室、看護室、外科となる。治療・診断・内科・外科室の床はリノリュームで、洗面所はコンクリート叩き、他は板張りである。

自動車庫(48)は、20間×4間で、北・東西は壁立て、南側は車の出入りのため、全面引き戸になる。内部西奥に2間×1.5間の詰所がある。コンクリート叩きで、詰所は板張りとなる。

南通用門付近建物

・第二保育所・工員休憩所・南門守衛詰所

第二保育所(49)は、南北に長い1棟に東西に長い1棟を増設して渡り廊下で繋いでいる。両者とも6間×3間で、畳敷きである。出入口は梁間に1か所ずつ付く。廊下は1間幅である。

工員休憩所(50)は、10間×5間で、床はコンクリート叩きである。出入口は桁行2か所×2、梁間1か所×2の6か所付く。

南門守衛詰所(51)は、2間×1間で、床はコンクリート叩きである。

中央倉庫群

・検査場・補修工場・假倉庫

西通用門に近い検査場(53)は、30間×17間で、床は板張りである。出入口は各2か所×4の8か所が認められる。その西側の小形の51は、9間×8間で、床・壁は板張りである。出入口は南側1か所、西側2か所が付く。その南側の55は、20間×6間で、床・壁は板張りである。出入口は南側1、北側2、東西1の5か所である。西側の小形の53は15間×4間で、床・壁は板張りである。出入口は南北2か所ずつの4か所付く。

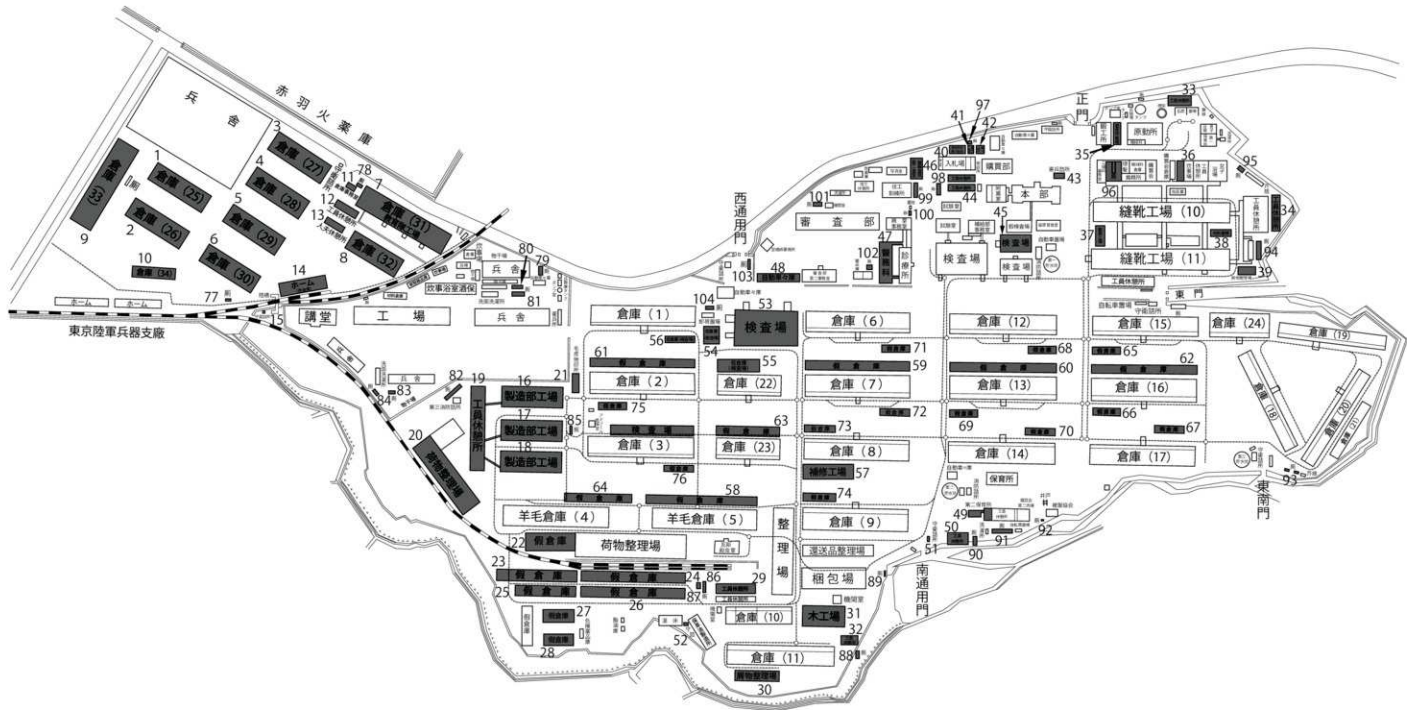
補修工場(57)は、20間×6間で、床・壁・天井は板張りである。南東隅に3×3間の事務室が設けられる。出入口は南2、東西1ずつの4か所付く。

假倉庫は、煉瓦造り倉庫の北側に隣接して、桁行を同じ全長にしたものが配置され、南側に規模の小さいものが配される。周囲・隣接する建物などの関係からか、桁行・梁間に相違がみられるものもある。桁行の長いものは、羊毛倉庫(5号倉庫)北側の58で、55間×5間である。床・壁は板張りである。出入口は桁行3か所×2の6か所である。次に7号倉庫北側の59で、50間×5間である。前述したように、第Ⅱ次調査で検出されたS2号建物跡が該当する。床・壁は板張りである。出入口は南北2か所ずつ、西側1か所の5か所に認められる。13号倉庫北側の60は、49間×5間で、東側に床板張りの区画が2室ある。東端が幅2間、その西側に幅9間である。その西側は土間となっている。2・16号倉庫北側の61・62は49間×5間で、土間である。出入口は桁行に3か所×2の6か所設けられる。

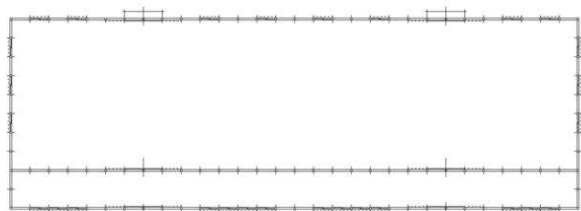
中規模のものは、23号倉庫北側の63、羊毛倉庫(4号倉庫)北側の64である。63は30間×5間で、床・壁は板張りである。出入口は桁行3か所×2の6か所である。64は29間×5間で、床・壁は板張りである。出入口は桁行に2か所×2で4か所である。

小規模のもの(65～76)は、15間×4間で、土間である。11棟建つが、その全てが同一規模・内装であるかは詳らかではない。床板が無く、土間構造であることから、その名のとおり、仮置き施設なのであろう。

廁

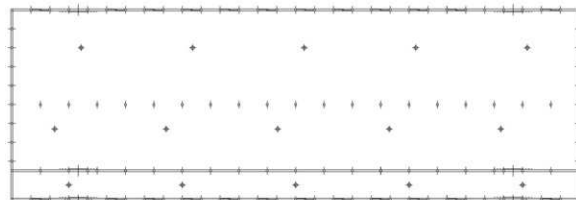


第 128 図 被服本廠臨時構築物調査全体図

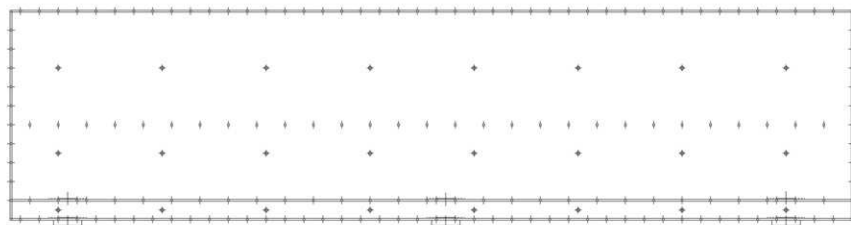


1~5 25・26・27・28・29号倉庫(補給部) 31~35 18m×54m

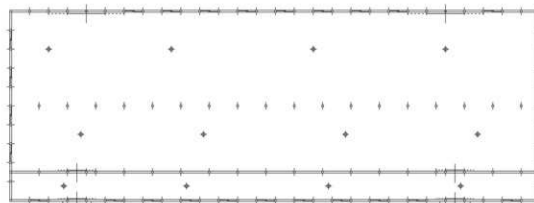
※「陸軍被服本廠臨時構造物調書(図面)」件番号, 以下同じ



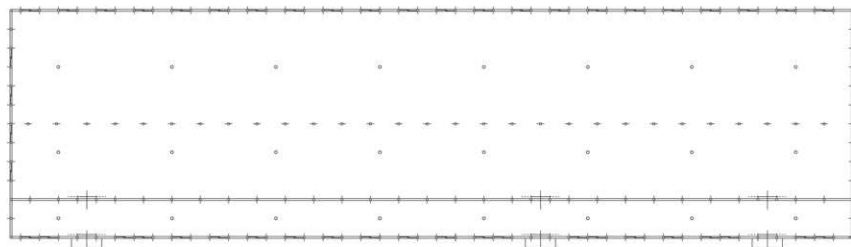
6 30号倉庫(補給部) 86 18m×54m



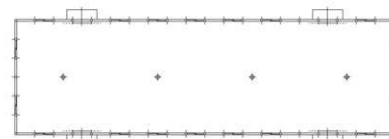
7 31号倉庫 87 19.8m×80.1m



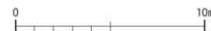
8 32号倉庫 88 18m×50.4m



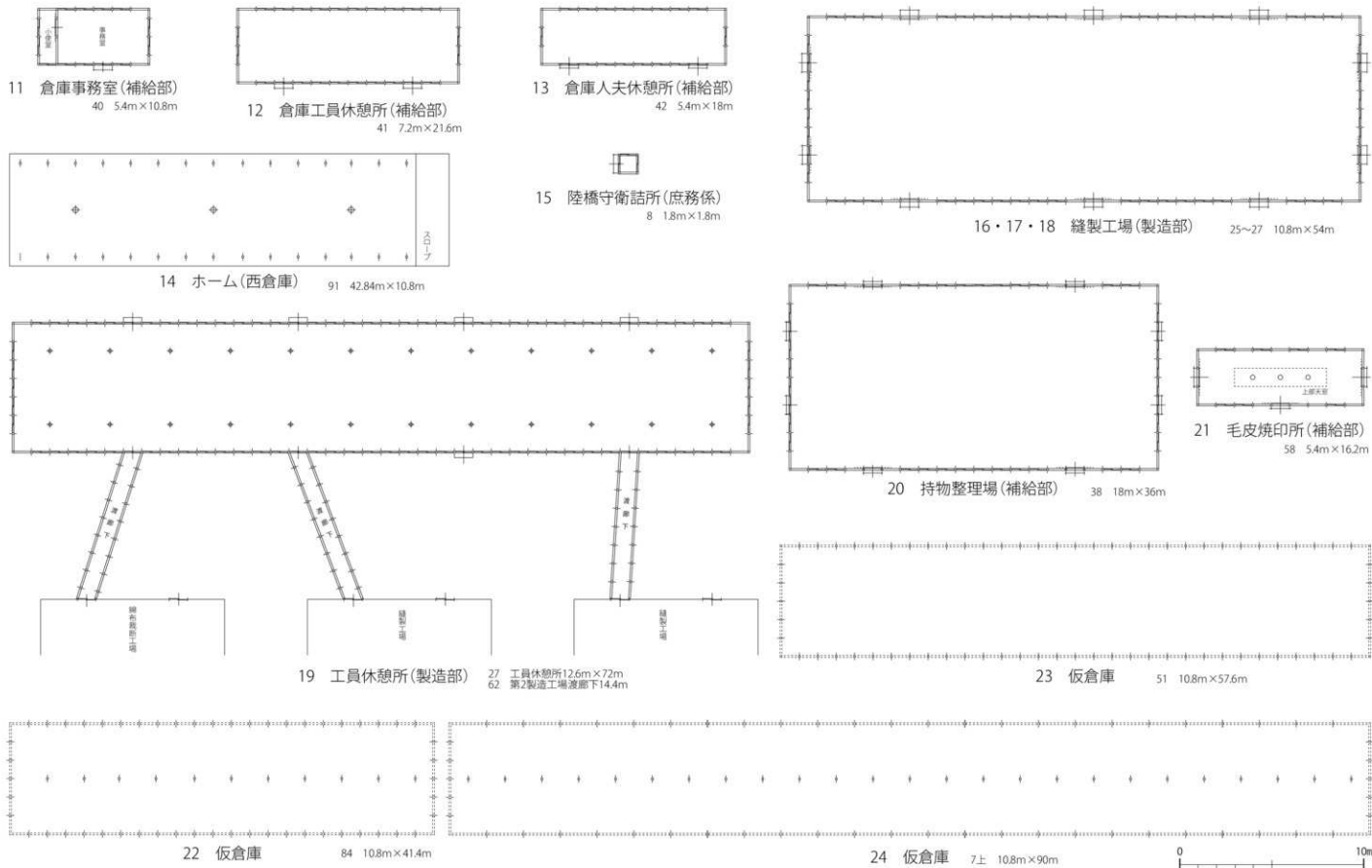
9 33号倉庫 89 21.6m×80.1m



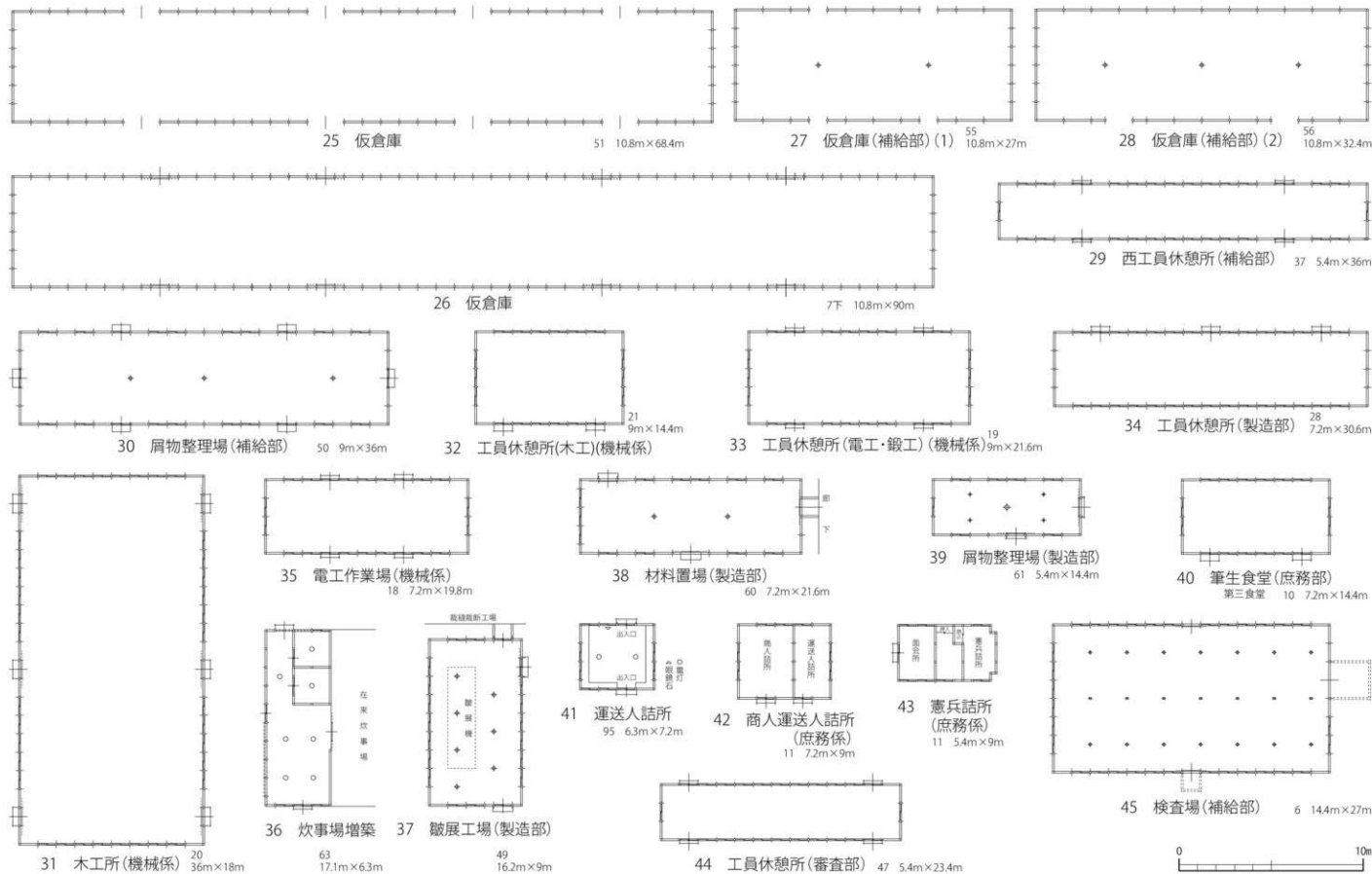
10 34号倉庫 90 10.8m×36m



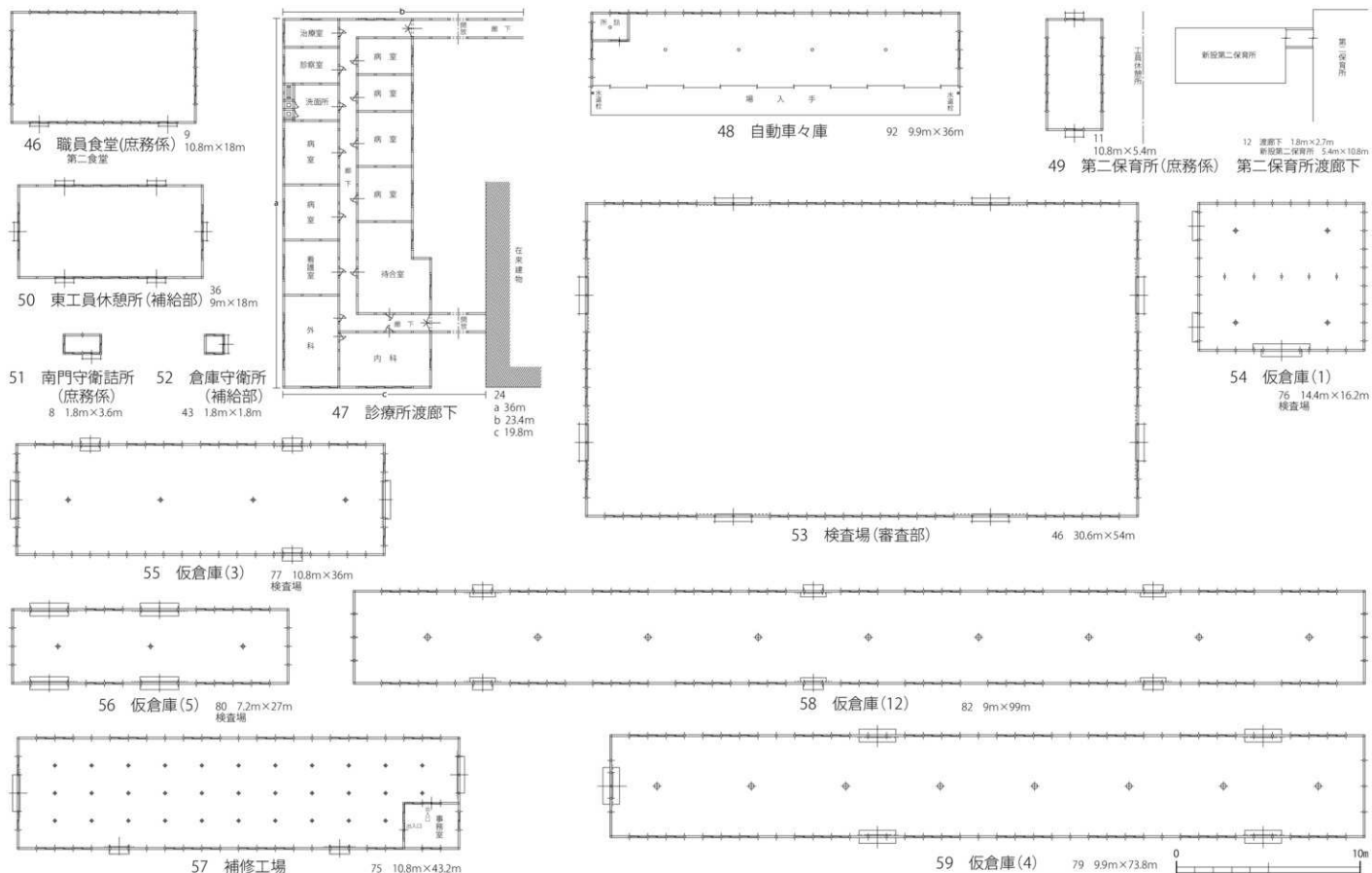
第129図 被服本廠臨時構造物1



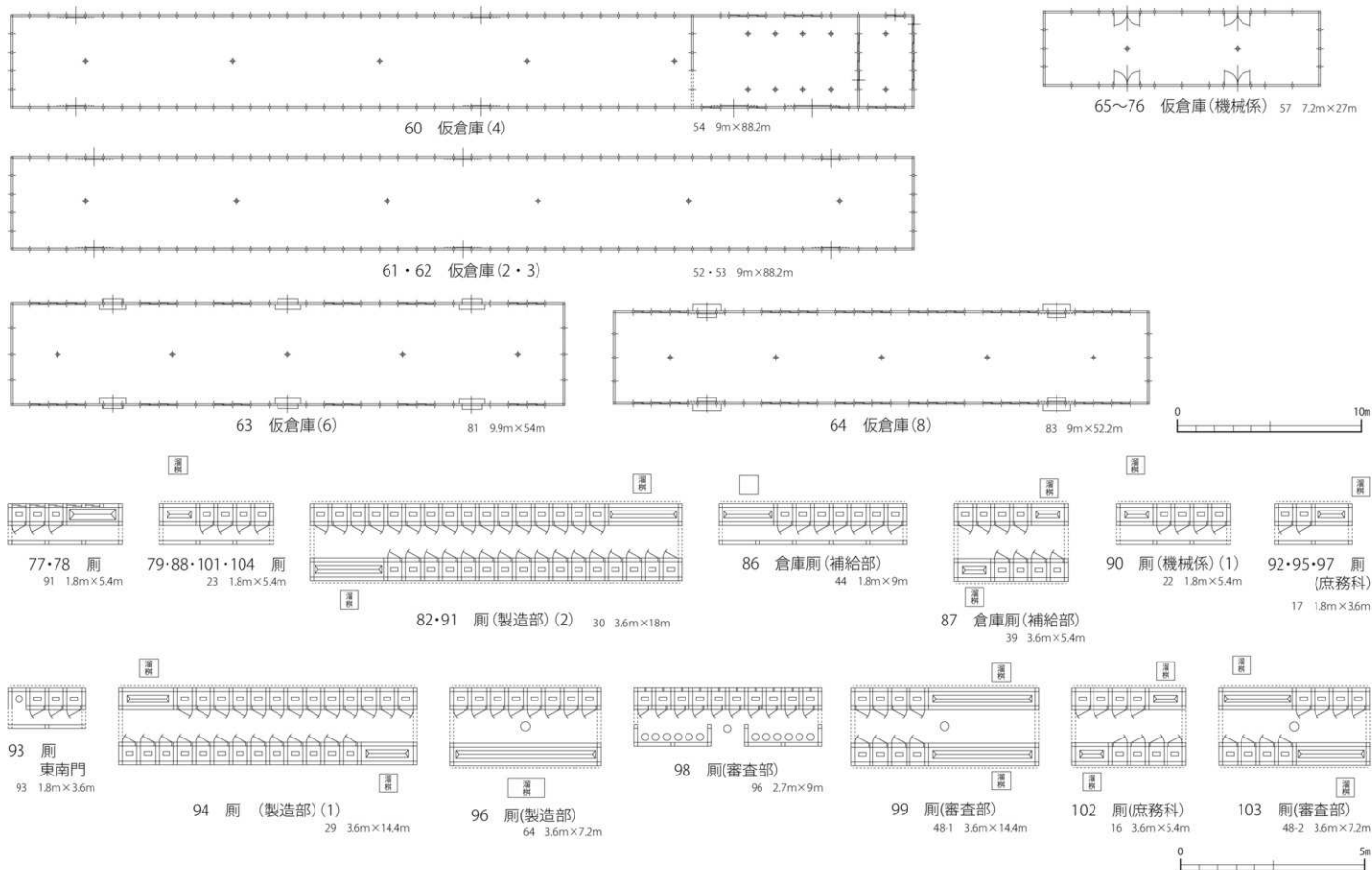
第 130 図 被服本廠臨時構造物 2



第131図 被服本廠臨時構造物3



第 132 図 被服本廠臨時構造物 4



第 133 図 被服本廠臨時構造物 5

いわゆるトイレである。配置図からは28か所(77～104)確認された。中央倉庫群にはみられないが、その他の部署には相応の数が設置されている。規模は様々で、基本構造として、中央通路を挟んで両側に設置するものと片側のみのものである。以下、タイプ別の規模・構造である。

両側タイプ

a : 個室 16 + 小便溝 × 2	10 間 × 2 間
b : 個室 13 + 小便溝 × 2	8 間 × 2 間
c : 個室 4 + 小便溝 (長い)	5 間 × 2 間
d : 個室 10・小便器 6 × 2	5 間 × 2 間
e : 個室 8・小便溝	4 間 × 2 間
f : 個室 4 + 小便溝 × 2	3 間 × 2 間

片側タイプ

g : 個室 7 + 小便溝	5 間 × 1 間
h : 個室 4 + 小便溝	3 間 × 1 間
i : 個室 3 + 小便溝	3 間 × 1 間
j : 個室 3 + 小便器 1	2 間 × 1 間
k : 個室 2 + 小便溝	2 間 × 1 間

基本的に、男女別の廁は無く、共用であったと思われる。個室の数が多く、小便用溝と併設されており、男女共用であったと推測される。個室に男女別があったかは図面には記されており、不明である。男子の小用部は、個別便器のものは少なく、溝状の部分で用を足していた。戦後の昭和時代には公園などのトイレによくみられたタイプである。外部に溜槽が設置されており、そこに流れる仕組みと思われる。全体的に個室の数が多いため、被服本廠で働く女性の割合が多かった事によるものであろう。構造をみると、製造部廁(a・b)は圧倒的に個室が多く、小用は付け足しの感がある。製造部でもeは男女の割合が拮抗している。審査部のcは男子用の割合が多い。それ以外は拮抗しているか女子用が凌駕している傾向である。

以上、調査の図面から建物を概観したが、引き込み線終点周囲の建物の様相が明らかになった。線路添いの假倉庫が壁無し建物の基礎構造を持たないものであり、今回の調査で検出されなかった理由が判明した。当時の地表より1～1.5m下まで削平が及んでおり、これら建物の地中施設は柱穴のみであることから、その痕跡も消滅していたと考えられる。また診療所の詳細な間取りなど一部であるが判明した。明治44年に医務室の拡充・増築を行っており、西側の病棟・診察室、東側の検査室・調剤室などが完備されており、その後の間取りであろう。炊事場も増築されており、職員・工員の増加に伴う措置であろう。

この調査は終戦後の作成と思われるが、図面の無い建物も多く存在する。その要因として、空襲による消失・損壊で図面起こしが不能であったとも考えられる。

煉瓦造り倉庫に加え、中・小規模建物の様相が少なからず明らかになった事は、今後の被服本廠の分析の一助になるものと思われる。

これまで被服本廠建物の変遷・構造をみてきたが、本遺跡(道合・赤羽上ノ台遺跡)の調査は今回でほぼ終了となる。これまでの成果として纏めてみたが、不明な点が多く、すべての点で解明できたとは言えない。今後は集積された限定資料を基に、さらなる分析を行う事が肝要かと考える。

D 出土遺物概観(集成)(第134～204図)

本項では、今回を含めこれまでの調査、すなわち、道合遺跡第I～IX次、赤羽上ノ台遺跡第I～VI次調査で出土した近現代遺物(被服本廠関連—明治22～昭和20年、進駐軍関連—昭和20～33年、赤羽台団地造成工事関連—昭和35～37年)に関して、種別ごとに集成し、それを概観する。集成には主な器種を掲載しており、省略したものもある。各遺物の出土調査年次・掲載頁などは一覧に纏

めてある。

1 陶磁器類 (第 134～157 図)

出土した陶磁器類には以下のものがある。湯呑碗・蓋、飯碗、丼・蓋、碗、皿、鉢、カップ・ソーサー・ポット、徳利、猪口、土瓶・急須、羽釜・雪平などである。

湯呑碗・蓋

形態的には、筒形、半筒形、コップ形、丸形、ダルマ形などがある。軍用食器は筒形で、器高の高いものと低いものとがみられる。軍用以外では、各種形態があるが、丸形が主体を占める。特に第 135 図 22～33 が多く、同一器種が多数検出されている。時期的には 20 世紀第二四半期が主体を占めるが、丸形の中には 19 世紀第四四半期～20 世紀第一四半期の所産のものもみられる。

蓋は、各形態の湯呑に対応するものがみられる。

飯碗

軍用食器の飯碗は、二重圏線を有し、丸に五芒星、「被購食堂」「陸軍被服本廠」などの文字が入る。それ以外のものは、形態的に A～E 類に分類されるが、主体となるのは D 類とした、わずかに丸味を帯びながらも直線的に開く深い体部を有すものである。20 世紀第二四半期を中心とする。

丼・蓋

飯用と麺類用とがある。それぞれ、軍用食器およびそれに準ずるものとそれ以外のものがある。

飯用の軍用食器は、飯碗と同様に、二重圏線が巡り、丸に五芒星、「被購食堂」「陸軍被服本廠」などの文字が入る。遺物の項で触れたように、器面に入る文字などには種類がある (第 43 図右下)。

①青字の「被服本廠購買部」(青枠付き)、②青字の「被購食堂」、③緑字の「被購食堂」、④緑字の「陸軍被服本廠」などである。②～④にはそれぞれ丸に五芒星のマークが付される。③には生産者標示記号(統制番号)が付されるものもあり(「瀬」)、④は「岐 260」が入る。生産者標示記号は昭和 16 年からとされており、この記号入りのものは昭和 16～20 年の所産と考えられる。記号のないものはそれ以前の生産品となろう。③には記号のあるものと無いものがあり、統制陶器生産開始前後の所産と思われる。文字の色からみて、③・④が緑、①・②が青であるが、記号の有無から考えて、④が新しく、③がその前段階と考えられるので、③と同じ文字の②がその前段階、①がそれ以前と判断する。すなわち①～④へと変遷するものと考えられる。使用痕と思われる器面の傷をみるに、①が最も多く、④は非常に少ない。これは使用年数の差違と思われ、この変遷は傷の多寡にも比例しよう。赤羽の被服廠は明治 22 年に倉庫が建てられ、明治末期の大規模拡張を経て、大正 8 年の本部移転があり、それらに伴って人員の拡充もなされたであろう。①は出土数が少なく、②がそれに続き、③が最も多く、③の一部と④はそれに続く。④は昭和 16～20 年の生産と限定されており、それ以前、明治～昭和 15 年の期間に使用されていた食器の量に比較して、少ないと思われる。大まかには①は明治期、②は本部移転以降、③の記号無しが昭和の段階であろうか。なお、この他に、丸に六芒星を付したものが確認されている。これが付くものは須らく「岐 49」の記号が認められる。昭和 16 年以降の所産となるが、五芒星ではなく、六芒星であり、その由来・根拠など不明な点が多い。岐阜県多治見市の共垂製陶のものであり、この工場製品には第 43 図 4 の「鳥マーク」を有すものが認められている。このマークは「岐 260」(岐阜県笠原町一山五製陶所)の製品にも使用されている。これは陶磁器生産の統制が進む中、生産各地の陶磁器組合の統合が進み、一定程度の広範囲に組合が統一

された時期にその組合のマークとして使用された可能性がある（窯元は生産者標示記号で判別）。それであるとしたならば、このマークは昭和 16 以降、さらに進んだ段階の所産とも考えられる。生産者標示記号を有すものの中でも新しい時期の所産といえよう。

軍用食器以外の飯用丼は被服本廠時代のものに加え、戦後の進駐軍時代～赤羽台団地建設時期の所産と思われるものも多い。いわゆる出前の丼のものであろう。蓋とセットになるものもまみられる。

麵類用丼は、被服本廠において使用されていたうどん丼（被購入どん銘入り）、銘は入らないが、同様の形態を有すものが主体である。ラーメン丼や蕎麦猪口なども検出されているが、それらは戦後の出前（回収されず）ものと思われる。

蓋は軍用・それ以外とも丼と同様の銘・文様を有し、セットとなるものである。

碗

軍用食器が主体である。前述した飯碗や汁椀であろう。丸に五芒星が入る被服本廠で使用されたものの以外に、五芒星のみ（星内色分け）のものも認められる。このマークは陸軍の部隊で使用される食器に付くものである。被服本廠の北側には、近衛工兵大隊・工兵第一大隊があり、そこで使用されていた食器と思われる。出土地点はいずれも被服本廠の北側の本部棟エリア周辺である。工兵部隊で使用していた食器が被服本廠内で検出された経緯は不明である。

皿

軍用食器とそれ以外とがある。軍用食器は二重圏線を有し、丸に五芒星、「被購食堂」「陸軍被服本廠」などの文字が入る。文字に関しては、丼と同様の変遷が認められよう。大皿・中皿・小皿、洋皿があり、その他にやや深めの小皿（鉢）もみられる。また、工兵部隊の五芒星を付した中皿も出土している。

軍用食器以外では、中皿・小皿が主体で、戦後の所産と思われるものが多い。

鉢

やや身の深いものである。中鉢・小鉢を主体とする。相対的に数は少ない。第 149 図 10 は同一のものが数点出土しており、一定数の保有が考えられる。

カップ・ソーサー・ポット

把手の付いた、コーヒー・紅茶用のカップ類、その「受け皿」、ポット、シュガーポットなどである。

軍用食器として、工兵部隊の五芒星が付いたものが出土しているが、用途として、スープなどに用いたものかとも思われる。東洋陶器（現:TOTO）のロゴを有すものがみられる。総じて数量は少ない。ティーポット・シュガーポットは掲載資料の 1 点のみである。

徳利

燗徳利と徳利がある。燗徳利は 1 合が主体である。生産者標示記号のあるものや年号（元年：皇紀 2600—昭和 15 年）の入るものなど、被服本廠時代の所産が多い。

徳利はいわゆる貧乏徳利で、酒屋の貸徳利である。店名・地名などが描かれる。

猪口

肝油猪口と清酒用猪口とがある。肝油猪口は、液体の肝油を飲む際に用いるもので、「伊藤千太郎商会」の「眼鏡肝油」である。販売促進用に配られたものと思われる。見込みに線が入るが、そのラインまで注いで飲用したのであろう。第二次調査では纏まって 40 個体が出土している。各調査年次

においても検出されており、被服本廠で肝油飲用が励行されていたといえよう。

清酒用は、商品名が入ったものもあり、これも販売促進用に配られたものであろう。

土瓶・急須

土瓶は胴の上部につる状の持ち手が付き、急須は胴の横に棒状の持ち手が付く。土瓶は大形・中形・小形とあり、第153図1～3は複数個体が出土している。

羽釜・土鍋

総じて数は少ない。第IV次調査で纏まって出土した。蓋に大・中・小形の3種類がある。

その他

灰皿・香炉などがある。灰皿は「陸軍被服本廠」の陽刻入りのものがある。その他の灰皿は、円形タイプ、箱型タイプ、平形タイプがあり、箱型は今回の調査で纏まって出土している。万古焼でマッチ箱スタンドが付随する。

代用陶器

食器以外の製品で、代用陶器と称されるものである。生産者標示記号を有す。電球の傘、煙管、戸車などがある。電球の傘は「マツダランプ」である。

2 ガラス製品（第158～189図）

ビール瓶

出土したビール瓶で、メーカー・商品名が判明したものは、大日本麦酒、麒麟麦酒、日英醸造、壽屋、帝国麦酒、アメリカ産などである。

大日本麦酒は、最も多く出土した。1906（明治39）年に、日本麦酒（エビスビール）・札幌麦酒・大阪麦酒（アサヒビール）が合併して誕生した。その後、東京麦酒・日本麦酒・札幌麦酒をも傘下に収め、一大ビールメーカーとなったが、戦後の1949（昭和24）年に財閥解体のあおりを受ける形で過度経済力集中排除法の適用により、朝日麦酒（アサヒビール）・日本麦酒（サッポロビール）に分割された。従って操業期間は1906～1948年となる。瓶に陽刻されたロゴは大日本ビールの頭文字から「D・N・B」を意匠化したものと、丸に点の意匠が用いられる。また、「DAINI P P O N BREWERY Co., LTD」の文字が肩・胴部下端に入り、底部にはカタカナ・アルファベット・数字・☆などが陽刻される。この中で「Co」部分に数種類がみられる。Co、Cq、Cg、Cqの4種類で、Cqが最も多い。概ね底部に☆がつくもので、Cqの中で1点が数字のみのものである。前述の遺物の項の中で、「Co」の種類と☆の組み合わせで製瓶の変遷が辿れる可能性があるとしたが、被服本廠で出土した多くは☆を有すもので、大まかには新しい段階の所産といえよう。

麒麟麦酒（キンビール）は、大日本ビールに次ぐ出土量である。肩にK・Bを意匠化したロゴが入る。陽刻の差違などからの変遷は看取し得なかった。創業の1885（明治18年）から連続と続く銘柄であり、戦後も途切れる事無く創業している。各個体資料の年代観を見出すのは困難であった。

日英醸造は、1919（大正8）年創業で、翌年から「カスケードビール」を販売した。1928（昭和3）年に壽屋（現：サントリー）に吸収合併されており、僅か9年余りの操業であった。輸出用ビールの生産を主眼として設立したもので、出土した資料も輸出用と思われる。国内向けのカスケードビールは大正の一時期は国内シェア第4位であった。製造時期が較られる数少ない資料である。

壽屋（現：サントリー）は「赤玉ポートワイン」やウィスキーが夙に著名であるが、戦前の一時期、

ビール業界に参入していた。1928（昭和3）年に日英醸造を買収後、ビール製造に乗り出し、日英醸造のカスケードビールの後継として「新カスケードビール」を発売（1929～1930年）、続いて「オラガビール」（1930～1933年）を発売したが、1934（昭和9）年にビール事業からの撤退を余儀なくされた。再びビール製造を開始したのは戦後の1963（昭和38）年、社名を現在のサントリーに改称した年である。出土資料は「新カスケードビール」で、これもごく短期間の製造であり、時期が限定される。

帝国麦酒は、桜麦酒の前身で、「サクラビール」を製造している。1913（大正2）年～1943（昭和18）年の期間の製造である。この年には大日本麦酒に吸収合併された。

アメリカ製のビールは、メーカーは特定し得なかったが、スタイナーボトルとワンウェイボトルが出土している。進駐軍時代（1945～1958年）のものであろう。この進駐軍のビールの空き瓶に関しては、「ホッピー」社長がアメリカ軍の回収したビールの空き瓶を再利用して販売した逸話があり、自社製造の際にもその形状はアメリカ軍のビール瓶に相似していたと言われる。

洋酒・ワイン瓶

洋酒ではウィスキー瓶がある。トリスウィスキー、ニッカウキスキーが確認された。トリスウィスキーの出土資料は640ml瓶と180mlのポケット瓶である。発売は1946（昭和21）年開始であるが、いずれも丸正マークがあり、1956（昭和31）年以降の製造となる。ニッカウキスキーの出土資料は、オールドバーとポケット瓶である。これらも同様に1956年以降の製造である。その他にもメーカー・商品名が不明だがウィスキーと思われる瓶が出土している。これらは概ね戦後の所産であり、進駐軍時代末期以降のものであり、赤羽台団地造成段階まで下る可能性もある。

ワインでは壽屋の「赤玉ポートワイン」、神谷酒造の「蜂印香鼠葡萄酒」、東洋製菓の「赤旗ポートワイン」などがある。「赤玉ポートワイン」は1907（明治40）年発売開始で、壽屋のメイン商品である。「蜂印香鼠葡萄酒」を製造した神谷酒造（現：オエノングループ）は、1880（明治13）年、神谷傳兵衛が浅草で「みかはや銘酒店」（後の神谷バー）を開業した事から始まる。翌1881（明治14）年に蜂印香鼠葡萄酒の販売を開始、1893（明治26）年には「電気ブラン」を発売した。1900（明治33）年に北海道に日本酒精製造株式会社を設立（後に神谷酒造）、1924（大正13）年には4社合併で合同酒精株式会社を設立する。その間、1903（明治36）年には「シャトーカミヤ」を設立している。出土資料3点のうち1点は丸正マークがあり、1956（昭和31）年以降の製造であるが、2点はそれ以前の所産と思われる。「赤旗ポートワイン」は、商標登録・新聞広告の記録などから大正期の所産と思われる。過激な広告をみるに、昭和に入って戦火の足跡が近づくと世相においては販売は疑問視される内容である。

清酒・焼酎瓶

清酒では、機械栓の一升瓶、一合瓶、スクリュウ栓の一升瓶などがある。「望月軒」の銘が入るものもある。機械栓は戦前～戦中、スクリュウ栓は丸正マークがあり、1956年以降の製造である。

焼酎は、野田醤油醸造の「万上高級焼酎」である。丸正マークがあり、1956年以降である。

清涼飲料瓶

ニッキ水、サイダー、コーラ、その他が出土している。

ニッキ水は小形のラムネ瓶形を呈す。サイダーは、大日本麦酒、日本麦酒醸造、金線飲料、マルタ

商会などのメーカーが確認された。日本におけるサイダーを含む炭酸飲料の歴史は、1875（明治8）年の「日の出鶴」から始まり、1899（明治22）年に「金線サイダー」の発売、1907（明治40）年の「三ツ矢サイダー」発売、1908（明治41）年の「リボンシトロン」発売、1928（昭和3）年の「キリンレモン」発売と続く。1900（明治33）年の王冠輸入により、ビール会社による上記サイダー類の製造が活発になり、大衆品の「ラムネ」に対し、高級品としての「サイダー」が定着していく。1915（大正4）年には王冠の国内生産が始まり、益々製造・流通が拡大していった。大日本麦酒は1906～1948年の操業で、三ツ矢サイダーを主体に販売する。金線飲料（1925）日本麦酒釀泉（1933）を合併後、そのブランド商品も引き継いでいる。日本麦酒釀泉の三ツ矢サイダーは1921～1933年の期間である。金線飲料の金線サイダーは1925年の合併以前である。「月姫サイダー」のマルタ商会は、1887（明治20）年に開業し、昭和初期には東京に進出している。出土資料は、東京進出後の製品であろうか。その他、メーカー不詳ながらサイダー瓶と思われるものも出土している。

コーラはコカ・コーラの瓶である。190ml瓶、500ml瓶、300ml瓶が出土した。190ml瓶は初期の輸入品（第一世代：1946～1956年）と1960年代前半の第四世代と呼ばれるものである。500ml瓶は2代目の瓶で、1960年代末と思われる。300ml瓶は「スーパー300」と呼ばれるもので、1980年代前半の所産である。輸入品が進駐軍時代、その他は団地造成時期以降の所産となろう。

その他に3点ほどが出土している。まず、大日本ボルド商行の陽刻が入った瓶がある。明治末～大正期に発売されたもので、1916（大正5）年の新聞広告には、「衛生滋養飲料」「ブドウ味炭酸飲料」とある。会社は、大正期には「大倉任三郎商店」、戦後は「大倉商店」の屋号であったので、「大日本ボルド商行」銘のものは昭和初期の所産と思われる。ちなみに戦後の瓶のフォルムはコカ・コーラの瓶と同様にくびれをもつ形状であった。1960年前後に姿を消している。

次に大塚製菓の「オロナミンC」がある。王冠タイプで、1965（昭和40）年の発売当初からスクリュウ蓋になる1971（昭和46）年までの期間の製造である。

3点目は、アメリカ製の瓶である。ホワイトロック社のジンジャーエールもしくはミネラルウォーターと思われる。「1957」の陽刻があり、同年製造と思われる。昭和32年であり、進駐軍の接収解除の前年に当たる。アメリカ軍が持ち込んだものであろう。

ジュース・シロップ瓶

ジュースには、リボンジュース、汎用瓶とがある。リボンジュースは日本麦酒製造で、1952（昭和27）の販売開始～1964（昭和39）年のサッポロビールへの社名変更までの期間の製品である。進駐軍時代～団地造成の時期である。汎用瓶は、商品名は陽刻せず、メーカーがラベルで表記するものである。進駐軍時代～団地造成の時期と思われる。

シロップでは、カルピス、森田飲料製造所、明治製菓のシロップがある。カルピスは1919（大正8）年発売で、爾来連続と今日まで製造・販売されている。1941年には「軍用カルピス」を製造して、陸軍糧秣廠に納入している。出土資料は丸正マークがあり、1956（昭和31）年以降の製造である。会社名が「カルピス食品工業株式会社」の期間と思われる。森田飲料製造所は1898（明治31）年創業で、フルーツシロップの販売を主体としたメーカーである。近衛連隊にラムネ・氷種（氷用シロップ）を納入している。現在もスター食品としてシロップ等の製造・販売を行っている。出土資料は会社名（森田飲料製造所）の陽刻のみでラベルは消失しており、シロップの種類の特定には至って

いない。「スター食品」に社名変更したのは1947（昭和22）年であるので、それ以前の製品である。明治製菓会社（現：明治製菓株式会社）のフルーツシロップの容器は、元々缶詰だったが、1938（昭和13）年、金属の統制によってガラス瓶を用いるようになったという。金属製品の代用品である。1924（大正13）年の会社名変更（明治製菓会社）から1951（昭和26）年の製造終了までの期間の製品である。

牛乳瓶

なで肩で首の長い機械栓、小規模牧場などの製品、紙栓・広口瓶で大手メーカーの瓶などがある。機械栓タイプでは、「永勝軒」の陽刻が入る。一合瓶と五勾瓶とがある。小規模牧場などの製品では、「武蔵野ミルクプラント」（首長）、「均質牛乳」（首長・王冠）、「厚生舎」（王冠）、「○に六芒星」（王冠）、「小児牛乳」（紙蓋）などがある。大手メーカーでは、森永、雪印、明治、グリコがある。いずれも広口で紙蓋タイプである。森永では、「森永牛乳」時代の製品、昭和30年代初頭～中葉、30年代中葉～40年代初頭のもの確認された。「森永」は1912（大正6）年に「日本練乳株式会社」として設立し、1930（昭和5）年に「森永牛乳」、1949（昭和24）年に「森永乳業」となっている。「森永牛乳」は1930～1949年の期間の製品である。雪印では昭和30年代を中心とするものが主体である。明治も同様に昭和30年代を主体とする。角瓶の「VITA」牛乳も確認された。グリコは数は少ないが昭和30年代と思われる。大手メーカーの製品は進駐軍時代末期～団地造成の時期の所産と考えられる。牛乳販売店からの配達ないしは新規顧客獲得のための試飲用かとも思われる。

乳酸菌飲料瓶他

ヤクルト、ミルシャン、パイゲンC、森永ミルク、ビルマンヨーグルトなどがある。ヤクルトは、1968（昭和43）年のプラスチック容器誕生前のガラス瓶である。2種類あり、1950年代後半のものは細身で、1960年代前半のものは太めで、プラ容器登場まで使用された。後期型の1点には「特殊栄養食品」マークが認められた。ミルシャンは栃木県の磯田乳業の製品である。1965（昭和40）年発売の乳酸菌飲料である。六角形の瓶を使用する。パイゲンCは明治乳業の乳酸菌飲料で1967（昭和42）年発売である。森永ミルクは「日本練乳株式会社」の乳酸菌飲料かと思われる。大正～昭和初期の所産であろうか。ビルマンヨーグルトは1956（昭和31）年、明治乳業・カルピス・三島海雲（カルピス創業者）らの共同出資により設立された「ビルマン製造」の商品である。底面の陽刻から、昭和59年7月の製造（瓶）である。

これらは森永ミルクを除いて、赤羽台団地時代に入ってからのものである。

調味料・食品瓶

調味料では、みりん、醤油、ソース、ケチャップ、マヨネーズ、塩、コショウ、化学調味料、カレー粉、その他がある。

みりんは「宝酒造」の製品である。同社は江戸時代末期に個人商店として、焼酎・みりん・白酒などの製造を開始、1897（明治30）年には「寶」の商標登録をしている。「四方合名会社」を経て、1925（大正14）年に「寶酒造株式会社」に改組した。出土資料は1点は丸正マークがあり、1956（昭和31）年以降、もう1点はそれ以前の製品と思われる。

醤油は、ヒゲタ醤油とキッコマン醤油がある。ヒゲタ醤油は1616（元和2）年、千葉県鏡子においてたまり醤油の製造・販売を開始したのを嚆矢とする。1918（大正7）年に「鏡子醤油株式会

社」を設立、1976（昭和51）年に現社名の「ヒゲタ醤油」に改組する。商標は山に四隅にひげを持つ田であるが、山の左上に「上」の字が付く。これは江戸時代末期の1864（元治元）年、物価高に伴う値下げ令が幕府から発せられたが、ヒゲタを含む澁子と野田の7銘柄は「最上醤油」の名称とともに従来価格での販売が許可され、その証が「上」字であった。ちなみに「ヤマサ醤油」は右上に付されている。ヒゲタ醤油は1902（明治35）年から陸軍に納入されるようになる。出土資料は被服本廠時代の所産であろうか。キッコマン醤油は一升瓶で、「野田醤油株式会社」製造である。江戸時代初期に千葉県野田において醤油製造を開始、1917（大正6）年、「野田醤油株式会社」を設立した。1940（昭和15）年には商標を「キッコマン」に全国统一している。1964（昭和39）年に「キッコマン醤油株式会社」に改組した。出土資料は被服本廠～進駐軍時代の所産と思われる。

ソースは、ブルドックソース、チキンソース、群馬ソース、メーカー不明などがある。ブルドックソースは1902（明治35）年に「三澤屋商店」として創業し、1905（明治38）年よりソースの製造・販売を開始した。1926（大正15）年に「ブルドックソース食品株式会社」に改組した。社名の英語表記は「Bull-Dog」だが、日本語はドックとなる。創業者が濁音が続く語感を避けたいと言われる。大正期にブルドッグがペットとして流行しており、「ブルドッグのように可愛がってもらいたい」との事から、シンボルマークにブルドッグ犬を採用した。ソースのラベルには Bull-Dog とブルドックの使い分けがなされているが、出土資料のように陽刻には「ブルドッグ」と濁音表記がなされている。これが何時頃まで行われていたのかは不明であるが、被服本廠時代の所産であろうと思われる。チキンソースは、荒井長次郎商店が1912（明治45）年に「スワンソース」を販売した事を嚆矢とする。チキンソースの前身である。チキンソースは戦後まで販売されており、丸正マークが付されたものもみられる。鶏の意匠とともに陽刻の種類が幾つかあるが、出土資料は「CHICKIN BLAND SOURCE」とある。被服本廠時代の所産と思われる。群馬ソースは5羽の鳥がトレードマークで、愛知県の兒島豊三郎商店が製造・販売していた。後に「群馬ソース有限公司」となる。詳細な沿革、製造期間は不明である、被服本廠時代の所産と思われる。

その他、メーカー・商品名は不明であるが、ソース瓶と思われるものが出土している。

ケチャップは、愛知トマトソース製造株式会社（現：カゴメ）の製品がある。同社は1914（大正3）年創業で、〇に六芒星（籠目文）を商標としていた。このマークは、創業者が陸軍にいた事から、当初は五芒星を商標にしようとしたが、許可されず、野菜（トマトなど）運搬の籠の目をヒントに六芒星としたと言われる。スクリュー栓である。その他、メーカーは不明ながらその形状からケチャップとした資料が出土している。

マヨネーズは、キューピーと思われるものである。下膨れで下半にナーリングが入る。その形状は現在のプラスチック容器と同様である。底面に◇+Q・◇+Pの陽刻があり、キューピーマヨネーズと判断した。ちなみに社名は「キューピー」でありユの字は大文字である（英語名：kewpie）。

塩は、同一のものが3点出土している。胴部の縦線模様と陽刻による内容量の表記が特徴である。出土資料は、「五匁三十匁入」とある。同種容器には「四匁五十匁入」「壹匁百式百匁入」もあり、この二者は寸胴になる。蓋はガラスである。壹匁瓶と同型の瓶で「BEST TABLE SALT」の陽刻をもつものがあり、これらは塩の容器と考えられる。他にテーブルソルトの小瓶も出土している。

コシヨーは、エスピー食品の製品である。形状から1952（昭和22）年以降の製品と思われる。

化学調味料は、味の素とそれに類するものである。胴部扁平で底部が10角形を呈す小瓶である。底部「AJINOMOTO」の陽刻があるものと、入らないものがある。1929（昭和4）年に「味の素」の特許が切れ、類似品が多く登場した経緯があり、無印のものはその類かとも思われる。

カレー粉は、首が細長く扁平な形状を呈す。コルク栓である。

その他には、青海苔、汁物、「西洋御料理」などがある。青海苔瓶は断面三角錐で底面八角形の形状で、青緑の遮光瓶である。ラベルは遺存していないが、類例などから青海苔とした。汁物は、鳥田屋（現：シマダヤ）の「おいしい」がある。いわゆるだし汁である。同社は1931（昭和6）年創業である。「おいしい」は1956（昭和31）年発売である。「西洋御料理」は、胴部にこの陽刻が入るもので、出土資料のような方形タイプや8角形タイプがある。前者は大きさに数種類がみられる。この陽刻から、西洋料理に用いられる調味料と考えられるが、特定の名称ではなく、西洋御料理としているのは、あるいは中身が様々であった可能性もある。一説には肉汁とされるが、ソース・デミグラスソース・醤油など西洋料理一般で使用する調味料を入れる汎用瓶かと思われる。方形タイプは持ち帰り用であろうか。8角形タイプは頸部内面に擦痕が見え、ガラス栓と思われる。テーブル用であろう。

食品では、海苔佃煮、雲丹、アンカーコップ、その他がある。

海苔佃煮は、江戸むらさき、磯じまんがある。江戸むらさきは「桃屋」（1920（大正9）年創業）の製品で、1950（昭和25）年発売である。胴部中央がくびれる独特のフォルムと「MMY」（桃屋の略号）の陽刻が入る。同製品の発売当初は寸胴のフォルムで王冠栓であったが、翌々年にくびれ形となり、1957（昭和32）年にスクリュウ栓に変わる。さらに1981（昭和46）以降は胴部脇の5本溝がないタイプに移行する。出土資料は1957～1981年の期間の製品であろう。磯じまは「磯じまん株式会社」の製品で、1926（大正15）年創業、同製品は1930（昭和5）年発売である。出土資料は、かぶせ蓋で胴下端に左から「磯じまん」と陽刻される。磯じまの瓶は発売から昭和20年代はかぶせ蓋で、昭和30年代～平成18年までスクリュウ栓となる。「磯じまん」の文字は、古くは右から、戦後は左からといわれる。「じまん」は他に志まん、自慢などもみられるが、文字の差違と時期的な関連は不明である。本資料はかぶせ蓋であること、文字が左から陽刻されていることなどから昭和30年代前半かと思われる。底面の陽刻「Y」は、日本硝子工業（現：日本山村硝子）の記号で、「Y」字は昭和30～36年頃といわれる。他に陽刻などのない瓶が出土している。その形状などから海苔佃煮瓶とされる。

雲丹は、いわゆるうに瓶と呼ばれるもので、底面に山笠+小の商標がある。下関市の「小川うに株式会社」と思われる。創業70年を超す老舗である。

アンカーコップは、缶詰の代用品である。ガラス容器はコップとして再利用していた。山羊の商標から石塚硝子の製造と判明した。昭和10～20年代と思われる。

その他、「新橋 橋善」と描かれた瓶がある。橋善は、1831（天保2）年創業で、当初は屋台の蕎麦屋であったが、蕎麦に乗せる天ぶらを揚げ始め、後に天ぶら専門店となった。天井のルーツの一つと言われるが、ご飯の上に天ぶらを乗せた脂い飯が評判を呼び、それを販売したという。特にかき揚げ丼が著名である。明治～大正期の東京における人気天ぶら屋に数えられる（他に銀座：天金、浅草：中清）。出土資料は高さ10cmほどの小瓶で、コルク栓である。持ち帰り用の天つゆが考えられようか。

薬瓶

投薬瓶、薬品瓶、市販薬瓶、目薬、その他、瓶栓などがある。

投薬瓶は、病院などで処方された薬の容器で、基本的に病院・医院名が入り、側面には液体薬の処方容量を量る目盛りが付く。サイズには大小様々な種類がある。また、形状には扁平形が多いが、円形のものもみられる。胴部には病院・医院名を入れる枠があり、陽刻で表記するものと、無地のものがある。後者はラベルを貼付するのであろう。「陸軍被服本廠診療所」銘のものが主体であるが、個人医院が陽刻されたものもある。工員などが持ち込んだものであろうか。

薬品瓶は、細口（コルク栓）・広口（ガラス栓）とがある。ガラスは無色透明・薄青透明のもと、褐色・濃青色の遮光瓶などがある。遮光瓶は紫外線による劣化・変質防止のためであろう。また、白磁製の軟膏入れも出土している。軟膏は「水銀軟膏」で、適量の水銀もしくは酸化水銀を用いたもので、梅毒、ケジラミの駆除に使用された。ガラス瓶には薬品名・製薬会社などの名が陽刻されたものもみられる。「大阪道修薬学研究所」は薬の町で著名な道修町に関係すると思われるが、詳細は不明である。「人體消毒新薬 リゾホルム」は香気を持つ消毒薬で、特に婦人科において用いられた。製薬会社が判明したものは、武田製薬（○に▲）、帝国製薬（○にS）、三共製薬（◇にS）などで、底面に陽刻されている。

一般の市販薬およびそれに類するもので、製薬会社・製品名が明らかになったものは以下のとおりである。その他は、形状などから市薬品と判断したものである（第176図）。

- 1 商品名「海貴來」製薬会社「河合洋行」動脈硬化・中風脳溢血に効果 海藻製剤
- 2 「フルチ錠」「アジア製薬」浄血と除毒
- 3 「セナオール」「巴商会」喘息用 1935年発売
- 4 「NEOS ARS」「ネオスエー」「アルス薬品部」ヨード剤 結核・高血圧など
1926（大正15）～1940（昭和15）年
- 5 「健胃整腸ヘルプ」「津村敬天堂」（現：ツムラ）胃腸薬
- 6 「クリスタリン」「ヂーシー科学研究所」歯科用接着剤
- 7 「?」「ラヂウム製薬」1919（大正8）～1944（昭和19）年 武田製薬に合併
- 8 「コーラルゲン」「圓成商店」
- 9 「わかもと」「わかもと製薬」
- 10 「クレオソート丸」「陸軍衛生材料本廠」
- 11 「一粒丸」「東京市電気局共済組合」
- 12 「ライフ」「?」
- 13 「?」「武田製薬」
- 17 「チオクタン」「藤沢薬品工業」1958（昭和33）年～ 栄養補給、アンプル剤

滋養強壮薬、口中清涼剤の類には、養命酒、仁丹、カオールなどがある。養命酒は、1600（慶長5）年頃に信州伊那大草で塩津宗閑により創業、1923（大正12）年に「株式会社 天龍館」として創立、翌々年に全国販売を開始した。1951（昭和26）年に「養命酒製造株式会社」に改組している。出土資料は、ダルマ型平型小瓶（180ml）で、1950（昭和25）年発売の商品である。仁丹は、1893（明治26）年に「森下南陽堂」として創業、当初は「赤大粒仁丹」であったが、1927（昭和2）年に「赤小粒」発売、1929（昭和4）年に「銀粒」を発売し今日に至る。出土資料は、携帯用のケースで「モダン

容器」といわれるものである。戦前の所産である。カオールは、安藤井筒屋（現：オリジナル株式会社）の商品である。創業は1899（明治32）年で、1951（昭和26）年に「オリジナル化粧品株式会社」に改組している。カオールは現在も販売している。「ももの花ハンドクリーム」で著名な会社である。出土資料は、「カオール」の陽刻が入り、安藤井筒屋時代の製品と思われる。

目薬の容器には、善光寺霊薬の雲切目薬、参天堂（現：参天製薬）、信天堂山田安眠薬房（現：ロート製薬）、その他がみられる。雲切目薬は1543（天文12）年創業で、昭和57年に製造中止となった。その後、1998（平成10）年、長野オリンピック開催とともに復活、現在に至っている。出土資料は復活以前の製品である。参天堂は、1890（明治23）年、田口参天堂として創業、当初は風邪薬を製造していたが、1899（明治32）年、「大学目薬」を販売、その後は目薬が主力となる。1925（大正14）年に「参天堂株式会社」、1945（昭和20）年に「参天堂製薬」に改組した。1962（昭和37）年にはガラスに代わるプラスチック容器の「スーパーサンテ」を販売する。ロート製薬は、1899（明治32）年、信天堂山田安眠薬房として創業、胃腸薬の製造・販売であった。1909（明治42）年、点眼薬「ロート目薬」を発売、1931（昭和6）年には「滴下式両口点眼瓶」による目薬の販売を開始した。1949（昭和24）年、「ロート製薬」に改組している。

出土した目薬容器は、点眼容器（本体とスポイト状の栓）と「自動点眼容器」（上下にキャップが付いた「滴下式両口点眼瓶」）とがある。前者は「雲切目薬」（本体のみ）、後者は参天堂・ロート製薬の製品である。前者には病院で使用されていたものもあり、第176図28～30はそれに相当すると思われる。後者は昭和に入って開発されたものである。1962（昭和37）年にプラスチック容器が開発されるまで販売されていた。

薬瓶の栓は、広口・細口があり、つまみには中空・中実がある。また透明ガラスと遮光ガラスがあり、後者は紫外線による変質防止を図るものであろう。

その他、殺虫剤（アース）、デミジョンボトル、医療器具として、乳鉢・乳棒がある。乳鉢などは診療所において薬剤師が調合する際に使用したものであろう。デミジョンボトルも薬剤保存容器として診療所ないしは理化学試験室で使用されたと思われる。

化粧品瓶

化粧クリーム・ローション・オイル・乳液、整髪料、ポマード、染料などがある。

化粧クリームでは、ウテナ、アイデアル、レート、クラブ、寿化学、金鶴香水、オリジナル、パパヤ、伊藤胡蝶園などのメーカーがある。

ウテナは、1918（大正7）年、「天仁堂」として創業、1923（大正12）年に久保政吉商店に改称、1927～29年にかけて、パニングクリーム・粉白粉・水白粉・ウテナクリームを発売した。1937（昭和12）年にウテナ化粧品本舗・株式会社久保政吉商店、1946（昭和21）年にウテナ薬品工業、1950（昭和25）年にウテナ株式会社に改称している。1957（昭和32）年には男性用クリームを発売した。出土資料は、ウテナクリーム・パニングクリーム・男性用クリームなどである。

アイデアルは、1893（明治26）年、高橋東洋堂として創業、当初は白粉・口紅・髪油などを手掛けていたが、その後、香水・化粧水・クリームなどを販売する。1923（大正12）年にはコールドクリーム・パニングクリーム・ヘアーローション・乳液などを発売した。出土資料はコールドクリームなどである。

レートは、1878（明治11）年、平尾賛平商店として創業、1909（明治42）年、レートクリームを発売した。1949（昭和24）年、レートに改称、1954（昭和29）年に廃業している。出土資料はレートクリームで、胴部の装飾が特徴的である。

クラブは、1903（明治36）年、中山太陽堂として創業、洗粉・白粉などを発売、1911（明治44）年にクラブ美身クリームを発売した。1939（昭和14）年に株式会社中山太陽堂、1971（昭和46）年にクラブコスメティックスに改称している。出土資料は美身クリームである。

レート・クラブは明治～大正にかけて、「東のレート、西のクラブ」と言われ、人気を二分していた。また、明治40年代には、「白粉の美園（伊藤胡蝶園）、歯磨きのライオン、化粧水のレート、洗粉のクラブ」と称されていた。

寿化学は、1946（昭和21）年創業、1947（昭和22）年にジュジュクリーム、1950（昭和25）年にマダムジュジュ、1958（昭和33）年にミスタージュジュを発売した。1961（昭和36）年にジュジュ化粧品に改称している。出土資料はマダムジュジュとミスタージュジュである。

金鶴香水は、1927（昭和2）年に創業、香油・ポマードなどを手掛けた。1934（昭和9）年に丹頂クリーム、1937（昭和12）年に薬用丹頂バニシングクリーム、1951（昭和26）年に丹頂コールドクリームを発売した。1959（昭和34）年に丹頂に、1971（昭和46）年にマダムに改称した。出土資料は薬用丹頂バニシングクリームである。

オリチナルは、1892（明治25）年に森商店（後に安藤井筒屋）として創業、1899（明治32）年に口中清涼剤「カオール」、1908（明治41）年にオリチナル香水を発売する。1920年頃、白粉下あれ止の「桃の花」を発売する。これがももの花ハンドクリームの前身である。1951（昭和26）年にオリチナル薬粧株式会社に改称、1953（昭和28）年にももの花ハンドクリームが発売された。出土資料はこのクリームである。

パバヤは、1933（昭和8）年にパバヤ化粧品本舗として創業、同年に「アモンパバヤ」を発売する。

伊藤胡蝶園は、1904（明治37）年に胡蝶園として創業、御園白粉は明治～大正期にかけてヒット商品となる。1909（明治42）年、伊藤胡蝶園と改称する。1935（昭和10）年にパピリオ化粧品を発売、1948（昭和23）年にパピリオ、1974（昭和49）年に帝人パピリオ、1990（平成2）年にツムラ化粧品株式会社に改組するが、1997（平成9）年に清算した。出土資料はの「P.」はパピリオの頭文字で、字体・瓶の形状から戦前の所産と思われる。

ローション・オイル・乳液では、日本オリーブ、桃谷順天館、天野源七商店、平尾賛平商店、資生堂、クラブ、アイデアルなどのメーカーがみられる

日本オリーブは、1949（昭和24）年創業である。出土資料は「オリーブマノンバーজনオイル」である。

桃谷順天館は、1885（明治18）年創業、1902（明治35）年に化粧用美顔水、1913（大正2）年に美身長クリーム、1914（大正3）年に白色美顔水を発売する。1936（昭和11）年には「明色アストリンゼン」を発売し一世を風靡する。出土資料は化粧用美顔水・白色美顔水である。

天野源七商店は、1882（明治15）年創業、1915（大正4）年にヘチマコロンを発売した。1953（昭和28）年、社名をヒット商品と同じヘチマコロンに改称した。出土資料は大中小形の中の中形にあたる。

平尾賛平商店の商品は、乳白美容液のレートフードで1914（大正4）年に発売され、大ヒット商品となった。瓶形には出土資料のように胴部が直線的なものと胴張のものがある。胴張形が新しいと思われる。底部には平尾賛平商店のH・Sを用いたマークが入る。

その他、資生堂の美容液？、クラブの乳液？、アイデアルの乳液などが出土している。アイデアルの瓶は代用陶器で、1941～1945（昭和16～20）年の所産であろう。また、アメリカ製のローション瓶も出土しており、これらは進駐軍時代の所産と思われる。

整髪料・ボマード類では、コーセー、加美乃素本舗、福田源商店などのメーカーがみられる。

コーセーは、1946（昭和21）年に小林合名会社として創業、1948（昭和23）年に小林コーセー、1991（平成3）年にコーセーと改称した。出土資料はヘアローションで胴部が波形になる。

加美乃素本舗は、1908（明治41）年創業、1932（昭和7）年に養毛剤「加美乃素」を発売した。出土資料は「kaminomoto」の陽刻が入り、戦後の所産であろう。

福田源商店は、創業は不明であるが、出土した「ランラン ノイ ボマード」は1938（昭和13）年の広告に新発売とある。この広告のデザインを担当したのが、著名な洋画家でグラフィックデザイナーの今竹七郎である。

染料（白髪染）では、朋友商会の「元禄」、山発産業の「るり羽」がある。朋友商会は1905（明治38）年に水野甘苦堂として創業、1921（大正10）年に白髪染「元禄」を発売する。1923（大正12）年に朋友商会、1964（昭和39）年にホーコー株式会社に改称する。1971（昭和46）年に「ピゲンヘアカラー」を発売した。出土資料は戦前の所産と思われる。

「るり羽」は、1909（明治42）年創業の石井成功堂が製造・販売していたが、1898（明治21）年創業の山発商店が、1937（昭和12）年に石井を併合して、同社製品として販売した。1946（昭和21）年に山発産業に改称している。「るり羽」には2種類あり、「るり羽」（るりはね）と「るり羽」（るりは）である。「る」の字も後者は変体仮名となっている。前者は石井成功堂の製品で、後者が山発製品である。併合前、1914（大正3）年から、山発は石井の「るり羽」の販売に関わっており、その段階で「る」字の変更があった可能性もあるが、併合後には変体仮名に統一されたようである。出土資料は、変体仮名であり、山発の製品である。

文具類その他

インク瓶、マジック瓶、ポスターカラー瓶、絵具瓶、墨汁瓶、インク壺、画材オイル瓶、糊瓶、水糊瓶、海綿容器、ガラスペン、染料、オイルライター瓶などが出土している。

インク瓶では、丸善、篠崎インキ、パイロット、プラトンインキ、サンエスインキ、サムライ商会、ダイヤモンドインキなどがみられる。

丸善は、1869（明治2）年、丸屋善八が丸屋商店を開業、1880（明治13）年に丸善商社、1893（明治26）年に丸善株式会社となった。1885（明治18）年にインク製造を開始、1915（大正6）年には「アテナインキ」を発売した。現在は丸善雄松堂株式会社である。出土資料は、陶器・ガラス製のボトル瓶、インク瓶などがある。陶器にはMマークの押印、インク瓶の底面にはMの陽刻が入る。アテナインキの瓶の肩にはローマ字の陽刻がみられる。

篠崎インキは、1884（明治17）年、篠崎又兵衛商店として創業、1918（大正8）年に合名会社篠崎商店とした。翌年には篠崎インキ製造株式会社としている。チャンピオンインキを主力商品

として販売していたが、1923（大正13）年の関東大震災の影響で不振となる。しかし1931（昭和6）年にライトインキを発売、大ヒット商品となった。1952（昭和27）年、会社を清算し歴史に幕を閉じる。出土資料は、インクボトル、インク瓶などで、底面には「SIMCO」（Shinozaki Ink Manufacturing Company）、ライトインキには「RIGHT INK」の文字が入る。

パイロットは、1918（大正7）年、並木製作所として創業、1938（昭和13）年にパイロット萬年筆株式会社となり、1989（平成元）年に株式会社パイロット、2003（平成15）年にパイロットコーポレーションに改称した。出土資料は、丸蓋・篠崎インキなどと同様の形状を有す瓶（昭和23年発売）、胴部が球形で足が付き、コルク栓のもの（昭和7年発売）、同様の形状の「トップフィラー」（蓋にカップが付き、瓶を逆位にしてそこにインクを溜め、吸入等に利用する。昭和28年発売）、角形で前面が斜傾するタイプ（昭和29年発売）などがある。主体は戦後の商品であり、進駐軍時代の所産であろう。

プラトンインキは、1924（大正13）年、化粧品の中山太陽堂が文具部を創設した事に始まる。その後プラトン文具株式会社として独立した。1954（昭和29）年に倒産している。瓶形は山形を呈し、胴部に富士山の意匠、底面に六芒星+Sのマークが入る。

サンエスインキは、大正年間に細沼産業として創業したといわれる。戦後に倒産している。戦前の3大万年筆メーカー（スワン・パイロット・サンエス）の一つであった。底面にSSSと陽刻する。

サムライ商会は大正年間の操業といわれる。角瓶で、底面にカタカナで「サムライ」と陽刻する。

ダイヤモンドインキは、ダイヤモンド産業ウエル万年筆本舗の製品である。8角形の瓶が特徴であり、ダイヤモンドカットを模したものであろうか。底面にカタカナで「ダイヤモンド」と入る。

その他、底面に「MION」と入るもの、胴部に綾杉状の文様を有すもの、イグルー型、篠崎インキの瓶蓋などが出土している。また、アメリカ製のインク瓶も出土している。シェーファーとサンフォードで、前者は「Skrip ボトル」といわれるもので、瓶内上部にインク溜めが設けられており、瓶を逆位にしてそこに溜めて使用するものである。

マジックでは、寺西化学のマジックインキの瓶がある。寺西は1926（大正5）年創業、1953（昭和28）年に「マジックインキ」を発売する。第184図は現在販売中の瓶と寸法も同じである。10の瓶もマジックインキと思われる。開発当初は、インク瓶を流用していたともいわれており、統一規格瓶製造前のものかとも思われる。13・14はフェルトの芯が遺存しており、同様にマジック類と思われるが、メーカーは不明である。

ポスターカラーでは、三星と文房堂がある。三星は、三星絵具製造所の商品で、戦前からのメーカーである。★★★のマークが特徴である。文房堂（ぶんぼうどう）は1887（明治20）年創業で、1925（大正14）年、図案画用絵具を日本で初めて「ポスターカラー」と命名した。胴部にローマ字で社名が入る。

絵具では、三星絵具、桜木絵具がある。三星絵具は上記のメーカーである。桜木絵具は吉村商店（現：ホルベイン）の商品である。日本で最初に洋画用絵具を製造した「花洒家」の二代目が独立し、製造したのが「桜木絵具」で1914～15（大正3～4）年頃といわれる。この桜木絵具を改良して発売したのが「ホルベインヴェルネ油絵具」である。出土資料は、「手工用エノグ」と陽刻されている。

墨汁瓶では、開明墨池、及第墨池がある。開明は、1898（明治31）年に田口商会として創業、1916（大

正5)年に株式会社となり、1969(昭和44)年にカイメイ株式会社、1988(昭和63)年に開明株式会社に改組して現在に至る。創業時に「開明墨汁」と命名し、「梅鉢」を商号とした。出土資料の底面に「開」の意匠と梅鉢を陽刻している。及第墨池は、口縁部が筆置き用に波形となっている。胴部には「BOKUTI」と陽刻されている。ラベルが残存している資料には「及第墨池」とあるが社名は不明である。

インク壺は、いずれも2穴式で、形状は長方形・半円形・扇形などがある。前面・中央などにペン置きが付くものもある。蓋が遺存していたものがみられた。

画材オイル瓶は、ホルベインの「ワニス」容器である。

糊瓶には、陶器製とガラス瓶とがある。前者は代用陶器で、生産者標示記号を有すものもみられる。底面に桜の意匠と弓矢的+矢羽根(矢・的=ヤマト)が陽刻されたものは、ヤマト糊工業(現:ヤマト株式会社)の製品である。創業は1899(明治32)年で、今日まで連綿と糊の製造・販売を行っている。ちなみに、不易糊も桜の意匠だが、内部はAの意匠が入る。ガラス瓶にはカタカナで「ヤマト」と陽刻されている。

水罫瓶は器高が高く、底部から口縁部にかけてすぼまる形状のものである。メーカーが判明したものは、「象南工業所」の象印アラビヤ罫である。その他、メーカー不詳であるが、水罫と思われるものが出土している。

海綿容器は円形で器高が低く、端部に反りのあるものと無いものがある。遮光瓶もみられる。

ガラスペンはいわゆる複写用で、「パイオニヤ印刷硝子複写筆」とある。複写には専用インクがあり、大正年間にはこれによりカーボン紙を用いて複写していた。インク壺も専用インク入れがある3穴式が使用された。

染料では「みや古染」がある。布地用の染料で、創業1890(明治23)年の桂屋の製品である。

ライターオイル瓶は、その名のとおりオイルライター用のオイルである。注入用のパイプが瓶の中に残っていたものが今回出土している。

靴墨瓶

日靴塗聯、コロンプス、コロンビヤ、ライカ、Viora、被服協会などがある。

日靴塗聯は、瓶底面などに陽刻されたものである。特定メーカーではなく、同業組合の名称かと思われる。この陽刻を有す瓶で、ラベルが遺存している資料をみるに、「染の素 アズマソメ」、「ライオン」(ライオン靴クリーム本舗)、「アジア靴クリーム」(資生堂)、「コロンプス」などが知られる。資生堂のクリームは1940(昭和15)年発売であり、その商品にこの瓶が使用されている事から、他の商品もこの前後の時期の所産と推測される。聯合会?名を入れた瓶はいわゆる汎用瓶であろうか。

コロンプスは、1919(大正8)年創業、1930(昭和5)年に合資会社日東商会、1932(昭和7)年に日東皮革塗料工業合資会社、1948(昭和23)年に株式会社コロンプスとなった。出土資料は「コロンプス」の陽刻がある。同社製品では他にローマ字のものもあり、底面にナーリングが入るタイプもある。ナーリングの有無の时期的差違と思われるが、不詳である。

コロンビヤは、底面に陽刻されている。コロンプスを模した類似品と思われる。

ライカは、1928(昭和3)年に丸福商店として創業、1933(昭和8)年にライカクリームを発売する。1949(昭和24)年に株式会社ライカに改称した。出土資料は底面に「Leica」とある。

Viora は、八千代化学塗料工業の製品で、1923（大正 12）年、八千代商会として創業、1947（昭和 22）年に八千代化学塗料工業、1963（昭和 38）年に株式会社ジュエルに改称した。胴部に「Viora」とナーリングが入る。

被服協会は、被服本廠で製造した靴クリームを、「被服協会」の名を入れて民間に販売し、協会の資金調達の一部としたものである。

関連製品として、ブラシがある。アカツキ歯刷子の先端は靴墨が付着している。

消火弾

ガラス瓶型の消火器である。内部には消化液が入っている。火元に投げ込んで使用するもので、出土資料は形状・容量に種類がある。

3 化学製品（第 190～192 図）

食券類、歯刷子などがある。

食券類は、道合遺跡第Ⅱ次調査で約 120 枚、第Ⅴ次調査で約 80 枚、赤羽上ノ台遺跡第Ⅴ次調査では約 18,000 枚が出土した。セルロイド製で楕円形・長方形・分銅形・瓢箪形などがある。表裏に文字が入り、裏面は「陸軍被服本廠購買會」が表記され、表面に各種表記がなされる。その種類としては、以下のとおりである。

食事系：朝食・夕食・並辨・夕並辨・飯・菜・うどん・ウドン、晝（亀戸作業所）・夕（亀戸作業所）

うどん（朝霞作業所）、アイスクリーム

その他：顔剃券、理髮券、米袋券

文字のないもの：円形で一字状の穴、方形（穴の有無）、楕円形など
券の形状・色については、種類ごとにまとめると以下のとおりである。

陸軍被服本廠 購買會

朝食：楕円形	白・浅黄色	☆マークが付くものもある。
夜食：楕円形	緑色	
並辨：楕円形	桃色	☆マークが付くものもある。
夕並辨：楕円形	茶色	☆マークが付くものもある。
飯：楕円形・円形	黄色	
菜：楕円形	青色	☆マークが付くものもある。
うどん：長方形	朱色・青色	
ウドン：長方形	朱色	
アイスクリーム：長方形	橙色	
理髮券：楕円形	黄色	
顔剃券：瓢箪形	朱色	
米袋券：長方形	浅黄色	

陸軍被服本廠 亀戸作業所

朝	：分銅形	青色
晝	：分銅形	赤色
夕	：分銅形	黄色

陸軍被服本廠 朝霞作業所 購買会

うどん：分銅形 赤色

文字のないもの

円形 一字穴 燕尾・青・桃・橙・緑色

方形 青色

以上の食券類は、その大半は赤羽上ノ台遺跡第V次調査で出土している。防空壕・貯蔵庫とした覆土に廃棄されたものである。位置的には、15号倉庫の南側に集中する。その他、道合遺跡第II次調査の2号倉庫南側防空壕から約120枚、第V次調査の高等官食堂と第一貯水池の間の防空壕から約80枚が出土した。廃棄した経緯は明確ではないが、他の陶磁器・ガラス・皮革製品、書類等と同様に、終戦に伴って、不要となった防空壕などを焼却穴として利用して廃棄処分したものであろう。

食券の種類については、被服本廠内で使用されたものには、昼食・夕食に相当する券が検出されていない。亀戸作業所の記載がある券には、「朝」・「晝」（昼）・「夕」とがあり、3食揃っている。夜食の券があるが、それが一般的な夕食にあたるのであろうか。しかしながら、亀戸の例からみると、夕と夜は区別していたものと推測される。「夕並辨」がみられることから、「夕」の概念は存在しており、それから判断するに、夕食券はないものと思われる。「並辨・夕並辨」は弁当の事であろう。海軍にも「辨富券」があり、食事とは別にいわゆるテイクアウトであろうと思われる。並辨と夕並辨の内容の違いは不明である。後者は夕食時に販売していたのであろうか。「飯」は文字どおりご飯で、うどんなどと共に食する際に利用したものであろうか。「菜」はおかずであろうか。「アイスクリーム」は長方形で、うどんと同様に朝飯などの楕円形と区別している。「理髮券」「顔剃券」は、搦精所と同じ建物内にある床屋で利用したものであろうか。「会報録」には、理髮券を持って順番待ちしている人数が多い場合は、指定時間整理券を発行するので、持ち場に戻るよにとの記述がある。「米袋券」は配給切符の一種であろうか。購買会で購入してきたと思われる。市中の米屋より廉価であったという。小形円形で一字形の抜きがある券は用途等不明である。食券と同型の無地の券は予備であろうか。

亀戸作業所・朝霞作業所名の券は分銅形を呈している。本廠と区別するためであろうか。本遺跡で出土している要因としては、本廠の下部組織である作業所であり、所員の出入りも多かったと考えられ、持ち込んでいた可能性もある。または、この券自体の製造が赤羽の本廠であった可能性もあり、本廠内流通の券とともに残余の券が廃棄されたとも推測し得る。

これら券の中で、☆が付いたものが確認されている。「朝食」「並辨」「夕並辨」「菜」の4種で、概ね券下半の文字の直下に陰刻されたものが多い。この☆の意味合いについては不詳と言わざるを得ないが、これの有無は、食事の内容の差違、例えば大盛りであったり、1品多いなどが考えられる。また一方、陸軍特校用食券といわれるもので、「食券 9652」の文字に☆（貫通）が付いたものがある。これから推測するに、一定以上の階級用で、☆の無い券との具体的な差違は、突き詰めれば上記と同様に食事内容の差違に行き着く。但し、☆入り券の購入に関して、将校のみが可能か、須らく購入できるか否かである。

歯ブラシでは、エスエス消毒歯刷子、資生堂セイ・パール歯刷子、ツバメ歯刷子、ミスズ歯刷子、高級勝利歯刷子、戦友歯刷子、萬歳歯刷子、武者ライオン歯刷子、アメリカ製などがある。

エスエス消毒歯刷子はエスエス製薬の製品である。1927(昭和2)年に株式会社氈屋薬房を設立、

1940（昭和15）年にエスエス製菓と改称した。資生堂シセイ歯刷牙子は、資生堂刷牙製造株式会社の製品である。1940（昭和15）年に軍納用歯刷牙子の製造を目的として設立、1942（昭和17）年に資生堂刷牙工業株式会社、1990（平成2）年に資生堂ビューティック株式会社と改称したが、2009（平成21）年に廃業した。同パール歯刷牙子は1953（昭和28）年に発売された「パール歯磨」とセットとなっている。ツバメ歯刷牙子は、矢野芳香園の製品である。「○に公」が付く。これは1938（昭和13）年の国家総動員法の成立による物価統制に伴い、翌々年から公定価格品に付されたマークである。ミス歯刷牙子にもこの「○に公」が付いている。高級勝利歯刷牙子・戦友歯刷牙子には陸軍の五芒星（☆）が付く。

4 皮革・ゴム製品（第193・194図）

革見本帳、編上げ靴、靴底（革・ゴム）、手袋、雪駄、地下足袋、裁断片、布地などがある。

皮見本帳は「NIHON GIKAKU KAISHA」とあり、日本擬革株式会社の製品である。1935（昭和10）年（共和レザーに改組）以前のものである。

編上げ靴は、海軍仕様のものである。靴底は革製とゴム製がある。革製靴底は道合遺跡第IV次調査において防空壕から大量に廃棄処分（焼却）された状態で出土した。ゴム製靴底は、陸軍の「昭5式」ゴム底編上げ靴であろう。「陸軍被服品仕様」に合致するものである。第193図1はサイズが11.3文（28cm）とある。

手袋は、「96式防寒大手袋」である。人差指が独立しているのが特徴である。雪駄はサイズが24.0cm前後、地下足袋は23.0cm前後である。

その他、端切れ、一枚革、布地などが出土している。

5 金属製品（第195～200図）

被服本廠・進駐軍関連の金属製品である。軍装品、武器、工具、工場機器・器具、銭貨、鉄道関連、建物扉などが出土している。

軍装品では、徽章・襟章・バッジ・釦・尾錠・紐調節金具、鉄帽、防毒面などがある。それぞれ「陸軍被服品仕様」に則ったものである。鉄帽は「九〇式」と思われる。防毒面では、日本軍のものとして、九五式被甲の吸気缶・ゴーグルレンズ・ホースカバーなど、二七式防毒面（大東亜戦争戦利品防毒面）の吸気弁、アメリカ軍のM4 ライトウェイト・サービス・マスクなどが出土している。二七式防毒面は国民党軍の仕様で、チェコスロバキア製の「MS-3」が原型である。各国がライセンス契約を結び、現地生産していた。国民党は香港に工場（四ヶ所）を置いていた。日本軍による香港占領後に戦利品として内地に運び、民間に販売したという。アメリカ軍のものは、陸海空・海兵隊4軍の標準装備品で、戦後は自衛隊でも使用された。

武器は、刀剣類・銃火器類・弾薬・銃弾・手榴弾などがある。

刀剣類では、軍刀（三十三年式・九五式）、軍刀拵え（九四式の兜金・佩銀、三十二年式の背金）、銃剣（三十年式、同鞘、アメリカ軍M1・4バネヨット）などがある。

銃火器類では、拳銃（南部十四年式、モーゼルM1896、ブローニング、アメリカ軍M1カービン・ガーランド）、銃（三八式歩兵銃、九九式小銃）、機関銃（ブローニングM2重機関銃）などがある。

弾頭・弾薬には、25口径（三八式歩兵銃）、30口径（九九式小銃、M1カービン・ガーランド）、32口径のものがある。

工具は、円匙・金槌・レンチ・スパナ・ペンチ・ニッパー・プライヤー・スパナ・釘抜・ドライバー・ナット・鑿・鉄などがある。

工場機器・器具は、炭火アイロン、「耐光試験機」、「毛髪自動記録湿度計」、工業釜などがある。

アイロンは大型の業務用である。「耐光試験機」はプレートが遺存しており、鳥津製作所の製品と判明している。耐光試験（現在では促進耐侯試験と呼称する）とは、染色した繊維品・印刷物・ゴム・ペイントなどの日光に対する変退色の度合いを調べるために行うものである。日光に変わるものとして「石英水銀アーク灯」（水銀蒸気中のアーク放電によって生じる発光を利用する放電管。現在の試験機では「カーボンアーク・キセノンアーク灯」を用いる）を用いて人工光を照射して検査する。鳥津創業記念資料館に残る資料によれば、同様の試験機は昭和初期から現在に至るまで製造がなされているものである。昭和2年に特許出願（3年に取得）されたものは「廻転式褪色試験器」と称するものであった。昭和7年には「石英水銀燈二依耐光試験機ニ於ケル黄色反映抹消用具」として特許出願（翌年取得）している。後継機であろうか。昭和10年の「鳥津化学機械目録」第200號V（第199図）には紫外線装置として、「アクメ褪色試験器」が写真入りで掲載されている。昭和26年の同社パンフレットには「アクメ褪色試験器」（ACME FADE TESTER）が紹介されている。10年所載の後継器と思われる。以上の資料からみるに、出土した試験機は、「耐光」の名称からして昭和7年前後の製品と思われる。昭和3年のものは設計図からみるに本品とは相違し、形態的には10年のものに近い。二ヶ所ある円形の穴はメーターの取り付け部であり、目録・パンフレット所載のものはその下にダイヤルなどが配置される。本品はメーター穴の下部にプレートが付くタイプで、やや小型なのであろうか。いずれにせよ昭和初期の所産であろうかと考えられる。商品名に記された「アクメ」については不詳と云わざるを得ないが、「アーク」に関連するものかとは思われる。同社目録（昭和10年）には「アクメ紫外線物質鑑識器」が掲載されており、「アクメ太陽燈」を光源とする、とある。

「毛髪自動記録湿度計」も商標が遺存しており、フランス製である。毛髪の湿度による伸縮を利用して計測する計器で、円筒に振幅を記録させる。応答性（細さ）と耐久性（弾力）に優れることから、白人女性の金髪、特にフランスや北欧の若い女性のものが最適であるとされていた。毛髪湿度計は、1783年にスイスの物理学者ソシユール（H.B.de Saussure）が発明した。本製品は「ジュール・リシヤール」社製で、1923年設立であることから、大正末年以降に日本に齎されたものである。

銭貨は、日本の一銭・十銭硬貨、アメリカ軍関連の1セント硬貨、「代用硬貨」などがある。日本のものは、龍一銭銅貨、五銭アルミ貨、菊十銭アルミ貨である。アメリカ軍では、1セント硬貨、フィリピンの50セントボ硬貨（独立前流通貨幣：1944・45年製造）、5セント代用硬貨がある。これは進駐軍がキャンプ地内で使用するもので、「TOD」「NCO」の陽刻がある。TODは東京兵器補給廠第1～5地区（北区・板橋区内米軍施設、被服本廠は第3地区）の略で、NCOは下士官の略である。

鉄道関連では、軌条・軌軸・枕木鋼板・ポイント切り替えレバーなどがある。軌条は、トロッコ線路に用いられる6・10kgレール、懸架クレーンのものと思われるレールがある。軌軸はトロッコの車輪である。枕木鋼板は軌条に溶接された状態で検出された。レバーはポイント切り替えを手動で行う際に使用する。

6 煉瓦（第201～204図）

煉瓦は、倉庫建物の基礎・壁に使用された普通煉瓦（赤煉瓦）、溶鉱炉などの耐熱用の耐火煉瓦が

出土している。調査時には被服本廠建物基礎が遺存しており、大量の煉瓦が検出されていた。それらの中で、刻印を有するものを主体として採取したが、すべての建物基礎を精査する余裕はなく、確認した刻印はそえららの一部であり、被服本廠で使用された煉瓦の全てを表してはいない事を付記する。

煉瓦のサンプリング地点と確認された刻印は以下のとおりである（第113図）。

- 6号倉庫 小菅集治監・貝塚煉瓦（大阪）・金町煉瓦（葛飾）
- 7号倉庫 小菅集治監・山本煉瓦（尾久）、三石耐火煉瓦
- 8号煉瓦 小菅集治監・日本煉瓦製造・大阪窯業・岸和田煉瓦（大阪）・片山工場（愛知）・大和煉瓦（奈良）、
三石耐火煉瓦・美濃窯業・日本窯業・横浜煉化・九州耐火煉瓦・中村窯業（岡山）・大阪窯業・荒木窯業（福岡）・甲州煉瓦（山梨）
- 9号倉庫 小菅集治監・日本煉瓦製造・金町煉瓦・山本煉瓦
- 梱包場 日本煉瓦製造・金町煉瓦
- 排水槽 日本煉瓦製造・金町煉瓦
- 12号倉庫 小菅集治監
- 13号倉庫 小菅集治監・日本煉瓦製造
- 縫靴工場 岸和田煉瓦

なお、縫靴工場はコンクリート基礎構造の建物であったため、煉瓦はその付近からの出土である。

確認された刻印で最も多いものは小菅集治監とされる桜マークで、次いで日本煉瓦製造の「上敷免」、金町煉瓦の「輪違」となっている。この三者以外は数的にはごく少量である。特に小菅集治監製は量的に隔絶している。これは、採集した建物部位が基礎部分であることが要因と考えられる。「東京砲兵工廠紙包製造所建造物」の調査において、建物の部位によって使用する煉瓦が相違するとしている。腰部より上位は、規格・色合いが均一で大量生産された「日本煉瓦製造」（上敷免製）・「大阪窯業」のものを使用し、腰部の「焼き過ぎ煉瓦」は、地元の中小煉瓦製造所のもので品質の良好なものを使用している。地中の基礎構造物には「小菅集治監」を主体として各製造所が混在する、としている。被服本廠の基礎構造物からの採取にみられる様相はまさにこれと同様で、小菅集治監を主体として、地元の煉瓦製造所、各種大量生産品などが混在している。

以上、道合・赤羽上ノ台遺跡で検出された近現代の遺構（塹壕・被服本廠）に関して大まかながら纏めてみた。

塹壕に関しては、近世の溝・被服本廠施設との切り合い関係から年代観を絞り込み、明治時代の陸軍天覧演習の際に構築された演習用塹壕と判断した。陸軍の演習（天覧演習を含む）は明治6年以降、日本各地で数多く実施されており、各地の遺跡調査でも塹壕と思しき溝は検出されている。今回の調査を含む赤羽台地区での陸軍演習の資料は、良好とまではいかずとも、その内容等の把握はなし得、明治7年9・12月、同19年4月、大正4年6月と計4回の赤羽地域での演習の中から、明治7年9月の演習であるとの判断に行き着いた。本地区に限らず、この塹壕（溝）に関しては、記録資料の精査により明らかになる可能性は大きく、今後の遺跡調査における資料操作の一つの方向性を示していると思われる。

被服本廠に関しては、検出遺構・出土遺物の検討から、建物の変遷などの分析を行った。関連する資料（測量・実測図、写真、文献など）はほぼ網羅したものと考えているが、見落としなどもあるかと思われる。今回の調査までに集積した発掘調査資料から、概ね被服本廠の全容は把握されたと考える。本地区の調査は、武威文化財研究所が実施している赤羽上ノ台遺跡北側部分をもって概ね終了となる。今後は、その成果を含めた収集資料の再分析を行い、被服本廠の歴史（終戦後の進駐軍時代を含む）の細部を明らかにするとともに、当該地区を含む地域の歴史などとの関連性をより明確に捉え、被服本廠の歴史的な位置づけを地域発展史の中で紐解く事が肝要と考える。

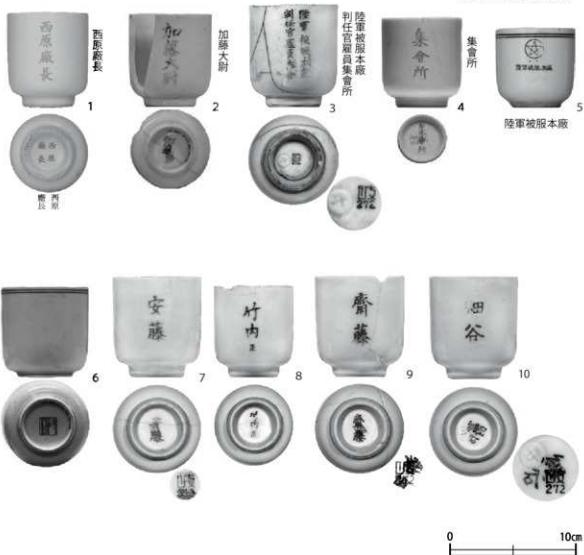
註

- (1) 神奈川県厚木市東町二番遺跡に類例がある。大正年間から戦前を中心に、三重県四日市市周辺で開発・生産された大正万古焼であるとされているが、確実な証左が示されておらず、詳細は不明である。
- (2) 二重圏線入りの器が共用、圏線なしの器（湯呑）は銘々器が基本となろうが、二重圏線なしの湯呑に施設名の入ったものも存在する。目黒区大橋遺跡（陸軍輜重兵学校）の報告では、二重圏線入りの硬質陶器（Ⅰ類）は下士官・民間雇用人が使用、二重圏線なしの白磁（Ⅱ類）は尉官以上の将校・来賓用であるとしている（浅川 2000）
- (3) 大塚相馬焼協同組合のご教示による。
- (4) 長佐古真也 2007『続・お茶碗考—近代・現代の中形碗に飯碗を探る—』『考古学が語る日本の近現代』同成社
- (5) 愛知県陶磁美術館 2022『昭和レトロモダン—洋食器とデザイン画』
- (6) 探美仙人とは狩野探美と思われる。1840（天保 11）年生まれ、1893（明治）年没。狩野派の鍛冶橋狩野家第 10 代で、明治前期の画壇で活躍した日本画家。海軍操練所製図御用、皇居造営の絵画御用を務め、絵画共進会審議員・全国宝物取調局監査掛などを歴任した。
- (7) 公益財団法人 日本陶磁器意匠センター 櫻井健次郎氏よりご教示頂いた。
- (8) 石塚硝子 鈴木達也氏にご協力頂いた。陽刻の検証を行って頂き、石塚硝子のロゴではないことを確認した。他にアンカーコップに関してもご助言を頂いている。
- (9) 主成分クレオソートは主にブナ属の植物から抽出した油状の成分で、脚気や消化器系伝染病の予防に効果があるとされた。1903（明治 36）年に陸軍軍医学校の教官によって発見され、日露戦争中に陸軍内で製造・多用。後に民間でも製造され、各種「征露丸」として販売された。
- (10) 東京市電気局共済組合は、電気供給と路面電車運営を事業の核とする東京市電気局の職員共済組織で、1920（大正 9）設立された。共済事業として、各種給付金の交付や食品・日用品などの配給を行うなかで、服用薬「一粒丸」も頒布されたが、組合が独自に製造したものか、既存の市販薬をパッケージし直したものかは不明、その効能についても不明である。
- (11) ホルペインは、1900（明治 33）年設立の文具・事務用品・洋画材料問屋吉村峯吉商店が前身の画材メーカーである。文具問屋時代に自社開発の「大学ノート」でヒットを飛ばして成長し、その後、画材製作を開始した。1933（昭和 8）年にホルペイン洋画材料研究所を設立している。
- (12) 井内智子 2010『昭和初期における被服協会の活動』『社会経済史学』76-1 104 頁
- (13) 森谷氏論文（下記）22 頁の表 4 参照
森谷 宏 1996『陸軍被服本廠の役割と組織』『文化財研究紀要』第 9 集 東京都北区教育委員会
- (14) 外地へと向かう第 107 野戦飛行場設定隊の陣中日誌をみると、部隊動員二日目に認識票の刻印、被服の受領とある。
「第 107 野戦飛行場設定隊 陣中日誌 自昭和 18 年 10 月 1 日 至昭和 18 年 10 月 31 日」
JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C19010289200（防衛省防衛研究所）
- (15) 占領軍への引き渡しに伴う施設内被服品現数表に、認識票 3 万枚の記載がある。

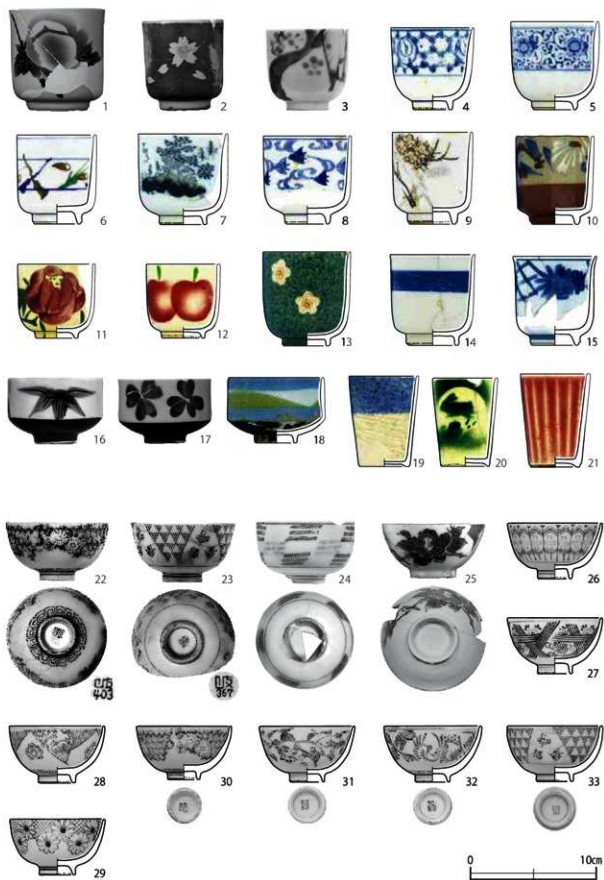
- 「51. 埼玉県北足立郡朝霞町朝霞支廠内（戦用品、作業用物品）現数表 昭和20年10月」
JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C15010952100（防衛省防衛研究所）
- (16) 東京都埋蔵文化財センターによる非破壊蛍光X線分析で判明。装置はエネルギー分散型。
- (17) 下記書類中の目録に認識票が記載されている。
「英国陸軍省より被服装具品買受の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03025270100
欧受大日記 其2 共5 大正10年（防衛省防衛研究所）
昭和14年の交換は以下に記載されている。
「認識票送付に関する件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C01007353050 永存書類
乙集 第4・5類合冊 昭和14年「雑」（防衛省防衛研究所）
- (18) 「軍隊手牒、認識票及朝鮮地図寄贈の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C04014678800
壹大日記 明治43年10月（防衛省防衛研究所）
- (19) 「仏蘭西陸軍々服類標本交付の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03024769100 欧
受大日記 大正6年5月（防衛省防衛研究所）
- (20) 日本煉瓦製造株式会社 1990『日本煉瓦100年史』。



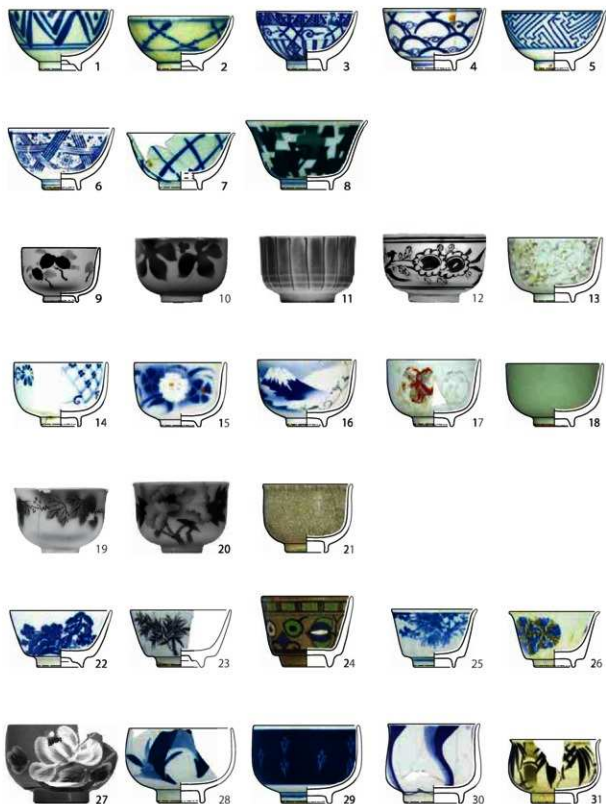
集合写真(第Ⅱ次調査)



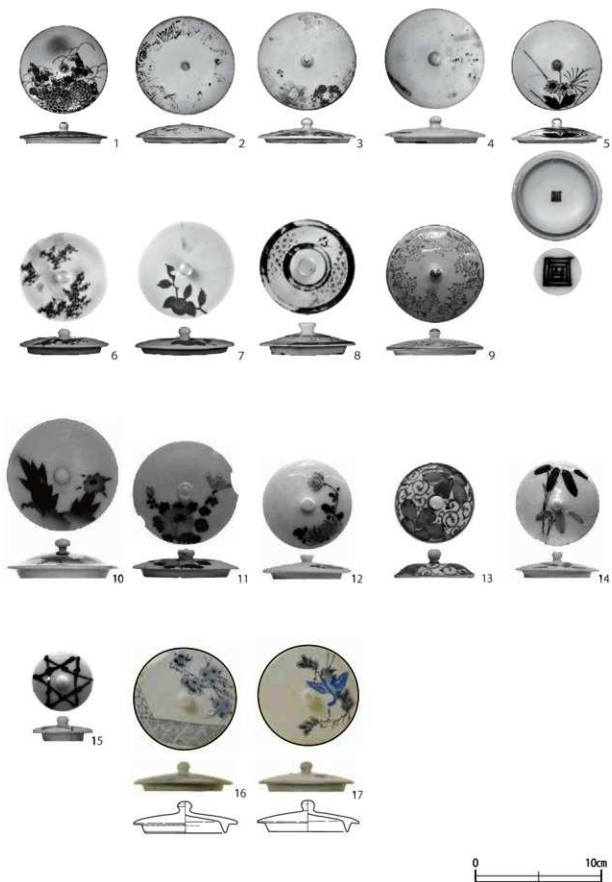
第134 図 被服本廠出土遺物集成1 陶磁器類1 (湯呑1)



第 135 図 被服本廠出土遺物集成 2 陶磁器類 2 (湯呑 2)



第136図 被服本廠出土遺物集成3 陶磁器類3 (湯呑3)



第137図 被服本廠出土遺物集成4 陶磁器類4 (湯呑蓋)



第 138 图 被服本廠出土遺物集成 5 陶磁器類 5 (飯碗)



第 139 図 被服本廠出土遺物集成 6 陶磁器類 6 (并 1 軍用食器 1)



第 140 図 被服本廠出土遺物集成 7 陶磁器類 7 (并 2 軍用食器 2)



第 141 図 被服本廠出土遺物集成 8 陶磁器類 8 (并 3)



第 142 図 被服本廠出土遺物集成 9 陶磁器類 9 (并 4)



第 143 図 被服本廠出土遺物集成 10 陶磁器類 10 (井蓋 1)



第 144 图 被服本廠出土遺物集成 11 陶磁器類 11 (并蓋 2)



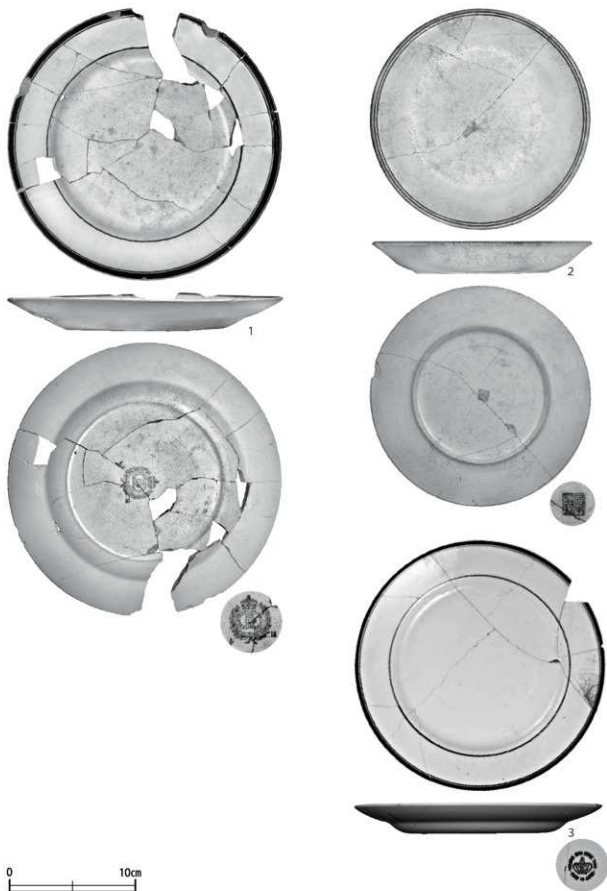
第 145 図 被服本廠出土遺物集成 12 陶磁器類 12 (碗・軍用食器)



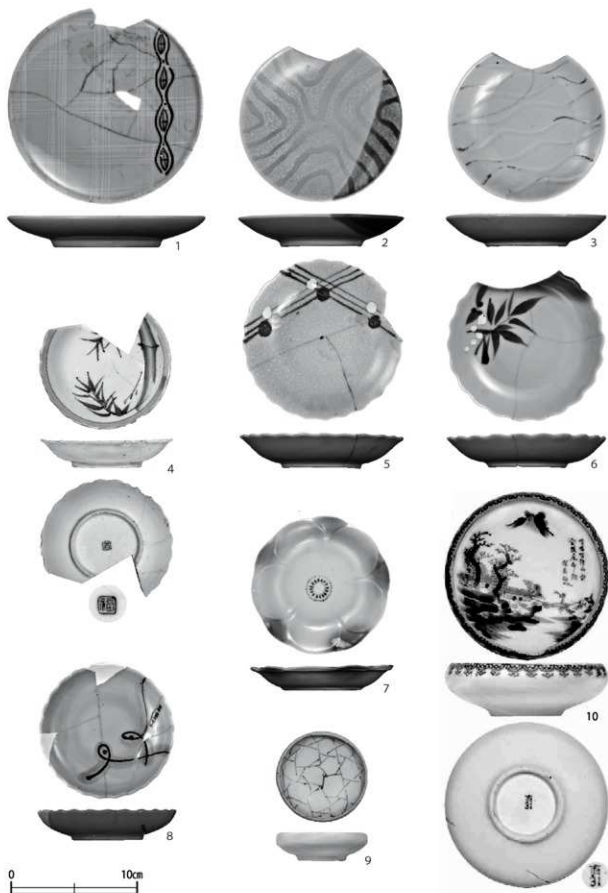
第146図 被服本廠出土遺物集成13 陶磁器類13 (皿1・軍用食器1)



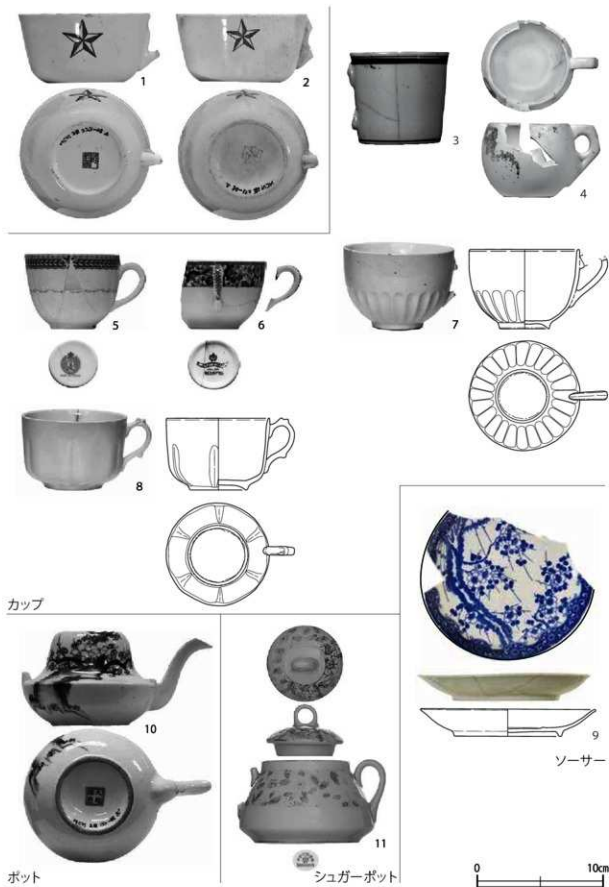
第147図 被服本廠出土遺物集成 14 陶磁器類 14 (皿2・軍用食器2)



第 148 図 被服本廠出土遺物集成 15 陶磁器類 15 (皿 3・軍用食器 3)



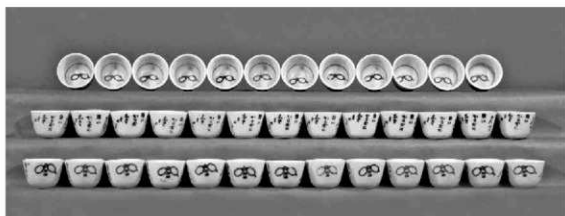
第 149 図 被服本廠出土遺物集成 16 陶磁器類 16 (皿 4・鉢)



第 150 図 被服本廠出土遺物集成 17 陶磁器類 17 (カップ・ポット・ソーサー他)



第 151 図 被服本廠出土遺物集成 18 陶磁器類 18 (徳利)



集合写真



1



2



今日も
明日も
欠かさず
のんで
強い
からだに
からだに
ませい
齋里

肝油猪口



3



4



5



6

昭和十二年二月元旦



7



8



9



10



10



11



12



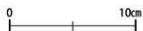
13



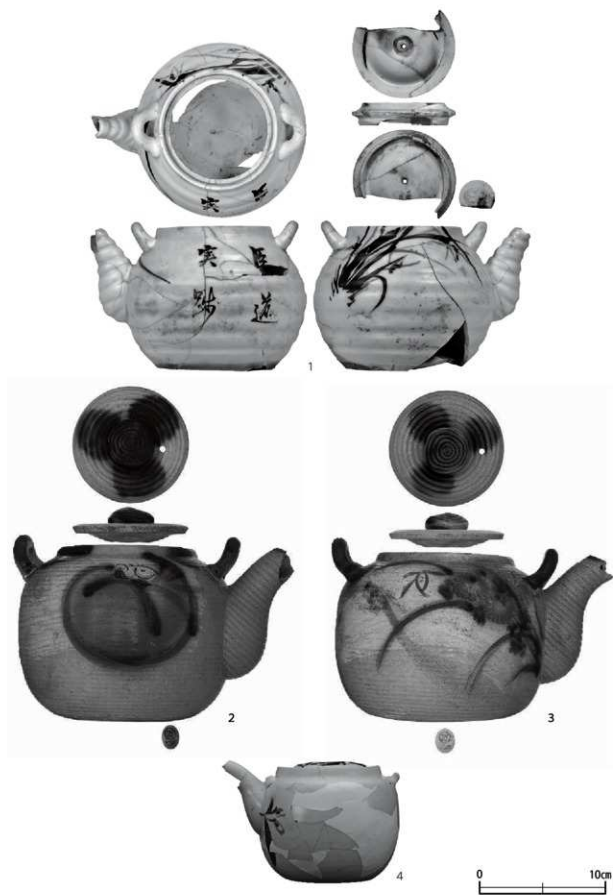
14



15



第152図 被服本廠出土遺物集成19 陶磁器類19 (猪口)



第153図 被服本廠出土遺物集成 20 陶磁器類 20 (土瓶)



第 154 图 被服本廠出土遺物集成 21 陶磁器類 21 (土瓶・急須・蓋)



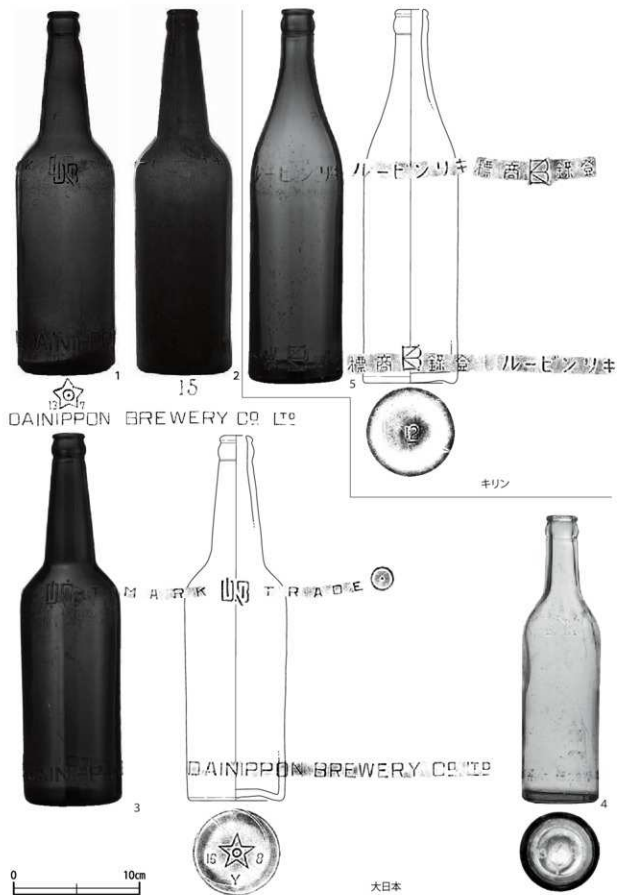
第 155 図 被服本廠出土遺物集成 22 陶磁器類 22 (羽釜・土鍋)



第156図 被服本廠出土遺物集成 23 陶磁器類 23 (電気傘)



第157图 被服本廠出土遺物集成 24 陶磁器類 24 (灰皿他)



第 158 図 被服本廠出土遺物集成 25 ガラス製品 1 (ビール瓶 1)



日英醸造



日本麦酒鉱泉

「新カスケードビール」
寿屋 現:サントリー「サクラビール」
櫻麦酒

スタイナーボトル

アメリカ製

ワンウェイボトル



第 159 図 被服本廠出土遺物集成 26 ガラス製品 2 (ビール瓶 2)



トリスウスキー

サントリー



「オールドバー」

ニッカウキスキー

第 160 図 被服本廠出土遺物集成 27 ガラス製品 3 (洋酒瓶)



1
合同酒精株式会社 (神谷酒造)



2
蜂印香鼠葡萄酒



3
「赤玉ポートワイン」
書屋 現:サントリー



4
「赤旗ポートワイン」
東洋製菓

第 161 図 被服本廠出土遺物集成 28 ガラス製品 4 (ワイン瓶)



清酒瓶



「万上高級焼酎」

野田醤油醸造株式会社
現:キッコーマン株式会社

焼酎瓶



第 162 図 被服本廠出土遺物集成 29 ガラス製品 5 (清酒・焼酎瓶)



第 163 図 被服本廠出土遺物集成 30 ガラス製品 6 (清涼飲料瓶 1・サイダー瓶 1)



「金線サイダー」
金線飲料株式会社



「月姫サイダー」
マルタ商会

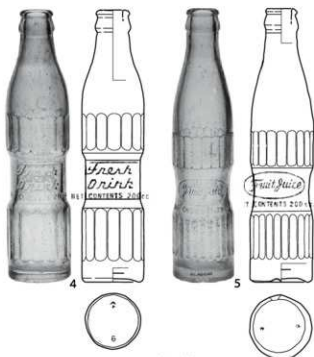
第 164 図 被服本廠出土遺物集成 31 ガラス製品 7 (清涼飲料瓶 2・サイダー瓶 2)



第165図 被服本廠出土遺物集成 32 ガラス製品8 (清涼飲料瓶3)



1 森田飲料製造所 現:スター食品



汎用瓶



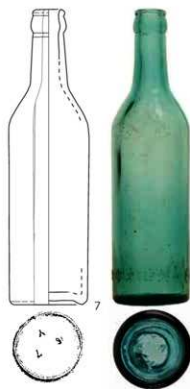
2 明治製菓
シロップ



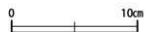
3 カルピス



6 「リボンジュース」
日本麦酒
ジュース



7 大日本麦酒



第 166 図 被服本廠出土遺物集成 33 ガラス製品9 (シロップ・ジュース瓶)

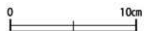


小兒牛乳

磯田乳業



森永乳業



第167図 被服本廠出土遺物集成 34 ガラス製品 10 (乳飲料瓶 1)



乳飲料瓶



第168図 被服本廠出土遺物集成 35 ガラス製品 11 (乳飲料瓶 2)



1



2



寶酒造株式会社
みりん瓶



3

野田醤油(キッコーマン)



4

ヒゲタ醤油

醤油瓶



第 169 図 被服本廠出土遺物集成 36 ガラス製品 12 (調味料瓶 1 みりん・醤油)



第170図 被服本廠出土遺物集成37 ガラス製品13 (調味料瓶2 ソース・ケチャップ・マヨネーズ)



第 171 図 被服本廠出土遺物集成 38 ガラス製品 14 (調味料瓶 3 塩・胡椒他)



「おいしい」島田屋食品



第 172 図 被服本廠出土遺物集成 39 ガラス製品 15 (調味料瓶 4 汁もの他)



「江戸むらさき」

「磯じまん」



佃煮



12
にんべん



13
「雲丹」



14
新橋 橋善



天つゆ?



15
「西洋御料理」



16
葛餅蜜



17
アンカーコップ



第173図 被服本廠出土遺物集成40 ガラス製品16(食品瓶)



投薬瓶



第174図 被服本廠出土遺物集成41 ガラス製品17 (薬瓶1 投薬・薬品瓶1)



第 175 図 被服本廠出土遺物集成 42 ガラス製品 18 (薬瓶 2・薬品瓶 2)



第176図 被服本廠出土遺物集成43 ガラス製品19(薬瓶3 市販薬1・目薬)



第 177 図 被服本廠出土遺物集成 44 ガラス製品 20 (薬瓶 4 市販薬 2 他)



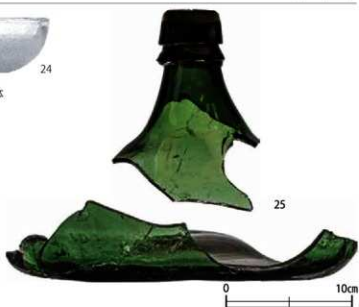
磁器 水銀軟膏



乳鉢



乳棒



第178図 被服本廠出土遺物集成 45 ガラス製品 21 (磁器・栓・器具他)



第 179 図 被服本廠出土遺物集成 46 ガラス製品 22 (化粧品瓶 1 クリーム)



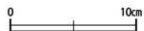
平尾賢平商店



資生堂



IDEAL 高橋東洋堂



第180図 被服本廠出土遺物集成47 ガラス製品23 (化粧品瓶2 ローション・オイル・乳液)



アメリカ製



第 181 図 被服本廠出土遺物集成 48 ガラス製品 24 (化粧品瓶 3 アメリカ製、整髪料・染料他)



第182図 被服本廠出土遺物集成49 ガラス製品25 (インク瓶1)



第 183 図 被服本廠出土遺物集成 50 ガラス製品 26 (インク瓶 2)



瓶蓋



アメリカ製



マジックインキ
寺西化学工業

マジック



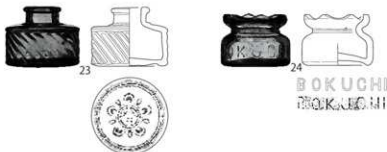
絵具



三星

ポスターカラー

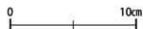
文房堂

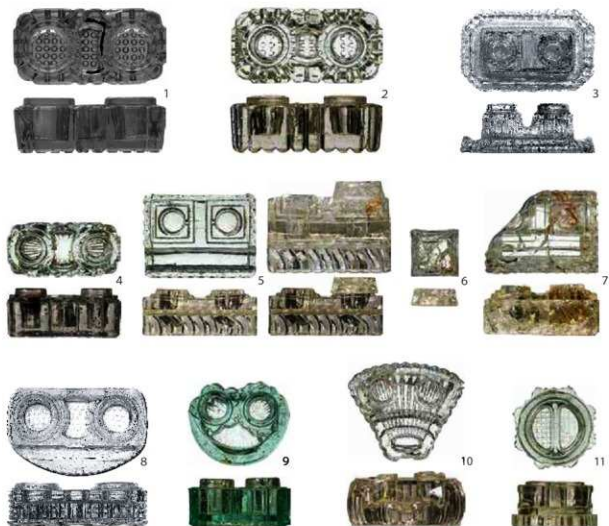


田口商会 現: 開明

墨汁

第 184 図 被服本廠出土遺物集成 51 ガラス製品 27 (インク瓶 3・マジック他)





インク壺



第 185 図 被服本廠出土遺物集成 52 ガラス製品 28 (インク壺、オイル瓶)



第186図 被服本廠出土遺物集成 53 ガラス製品 29 (糊瓶)



海绵入れ



硝子ペン



万年筆



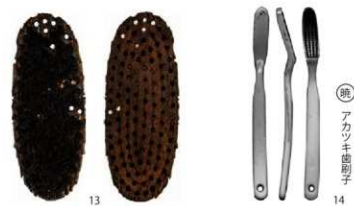
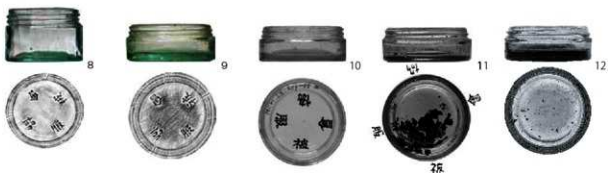
「みや古染」

株式会社桂屋商店
現：桂屋ファイングッズ
株式会社

染料



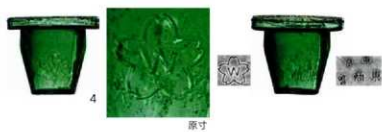
第 187 図 被服本廠出土遺物集成 54 ガラス製品 30 (文房具他)



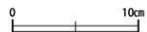
第 188 図 被服本廠出土遺物集成 55 ガラス製品 31 (靴墨瓶・刷子)



消火弾



原寸

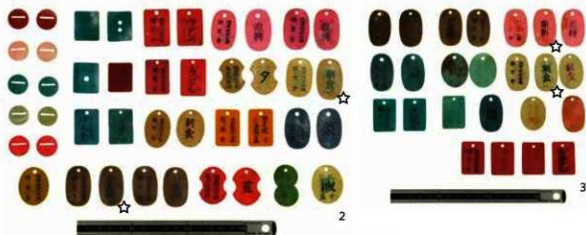


第 189 図 被服本廠出土遺物集成 56 ガラス製品 32 (消火弾他)



道合遺跡第II次調査出土

1



2

3



4



5

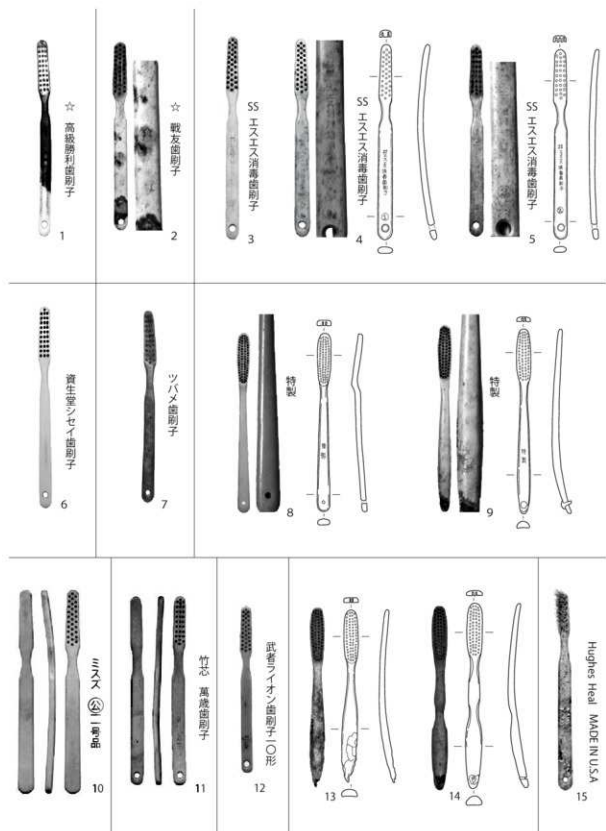
赤羽上ノ台遺跡第V次調査出土

☆ 表面に星印のあるもの

第190図 被服本廠出土遺物集成57 合成樹脂製品1(食券1)



第 191 図 被服本廠出土遺物集成 58 合成樹脂製品 2 (食券 2)



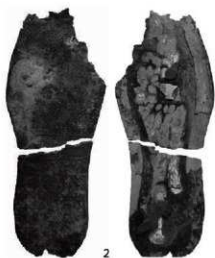
第 192 図 被服本廠出土遺物集成 59 合成樹脂製品 3 (歯刷牙子)



第193圖 被服本廠出土遺物集成60 皮革製品1(靴1)



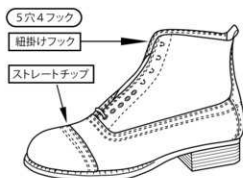
1



2



3

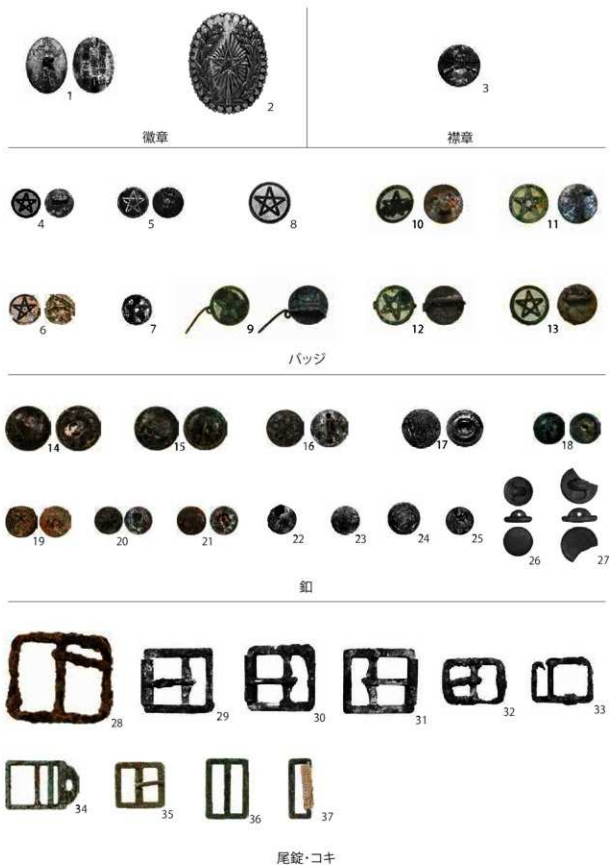


海軍編上げ靴

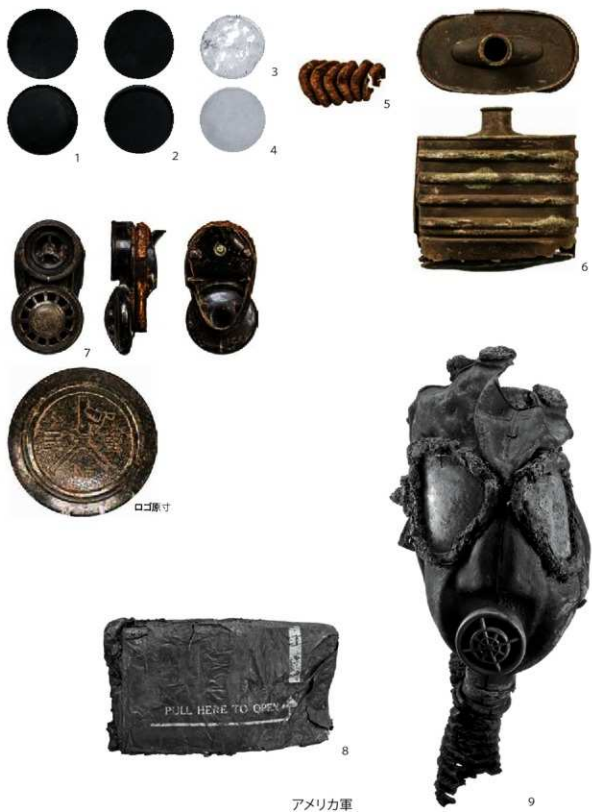
「海軍被服物品規格」より 再トレース
防衛研究所戦史研究センター所蔵



第194図 被服本廠出土遺物集成61 皮革製品1(靴2)



第 195 図 被服本廠出土遺物集成 62 金属製品 1 (徽章・バッジ・鈕・尾錠・コキ)



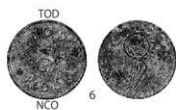
第 196 図 被服本廠出土遺物集成 63 金属製品 2 (防毒面関連)



鉄 帽



第197図 被服本廠出土遺物集成64 金属製品3 (鉄帽)

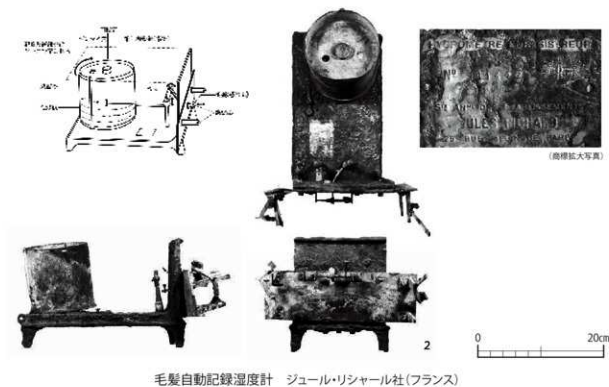


5 セント(代用硬貨)

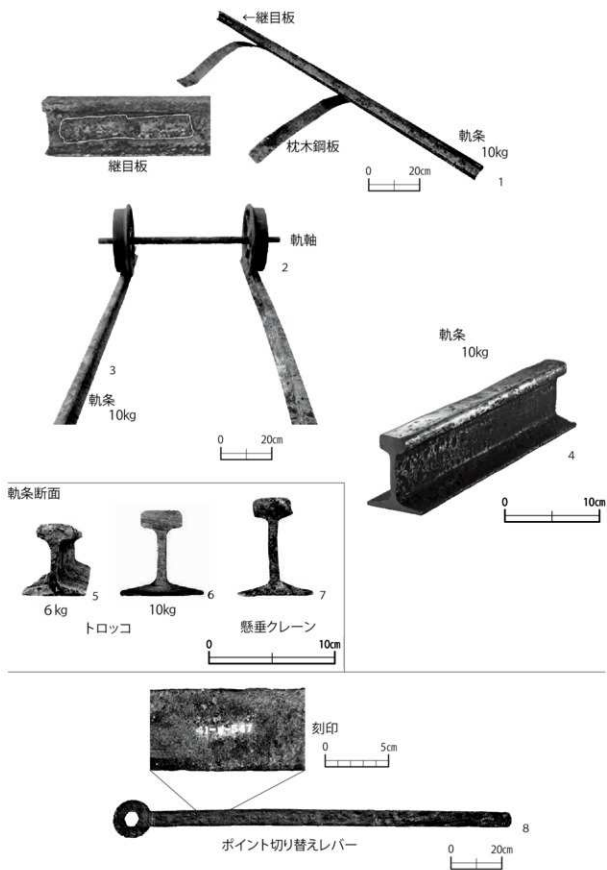
TOD(東京兵器補給廠)第1~5地区(北・板橋区米軍施設)で流通
NCO:下士官

50 センタ硬貨
フィリピン(1944・45 製造) 独立前流通貨幣

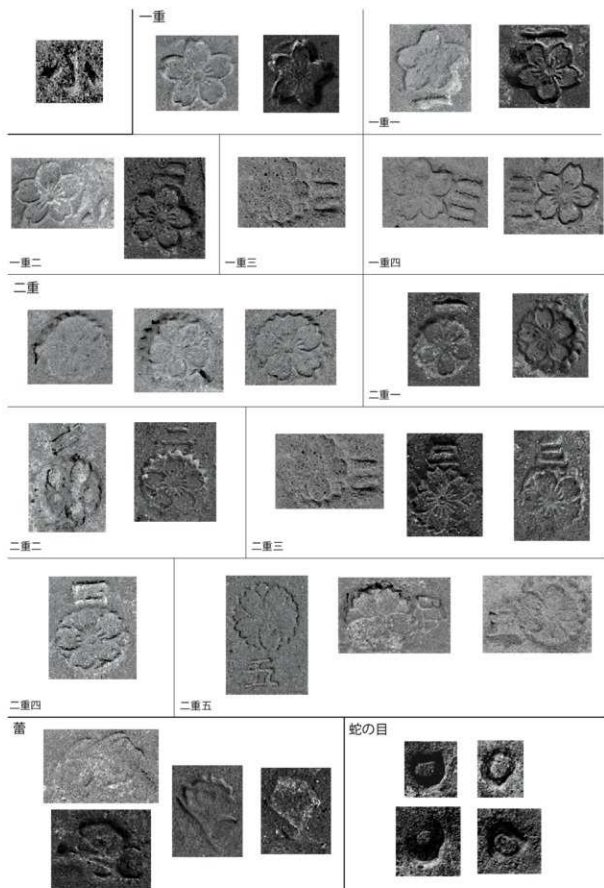




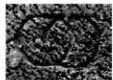
第 199 図 被服本廠出土遺物集成 66 金属製品 5 (計測機器)



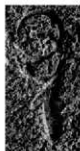
第 200 図 被服本廠出土遺物集成 67 金属製品 6 (鉄道関連)



第 201 図 被服本廠出土遺物集成 68 煉瓦 1 (小菅集治監)



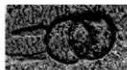
輪違い



輪違い+イ



輪違い+ハ



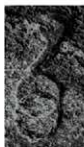
輪違い+ニ



輪違い+ホ



輪違い+リ
(反転)



輪違い+ワ

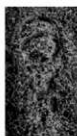


(反転)

輪違い+ラ



輪違い+フ



輪違い+キ



輪違い+モ



輪違い+ン



輪違い+一



輪違い+E(ヨ)



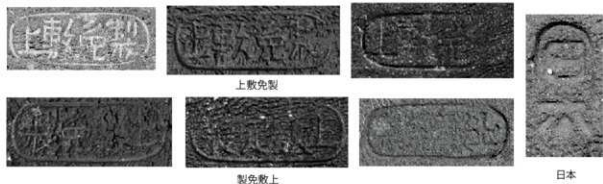
楕円+コ



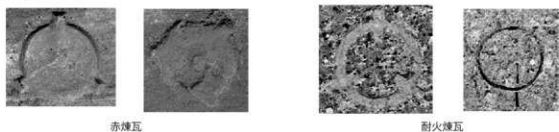
楕円+キ

第 202 図 被服本廠出土遺物集成 69 煉瓦 2 (金町煉瓦)

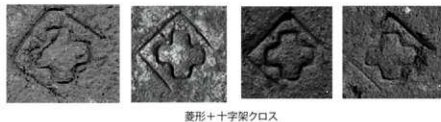
日本煉瓦製造



大阪窯業



岸和田煉瓦(山陽煉瓦納入品) 昭和17~36年



貝塚煉瓦

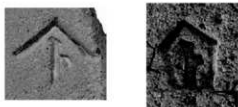


片山工場(愛知)



大正年間使用
石原商店(富山)毛同刻印

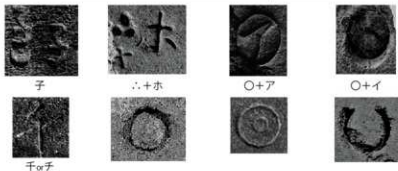
大和煉瓦



山本煉瓦(尾久)



下野煉瓦



第203図 被服本廠出土遺物集成70 煉瓦3(各会社)

三石耐火煉瓦(岡山)



三石耐火煉瓦加藤合資会社



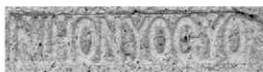
…SHI



美濃窯業



日本窯業



横浜煉化



山陽窯業?



大版窯業



大版窯業八王子工場?



大版窯業耐火煉瓦(株)

中京耐火煉瓦



九州耐火煉瓦(岡山)



中村窯工(株)



荒木窯業(福岡)



甲州煉瓦(山梨)



品川白煉瓦



第 204 図 被服本廠出土遺物集成 71 煉瓦 4 (耐火煉瓦)

報告書一覧

- ㊦ 道合遺跡第Ⅱ次調査 2010 「道合遺跡」東京都埋蔵文化財センター調査報告 第247集
- ㊦ 道合遺跡第Ⅲ次調査 2013 「道合遺跡」東京都埋蔵文化財センター調査報告 第280集
- ㊦ 道合遺跡第Ⅳ次・赤羽上ノ台遺跡第Ⅱ次調査 2015 「道合遺跡 赤羽上ノ台遺跡」
東京都埋蔵文化財センター調査報告 第303集
- ㊦ 道合遺跡第Ⅴ次調査 2016 「道合遺跡」東京都埋蔵文化財センター調査報告 第307集
- ㊦ 道合遺跡第Ⅵ次調査 2017 「道合遺跡」東京都埋蔵文化財センター調査報告 第317集
- ㊦ 道合遺跡第Ⅵ次・赤羽上ノ台遺跡第Ⅳ次調査 2017 「道合遺跡 赤羽上ノ台遺跡」
東京都埋蔵文化財センター調査報告 第318集
- ㊦ 道合遺跡第Ⅶ次調査 2019 「道合遺跡」東京都埋蔵文化財センター調査報告 第339集
- ㊦ 赤羽上ノ台遺跡第Ⅲ次調査 2016 「赤羽上ノ台遺跡」武蔵文化財研究所
- ㊦ 赤羽上ノ台遺跡第Ⅴ次調査 2021 「赤羽上ノ台遺跡」武蔵文化財研究所
- ㊦ 道合遺跡第Ⅸ次・赤羽上ノ台遺跡第Ⅵ次調査 今回報告分
- ㊦・㊦は図版番号、その他は種別番号

第134図 湯呑1

1 : ㊦26-50 2 : ㊦46-26 3 : ㊦236-1 4 : ㊦66-205 5 : ㊦53-2 6 : ㊦45-4 7 : ㊦236-5 8 : ㊦236-19
9 : ㊦236-13 10 : ㊦237-5

第135図 湯呑2

1 : ㊦328-31 2 : ㊦328-30 3 : ㊦51-88 4 : ㊦20-16 5 : ㊦20-27 6 : ㊦21-32 7 : ㊦21-37 8 : ㊦21-45 9 : ㊦21-38
10 : ㊦21-46 11 : ㊦21-56 12 : ㊦21-53 13 : ㊦22-70 14 : ㊦21-36 15 : ㊦21-33 16 : ㊦239-6 17 : ㊦327-18
18 : ㊦23-112 19 : ㊦24-130 20 : 24-133 21 : 24-13422 : ㊦238-12 23 : ㊦238-14 24 : ㊦238-15 25 : ㊦238-17
26 : ㊦55-36 27 : ㊦55-37 28 : ㊦55-38 29 : ㊦55-40 30 : ㊦56-43 31 : ㊦56-44 32 : ㊦56-46 33 : ㊦56-47

第136図 湯呑3

1 : ㊦22-74 2 : ㊦22-75 3 : ㊦22-89 4 : 22-90 5 : ㊦23-93 6 : ㊦23-100 7 : ㊦22-77 8 : ㊦23-118 9 : ㊦56-48
10 : ㊦327-13 11 : ㊦64-170 12 : ㊦239-4 13 : ㊦23-105 14 : ㊦23-106 15 : ㊦23-102 16 : ㊦23-113 17 : ㊦23-114
18 : ㊦23-99 19 : ㊦238-16 20 : ㊦63-159 21 : ㊦24-126 22 : ㊦22-80 23 : ㊦22-81 24 : ㊦24-127 25 : ㊦22-78
26 : ㊦22-79 27 : ㊦64-167 28 : ㊦23-119 29 : ㊦23-117 30 : ㊦23-120 31 : ㊦24-125

第137図 湯呑蓋

1 : ㊦239-10 2 : ㊦239-11 3 : ㊦239-12 4 : ㊦239-13 5 : ㊦239-14 6 : ㊦328-47 7 : ㊦328-48
8 : ㊦328-49 9 : ㊦48-52 10 : ㊦57-73 11 : 63-110 12 : ㊦46-27 13 : ㊦48-51 14 : ㊦52-131 15 : ㊦51-89 16 : ㊦3-6
37-2 17 : ㊦3-6-37-3

第138図 飯碗

1 : ㊦239-16 2 : ㊦328-52 3 : ㊦328-55 4 : ㊦328-53 5 : ㊦24-143 6 : ㊦328-54 7 : ㊦329-58 8 : ㊦24-148
9 : ㊦24-149 10 : ㊦24-151 11 : ㊦24-152 13 : ㊦25-156 14 : 329-61 15 : 329-63 16 : 329-64 17 : ㊦55-185 18 : ㊦
329-59
19 : ㊦329-60 20 : ㊦55-187 21 : ㊦25-157 22 : ㊦25-158 23 : ㊦25-159 24 : ㊦25-160 25 : 25-161 26 : ㊦25-152

第139図 井1 (単用食器1)

1 : ㊦28-193 2 : ㊦26-172 3 : ㊦28-191 4 : ㊦26-171 5 : ㊦240-4 6 : ㊦25-164

第140図 井2 (単用食器2)

1 : ㊦28-192 2 : ㊦26-170 3 : ㊦26-169 4 : ㊦28-190 5 : ㊦26-167 6 : ㊦51-97 7 : ㊦240-7 8 : ㊦26-168

第141図 井3

1 : ㊦241-4 2 : ㊦330-75 3 : ㊦330-77 4 : ㊦330-78 5 : ㊦330-79 6 : ㊦330-81 7 : ㊦330-82・83 8 : ㊦57-70

第142図 井4

1 : ㊦241-6 2 : ㊦331-94 3 : ㊦331-97 4 : ㊦241-7 5 : ㊦241-3 6 : ㊦241-5 7 : ㊦332-99 8 : ㊦332-102
9 : ㊦332-103 10 : ㊦332-101

第143図 井蓋1

1 : ㊦29-197 2 : ㊦28-193 3 : ㊦51-92 4 : ㊦242-2 5 : ㊦51-91 6 : ㊦28-191 7 : ㊦28-190 8 : ㊦242-1

第144図 井蓋2

1 : ㊦242-3 2 : ㊦29-198 3 : 29-201 4 : ㊦242-4 5 : ㊦242-6 6 : ㊦331-90 7 : ㊦29-202 8 : ㊦29-203 9 : ㊦29-204

第145図 碗 (単用食器)

1 : ㊦30-205 2 : ㊦239-15 3 : ㊦240-3 4 : ㊦239-17 5 : ㊦55-188 6 : ㊦47-44 7 : ㊦46-34 8 : ㊦52-105
9 : ㊦52-106

第146図 皿 (1単用食器1)

1 : ㊦30-212 2 : ㊦56-56 3 : ㊦244-2 4 : 31-213 5 : 32-220

第147図 皿2 (単用食器2)

1 : ㊦244-1 2 : ㊦32-217 3 : ㊦244-3 4 : ㊦53-155 5 : ㊦243-4 6 : ㊦49-75

第148図 皿3 (単用食器3)

1 : ㊦243-2 2 : ㊦243-3 3 : ㊦333-110

第149図 皿4・鉢

1 : ㊦333-111 2 : ㊦333-113 3 : ㊦333-114 4 : ㊦244-6 5 : ㊦334-115 6 : ㊦334-116 7 : ㊦334-119 8 : ㊦334-118

9 : ㊦243-6 10 : ㊦244-7

第150図 カップ・ポット・ソーサー他

1 : ㊦52-107 2 : ㊦52-108 3 : ㊦328-51 4 : ㊦245-8 5 : ㊦63-164 6 : ㊦63-165 7 : ㊦65-13 8 : ㊦65-12
9 : ㊦3-6-37-1 10 : ㊦56-59・60

第151図 徳利

1 : ㊦38-279 2 : ㊦38-280 3 : ㊦335-129 4 : ㊦335-130 5 : ㊦37-277 6 : ㊦57-76 7 : ㊦37-276 8 : ㊦37-278

第152図 猪口

1 : ㊦245-1 2 : ㊦53-5 3 : ㊦245-3 4 : ㊦245-6 5 : ㊦335-138 6 : ㊦51-90 7 : ㊦47-48 8 : ㊦53-154 9 : ㊦335-132

10 : ㊦335-136 11 : ㊦335-137 12 : ㊦335-140 13 : ㊦335-144 14 : ㊦335-145 15 : ㊦335-147

第153図 土瓶

1 : ㊦ 245-10 2 : ㊦ 58-80・81 3 : ㊦ 58-82・83 4 : ㊦ 335-151

第154図 土瓶・急須

1 : ㊦ 35-246 2 : ㊦ 35-250 3 : ㊦ 35-251 4 : ㊦ 35-252 5 : ㊦ 36-261 6 : ㊦ 36-262 7 : ㊦ 36-263 8 : ㊦ 36-264
9 : ㊦ 36-253 10 : ㊦ 37-265 11 : ㊦ 245-9 12 : ㊦ 36-260 13 : ㊦ 36-259 14 : ㊦ 37-266 15 : ㊦ 37-267

第155図 羽釜・土鍋

1 : ㊦ 336-163 2 : ㊦ 336-164 3 : ㊦ 336-165 4 : ㊦ 336-167 5 : ㊦ 336-168 6 : ㊦ 336-166 7 : ㊦ 337-169 8 : ㊦ 337-170

9 : ㊦ 337-171 10 : ㊦ 337-172 11 : ㊦ 337-173 12 : ㊦ 337-174

第156図 電気傘

1 : ㊦ 247-10 2 : ㊦ 337-177 3 : ㊦ 65-195 4 : ㊦ 3-6-34-2

第157図 灰皿他

1 : ㊦ 247-4 2 : ㊦ 3-6-71-5 3 : ㊦ 39-284 4 : ㊦ 336-158 5 : ㊦ 336-160 6 : ㊦ 336-159 7 : ㊦ 247-6 8 : ㊦ 46-28
9 : ㊦ 275-1 10 : ㊦ 3-6-20-3 11 : ㊦ 64-175

第158図 ビール瓶1

1 : ㊦ 54-19 2 : ㊦ 54-20 3 : ㊦ 338-186 4 : ㊦ 248-8 5 : ㊦ 338-181

第159図 ビール瓶2

1 : ㊦ 338-180 2 : ㊦ 48-329 3 : ㊦ 48-330 4 : ㊦ 249-1 5 : ㊦ 249-2 6 : ㊦ 339-194 7 : ㊦ 249-5

第160図 洋酒瓶

1 : ㊦ 339-199 2 : ㊦ 339-200 3 : ㊦ 49-334 4 : ㊦ 49-335 5 : ㊦ 249-7 6 : ㊦ 56-202

第161図 ワイン瓶

1 : ㊦ 339-197 2 : ㊦ 69-3 3 : ㊦ 339-196 4 : ㊦ 49-333

第162図 清酒・焼酎瓶

1 : ㊦ 49-74 2 : ㊦ 52-112 3 : ㊦ 54-166 4 : ㊦ 340-201 5 : ㊦ 340-203 6 : ㊦ 340-208

第163図 清涼飲料瓶1 (サイダー瓶1)

1 : ㊦ 249-8 2 : ㊦ 249-9 3 : ㊦ 66-212 4 : ㊦ 62-135 5 : ㊦ 62-136 6 : ㊦ 45-5 7 : ㊦ 48-56 8 : ㊦ 50-340 9 : ㊦ 50-341

第164図 清涼飲料瓶2 (サイダー瓶2)

1 : ㊦ 341-211 2 : ㊦ 340-210 3 : ㊦ 45-6 4 : ㊦ 55-198

第165図 清涼飲料瓶3

1 : ㊦ 249-6 2 : ㊦ 341-214 3 : ㊦ 341-213 4 : ㊦ 341-245 5 : ㊦ 50-338 6 : ㊦ 51-343 7 : ㊦ 51-344 8 : ㊦ 51-345
9 : ㊦ 51-346 10 : ㊦ 51-347 11 : ㊦ 51-342

第166図 シロップ・ジュース瓶

1 : ㊦ 3-6-62-9 2 : ㊦ 52-349 3 : ㊦ 341-212 4 : ㊦ 62-3 5 : ㊦ 62-4 6 : ㊦ 51-348 7 : ㊦ 3-6-47-9-1

第167図 乳飲料瓶1

1 : ㊦ 52-350 2 : ㊦ 52-351 3 : ㊦ 52-352 4 : ㊦ 52-353 5 : ㊦ 52-354 6 : ㊦ 53-15 7 : ㊦ 59-105 8 : ㊦ 66-209
9 : ㊦ 342-233 10 : ㊦ 250-1 11 : ㊦ 342-218 12 : ㊦ 53-15 13 : ㊦ 53-357

第168図 乳飲料瓶2

1 : ㊟342-228 2 : ㊟342-229 3 : ㊟53-358 4 : ㊟53-359 5 : ㊟52-355 6 : ㊟53-356 7 : ㊟342-234 8 : ㊟342-235
9 : ㊟53-361 10 : ㊟53-360 11 : ㊟53-362 12 : ㊟53-363 13 : ㊟53-364

第169図 調味料瓶1 (みりん・醤油)

1 : ㊟340-206 2 : ㊟340-205 3 : ㊟53-365 4 : ㊟48-55

第170図 調味料瓶2 (ソース・ケチャップ・マヨネーズ)

1 : ㊟63-156 2 : ㊟66-211 3 : ㊟59-106 4 : ㊟47-38 5 : ㊟54-367 6 : ㊟52-111 7 : ㊟54-368 8 : ㊟342-240
9 : ㊟342-237 10 : ㊟342-238 11 : ㊟54-370 12 : ㊟54-371

第171図 調味料瓶3 (塩・胡椒・化学調味料他)

1 : ㊟56-203 2 : ㊟343-244 3 : ㊟343-245 4 : ㊟54-173 5 : ㊟343-246 6 : ㊟343-247 7 : ㊟54-177
8 : ㊟3-6-50-16 9 : ㊟54-373 10 : ㊟54-374 11 : ㊟3-6-50-22 12 : ㊟54-372 13 : ㊟343-242 14 : ㊟343-241 15 : ㊟51-

96

第172図 調味料瓶4 (汁の他)

1 : ㊟343-243 2 : ㊟55-197 3 : ㊟3-6-50-19 4 : ㊟54-171 5 : ㊟56-200 6 : ㊟249-12 7 : ㊟53-141

第173図 食品瓶

1 : ㊟54-378 2 : ㊟343-252 3 : ㊟54-380 4 : ㊟55-381 5 : ㊟343-248 6 : ㊟343-249 7 : ㊟343-250 8 : ㊟55-383
9 : ㊟250-5 10 : ㊟343-251 11 : ㊟55-384 12 : ㊟54-375 13 : ㊟55-382 14 : ㊟3-6-71-8 15 : ㊟54-376 16 : ㊟54-377
17 : ㊟55-386

第174図 薬瓶1 (投薬・薬品瓶)

1 : ㊟251-2 2 : ㊟59-100 3 : ㊟48-54 4 : ㊟48-53 5 : ㊟59-99 6 : ㊟252-1 7 : ㊟252-7 8 : ㊟252-3 9 : ㊟252-4
10 : ㊟252-8 11 : ㊟252-5 12 : ㊟343-262 13 : ㊟59-45 14 : ㊟54-167 15 : ㊟345-261 16 : ㊟48-67 17 : ㊟250-7
18 : ㊟250-8 19 : ㊟250-9 20 : ㊟251-1 21 : ㊟251-3

第175図 薬瓶2 (薬品瓶2)

1 : ㊟344-258 2 : ㊟251-4 3 : ㊟55-395 4 : ㊟55-396 5 : ㊟55-397 6 : ㊟56-409 7 : ㊟56-406 8 : ㊟251-5
9 : ㊟344-259 10 : ㊟56-411 11 : ㊟56-412 12 : ㊟251-8 13 : ㊟251-7

第176図 薬瓶3 (市販薬・目薬)

1 : ㊟345-264 2 : ㊟59-104 3 : ㊟3-6-71-10 4 : ㊟45-66 5 : ㊟346-301 6 : ㊟253-10 7 : ㊟252-9 8 : ㊟252-10
9 : ㊟3-6-71-9 10 : ㊟57-417 11 : ㊟57-419 12 : ㊟57-421 13 : ㊟345-274 14 : ㊟45-14 15 : ㊟346-296 16 : ㊟346-298
17 : ㊟346-300 18 : ㊟346-297 19 : ㊟57-424 20 : ㊟254-2 21 : ㊟66-16 22 : ㊟64-185 23 : ㊟54-176 24 : ㊟254-1
25 : ㊟57-426 26 : ㊟57-425 27 : ㊟3-6-30-1 28 : ㊟57-427・429 29 : ㊟254-4 30 : ㊟254-3

第177図 薬瓶4 (市販薬その他、アメリカ製)

1 : ㊟56-201 2 : ㊟54-172 3 : ㊟261-9 4 : ㊟62-148 5 : ㊟345-271 6 : ㊟345-263 7 : ㊟345-272 8 : ㊟57-415
9 : ㊟252-19 10 : ㊟252-18 11 : ㊟57-416 12 : ㊟253-5 13 : ㊟346-280 14 : ㊟345-266 15 : ㊟252-13 16 : ㊟252-14
17 : ㊟252-17 18 : ㊟345-267 19 : ㊟345-275 20 : ㊟345-278 21 : ㊟253-7 22 : ㊟253-6 23 : ㊟346-285 24 : ㊟253-8
25 : ㊟346-287 26 : ㊟253-11 ~ 20 27 : ㊟346-293 28 : ㊟346-294 29 : ㊟253-9 30 : ㊟346-295 31 : ㊟346-302
32 : ㊟45-16 33 : ㊟346-292 34 : ㊟252-23 35 : ㊟253-20 36 : ㊟253-21 37 : ㊟253-22 38 : ㊟253-1 39 : ㊟253-2
40 : ㊟253-3

第178図 薬瓶5 (磁器・栓・医療器具)

1 : ㊦ 246-13 2 : ㊦ 246-14 3 : ㊦ 246-15 6 : ㊦ 246-19 5 : ㊦ 246-20 6 : ㊦ 246-21 7 : ㊦ 253-21 8 : ㊦ 253-25
 9 : ㊦ 253-22 10 : ㊦ 253-26 11 : ㊦ 253-27 12 : 253-28 13 : ㊦ 253-29 14 : 253-32 15 : ㊦ 253-33 16 : ㊦ 253-34
 17 : ㊦ 253-35 18 : ㊦ 253-3619 : ㊦ 253-43 20 : ㊦ 253-38 21 : ㊦ 253-39 22 : ㊦ 253-45 23 : ㊦ 254-6 ~ 15 24 : ㊦ 254-5
 25 : ㊦ 57-435

第179図 化粧瓶1 (クリーム)

1 : ㊦ 58-436 2 : ㊦ 3-6-34-4 3 : ㊦ 54-162 4 : ㊦ 58-437 5 : ㊦ 62-140 6 : ㊦ 347-319 7 : ㊦ 3-6-24-18 8 : ㊦ 58-439
 9 : ㊦ 3-6-20-4 10 : ㊦ 3-6-20-5 11 : ㊦ 335-155 12 : ㊦ 347-324 13 : ㊦ 245-7 14 : ㊦ 65-150 15 : ㊦ 58-441 16 : ㊦ 58-442
 17 : ㊦ 58-87 18 : ㊦ 63-150 19 : ㊦ 347-3 20 : ㊦ 58-490 21 : ㊦ 347-32021 22 : ㊦ 58-88 23 : ㊦ 347-323 24 : ㊦ 58-89
 25 : ㊦ 246-1 26 : ㊦ 54-164 27 : ㊦ 46-23 28 : ㊦ 246-3 29 : ㊦ 246-6 30 : ㊦ 54-163

第180図 化粧瓶2 (ローション・オイル・乳液)

1 : ㊦ 347-310 2 : ㊦ 54-170 3 : ㊦ 347-315 4 : ㊦ 49-73 5 : ㊦ 54-169 6 : ㊦ 347-311 7 : ㊦ 246-10 8 : ㊦ 255-2
 9 : ㊦ 3-6-46-4 10 : ㊦ 3-6-20-2 11 : ㊦ 63-151 12 : ㊦ 58-86 13 : ㊦ 335-156

第181図 化粧瓶3 (アメリカ製、整髪料・ボマード・精油・染料)

1 : ㊦ 254-20 2 : ㊦ 254-19 3 : ㊦ 254-18 4 : ㊦ 255-6 5 : ㊦ 255-4 6 : ㊦ 254-17 7 : ㊦ 347-309 8 : ㊦ 347-308
 9 : ㊦ 58-445 10 : ㊦ 58-446 11 : ㊦ 58-447 12 : ㊦ 246-9 13 : ㊦ 59-93 14 : ㊦ 59-94

第182図 インク瓶1

1 : ㊦ 3-6-13-15 2 : ㊦ 337-176 3 : ㊦ 337-175 4 : ㊦ 256-2 5 : ㊦ 256-1 6 : ㊦ 256-4 7 : ㊦ 256-3 8 : ㊦ 348-325
 9 : ㊦ 256-5 10 : ㊦ 3-6-13-14

第183図 インク瓶2

1 : ㊦ 348-326 2 : ㊦ 348-327 3 : ㊦ 256-6 4 : ㊦ 52-116 5 : ㊦ 256-7 6 : ㊦ 257-1 7 : ㊦ 257-3 8 : ㊦ 256-9
 9 : ㊦ 256-8 10 : ㊦ 3-6-13-11 11 : ㊦ 3-6-17-5 12 : ㊦ 256-10 13 : ㊦ 257-6 14 : ㊦ 3-6-13-15 15 : ㊦ 348-332
 16 : ㊦ 3-6-13-12 17 : ㊦ 348-331 18 : ㊦ 59-467 19 : ㊦ 62-139 20 : ㊦ 52-115 21 : ㊦ 52-118

第184図 インク瓶3・マジック他

1 : ㊦ 347-318 2 : ㊦ 3-6-34-5 3 : ㊦ 54-178 4 : ㊦ 3-6-13-10 5 : ㊦ 52-121 6 : ㊦ 52-123 7 : ㊦ 52-122 8 : ㊦ 257-9
 9 : ㊦ 257-7 10 : ㊦ 257-13 11 : ㊦ 348-335 12 : ㊦ 59-459 13 : ㊦ 348-337 14 : ㊦ 348-336 15 : ㊦ 59-462 16 : ㊦ 59-463
 17 : ㊦ 59-464 18 : ㊦ 59-460 19 : ㊦ 59-461 20 : ㊦ 46-32 21 : ㊦ 51-93 22 : ㊦ 53-138 23 : ㊦ 348-329 24 : ㊦ 348-334

第185図 インク壺・オイル瓶

1 : ㊦ 64-187 2 : ㊦ 59-465 3 : ㊦ 257-12 4 : ㊦ 59-466 5 : ㊦ 59-467 6 : ㊦ 59-473 7 : ㊦ 59-469 8 : ㊦ 257-11
 9 : ㊦ 59-470 10 : ㊦ 59-471 11 : 59-472 12 : ㊦ 59-474 13 : ㊦ 59-475 14 : ㊦ 347-312 15 : ㊦ 59-476

第186図 罎瓶

1 : ㊦ 335-154 2 : ㊦ 246-4 3 : ㊦ 246-5 4 : ㊦ 3-6-14-20 5 : ㊦ 3-6-14-19 6 : ㊦ 3-6-14-21 7 : ㊦ 3-6-14-29
 8 : ㊦ 3-6-14-36 9 : ㊦ 3-6-14-31 10 : ㊦ 348-338 11 : ㊦ 60-477 12 : ㊦ 348-342 13 : ㊦ 348-343 14 : ㊦ 52-119 15 : ㊦
 348-345
 16 : ㊦ 60-478 17 : ㊦ 348-346 18 : ㊦ 348-347

第187図 文房具他

1 : ㊦ 258-4 2 : ㊦ 258-5 3 : ㊦ 258-6 4 : ㊦ 36-13-17 5 : ㊦ 66-7 6 : ㊦ 60-479 7 : ㊦ 60-480 8 : ㊦ 60-481 9 : ㊦
 261-1 10 : ㊦ 36-66-1・2 11 : ㊦ 60-118 12 : ㊦ 347-316

第188図 鞍馬車・刷子

1 : ㊦255-15 2 : ㊦3-6-50-18 3 : ㊦3-6-72-13 4 : ㊦349-355 5 : ㊦349-353 6 : ㊦349-351 7 : ㊦349-352
8 : ㊦60-482 9 : ㊦60-483 10 : ㊦48-61 11 : ㊦64-181 12 : ㊦255-16 13 : ㊦ 14 : ㊦60-117

第189図 消火淨池

1 : ㊦259-3 2 : ㊦67-21 3 : ㊦67-23 4 : ㊦60-490

第190図 食券1

1 : ㊦233下 2 : ㊦3-6-24 3 : ㊦3-6-28 4 : ㊦3-6-50 5 : ㊦3-6-26

第191図 食券2

1 : ㊦260-1 2 : ㊦260-3 3 : ㊦260-5 4 : ㊦260-4 5 : ㊦260-7 6 : ㊦260-6 7 : ㊦3-6-26 8 : ㊦60-121 9 : ㊦3-6-50
10 : ㊦3-6-24 11 : ㊦3-6-50 12 : ㊦3-6-26 13 : ㊦3-6-26 14 : ㊦62-133 15 : ㊦3-6-24 16 : ㊦3-6-24 17 : 3-6-50
18 : 3-6-24

第192図 前朝子

1 : ㊦263-9 2 : ㊦351-374 3 : ㊦263-11 4 : ㊦351-373 5 : ㊦351-375 6 : ㊦263-12 7 : ㊦263-13 8 : ㊦351-378
9 : ㊦351-379 10 : ㊦62-137 11 : ㊦62-138 12 : ㊦53-144 13 : ㊦351-376 14 : ㊦351-377 15 : ㊦263-2

第193図 靴1

1 : ㊦352-387 2 : ㊦352-389 3 : ㊦352-388

第194図 靴2

1 : ㊦65-200 2 : ㊦65-201 3 : ㊦65-509

第195図 雑草・鋸・尾錠他

1 : ㊦277-14 2 : ㊦353-400 3 : ㊦277-15 4 : ㊦277-16 5 : ㊦277-17 6 : ㊦70-525 7 : ㊦277-18 8 : ㊦353-401
9~13 : ㊦3-6-13-18 14 : ㊦70-527 15 : ㊦70-528 16 : ㊦70-529 17 : ㊦277-20 18 : ㊦70-536 19 : ㊦70-526
20 : ㊦70-533 21 : 70-535 22 : ㊦277-21 23 : ㊦277-23 24 : ㊦277-24 25 : ㊦277-25 26 : ㊦247-1 27 : ㊦247-2

第196図 防毒マスク関連

1 : ㊦262-6 2 : ㊦262-7 3 : ㊦262-3 4 : ㊦262-9 5 : ㊦71-543 6 : ㊦71-547 7 : ㊦71-554 8 : ㊦352-391
9 : ㊦352-390

第197図 鉄帽

1 : ㊦272-35 2 : ㊦66-203 3 : ㊦70-545

第198図 銭貨

1 : ㊦264-1 2 : ㊦264-2 3 : ㊦264-4 4 : ㊦264-6 5 : ㊦264-7 6 : ㊦264-8 7 : ㊦264-12 8 : ㊦264-11

第199図 計測機器

1 : ㊦284-1 2 : ㊦284-2

第200図 鉄道関連

1~3・5~7・8 : ㊦285 4 : ㊦354-403

第201図 煉瓦1 (小管集治館)

第202図 煉瓦2 (金町煉瓦)

第203図 煉瓦3 (各会社)

第204図 煉瓦4 (耐火煉瓦)

第5表 遺物観察表(1)

探出番号	遺物番号	遺物名 出土地点	材質	種類	詳 細	遺存状態	時期	法量 (mm)			重量 (g)	
								a	b	c		
20	1	MC 3AⅠK 覆丸	磁器	湯呑	華明書郎 陶形(①A 1) 緑釉・垂腹飯文 高台内 彫刻: 精 260 (複製番号)	ほぼ 完	2/3	20.2	71	43	70	96.1
20	2	MC 3AⅠK 覆丸	磁器	湯呑	華明書郎 陶形(①A 1) 無文 製部 手書青絵具: 柳 手書赤絵具: 胡蝶・胡蝶 文	ほぼ 完	2/3	20.2	65	37	73	122.5
20	3	MC 323 土	磁器	湯呑	華明書郎 陶形(①A 1) 無文 製部 手書青絵具: 有唐草	ほぼ 完	2/3	20.2	65	38	73	160.6
20	4	MC 323 土	磁器	湯呑	華明書郎 陶形(①A 1) 無文 製部 手書青絵具: 有唐草	ほぼ 完	2/3	20.2	64	38	74	163.2
20	5	MC 323 土	磁器	湯呑	華明書郎 陶形(①A 1) 無文 製部 手書青絵具: 八木組	ほぼ 完	2/3	20.2	65	37	73	156.4
20	6	MC 323 土	磁器	湯呑	華明書郎 陶形(①A 1) 無文 製部 手書青絵具: 下用① 手書青絵具: 小瓶・水車	ほぼ 完	2/3	20.2	63	37	67	130.6
20	7	MC 325 土	磁器	湯呑	華明書郎 陶形(①A 1) 緑釉・垂腹飯文 手書青絵具: 純線食草	ほぼ 完	2/3	20.2	72	42	72	146.0
20	8	MC 325 土	磁器	湯呑	華明書郎 陶形(①A 1) 染付・垂腹飯文 製部 プリント染付: 純線食草 ①に五芒星	ほぼ 完	2/3	20.2	73	43	70	166.7
20	9	MC 325 土	磁器	湯呑	華明書郎 陶形(①A 1) 無文 製部 手書青絵具: 石田 高台内 彫刻: 一 (複製番号)	ほぼ 完	2/3	20.2	65	38	74	165.6
20	10	MC 3AⅠK 覆丸	磁器	湯呑	陶形(①B 1) シルクスクリーンプリント色絵草花文 高台内 スタンプ未着: 九斗 スタンプ製部: 精 48 二 (複製番号)	ほぼ 完	1/3	20.2	64	28	56	62.0
20	11	MC 3AⅠK 覆丸	磁器	湯呑	陶形(①B 1) ゴム染色絵草花文 高台内 プリント製部: 精 301 (複製番号)	ほぼ 完	2/3	20.2	65	29	59	53.2
20	12	MC 325 土	磁器	湯呑	陶形(①B 1) ゴム染色はじき染付七宝製文	ほぼ 完	2/3	20.2	60	30	59	70.9
20	13	MC 324 土	磁器	湯呑	陶形(①A 1) 手描色絵初相田具輪文 「内、いへてこそ 梅の花 土なして 身を忘れ乃 内 御製 八ノ山 湯守 湯守守 ちむ高き 以りしき 湯はあとも」 高台内 スタンプ未着: 九斗	ほぼ 完	2/3	20.2	61	33	62	125.0
20	14	MC 3AⅠK 覆丸	磁器	湯呑	陶形(①A 1) ゴム染色染付製文(4単位)	ほぼ 完	2/3	20.2	69	31	64	121.2
20	15	MC 323 土	磁器	湯呑	陶形(①A 1) 無柄かへし文	ほぼ 完	2/3	20.2	71	46	67	117.6
20	16	MC 324 土	磁器	湯呑	陶形(①A 1) ゴム染色染付圓筒染文	ほぼ 完	2/3	20.2	67	30	65	89.3
20	17	MC 325 土	磁器	湯呑	陶形(①A 1) ゴム染色絵土師製文	ほぼ 完	2/3	20.2	63	34	66	116.8
20	18	MC 323 土	磁器	湯呑	陶形(①A 1) ゴム染色染付スベークラフ文	ほぼ 完	2/3	20.2	70	34	67	123.8
20	19	MC 323 土	磁器	湯呑	陶形(①A 1) 手描染付花青草文 高台内 彫刻: 一 (複製番号)	ほぼ 完	2/3	20.2	64	33	67	118.2
20	20	MC 325 土	磁器	湯呑	陶形(①A 1) ゴム染色染付花青草文	ほぼ 完	1/2	20.2	71	36	67	92.6
20	21	MC 3AⅠK 覆丸	磁器	湯呑	陶形(①A 1) 無柄レリーフ模写文	ほぼ 完	1/3	20.2	58	35	67	76.0
20	22	MC 323 土	磁器	湯呑	陶形(①A 1) 手描色絵染付草花文	ほぼ 完	2/3	20.2	67	42	69	143.9
20	23	MC 3AⅠK 覆丸	磁器	湯呑	陶形(①A 1) 石染和写染付竹林文(3単位)	ほぼ 完	2/3	20.2	72	35	69	120.1
20	24	MC 3AⅠK 覆丸	磁器	湯呑	陶形(①A 1) 緑釉土	ほぼ 完	2/3	20.2	69	34	69	85.6
20	25	MC 323 土	磁器	湯呑	陶形(①A 1) 手描色絵製文	ほぼ 完	2/3	20.2	64	39	70	147.9
20	26	MC 3AⅠK 覆丸	磁器	湯呑	陶形(①A 1) ゴム染色絵草花文 高台内 彫刻: 一 (複製番号)	ほぼ 完	2/3	20.2	69	39	70	75.4
20	27	MC 3AⅠK 覆丸	磁器	湯呑	陶形(①A 1) ゴム染色染付花青草文	ほぼ 完	1/2	20.2	70	34	70	72.2
20	28	MC 3AⅠK 覆丸	磁器	湯呑	陶形(①A 1) 手描色絵染付草花文	ほぼ 完	1/2	20.2	54	28	70	40.9
20	29	MC 323 土	磁器	湯呑	陶形(①A 1) 11線手描染付山水文	ほぼ 完	2/3	20.2	70	38	71	101.9
21	30	MC 323 土	磁器	湯呑	陶形(①A 1) 手描色絵竹梅文	ほぼ 完	2/3	20.2	64	39	71	101.8
21	31	MC 323 土	磁器	湯呑	陶形(①A 2) 手描色絵クスター金胡蝶製文	ほぼ 完	2/3	20.2	68	40	71	114.9
21	32	MC 323 土	磁器	湯呑	陶形(①A 1) 手描・新竹梅文	ほぼ 完	2/3	20.2	64	37	71	148.6
21	33	MC 323 土	磁器	湯呑	陶形(①A 2) 手描染はじき染付竹胡蝶文	ほぼ 完	1/2	20.2	68	37	71	87.6
21	34	MC 323 土	磁器	湯呑	陶形(①A 1) 手描色絵製文	ほぼ 完	1/2	20.2	67	37	71	45.6
21	35	MC 3AⅠK 覆丸	磁器	湯呑	陶形(①A 1) ゴム染色染付松文	ほぼ 完	2/3	20.2	72	37	71	126.4
21	36	MC 323 土	磁器	湯呑	陶形(①A 1) 無はじき染付手書青染製文	ほぼ 完	2/3	20.2	67	40	72	119.2
21	37	MC 3AⅠK 覆丸	磁器	湯呑	陶形(①A 1) ゴム染色染付松文	ほぼ 完	1/2	20.2	71	36	72	87.1
21	38	MC 323 土	磁器	湯呑	陶形(①A 1) 手描色絵製文 陶形(①A 2) 140の器に対応	ほぼ 完	2/3	20.2	64	39	73	139.7
21	39	MC 3AⅠK 覆丸	磁器	湯呑	手描染付松製文 高台内 スタンプ染付: 精 20 (複製番号)	ほぼ 完	2/3	20.2	68	37	73	110.9
21	40	MC 325 土	磁器	湯呑	陶形(①A 1) 手描色絵染付草花文	ほぼ 完	2/3	20.2	71	43	74	94.5
21	41	MC 323 土	磁器	湯呑	陶形(①A 1) 無柄染はじき・胡蝶製文	ほぼ 完	2/3	20.2	68	41	79	196.5

第5表 遺物観察表(2)

調査番号	遺物番号	遺物名 出土地点	材質	種類	詳 細	保存状態	時期	質量 (mm)			重量 (g)
								a	b	c	
21	42	MC 3AK 遺札	紙類	山内巻	筒形(①A 1) 手摺染付文字文 高付内 5xタング形幅(横396(縦割番号))	完	20-2	86	42	88	239.4
21	43	MC 3AK 遺札	紙類	山内巻	筒形(①A 1) 高付内 筒形:横362(縦割番号)	縦割 破部	20-2	-	38	(34)	26.4
21	44	MC 3AK 遺札	紙類	山内巻	筒形(①A 1) 手摺染付(北刺土イッタン)原文 高付内 筒形:横396(縦割番号)	完	20-2	84	36	87.2	81.2
21	45	MC 293 ±	陶器	山内巻	筒形(①A 1) ボム染染付(高付内)	2/3	20-2	87	32	87	98.5
21	46	MC 323 ±	陶器	山内巻	筒形(①A 1) 高輪刷毛掛け付色紙写本文	完	60	38	70	113.7	
21	47	MC 323 ±	陶器	山内巻	筒形(①B 1) 高輪刷毛掛け付レリーフ書本文	ほぼ 完	68	38	54	98.3	
21	48	MC 325 ±	陶器	山内巻	筒形(①B 1) 手摺色紙全彩染付写本文	ほぼ 完	62	34	59	64.1	
21	49	MC 324 ±	陶器	山内巻	筒形(①A 1) 高輪刷毛掛け付文	完	200-	-	43	66	94.7
21	50	MC 325 ±	陶器	山内巻	筒形(①A 1) 高輪刷毛掛け付文	2/3	200-	85	56	76	195.0
21	51	MC 3AK 遺札	陶器	山内巻	筒形(①A 1) 高輪刷毛掛け付 高付内 筒形:相付(横396)	2/3	200-	86	40	63	80.7
21	52	MC 3AK 遺札	陶器	山内巻	筒形(①B 1) 高輪刷毛掛け付 高付内 筒形:相付(横396)	ほぼ 完	~2011	62	38	59	132.4
21	53	MC 323 ±	陶器	山内巻	筒形(①B 1) 淡黄色/刷毛/刷毛 布貼-彩林文	完	59	34	59	75.5	
21	54	MC 323 ±	陶器	山内巻	筒形(①B 1) 淡黄色/刷毛/刷毛 布貼-彩林文	ほぼ 完	60	33	60	59.0	
21	55	MC 323 ±	陶器	山内巻	筒形(①B 1) 淡黄色/刷毛/刷毛 竹肌刷毛掛け付文	ほぼ 完	53	38	56	67.6	
21	56	MC 323 ±	陶器	山内巻	筒形(①B 1) 淡黄色/刷毛/刷毛 手摺-彩林文	ほぼ 完	62	33	59	64.1	
22	57	MC 323 ±	陶器	山内巻	筒形(①A 1) 淡黄色/刷毛/刷毛 布貼-彩林文	1/2	89	35	65	45.1	
22	58	MC 323 ±	陶器	山内巻	筒形(①A 1) 淡黄色/刷毛/刷毛 布貼-彩林文	2/3	87	37	71	89.2	
22	59	MC 323 ±	陶器	山内巻	筒形(①B 1) 淡黄色/刷毛/刷毛 手摺色紙全彩写本文 製法:手摺染付:手摺第一-刷毛 記念	ほぼ 完	61	34	59	63.0	
22	60	MC 323 ±	陶器	山内巻	筒形(①B 1) 淡黄色/刷毛/刷毛 257(急須)とセット 手摺色紙全彩写本文	ほぼ 完	62	33	60	65.6	
22	61	MC 323 ±	陶器	山内巻	筒形(①B 1) 淡黄色/刷毛/刷毛 手摺色紙写本文	ほぼ 完	60	31	57	66.5	
22	62	MC 323 ±	陶器	山内巻	筒形(①A 1) 淡黄色/刷毛/刷毛 手摺色紙写本文	1/2	89	34	68	44.6	
22	63	MC 323 ±	陶器	山内巻	筒形(①A 1) 淡黄色/刷毛/刷毛 布貼-彩林写本文	1/2	89	30	60	49.0	
22	64	MC 323 ±	陶器	山内巻	筒形(①A 1) 淡黄色/刷毛/刷毛 布貼-彩林写本文	1/4	89	39	69	45.6	
22	65	MC 323 ±	陶器	山内巻	筒形(①A 1) 淡黄色/刷毛/刷毛 布貼-彩林写本文	ほぼ 完	69	36	68	75.3	
22	66	MC 323 ±	陶器	山内巻	筒形(①B 1) 淡黄色/刷毛/刷毛 布貼-彩林写本文	ほぼ 完	63	34	59	64.8	
22	67	MC 325 ±	陶器	山内巻	筒形(①B 1) 淡黄色/刷毛/刷毛 布貼-彩林写本文	1/2	70	35	54	45.5	
22	68	MC 3AK 遺札	陶器	山内巻	筒形(①B 1) 淡黄色/刷毛/刷毛 手摺色紙写本文	完	65	31	59	61.6	
22	69	MC 3AK 遺札	陶器	山内巻	筒形(①B 1) 淡黄色/刷毛/刷毛 手摺色紙-彩林写本文	完	61	33	57	74.9	
22	70	MC 3AK 遺札	陶器	山内巻	筒形(①A 1) 淡黄色/刷毛/刷毛 手摺色紙写本文	完	70	38	75	146.2	
22	71	MC 3AK 遺札	陶器	山内巻	筒形(①B 1) 淡黄色/刷毛/刷毛 手摺色紙写本文	ほぼ 完	68	33	55	73.3	
22	72	MC 2BK	紙類	山内巻	ズルマ形(ボム) ボム染染付(高付内) 山内巻(手摺) 記念 高付内三十五尺 縦割三十一尺 横割五十五尺 横 縦割四十六尺二寸 縦割四十九尺六寸二寸	ほぼ 完	20-2	74	36	66	137.8
22	73	MC 325 ±	紙類	山内巻	コップ形(ボム) 縦割(手摺) 高付内 縦割 文三寸(手摺) 二寸(手摺) カサ	ほぼ 完	20-3	52	40	79	96.0
22	74	MC 323 ±	紙類	山内巻	丸形(①A 1) 縦割(手摺) 手摺色紙染付写本文	1/2	19- 20-1	83	33	48	55.2
22	75	MC 325 ±	紙類	山内巻	丸形(①A 1) 縦割(手摺) 手摺色紙染付写本文	ほぼ 完	19- 20-1	83	35	43	83.2
22	76	MC 323 ±	紙類	山内巻	丸形(①A 1) 手摺-彩林文 高付内 手摺染付:西山	1/3	19- 20-1	80	38	47	46.9
22	77	MC 3AK 遺札	紙類	山内巻	丸形(①A 2) 手摺色紙染付写本文	1/2	19- 20-1	85	-	44	39.2
22	78	MC 3AK 遺札	紙類	山内巻	丸形(①C 2) 縦割(手摺) 写本文	完	19- 20-1	68	32	46	72.1
22	79	MC 3AK 遺札	紙類	山内巻	丸形(①C 2) 縦割(手摺) 写本文	完	19- 20-1	71	31	44	72.2

第5表 遺物観察表(3)

探出番号	遺物番号	遺物名 出土地点	材質	書種	詳 細	遺存状態	時期	法量 (mm)			重量 (g)	
								a	b	c		
22	80	MC 3AK 覆瓦	紙質	函名	丸形(※C1) 覆の口高付 新紙転写染付標文	完	19-4-20	81	37	45	111.5	
22	81	AU 25 内 覆瓦	紙質	函名	丸形(※C1) 覆の口高付 新紙転写墨書文	1/2	19-4-20	80	36	45	72.4	
22	82	MC 3AK 覆瓦	紙質	函名	丸形(※A1) 手摺染付標文	ほぼ 完	19-4-20	90	34	50	83.4	
22	83	MC 3AK 覆瓦	紙質	函名	丸形(※A1) 手摺染付標文	完	19-4-20	88	38	58	169.9	
22	84	MC 3AK 覆瓦	紙質	函名	丸形(※A1) ゴム染染付帳簿本文(4単位) 高付内 スタンパ染付: 疑403 (疑刷番号)	ほぼ 完	20-2	80	27	47	102.9	
22	85	MC 323 土	紙質	函名	丸形(※A1) ゴム染染付帳本文	ほぼ 完	20-2	80	30	47	96.3	
22	86	MC 323 土	紙質	函名	丸形(※A1) 新紙転写-新梅花文 短込 手摺染付: 表裏面 紙	ほぼ 完	20-2	80	34	47	86.3	
22	87	MC 323 土	紙質	函名	丸形(※A1) 新紙転写-新梅花原文 高付内 プリント刷色: 雲山 一連内付	2/3	20-2	80	36	47	71.8	
22	88	MC 3AK 覆瓦	紙質	函名	丸形(※A1) ゴム染染付帳簿本文 (4単位a)	ほぼ 完	20-2	89	28	47	73.6	
22	89	MC 4AK 覆瓦	紙質	函名	丸形(※A1) ゴム染染付帳簿本文	ほぼ 完	20-2	81	30	47	94.9	
22	90	MC 323 土	紙質	函名	丸形(※A1) 手摺染付標文	ほぼ 完	20-2	82	33	49	82.3	
23	91	MC 3AK 覆瓦	紙質	函名	丸形(※A1) ゴム染染付帳簿本文(5単位)	ほぼ 完	20-2	83	31	48	90.7	
23	92	MC 323 土	紙質	函名	丸形(※A1) ゴム染染付帳簿本文	完	20-2	82	34	49	109.4	
23	93	MC 323 土	紙質	函名	丸形(※A1) ゴム染染付帳簿本文 高付内 手摺染付: 丹山	ほぼ 完	20-2	82	30	47	99.8	
23	94	MC 323 土	紙質	函名	丸形(※A1) ゴム染染付帳本文	ほぼ 完	20-2	83	30	48	105.3	
23	95	MC 323 土	紙質	函名	丸形(※A1) 新紙転写-新梅花原文	ほぼ 完	20-2	82	36	48	101.1	
23	96	MC 325 土	紙質	函名	丸形(※A1) ゴム染染付帳簿本文	完	20-2	82	31	49	103.2	
23	97	MC 325 土	紙質	函名	丸形(※A1) 手摺染付帳簿本文 短込 スタンパ染付: 白標紙及分量品 甲刷(■)	ほぼ 完	20-2	89	31	48	47.9	
23	98	MC 3AK 覆瓦	紙質	函名	丸形(※A1) ゴム染染付帳簿本文	ほぼ 完	20-2	82	30	49	96.0	
23	99	MC 324 土	紙質	函名	丸形(※B1) 緑色刷	ほぼ 完	20-2	78	30	50	107.9	
23	100	MC 3AK 覆瓦	紙質	函名	丸形(※A1) ゴム染染付帳簿本文(5単位)	ほぼ 完	20-2	84	30	49	95.2	
23	101	MC 3AK 覆瓦	紙質	函名	丸形(※A1) ゴム染染付帳簿本文 高付内 スタンパ染付: 丸形(内付)	1/2	20-2	88	32	50	52.8	
23	102	AD 8号ゴビ六	紙質	函名	丸形(※B1) 布絵-碧コスモス文	完	20-2	74	32	51	91.5	
23	103	MC 3AK 覆瓦	紙質	函名	丸形(※B1) ゴム染染付帳簿本文 高付内 スタンパ染付: 丸形(内付)	1/2	20-2	76	30	51	53.6	
23	104	MC 3AK 覆瓦	紙質	函名	丸形(※B1) ゴム染染付帳簿本文 高付内 スタンパ染付: 丸形(内付)	2/3	20-2	88	31	52	40.9	
23	105	MC 3AK 覆瓦	紙質	函名	丸形(※B1) ゴム染染付帳簿本文(2×3単位) 高付内 スタンパ染付: 丸形	完	20-2	76	30	51	121.5	
23	106	MC 3AK 覆瓦	紙質	函名	丸形(※B1) ゴム染染付帳簿本文	2/3	20-2	88	30	51	67.7	
23	107	MC 3AK 覆瓦	紙質	函名	丸形(※A1) 布絵染付帳本文 高付内 スタンパ染付: 疑403 (疑刷番号)	2/3	20-2	76	30	52	74.9	
23	108	MC 325 土	紙質	函名	丸形(※B1) ゴム染染付帳本文 高付内 スタンパ染付: (白) 内付	2/3	20-2	72	29	51	60.0	
23	109	MC 3AK 覆瓦	紙質	函名	丸形(※B1) 布絵染付帳本文	ほぼ 完	20-2	79	30	51	86.8	
23	110	MC 3AK 覆瓦	紙質	函名	丸形(※B1) ゴム染染付帳簿本文	1/2	20-2	64	30	52	30.6	
23	111	AD 7号ゴビ六	紙質	函名	丸形(※B1) 手摺染付白虎刺スリッパ本文	1/3	20-2	88	21	32	52	54.6
23	112	AD 7号ゴビ六	紙質	函名	平筒形(※) 三葉草分け付文	ほぼ 完	20-3	75	33	52	103.5	
23	113	MC 3AK 覆瓦	紙質	函名	丸形(※B1) 布絵染付帳本文 「よしの高松に 雲はふりつ(つ)」	4/5	20-2	78	29	53	77.8	
23	114	MC 3AK 覆瓦	紙質	函名	丸形(※B1) ゴム染染付帳本文	ほぼ 完	20-2	74	31	53	80.3	
23	115	MC 3AK 覆瓦	紙質	函名	丸形(※B1) 新紙転写帳簿本文 高付内 プリント刷色: 平足1納品	ほぼ 完	20-2	75	30	53	99.2	
23	116	MC 3AK 覆瓦	紙質	函名	丸形(※B1) ゴム染染付帳簿本文(4単位)	ほぼ 完	20-2	73	30	57	101.2	
23	117	MC 3AK 覆瓦	紙質	函名	丸形(※B1) 染付帳本文	完	20-3	83	39	62	145.1	
23	118	AD 9号ゴビ六	紙質	函名	丸形(※A2) 覆反り 布絵染付帳本文 高付内 手摺染付: 丹山	ほぼ 完	20-3	97	39	55	90.8	

第5表 遺物観察表(4)

探出番号	遺物番号	遺物名 出土地点	材質	種類	詳 細	遺存状態	時期	法量 (mm)			重量 (g)	
								a	b	c		
23	119	AR 7号(ゴビ)	磁器	陶器	タムワ形(⑤) 手摺部は染付万年青文	ほぼ 完	20-3-	82	35	59	100.3	
23	120	MC 3A/K 覆丸	磁器	陶器	タムワ形(⑤) 手摺部付流水文	2/3		73	45	63	144.7	
23	121	MC 3A/K 覆丸	磁器	陶器	高台内 スタンプ跡輪：横500 (複製番号)	破片 底部	20-2	-	30	120	22.2	
23	122	MC 3A/K 覆丸	磁器	陶器	丸形(⑥B 1) ゴム染染付花車文(4単位)	1/2	20-2	76	-	(47)	74.2	
23	123	MC 3A/K 覆丸	陶器	陶器	丸形(⑥C 1) 淡黄色/緑粉/軽装 手摺・彩草文 高台内 手摺部輪(1葉)	完		82	31	40	86.0	
23	124	MC 3A/K 覆丸	陶器	陶器	丸形(⑥C 1) 淡黄色/緑粉/軽装 手摺・彩草文 高台内 スタンプ染付：田舎屋 一	1/2		82	34	41	36.6	
24	125	MC 3A/K 覆丸	陶器	陶器	タムワ形(⑤) 淡黄色/緑粉/軽装 赤絵茶碗竹文	2/3		72	34	51	64.7	
24	126	MC 3A/K 覆丸	陶器	陶器	丸形(⑥B 2) 灰褐色土文	完		71	35	54	80.1	
24	127	MC 3A/K 覆丸	陶器	陶器	丸形(⑥C 1) 手摺部絵草文花車文	ほぼ 完		72	38	56	107.5	
24	128	MC 3A/K 覆丸	陶器	陶器	丸形(⑥B 1) 淡黄色/緑粉/軽装 ゴム染手摺・彩草文	ほぼ 完		68	-	(51)	65.6	
24	129	MC 3A/K 覆丸	陶器	陶器	コップ形(③A) 淡黄色/緑粉/軽装 茶碗輪レリーフ白文	2/3		53	40	78	54.5	
24	130	MC 3A/K 覆丸	陶器	陶器	赤絵染付振り分け文 紐付 スタンプ跡輪(ヤマワ 陶器 白器)	完		56	30	72	68.5	
24	131	MC 3A/K 覆丸	陶器	陶器	コップ形(③B) 淡黄色/緑粉/軽装 赤絵・彩林檎文	2/3		50	36	71	49.3	
24	132	MC 3A/K 覆丸	陶器	陶器	コップ形(③A) 淡黄色/緑粉/軽装 赤絵・手摺輪文	ほぼ 完		52	40	76	48.6	
24	133	MC 3A/K 覆丸	陶器	陶器	コップ形(③A) 淡黄色/緑粉/軽装 赤絵遊戯輪(1)に重文	ほぼ 完		52	38	70	65.8	
24	134	MC 3A/K 覆丸	陶器	陶器	コップ形(③A) 淡黄色/緑粉/軽装 赤絵輪レリーフ文	ほぼ 完		56	38	74	90.4	
24	135	MC 3A/K 覆丸	陶器	陶器	コップ形(③A) 淡黄色/緑粉/軽装 赤絵茶碗輪	ほぼ 完		54	30	72	71.1	
24	136	MC 3A/K 覆丸	磁器	高台内 蓋	手摺染付花車文	1/2		66	52	19	16.4	
24	137	MC 3A/K 覆丸	磁器	高台内 蓋	手摺部輪茶碗文	ほぼ 完		78	63	(17)	51.2	
24	138	MC 3A/K 覆丸	磁器	高台内 蓋	ゴム染手摺手摺上絵彩草文	1/2	20-2	75	63	20	25.8	
24	139	MC 3A/K 覆丸	磁器	高台内 蓋	赤絵染付流線文	完	20-2	72	58	20	39.6	
24	140	MC 3A/K 覆丸	磁器	高台内 蓋	39に对应 手摺染付花車文	完	20-2	73	52	26	45.5	
24	141	MC 3A/K 覆丸	陶器	高台内 蓋	淡黄色/緑粉/軽装 茶碗輪レリーフ文	ほぼ 完		74	62	12	30.5	
24	142	MC 3A/K 覆丸	磁器	飯碗	軍司食器 縁輪・車輪線文 高台内 スタンプ跡輪：鳥マーク (複製番号)	1/2	20-2	(113)	(30)	51	76.6	
24	143	MC 3A/K 覆丸	磁器	飯碗	B形中口 手摺染付竹田草文	ほぼ 完	19-3-4	88	106	44	51	73.0
24	144	MC 3A/K 覆丸	磁器	飯碗	B形中口 手摺部茶碗文 高台内 スタンプ跡輪：横933 (複製番号)	破片 底部	20-2	88	85	44	89	66.2
24	145	MC 3A/K 覆丸	磁器	飯碗	C形 手摺染付上絵全彩天竺草文	ほぼ 完	20-1-2	116	46	52	146.4	
24	146	MC 3A/K 覆丸	磁器	飯碗	C形 茶碗輪茶碗文	完	20-1-2	118	42	48	180.4	
24	147	MC 3A/K 覆丸	磁器	飯碗	C形 茶碗輪茶碗文	1/2	20-1-2	88	112	41	54	72.7
24	148	MC 3A/K 覆丸(ゴビ)	磁器	飯碗	C形 子ども茶碗 手摺・彩草文	ほぼ 完	20-1-2	99	35	47	84.1	
24	149	MC 3A/K 覆丸	磁器	飯碗	C形 子ども茶碗 ゴム染手摺部茶碗文	1/2	20-1-2	88	100	34	46	60.5
24	150	MC 3A/K 覆丸	磁器	飯碗	D形 茶碗輪茶碗染付竹田草文	ほぼ 完	20-2	112	44	59	163.0	
24	151	MC 3A/K 覆丸	磁器	飯碗	D形 茶碗輪茶碗染付竹田草文	ほぼ 完	20-2	101	42	56	104.4	
24	152	MC 3A/K 覆丸	磁器	飯碗	D形 茶碗輪茶碗染付竹田草文	ほぼ 完	20-2	103	43	55	124.8	
24	153	MC 3A/K 覆丸	磁器	飯碗	D形 ゴム染手摺部茶碗染付竹田草文	完	20-2	104	38	55	140.7	
25	154	MC 3A/K 覆丸	磁器	飯碗	D形 手摺染付茶碗文	ほぼ 完	20-2	108	40	59	139.9	
25	155	MC 29/3 覆丸	磁器	飯碗	D形 手摺染付草文	1/2	20-2	96	33	50	94.4	
25	156	MC 3A/K 覆丸	磁器	飯碗	D形 茶碗輪茶碗染付竹田草文 高台内 スタンプ染付：茶碗茶碗	2/3	20-2	134	40	62	156.4	
25	157	MC 3A/K 覆丸(ゴビ)	磁器	飯碗	E形 手摺・彩	ほぼ 完	20-3-	117	40	60	98.6	

第5表 遺物観察表(5)

探出番号	遺物番号	遺物名 出土地点	材質	種類	詳 細	遺存状態	時期	法量 (ml)			量さ (g)
								a	b	c	
25	158	MC 3AK 覆丸(ゴビツ)	磁器	飯碗	E期 手描二彩	ほぼ 完	20-3	117	43	57	93.8
25	159	MC 2DK 表土	磁器	飯碗	E期 びん染手描色絵文 高台内 スタンプ朱書:有田	ほぼ 完	20-3	117	40	57	129.1
25	160	MC 3Z3 土 MC 3AK 覆丸(ゴビツ)	磁器	飯碗	E期 手描色絵赤高砂文 高台内 スタンプ朱書:有田	ほぼ 完	20-3	117	41	59	137.9
25	161	MC 3Z3 土	磁器	飯碗	石版転写付転色刷文	1/2	20-2	推100	44	51	63.4
25	162	MC 3Z3 土	磁器	飯碗	焼付石版 墨刷文	1/2	20-2	推115	44	55	124.7
25	163	MC 3AK 覆丸	磁器	井	軍司食部 緑釉・赤陶線文 高台内 スタンプ緑釉:〇にハ芝星 精 49 (複製番号)	完	20-2	160	64	80	426.0
25	164	MC 3AK 覆丸	磁器	井	軍司食部 緑釉・赤陶線文 高台内 スタンプ緑釉:ハ芝星 精 49 (複製番号)	ほぼ 完	20-2	160	63	80	423.5
25	165	MC 3AK 覆丸	磁器	井	軍司食部 緑釉・赤陶線文 高台内 プリント朱書:星マーク (高砂文並書並書)	1/2	20-2	162	60	80	287.1
25	166	MC 3AK 覆丸	磁器	井	製部 スタンプ緑釉:〇にハ芝星 陸軍製本模 高台内 スタンプ緑釉:精 260 (複製番号) 190に付記	完	20-2	162	65	81	406.0
26	167	MC 3AK 覆丸	磁器	井	軍司食部 緑釉・赤陶線文 製部 スタンプ緑釉:〇にハ芝星 陸軍製本模 高台内 刷印:精 260 (複製番号) 190に付記	完	20-2	163	65	83	387.0
26	168	MC 3AK 覆丸	磁器	井	軍司食部 緑釉・赤陶線文 製部 スタンプ緑釉:〇にハ芝星 陸軍製本模	完	20-2	160	64	81	407.5
26	169	MC 3AK 覆丸	磁器	井	製部 スタンプ緑釉:丸に五芒星 高台内 スタンプ朱書:星 274 (複製番号)	完	20-2	164	62	78	510.5
26	170	MC 3AK 覆丸	磁器	井	軍司食部 緑釉・赤陶線文 製部 プリント朱書:焼漬食堂 〇にハ芝星 192に付記	ほぼ 完	20-2	160	64	77	423.5
26	171	MC 3Z5 土	磁器	井	軍司食部 染付・赤陶線文 製部 プリント朱書:焼漬食堂 〇にハ芝星 191に付記	ほぼ 完	20-2	164	68	81	547.5
26	172	MC 3Z3 土	磁器	井	軍司食部 染付・赤陶線文 製部 プリント朱書:陸軍本模模印部(内枠) 193に付記	完	20-2	167	68	80	483.5
26	173	AU R154	磁器	井	軍司食部 緑釉・赤陶線文 高台内 スタンプ緑釉:精 223(内枠) (複製番号)	完	20-2	167	66	82	470.0
26	174	MC 3AK 覆丸	磁器	井	軍司食部 高台内 プリント緑釉:精 1065 (複製番号)	破片 一部	20-2	-	66	(25)	83.0
26	175	MC 3AK 覆丸	磁器	井	軍司食部 高台内 刷印:精 260(反転) (複製番号)	破片 一部	20-2	-	65	(24)	42.7
26	176	MC 3AK 覆丸	磁器	井	軍司食部 高台内 刷印:精 260(反転) (複製番号)	破片 一部	20-2	-	66	(45)	71.7
27	177	MC 3AK 覆丸	磁器	井	軍司食部 青磁染付・赤高砂文 製部 手刷朱書:焼漬うどん 高台内 刷印:星 17 (複製番号)	完	20-2	155	64	69	407.0
27	178	MC 3Z3 土	磁器	井	手刷染付竹筒文 198の器に付記	完	20-1-2	166	65	77	488.5
27	179	MC 3Z3 土	磁器	井	手刷染付竹筒文 201の器に付記	完	20-1-2	166	69	82	584.5
27	180	MC 3Z3 土	磁器	井	手刷染付竹筒文 199の器に付記	ほぼ 完	20-1-2	164	88	78	515.5
27	181	MC 3Z4 土	磁器	井	手描二彩陶器文 200の器に付記	ほぼ 完	20-1-2	162	63	68	338.5
27	182	MC 3AK 覆丸	磁器	井	手刷染付竹筒文	ほぼ 完	20-1-2	150	67	64	400.0
27	183	MC 3Z3 土	磁器	井	手刷染付竹筒文	完	20-1-2	167	69	80	573.0
27	184	MC 3AK 覆丸(ゴビツ)	磁器	井	手描二彩	完	20-1-2	154	58	77	402.5
27	185	手 刷 印 8号ゴビツ 土	磁器	井	手刷染付土イッピン二彩陶器文 高台内 スタンプ朱書:星陶カ	ほぼ 完	20-1-2	155	64	75	370.0
27	186	手 刷 印 8号ゴビツ 土	磁器	井	青磁輪	ほぼ 完	20-1-2	142	51	59	214.1
27	187	MC 3AK 覆丸	磁器	井	手刷染付竹筒文 高台内 刷印:〇にハ	ほぼ 完	20-1-2	145	61	54	235.2
27	188	MC 3AK 覆丸	磁器	井	手刷染付竹筒文 焼込内面草花文	ほぼ 完	20-1-2	146	56	58	280.9
27	189	MC 3Z5 土	磁器	井	手刷二彩竹筒文 焼込内面草花文	ほぼ 完	20-1-2	146	58	63	331.5
28	190	MC 3AK 覆丸	磁器	井蓋	軍司食部 緑釉・赤陶線文 製部 スタンプ緑釉:〇にハ芝星 陸軍製本模 196・167に付記	1/3	20-2	-	(61)	44	101.7

第5表 遺物観察表(6)

探検番号	遺物番号	遺物名 出土地点	材質	書種	詳 細	遺存状態	時期	法量 (mm)			重さ [g]
								a	b	c	
28	191	MC 325 土	紙類	片蓋	軍用食器 染付・垂刷版文 製法 スタンパ染付；焼漬食器 ○に五芒星 171に付記	ほぼ 完	20-2	148	64	44	272.8
28	192	MC 3A K 覆丸	紙類	片蓋	軍用食器 緑釉・垂刷版文 製法 プリント青緑釉；焼漬食器 ○に五芒星 170に付記	完	20-2	145	64	44	273.2
28	193	MC 323 土	紙類	片蓋	軍用食器 染付・垂刷版文 製法 プリント染付；焼漬木製膳付部（内付） 172に付記	完	20-2	148	64	45	303.5
28	194	MC 3A K 覆丸	紙類	片蓋	軍用食器 緑釉・垂刷版文 製法 スタンパ緑釉；焼漬食器 ○に五芒星	ほぼ 完	20-2	143	63	45	278.8
28	195	MC 3A K 覆丸	紙類	片蓋	軍用食器 染用食器 1種反 緑釉・垂刷版文	完	20-2	136	55	44	255.6
28	196	MC 3A K 覆丸	紙類	片蓋	軍用食器 1種反 緑釉・垂刷版文 高付飾緑釉・垂刷版文	ほぼ 完	20-2	142	57	45	276.9
29	197	MC 3A K 覆丸	紙類	片蓋	軍用食器 英文 製法 手書き英文；焼漬食器（緑釉・垂刷版文）	完	20-2	147	61	43	298.0
29	198	MC 323 土	紙類	片蓋	手書き付竹筒文 178に付記	完	20-1-2	146	67	44	310.0
29	199	MC 323 土	紙類	片蓋	手書き付竹筒文 180に付記	1/5	20-1-2	146	—	0.08	74.8
29	200	MC 323 土	紙類	片蓋	手書き 未解字文 181に付記	完	20-1-2	149	68	48	281.0
29	201	MC 3A K 覆丸	紙類	片蓋	手書き染付竹筒文 179に付記	完	20-1-2	145	64	45	290.4
29	202	A0 B154	紙類	片蓋	青磁びん藍色絵刷版文	完	20-1-2	141	54	47	264.1
29	203	MC 3A K 覆丸	紙類	片蓋	ゴム製手書き染付付竹筒文	ほぼ 完	20-1-2	145	64	45	324.0
29	204	MC 3A K 覆丸	紙類	片蓋	手書き染付紙類・イッチン竹文	ほぼ 完	20-1-2	145	62	47	317.5
30	205	MC 3A K 覆丸	紙類	網	軍用食器 青白 染付・垂刷版文 製法 プリント染付；焼漬食器 ○に五芒星	完	20-2	121	54	76	322.5
30	206	MC 3A K 覆丸	紙類	網	軍用食器 青白 緑釉・垂刷版文 製法 プリント緑釉；焼漬食器 ○に五芒星	完	20-2	120	52	76	376.5
30	207	MC 3A K 覆丸	紙類	網	軍用食器 青中 緑釉・垂刷版文 製法 スタンパ緑釉；焼漬食器 ○に五芒星	完	20-2	125	51	70	325.5
30	208	MC 3A K 覆丸	紙類	網	軍用食器 青中 緑釉・垂刷版文 製法 プリント緑釉；焼漬食器 ○に五芒星 高付内 プリント緑釉；藍マーク (美濃染室製陶所産)	完	20-2	125	52	69	340.5
30	209	MC 3A K 覆丸	紙類	網	軍用食器 青白 緑釉・垂刷版文 製法 スタンパ緑釉 ○に五芒星 陸軍病院本館 高付内 スタンパ緑釉；藍マーク 特 260 (緑製番号)	完	20-2	124	47	63	289.0
30	210	MC 3A K 覆丸	陶器	網	軍用食器 淡紫色 / 緑釉 / 刷版 緑釉・垂刷版文 青中 高付内 プリント緑釉；日本製陶	ほぼ 完	20-2	123	47	66	234.5
30	211	MC 3A K 覆丸	紙類	大紙	軍用食器 1種反 染付・垂刷版文 写誌 プリント染付；焼漬食器 ○に五芒星 高付内 緑釉プリント；藍マーク (美濃染室製陶所産)	ほぼ 完	20-2	184	115	30	343.0
30	212	MC 3A K 覆丸	紙類	大紙	軍用食器 1種反 染付・垂刷版文 写誌 プリント染付；焼漬食器 ○に五芒星	完	20-2	188	113	32	378.5
31	213	MC 3A K 覆丸	紙類	大紙	軍用食器 1種反 緑釉・垂刷版文 写誌 緑釉ステンパ；焼漬食器 ○に五芒星	ほぼ 完	20-2	181	108	33	430.5
31	214	MC 3A K 覆丸	紙類	大紙	軍用食器 1種反 緑釉・垂刷版文 写誌 プリント緑釉；焼漬食器 ○に五芒星 高付内 スタンパ緑釉；藍 114 (緑製番号)	ほぼ 完	20-2	182	109	32	343.5
31	215	MC 3A K 覆丸	紙類	大紙	軍用食器 1種反 緑釉・垂刷版文 写誌 スタンパ緑釉；焼漬食器 ○に五芒星	ほぼ 完	20-2	182	110	30	336.0
31	216	MC 3A K 覆丸	紙類	大紙	軍用食器 1種反 緑釉・垂刷版文 写誌 プリント緑釉；焼漬食器 ○に五芒星 高付内 プリント緑釉；藍マーク (美濃染室製陶所産)	完	20-2	185	115	30	412.0
32	217	MC 3A K 覆丸	紙類	大紙	軍用食器 1種反 緑釉・垂刷版文 写誌 スタンパ緑釉 ○に五芒星 陸軍病院本館 高付内 スタンパ緑釉；藍マーク 特 260 (緑製番号)	完	20-2	174	104	33	325.5
32	218	MC 3A K 覆丸	紙類	大紙	軍用食器 1種反 緑釉・垂刷版文 写誌 スタンパ緑釉 ○に五芒星 陸軍病院本館 高付内 スタンパ緑釉；藍マーク 特 260 (緑製番号)	3/4	20-2	174	101	31	174.0
32	219	MC 3A K 覆丸	紙類	大紙	軍用食器 1種反 緑釉・垂刷版文 高付内 スタンパ染付；藍 207 (緑製番号)	完	20-2	189	102	32	345.5
32	220	MC 323 土	紙類	小紙	軍用食器 1種反 染付・垂刷版文 写誌 プリント染付；焼漬食器 ○に五芒星	完	20-2	109	68	21	107.4
32	221	MC 3A K 覆丸	紙類	小紙	軍用食器 写誌 プリント青緑釉；焼漬食器 ○に五芒星	破片 底部	20-2	—	書 5.6	80	9.3

第5表 遺物観察表(7)

探頭番号	遺物番号	遺物名 出土地点	材質	形状	詳 細	遺存状態	時期	法量 (ml)			量さ (g)	
								a	b	c		
32	222	MC 3A/K 覆丸	磁器	小皿	華南食器(1編丸) 緑釉・赤黒陶文	完好	20-2	標準	14.6	20	22.1	
33	223	MC 3A/K 覆丸	陶器	大皿	華南食器 淡黄色/緑釉/粉青 染付・赤黒陶文・1編丸 付込 プリント染付(「機織食器」) 〇に五芒星 高行内 プリント緑釉/緑陶 華南食器(淡黄色) 淡黄/粉青 染付・赤黒陶文・1編丸 付込 プリント染付(機織食器) 〇に五芒星 高行内 プリント緑釉	ほぼ 完好	20-2	184	103	29	205.8	
33	224	MC 3A/K 覆丸	陶器	大皿	華南食器(淡黄色) 淡黄/粉青 染付・赤黒陶文・1編丸 付込 プリント染付(機織食器) 〇に五芒星 高行内 プリント緑釉	ほぼ 完好	20-2	184	104	29	273.5	
33	225	MC 3A/K 覆丸	磁器	洋皿	華南食器(洋皿) 1編丸 染付・赤黒陶文 付込染付・赤黒陶文	完好	20-2	200	122	25	372.5	
33	226	MC 3A/K 覆丸	磁器	洋皿	華南食器(洋皿) 1編丸 緑釉・赤黒陶文	ほぼ 完好	20-2	205	121	26	326.0	
34	227	MC B145	磁器	皿	1編丸染付・梅枝梅文	完好		181	93	32	353.0	
34	228	AU 1 陶内 覆丸	磁器	皿	赤絵・若葉梅文	ほぼ 完好		130	68	23	114.8	
34	229	MC 323 ±	磁器	皿	新島染付・茶文	ほぼ 完好		119	67	28	128.0	
34	230	MC 323 ±	磁器	皿	手箱染付・茶文	ほぼ 完好		111	62	26	95.5	
34	231	MC 3A/K 覆丸	磁器	皿	ゴム染付・梅文	完好		79	41	24	73.0	
34	232	MC 3A/K 覆丸	陶器	皿	洋皿 横置陶器 高行内 プリント緑釉: Ravel Right Yamato porcelain DISKED IN JAPAN ゴム染付・山吹赤黒陶文	破損 状態	1960 年代後半	-	-	-	13.4	
34	233	AU B154	鉄	鉢	付込 スタンプ染付: 龍・力肩・山内 ■若葉・山内 程美輸入 高行内 スタンプ染付: 有31 (緑釉通気)	完好	20-2	121	58	45	280.0	
34	234	MC 3A/K 覆丸	磁器	鉢	手箱青緑・赤陶文	完好	20-1-2	101	42	49	155.1	
34	235	MC 3A/K 覆丸	陶器	蓋物	淡黄色/緑釉/粉青 239の蓋に対応 手箱・赤陶文	完好		90	52	43	93.0	
34	236	MC 3A/K 覆丸	陶器	蓋物	淡黄色/緑釉/粉青 240の蓋に対応 赤絵・緑梅文	ほぼ 完好		104	63	48	138.3	
34	237	MC 3A/K 覆丸	磁器	蓋物	手箱染付・赤黒陶文	完好	20-2	86	51	43	125.8	
35	238	MC 323 ±	陶器	蓋物 蓋	淡黄色/緑釉/粉青 手箱・赤絵・山内	ほぼ 完好		114	58	30	86.0	
35	239	MC 3A/K 覆丸	陶器	蓋物 蓋	淡黄色/緑釉/粉青 235の蓋物に対応 手箱・赤陶文	ほぼ 完好		100	81	30	81.2	
35	240	MC 3A/K 覆丸	陶器	蓋物 蓋	淡黄色/緑釉/粉青 236の蓋物に対応 赤絵・緑梅文	完好		114	94	32	96.2	
35	241	MC 325 ±	磁器	小鉢 洋皿(鉢)	新島染付・茶文 「新島 今日(明日も) 欠かすのんで 無いからに なりませう」 付込 プリント染付: 龍脚マーク(龍脚印・通気)	完好	20-2	48	23	32	28.0	
35	242	AU B号子皿 覆丸	磁器	小鉢	赤絵・若葉梅文	完好		64	25	36	56.6	
35	243	MC 3A/K 覆丸	磁器	小鉢	染付・茶文	1/2		643	18	29	11.4	
35	244	MC 324 ±	磁器	小鉢	新島染付・茶文 付込 プリント染付: 龍脚	ほぼ 完好		51	19	29	22.2	
35	245	MC 325 ±	磁器	小鉢	新島染付・茶文 新島 プリント染付: 龍脚力士	完好		30	28	40	25.8	
35	246	MC 323 ±	陶器	土瓶	淡黄色/緑釉/粉青 社内部に茶葉盛り 赤絵・若葉梅文	ほぼ 完好		61	64	69	142.0	
35	247	MC 323 ±	陶器	土瓶	淡黄色/緑釉/粉青 社内部に茶葉盛り 赤絵・若葉梅文	ほぼ 完好		70	60	80	175.3	
35	248	MC 323 ±	陶器	土瓶	淡黄色/緑釉/粉青 社内部に茶葉盛り 赤絵・若葉梅文	ほぼ 完好		67	65	74	219.3	
35	249	MC 325 ±	陶器	土瓶	淡黄色/緑釉/粉青 社内部に茶葉盛り 手箱染付・茶文	ほぼ 完好		72	73	79	170.9	
35	250	MC 325 ±	陶器	土瓶	淡黄色/緑釉/粉青 社内部に茶葉盛り 手箱・赤陶文	ほぼ 完好		63	標準	61	83	117.4
35	251	MC 325 ±	陶器	土瓶	淡黄色/緑釉/粉青 社内部に茶葉盛り 緑釉・リリー・桃文字	完好		60	60	80	235.7	
35	252	MC 323 ±	陶器	土瓶	焼き締め	ほぼ 完好		85	74	81	310.0	
36	253	MC 323 ±	磁器	急須	手箱染付丸文 265に対応	完好		63	60	58	150.5	
36	254	MC 325 ±	磁器	急須	緑釉・土 社内部に茶葉盛り	ほぼ 完好		60	59	63	158.7	
36	255	MC 3A/K 覆丸	磁器	急須	新島 スタンプ・茶文: 富士屋	1/4		標準	53	-	(52)	41.1

第5表 遺物観察表(8)

探出番号	遺物番号	遺物名 出土地点	材質	種類	詳 細	保存状態	時期	法量 (mm)			量 (g)
								a	b	c	
36	256	MC 324 土	陶器	急須	手描色絵華文文	ほぼ 完		88	64	80	262.8
36	257	MC 323 土	陶器	急須	淡青色 / 緑彩 / 彩墨 社内面に記帳塗り 205 とセット	ほぼ 完		61	53	51	105.4
36	258	MC 323 土	陶器	急須	手描色絵緑文	ほぼ 完		74	-	73	167.2
36	259	MC 324 土	陶器	急須	淡青色 / 緑彩 / 彩墨 社内面に記帳塗り 手描草堂文	2/3		68	60	86	167.6
36	260	MC 325 土	陶器	急須	淡青色 / 緑彩 / 彩墨 社内面に記帳塗り 緑彩	ほぼ 完		68	63	102	282.2
36	261	MC 323 土	陶器	土瓶蓋	淡青色 / 緑彩 / 彩墨 刺繍レリーフ百合文	ほぼ 完		55	42	21	19.0
36	262	MC 323 土	陶器	土瓶蓋	淡青色 / 緑彩 / 彩墨 刺繍レリーフ幾何学文	1/2		差76	差53	23	25.4
36	263	MC 325 土	陶器	土瓶蓋	淡青色 / 緑彩 / 彩墨 刺繍刺繍文	ほぼ 完		88	70	28	76.1
36	264	MC 3A/K 覆瓦	陶器	土瓶蓋	淡青色 / 緑彩 / 彩墨 手描草堂文	1/2		78	63	21	25.9
37	265	MC 323 土	磁器	急須蓋	手描色絵刺繍文 253 に対応	完		59	-	22	23.0
37	266	MC 323 土	磁器	急須蓋	刺繍草堂文刺繍花文 下面 手書染付：文八	完		67	54	26	30.3
37	267	MC 3A/K 覆瓦	磁器	急須蓋	手描染付牡丹文 下面 手書染付：文八	2/3		67	53	(23)	24.4
37	268	MC 3A/K 覆瓦	磁器	カップ	文 スタンプ刺繍：緑 59 ■ (緑刺繍番号)	底面 完	20.2	-	差33	(110)	7.7
37	269	MC 323 土	磁器	カップ	手描ラスター彩マープル文	ほぼ 完	20.2	72	42	98	104.1
37	270	MC 3A/K 覆瓦	磁器	カップ	ゴム敷色絵華文	ほぼ 完	20.2	71	30	69	91.9
37	271	MC 3A/K 覆瓦	磁器	カップ	シルクスクリーンプリント色絵金堂文	ほぼ 完	20.2	69	49	93	85.0
37	272	MC B148	磁器	カップ	ゴム敷赤刺繍	3/4	20.2	76	37	61	70.8
37	273	MC 3A/K 覆瓦	磁器	カップ	ゴム敷刺繍手描色絵華文	1/2	20.2	67	35	58	33.2
37	274	AU B154	磁器	ソーサー	刺繍刺繍写染付水辺牡羊刺繍赤文 高付内、スタンプ染付：大日本 淡青色 / 緑彩 / 彩墨 刺繍刺繍写染付牡丹草堂文 高付内、スタンプ染付：リボンに TOYOTOKI KOKORA JAPAN (東洋陶器小倉商標) 登録特許 27785	ほぼ 完		138	83	20	92.4
37	275	AU B154	陶器	ソーサー		完		130	79	19	104.6
37	276	MC 3A/K 覆瓦	磁器	燗徳利	手描刺繍、赤刺繍 高付内 刺繍：緑 263 (緑刺繍番号)	ほぼ 完	20.2	24	43	132	130.9
37	277	MC 3A/K 覆瓦	磁器	燗徳利	手描、赤刺繍 文 手書染付：元年	ほぼ 完	20.2	31	63	181	227.3
37	278	MC 325 土	磁器	燗徳利	手描、赤刺繍赤文 文 プリント染付：らむねや、電赤七四番	ほぼ 完		24	43	141	134.5
38	279	MC 323 土	陶器	徳利	淡青色 / 緑彩 / 彩墨 刺繍 手書染付：緑赤白赤 阿波屋 山西 茶梅語文字刺繍	完		33	113	255	1496.0
38	280	AU 3B/K	陶器	徳利	刺繍 手書染付：赤白 近野 かん吉	完		26	119	240	1444.5
38	281	MC 3A/K 覆瓦(ゴマ)	磁器	瓦皿	手描 三日月堂文	完	戦後	122	60	34	222.0
39	282	MC 3A/K 覆瓦	陶器	瓦皿	淡青色 / 緑彩 / 彩墨 社内面に記帳塗り 漆書刺繍刺繍レリーフ文 文 スタンプ青色：万74 (緑刺繍番号)	ほぼ 完		92	93	46	184.6
39	283	MC 3A/K 覆瓦	陶器	瓦皿	淡青色 / 緑彩 / 彩墨 社内面に記帳塗り 漆明刺 文 刺繍：万74 (緑刺繍番号)	ほぼ 完		93	93	44	151.8
39	284	MC 3A/K 覆瓦	陶器	瓦皿	淡青色 / 緑彩 / 彩墨 社内面に記帳塗り 漆明刺 文 スタンプ青色：万74 (緑刺繍番号)	完		97	97	47	190.2
39	285	MC 3A/K 覆瓦	陶器	瓦皿	淡青色 / 緑彩 / 彩墨 漆書刺繍刺繍レリーフ文	ほぼ 完		93	93	44	111.1
39	286	MC 3A/K 覆瓦	陶器	瓦皿	淡青色 / 緑彩 / 彩墨 社内面に記帳塗り 刺繍刺繍刺繍レリーフ文	ほぼ 完		-	47	50	113.8
39	287	MC 3A/K 覆瓦	陶器	瓦皿	淡青色 / 緑彩 / 彩墨 漆明刺	1/4		-	-	(118)	18.1
39	288	MC 3A/K 覆瓦	陶器	瓦皿	淡青色 / 緑彩 / 彩墨 漆明刺レリーフ刺繍 文 スタンプ青色：HAND PRINTED JAPAN 仁徳王 漆明刺	ほぼ 完		72	53	13	37.3
40	289	AU B154	磁器	煎茶碗	刺繍 刺繍：法書刺繍フェニクス 文 スタンプ染付：緑 B14 (緑刺繍番号) 代用品	ほぼ 完	20.2	差24	41 × 79	差 203	267.0

第5表 遺物観察表(9)

探区番号	遺物番号	遺構名 出土地点	材質	種類	詳 細	遺存状態	時期	質量 (mg)			量さ (g)
								a	b	c	
40	280	AU1溝内 覆瓦	磁器	化粧箱	1.緑スクリーン プラスチック覆機 無文 製部 筒形:IDEAL 底 筒形:セ65X(製部番号) 代用品	完	20.2	15	54 × 23	104	1040
40	291	AU1溝内 覆瓦	磁器	観音舟	1.緑かぶせ蓋 無文 底 筒形:丸形の当たり欠(輪形)(ヤマト輪内腹) 代用品	完	20.2	63	60	50	99.4
40	292	AU1B154	磁器	観音舟	1.緑かぶせ蓋 無文 底 筒形:純258(製部番号) 代用品	完	20.2	65	63	52	100.7
40	293	AU1溝内 覆瓦	磁器	観音舟	1.緑かぶせ蓋 無文 底 筒形:純603(製部) (製部番号) 代用品	完	20.2	68	63	52	103.9
40	294	AU1B154	磁器	観音舟	1.緑かぶせ蓋 無文 代用品	完	20.2	56	57	48	126.1
40	295	MC3A区 覆瓦	陶器	観音舟	1.緑かぶせ蓋 無文 底 スタンプ胎付:純1163(製部番号) 代用品	1/5	20.2	-	標45	(37)	15.0
40	296	MC323土	陶器	インク ボトル	陶輪 内部成形面研削	ほぼ 完		49	88	210	869.0
40	297	MC323土	陶器	インク ボトル	陶輪 製部以上行欠、底部中央地味穿孔(鉛筆跡に転用)	ほぼ 完		-	93	183	839.4
40	298	MC3A区 覆瓦	陶器	インク ボトル	1.緑粉(目取1あり) 製部 スタンプ胎付:marum	完		44	89	211	929.5
41	299	AU1溝内 覆瓦	磁器	インク スタンド	陶輪 底 筒形:日丸の コクスキ A2 代用品	完	20.2	86	137	48	406.5
41	300	AU1溝内 覆瓦	磁器	筆洗	薄い陶輪 底成形面(底面した裏6) 底 製部 筒形:押形無文 底1両合(底:押形株式会社)	完		43	56	39	61.7
41	301	AU1B154	磁器	文箱	筆蓋がニードル 底 筒形:ゴリコ 底 底取の赤色長方形 製部 ざら地胎付:磁器製 結晶性のシラマイ	完	20.2	93	20	35	52.3
41	302	MC3A区 覆瓦	陶器	陶器	陶輪レリーフ型付文 製部 筒形:美作新築第一八九二九八 代用品	ほぼ 完	20.2	17	12	-	11.4
41	304	MC3A区 覆瓦	陶器	高取皿	理化学用品 総質陶器 無文 製部 プリント製輪:○にccc	完		128	-	55	113.5
41	305	MC323土	陶器	高取皿	理化学用品 総質陶器 無文 製部 スタンプ製輪:1	2/3		120	-	90	67.1
41	306	MC323土	陶器	高取皿	理化学用品 総質陶器 無文 製部 スタンプ製輪:○にccc	破片 1編		-	-	(44)	21.3
41	307	MC323土	陶器	高取皿	理化学用品 総質陶器 無文 製部 スタンプ製輪:1	1/3		標153	-	(46)	50.9
41	308	MC323土	陶器	デンキケツ 中板	理化学用品 総質陶器 無文	ほぼ 完		122	-	5	83.9
41	309	MC323土	陶器	用箱	理化学用品 総質陶器 無文 製部 スタンプ製輪:○にccc	完		43	22	37	16.0
41	310	MC323土	陶器	田嵜蓋	理化学用品 総質陶器 無文	完		48	-	17	7.6
41	311	MC323土	陶器	田嵜蓋	理化学用品 総質陶器 無文	完		63	-	(12)	21.0
41	312	MC323土	陶器	田嵜蓋	理化学用品 総質陶器 無文	完		51	-	21	10.4
41	313	MC325土	陶器	南蛮壺	高生陶器 総質陶器 無文	2/3		152	44	53	235.7
41	314	MC3A区 覆瓦	陶器	南蛮壺	高生陶器 総質陶器 無文	ほぼ 完		154	146	145	1063.0
41	315	MC323土	陶器	南蛮壺	高生陶器 総質陶器 無文	完		297	289	369	10340.0
42	316	MC3A区 覆瓦	陶器	磁器瓶	陶輪	破片 1一編		142	-	0328	5300.0
42	317	MC324土	陶器	硝子	総質陶器 筒形:250X171/〇GAMP	完		67	37	25	86.2
42	318	MC323土	総質陶器	硝子	総質陶器 ノップ	完		22	22	22	17.1
42	319	MC323土	総質陶器	硝子	総質陶器 ノップ	完		44	44	53	152.6
42	320	MC323土	総質陶器	硝子	総質陶器 ノップ	完		38	38	50	111.2
42	321	AU 8号ゴミ穴	総質陶器	硝子	電球ソケット 総質陶器 スタンプ胎付:■/7.1522.6A250V/5HK マーク	ほぼ 完		-	77	40	129.3
42	322	MC323土	総質陶器	硝子	電球ソケット 総質陶器	ほぼ 完		-	77	47	192.3

第5表 遺物観察表(10)

探出番号	遺物番号	遺構名 出土地点	材質	種類	詳 細	遺存状態	時期	容量 (ml)			重さ (g)
								a	b	c	
42	323	AU 1 階内 埋瓦	硬質陶器	硝子	電球ソケットカバー 硬質陶器	完	-	68	45	81.2	
42	324	MC 3A 区 埋瓦	硬質陶器	硝子	圧電板用 硬質陶器	ほぼ 完	95	72	69	677.0	
45	325	AU 1 階内 埋瓦	ガラス	飲料瓶 ビール瓶 大瓶	〔緑玉〕 青緑透明 製法 関付: TRADE 大日本麦酒マーク MARK DANIPPON BREWERY Co.LTD 氏 関付: ○に○ 18 10 Y 大日本麦酒株式会社	完	26	77	289	500.0	
46	326	AU 3A 区 南側埋瓦	ガラス	飲料瓶 ビール瓶 大瓶	〔緑玉〕 青色透明 関付: TRADE 大日本麦酒マーク MARK KBマーク 関付: DANIPPON BREWERY Co.LTD 氏 関付: 13 大日本麦酒株式会社	完	25	77	298	665.5	
47	327	MC 321 土	ガラス	飲料瓶 ビール 小瓶	〔緑玉〕 薄緑透明 製法 関付: DNS マーク ○に○ 大日本麦酒株式会社製造 氏 関付: ○に○ (左肩に「」) 大日本麦酒株式会社	完	26	63	227	449.0	
47	328	AU 9号ゴタ穴	ガラス	飲料瓶 ビール 小瓶	〔緑玉〕 青緑透明 製法 関付: キリンビール 登録 緑マーク 商標 麒麟麦酒株式会社	完	25	56	242	429.0	
48	329	MC 3A 区 埋瓦	ガラス	飲料瓶 ビール瓶 大瓶	〔緑玉〕 青色透明 製法 関付: NIPPON BEER KOSEN Co.LD 氏 関付: 昔 * * * * * 日本麦酒醸造株式会社	完	25	76	287	709.5	
48	330	MC 321 土	ガラス	飲料瓶 ビール 小瓶	薄緑透明 玉 製法 関付: NIPPON BEER KOSEN CO LTD 日本麦酒醸造株式会社	完	24	60	236	302.5	
48	331	MC 323 土	ガラス	飲料瓶 ビール瓶 大瓶	青色透明 製法 関付: ANGLO JAPANESE BREWERY COMPANY LTD TOKYO 氏 関付: 14 日英醸造株式会社	破片 1穴	1920- 1928	-	75 (16.3)	414.5	
48	332	MC 3A 区 埋瓦	ガラス	飲料瓶 ワイン瓶	〔緑玉〕 青色透明 製法 関付: BEE BRAND KODAN WINE KURONDO & CO. TOKYO 氏 関付: 2 協行商店	完	25	67	296	693.5	
49	333	MC 3A 区 埋瓦	ガラス	飲料瓶 ワイン瓶	〔緑玉〕 青色透明 製法 関付: RED FLAG PORT WINE 赤旗ポートワイン 兼行製酒株式会社	完	27	71	281	697.0	
49	334	AU 9号ゴタ穴	ガラス	飲料瓶 ウィスキー 瓶	〔緑玉〕 青色透明 製法 関付: KY214 5 5 オールドドラー ニッカウヰスキー株式会社	完	1956-	25	66	195	656.5
49	335	AU 9号ゴタ穴	ガラス	飲料瓶 ウィスキー 瓶	〔緑玉〕 クリヤー 青色透明 製法 関付: NEKA 丸正マーク 180ml 氏 関付: NS 1	完	1956-	23	68 × 30	152	206.3
49	336	AU 3A 区 南側埋瓦	ガラス	飲料瓶 清酒瓶	薄緑透明 製法 関付: 薄緑透明 氏 関付: 薄緑透明	完	26	78	298	592.0	
49	337	MC 3B 区 埋瓦	ガラス	飲料瓶 清酒瓶	〔緑玉〕 薄緑透明 製法 プリント1万1、○に○商標 岩城他財 野田醸造株式会社 千葉旭池(約)池山 氏 関付: 丸正マーク 360ml 氏 関付: 3にN.V 野田醸造株式会社	完	1956-	25	57	213	335.0
50	338	MC 323 土	ガラス	飲料瓶 ニッキ水	ラムネ形 〔緑玉〕 薄緑透明 薄緑透明 製法 関付: DNS マーク 日本麦酒醸造株式会社 氏 関付: ニツ先マーク 商標 氏 関付: 6 * * * * * 日本麦酒醸造株式会社	完	16	32	123	60.7	
50	339	MC B145	ガラス	飲料瓶 サイダー瓶	〔緑玉〕 薄緑透明 製法 関付: ニツ先マーク ASAHI BEVERAGES LTD 氏 関付: SN 1 57 アサヒビール株式会社	破片 1穴	-	61	138	313.0	
50	340	AU 3A 区 南側	ガラス	飲料瓶 サイダー瓶	〔緑玉〕 薄緑透明 製法 関付: ニツ先マーク ASAHI BEVERAGES LTD 氏 関付: SN 1 57 アサヒビール株式会社	完	25	58	235	367.5	
50	341	AU 3A 区 埋瓦	ガラス	飲料瓶 サイダー瓶	〔緑玉〕 薄緑透明 製法 関付: ニツ先サイダー ニツ先サイダー 丸正マーク 340ml 氏 関付: SN 1 62 アサヒビール株式会社	完	1956-	25	52	235	343.0
51	342	MC 3A 区 埋瓦 (ばり)	ガラス	飲料瓶	〔緑玉〕 青色透明 製法 関付: white Rock AUTHORIZED BOTTLER E.J. GREYTH & COMPANY INC. IPT 12FL OZ 氏 関付: White Rock REG. 1957 石7 アメリカ製 エネブルウォーター - ジンジャービール	完	1957	26	75	247	602.0

第5表 遺物観察表(11)

探出番号	遺物番号	遺構名 出土地点	材質	名称	詳 細	遺存状態	時期	重量 (g)			長さ (g)
								法量 (ml)			
								a	b	c	
51	343	MC 1C区	ガラス	飲料瓶 コーラ瓶	1.緑玉冠 無色透明 製法 開封: Coca Cola 既 開封: H 日本コカ・コーラ株式会社	完	1945- 1956	25	52	197	399.5
51	344	MC 3A区 遺丸	ガラス	飲料瓶 コーラ瓶	1.緑玉冠 ナーリング 無色透明 製法 プリント: コカ・コーラ 開封: 登録商標 TRADE MARK REGISTERED 既 開封: BOTTLE REGO・TRADE MARK 18. 〇にN 〇にY 日本コカ・コーラ株式会社	完	1960代 前半	25	52	197	403.0
51	345	MC 4B区	ガラス	飲料瓶 コーラ瓶	1.緑玉冠 ナーリング 薄青緑透明 製法 プリント: ★ 500ml ★ Coca Cola 開封: 79.321Nマーク Y〇Aマーク 日本コカ・コーラ株式会社	完	1960 代末	25	60	283	581.5
51	346	MC 1C区	ガラス	飲料瓶 コーラ瓶	1.緑スクラマー 金銀箔内 ナーリング 無色透明 ビニールカバー内: Coca Cola 既 開封: 84 重 16 〇にN A 日本コカ・コーラ株式会社	完	1980 前半	22	50	137	173.3
51	347	AU 5A区 20号 喪葬周辺	ガラス	飲料瓶	玉冠 ナーリング 無色透明 既 開封: B 1 閉封 SOS ラベル内 (オロチンシロ) 光澤製法	完	1952- 1964	25	40	140	144.0
51	348	MC 3B区	ガラス	飲料瓶 ジュース瓶	1.緑玉冠 薄青透明 製法 開封: Ribose Juice NIPPON BREWERIES LTD 既 開封: 1のT内枠 T 〇にN ■ 日本麦酒株式会社	完	1949- 1957	25	47	219	358.0
52	349	MC 2B区 遺丸	ガラス	飲料瓶 シロップ	1.緑玉冠 無色透明 製法 開封: MEIJI SEIKA KANSYA 既 開封: 1 〇にN Y 代用品	完	1924- 1951	25	56	287	413.0
52	350	MC 323土	ガラス	飲料瓶 牛乳	樽蓋: 1.緑玉冠 無色透明 製法 開封: 水磨粉 全乳圧写	ほぼ 完		24	42	160	130.2
52	351	MC 323土	ガラス	飲料瓶 牛乳	無色透明 製法 開封: 水磨粉 薬油全乳一合	破片 1欠		-	52	153	195.1
52	352	MC 323土	ガラス	飲料瓶 牛乳	無色透明 製法 開封: 株式会社武蔵野ミルクプラント 高圧滅菌全乳圧写	破片 1欠		-	45	130	142.6
52	353	MC 323土	ガラス	飲料瓶 牛乳	1.緑玉冠 薄青透明 製法 開封: 明治牛乳 登録商標 〇つ葉マーク T & Co. 既 開封: 桜花マーク	完		25	60	179	229
52	354	MC 323土	ガラス	飲料瓶 牛乳	1.緑玉冠 無色透明 製法 開封: 〇に〇八角	口		26	-	99	76.3
52	355	MC 3B区 遺丸	ガラス	飲料瓶 牛乳	1.緑玉冠 無色透明 製法 プリント: 明治牛乳 Meiji Milk 既 開封: 丸正マーク 180cc	完	1956- 1965	44	45	140	248.0
53	356	MC 323土	ガラス	飲料瓶 牛乳	1.緑玉冠 製法開封: 山形硝子 無色透明 製法 プリント: 明治マーク 明治牛乳 Meiji Milk VITA 既 開封: 180cc Y23 明治乳業 製法: 山形硝子	完	1954-	45	42	140	244.4
53	357	MC 2B区 遺丸	ガラス	飲料瓶 牛乳	1.緑玉冠 無色透明 製法 プリント: 森永エンゼルマーク 森永牛乳 ホムちゃんマーク 既 開封: 丸正マーク 180cc 既 開封: 2 TK(梅田町) 森永乳業 製法: 山形硝子	完	1956- 1960	44	48	141	227.6
53	358	AU 5A区 西側遺丸	ガラス	飲料瓶 牛乳	1.緑玉冠 無色透明 製法 プリント: 明治マーク 丸正マーク 180cc 既 開封: 8 〇にN K 2...8 明治乳業 製法: 山形硝子	完	1956- 1965	44	45	141	246.0
53	359	AU 9号びん穴	ガラス	飲料瓶 牛乳	1.緑玉冠 無色透明 製法 プリント: グリコ グリコマーク 牛乳 GURKO グリコマーク A18 K 開封: 丸正マーク 180cc 既 開封: 24 YT JT 江崎グリコ株式会社 製法: 山形硝子	完	1956-	45	45	140	249.5
53	360	MC 3B区	ガラス	飲料瓶 ヤクルト	1.緑玉冠 無色透明 既 開封: 38.4 〇に 1 株式会社ヤクルト 製法: 昭和38年4月	完	1963	31	30	70	73.5

第5表 遺物観察表(12)

検出番号	遺物番号	遺物名 出土地点	材質	種類	詳 細	遺存状態	時期	法量 (mm)			重さ (g)
								a	b	c	
53	361	MC 3BK 東側埋没	ガラス	飲料瓶 ヤクルト	〔緑瓶蓋 無色透明〕 製法 プリント:Yakult 社専 青のレラ 生乳 ヤクルト 糖質乳 無菌乳(脂肪分3.5%以上) 特殊栄養食品マーク 100 g中V C 65mg強化 ヤクルト本社 中央3日本橋3-6 底 関切:431111 T.02-16 株式会社ヤクルト 製造:昭和43年11月	完	1968	30	31	70	78.2
53	362	MC 1AK 覆瓦	ガラス	飲料瓶 ヨーグルト	〔緑蓋透明〕 製法 プリント フルーツ・ヨーグルト ビルマン FRUIT YOGURT Premium Miji Calpis 底 関切:900x.0にN 597.8	完	1959	50	45	75	148.3
53	363	MC 3AK 覆瓦	ガラス	飲料瓶 乳酪類	〔緑瓶蓋 無色透明〕 製法 青色プリント:明治バイガンC 関切:60nd.0にE 21 明治乳業	完	1967-	31	32	100	112.7
53	364	MC 323 土	ガラス	飲料瓶	小型 〔緑瓶蓋 無色透明〕 製法 関切:森本ミルク 乳酪類飲料 森本製乳株式会社?	完		25	41	91	86.2
53	365	AD 7号びん穴	ガラス	調味料瓶 調味瓶	〔緑蓋透明〕 製法 関切:KODASHOY Co. Ltd. TRADE ネッコーマンマーク MARK 底 関切:0にT 46 物産館製瓶株式会社	完	-1956	28	105	307	1317.5
54	366	MC 3AK 覆瓦	ガラス	調味料瓶 調味瓶	〔緑蓋透明〕 製法 関切:ヒゲタマーク ヒゲタ醤油 ヒゲタ醤油株式会社	完	-1956	20	52	185	198.4
54	367	MC 323 土	ガラス	調味料瓶 ソース	〔緑蓋透明〕 製法 関切:江野189号 青緑透明	ほぼ 完	-1956	24	53	200	222.9
54	368	MC 3AK 覆瓦 (びん穴)	ガラス	調味料瓶 ケチャップ	〔緑スクリーン 金属蓋付 無色透明〕 底 関切:AICHI TOMATO Co. 50 0に八芒星 源徳興 電知トマトソース製造株式会社(青:かびマ)	完	-1956	67D	50	183D	282.0
54	369	MC 323 土	ガラス	調味料瓶 ケチャップ	〔緑蓋透明〕 製法 関切:朝日平八内形 無色透明	完	-1956	40	53 × 31	150	227.0
54	370	AD 5AK 油煎埋没	ガラス	調味料瓶 ケチャップ	〔緑蓋透明〕 製法 関切:朝日平八内形 無色透明	完	-1956	31	41	193	185.5
54	371	MC 323 土	ガラス	調味料瓶 マヨネーズ	〔緑スクリーン 銀下蓋・リング〕 無色透明 底 関切:3 0にQにP TO ネユービーマヨネーズマ?	完	-1956	23	58 × 44	151	201.7
54	372	MC 325 土	ガラス	調味料瓶 青唐辛子	〔緑瓶 江野189号〕 青緑透明 製法8号底	完		22	50	112	108.0
54	373	MC 3AK 覆瓦	ガラス	調味料瓶 化学調味料	〔緑瓶 朝日平10内形〕 青緑透明 味の素株式会社もしくは製瓶品	完		24	38 × 24	84	70.0
54	374	MC 3AK 覆瓦	ガラス	不明	〔緑瓶〕 無色透明	完		12	22 × 10	45	9.7
54	375	MC 3AK 覆瓦 (びん穴)	ガラス	調味料瓶	〔緑スクリーン 金属蓋付 無色透明〕 製法 関切:かむんべん 底 関切:かむんべん.0にユ 株式会社かむんべん	完	戦後	130	33	600	109.9
54	376	MC 3AK 覆瓦	ガラス	調味料瓶	〔緑瓶〕 無色透明 製法 関切:西沢調味料(ソース等調味料?)	完		24	36 × 36	114	84.2
54	377	MC 3AK 覆瓦	ガラス	食品瓶 昆布巻	〔緑瓶〕 青緑透明 製法 関切:く寿館	完		20	36 × 21	90	71.3
54	378	MC 3AK 覆瓦 (びん穴)	ガラス	食品瓶 海苔巻	〔緑スクリーン 金属蓋付 (瓶底の文字あり)〕 無色透明 製法 関切:梅0にTK(朝日硝子) 25 底 関切:MMY(朝日マーク) 206 江野むらさき 株式会社梅屋	完	1957- 1970	43	44	108	166.0
54	379	MC 3AK 覆瓦 (びん穴)	ガラス	食品瓶 海苔巻	〔緑スクリーン 金属蓋付 (瓶底の文字あり)〕 無色透明 製法 関切:梅0にTK(朝日硝子) 13 底 関切:MMY(朝日マーク) 206 江野むらさき 株式会社梅屋	完	1957- 1970	40	40	90	128.2
54	380	MC 3AK 覆瓦 (びん穴)	ガラス	食品瓶 海苔巻	〔緑スクリーン 金属蓋付 (瓶底の文字あり)〕 無色透明 製法 関切:梅0にTK(朝日硝子) 15 底 関切:MMY(朝日マーク) 206 江野むらさき 株式会社梅屋	完	1957- 1970	69D	37	62	100.7

第5表 遺物観察表(13)

探出番号	遺物番号	遺物名 出土地点	材質	種類	詳 細	遺存状態	時期	質量 (g)			量 (g)
								a	b	c	
55	381	瓶 8号子母穴	ガラス	食品瓶 海苔瓶	口縁かぶせ蓋 全無蓋残 青緑透明 製部 関付：織じま 底 関付：Y(日本硝子工業現：日本(日硝子)) 15 織じま株式会社	完	1955- 1961	140	54	090	1928
55	382	MC 323 土	ガラス	食品瓶 雲丹	口縁スクリー 無色透明 製部 関付：雲丹 底 関付：山田小(小田うら) 右(右海硝子)	完	戦後	39	30	92	1606
55	383	MC 325 土	ガラス	食品瓶	口縁かぶせ蓋 全無蓋残 青緑透明	完		155	45	70	186.1
55	384	MC R146	ガラス	食品瓶	口縁スクリー 全無蓋残 青緑透明	完		56	59	54	1445
55	385	MC 324 土	ガラス	食品瓶	口縁スクリー 青緑透明	完		54	56	82	174.2
55	386	AU 1 溝内 覆瓦	ガラス	アンカー コップ	底 関付：山字マーク(右海硝子商標) MADE IN JAPAN 14 食品用用品(コップは昭和利田)	完	-1945	56	43	90	1208
55	387	MC 3A K 覆瓦	ガラス	投薬瓶	口縁粉 製部朝陽内印 口縁りあり 無色透明 製部 関付：持家製本薬部	完		24	69 × 41	174	131.1
55	388	MC 3A K 覆瓦	ガラス	投薬瓶	口縁粉 製部朝陽内印 口縁りあり 無色透明 製部 関付：持家製本薬部	完		19	62 × 34	147	119.2
55	389	MC 3A K 覆瓦	ガラス	投薬瓶	口縁粉 製部朝陽内印 口縁りあり 無色透明 製部 関付：持家製本薬部	完		17	35 × 21	77	34.8
55	390	MC 2A K	ガラス	投薬瓶	口縁粉 製部朝陽内印 口縁りあり 無色透明 底 関付：層15 1	完	1898	19	42 × 25	99	60.3
55	391	AU 1 溝内 覆瓦	ガラス	投薬瓶	口縁粉 口縁りあり 無色透明 製部 関付：持家製本薬部	完		25	72	183	214
55	392	MC 3A K 覆瓦	ガラス	投薬瓶	口縁粉 口縁りあり 無色透明	完		21	50	127	109.3
55	393	MC 3A K 覆瓦	ガラス	投薬瓶	口縁粉 口縁りあり 無色透明	完		19	40	103	52.2
55	394	AU 23 内 覆瓦	ガラス	投薬瓶	口縁粉 口縁りあり 無色透明	完		16	31	68	29.9
55	395	MC 325 土	ガラス	薬品瓶	口縁粉 薄青緑透明 底 関付：カキに一本	完		29	77	202	277.4
55	396	MC 3A K 覆瓦	ガラス	薬品瓶	口縁粉 コルク口縁粉残 無色透明 底 関付：○●▲(山田製薬マーク) 19	完		28	78	201	312.5
55	397	MC 3A K 覆瓦	ガラス	薬品瓶	口縁粉 口縁粉残 薄青透明 底 関付：○●▲(山田製薬マーク)	完		32	75 16	202 17	315.5
56	398	MC 323 土	ガラス	薬品瓶	口縁粉 青緑透明 底 関付：○●▲	完		24	66	197	238.9
56	399	MC 323 土	ガラス	薬品瓶	口縁粉 青緑透明	完		25	68	198	243.2
56	400	MC 3A K 覆瓦	ガラス	薬品瓶	口縁粉 薄青透明	完		25	60	151	160.8
56	401	MC 3A K 覆瓦	ガラス	薬品瓶	口縁粉 薄青透明 底 関付：六角	完		33	53	124	153.1
56	402	MC 323 土	ガラス	薬品瓶	口縁粉 無色透明	ほぼ 完		25	44	118	103.3
56	403	MC 3A K 覆瓦	ガラス	薬品瓶	口縁粉 無色透明	完		22	57	112	104.9
56	404	MC 3A K 覆瓦	ガラス	薬品瓶	口縁粉 コルク口縁粉残 薄青透明 白色粉未残	完		35	40	96	142.3
56	405	MC 3A K 覆瓦	ガラス	薬品瓶	口縁粉 無色透明 底 関付：50	完		28	38	82	53.2
56	406	MC 3A K 覆瓦	ガラス	薬品瓶	口縁粉 無色透明 底 関付：B 3 ○●▲(山田製薬マーク)	完		28	70	199	320.5
56	407	MC 323 土	ガラス	薬品瓶	口縁粉 無色透明 底 関付：○●▲(山田製薬マーク)	完		24	70	205	261.0

第5表 遺物観察表(14)

探出番号	遺物番号	遺構名 出土地点	材質	種類	詳 細	遺存状態	時期	法量 (mm)			重さ (g)
								a	b	c	
56	408	MC 323 土	ガラス	薬品瓶	1.細粒 無色透明	完		27	71	206	251.4
56	409	MC 3AK 破片	ガラス	薬品瓶	1.細粒 無色透明 底 刻付 ■	完		27	69	194	210.5
56	410	MC 323 土	ガラス	薬品瓶	①1 1.細粒 無色透明 底 刻付:400	完		40	71	174	253.5
56	411	MC 3AK 破片	ガラス	薬品瓶	①1 1.細粒 ガラス1.細粒残 無色透明 内容物残	完		64	77	158 (177)	4600
56	412	MC 3AK 破片	ガラス	薬品瓶	①1 1.細粒 ガラス1.細粒残 都有透明	完		46	62	131 (136)	235.7
57	413	MC 3AK 破片	ガラス	市販薬瓶	1.細粒 〇 無色透明 製部 刻付:わかもと Wakamoto 底 刻付:16 NAGA 9 わかもと製薬株式会社	完	1953- 1962	24	48	114	109.3
57	414	MC 325 土	ガラス	市販薬瓶	1.細スクリュール 無色透明 底 刻付:TM	完		32	52	100	113.1
57	415	MC 3AK 破片	ガラス	市販薬瓶	1.細スクリュール 無色透明 底 刻付:丸2 TM	完		20	25	78	36.4
57	416	MC 3AK 破片 (ばらび)	ガラス	市販薬瓶	1.細スクリュール 無色透明 底 刻付:みつわマーク Y 三宝製薬	完		17	20	53	25.7
57	417	MC 3AK 破片	ガラス	薬瓶	1.細スクリュール 金属蓋残 製部断面内部 無色透明 製部 刻付:クレイソート丸 底 刻付:放射マーク 3 特許衛生材料本館	完	(22)	25 × 14	(71)	36.6	
57	418	MC 3AK 破片	ガラス	市販薬瓶	1.細スクリュール 製部断面内部 無色透明 底 刻付:研 ビジュアルメン 加付瓶口支軸蓋	完	1917- (戦前)	18	28 × 14	65	34.1
57	419	MC 3AK 破片	ガラス	市販薬瓶	1.細スクリュール 製部断面内部 無色透明 製部 刻付:一和丸 東京市マツ 東京市電気局共済組合 底 刻付:7	完	1931-	22	25 × 16	60	38.0
57	420	MC 3AK 破片	ガラス	市販薬瓶	1.細スクリュール 製部断面内部 無色透明 製部 刻付:東京市電気局共済組合	完	1931-	23	25 × 14	63	27.0
57	421	MC 3AK 破片	ガラス	市販薬瓶	1.細断切 扁平 無色透明 製部 刻付:ワイフ	完		10	—	67	32.7
57	422	AR154	ガラス	薬瓶	1.細粒 無色透明	完		14	20	72	30.6
57	423	MC 3AK 破片	ガラス	薬瓶	1.細粒 コルク1.細粒残 無色透明	完		18	22	50	19.9
57	424	MC 3AK 破片	ガラス	薬瓶 (白薬)	1.細粒 製部断面内部 無色透明 製部 刻付:雲切目薬 善光寺製薬 芝形十兵衛薬局	完		14	25 × 13	58	18.8
57	425	AR154	ガラス	薬瓶 (白薬)	スボイト状 青透明	完		4	16	73	9.9
57	426	MC 325 土	ガラス	薬瓶 (白薬)	スボイト状 セラロイド蓋残 無色透明 製部 刻付:SANTENDO 杉文字株式会社(現:杉実製薬株式会社)	ほぼ 完		08	—	(77)	10.4
57	427	MC 3AK 破片	ガラス	薬瓶 (白薬)	1.細粒 無色透明 底 刻付:〇+文字不明428に対応	完		18	26	36	11.8
57	428	MC 3AK 破片	ガラス	薬瓶 栓 (白薬)	スボイト状 無色透明 427に対応	ほぼ 完		62	10	52	4.9
57	429	MC 3AK 破片 (ばらび)	ガラス	薬瓶 粗品	1.細玉冠 ナーシング 無色透明 製部 刻付:EARTH アース 底 刻付:5 〇にN A 株式会社杉実製薬所(現:アース製薬株式会社)	完	1929-	25	50	228	516.5
57	430	AR 4号3号穴	ガラス	薬瓶 栓	大空山1 中卒細付き 無色透明	ほぼ 完		141	94	81	535.0
57	431	MC 3AK 破片	ガラス	薬瓶 栓	①1 中卒細付き 無色透明	完		70	65	66	116.4

第5表 遺物観察表(15)

探出番号	遺物番号	遺物名 出土地名	材質	種類	詳 細	遺存状態	時期	法量 (ml)			量さ (g)
								a	b	c	
57	432	MC 3A区 覆瓦	ガラス	薬瓶 栓 無色透明	山口 中須崎寺	完		75	70	54	1372
57	433	MC 3A区 覆瓦	ガラス	薬瓶 栓 無色透明	山口 中須崎寺	完		25	19	75	125
57	434	MC 323土	ガラス	薬瓶 栓 無色透明	山口 中須崎寺	完		20	17	37	18.3
57	435	MC 323土	ガラス	薬品箱 蓋縁透明	山口 中須崎寺	1/2		42	218	—	1900.0
58	436	AU 1区内 覆瓦	ガラス	化粧品 タリム 既 開封：花仔+ウチナ(ウチナマーク) ウチナ化粧品本舗 株式会社久保政吉商店	山口 中須崎寺	完	1918-	(42)	46	(65)	157.1
58	437	MC 3A区 覆瓦	ガラス	化粧品 タリム 既 開封：花仔+ウチナ(ウチナマーク) ウチナ化粧品本舗 株式会社久保政吉商店	山口 中須崎寺	完	1918-	36	38	52	74.9
58	438	MC 3A区 覆瓦	ガラス	化粧品 タリム 既 開封：花仔+ウチナ(ウチナマーク) ウチナ化粧品本舗 株式会社久保政吉商店	山口 中須崎寺	完	1918-	35	41	44	87.6
58	439	AU 7号ゴビ穴	ガラス	化粧品 タリム 既 開封：歌丸 アイデアル センダン化粧品本舗 株式会社高橋栄洋堂	山口 中須崎寺	完	1893- (戦前)	47	47	52	115.1
58	440	AU 7号ゴビ穴	ガラス	化粧品 タリム 既 開封：貝印 T23 春化学株式会社(現：ジョジョ化粧品株式会社)	山口 中須崎寺	完	1950-	48	35	40	95.9
58	441	MC 3A区 覆瓦	ガラス	化粧品 タリム 既 開封：レトクリーム大瓶 平塚製平商店	山口 中須崎寺	完	1878- (戦前)	51	58	49	157.4
58	442	MC 3A区 覆瓦	ガラス	化粧品 タリム 既 開封：レトクリーム中瓶 平塚製平商店	山口 中須崎寺	完	1878- (戦前)	45	52	40	91.4
58	443	MC 3A区 覆瓦	ガラス	化粧品 タリム 既 開封：レトクリーム 既 開封：A	山口 中須崎寺	完		36	27	36	34.1
58	444	MC 3A区 覆瓦	ガラス	化粧品 タリム 既 開封：A	山口 中須崎寺	ほぼ 完		40	41 × 30	56	1038
58	445	AU 7号ゴビ穴	ガラス	化粧品 精治 既 開封：二週ヤマに大 椿花モチーフ	山口 中須崎寺	完		17	68 × 20	183	324.0
58	446	MC 3A区 覆瓦	ガラス	化粧品 精治 既 開封：無色透明	山口 中須崎寺	完		23	42 × 25	101	193.5
58	447	MC 323土	ガラス	化粧品 精治 既 開封：無色透明	山口 中須崎寺	完		23	46	103	1180
58	448	MC 323土	ガラス	化粧品 精治 既 開封：無色透明	山口 中須崎寺	完		20	57 × 24	152	221.2
58	449	MC 325土	ガラス	化粧品 精治 既 開封：無色透明	山口 中須崎寺	完		20	61 × 20	152	194.9
58	450	MC 325土	ガラス	化粧品 精治 既 開封：OMG(デザイン)	山口 中須崎寺	ほぼ 完		15	38 × 22	105	78.4
58	451	MC 323土	ガラス	化粧品 精治 既 開封：無色透明	山口 中須崎寺	完		30	76	180	262.6
58	452	MC 3A区 覆瓦	ガラス	化粧品 精治 既 開封：無色透明	山口 中須崎寺	完		30	78	169	455.0
58	453	AU 5A区 油桐覆瓦	ガラス	化粧品 精治 既 開封：無色透明	山口 中須崎寺	完	1916-	27	52	64	1006
58	454	MC 323土	ガラス	化粧品 精治 既 開封：無色透明	山口 中須崎寺	ほぼ 完		27	40	55	93.6
59	455	MC 323土	ガラス	化粧品 精治 既 開封：無色透明	山口 中須崎寺	完		24	44	53	63.6
59	456	AU B154	ガラス	化粧品 精治 既 開封：無色透明	山口 中須崎寺	完		32	48	68	104.4
59	457	AU B154	ガラス	化粧品 精治 既 開封：無色透明	山口 中須崎寺	完		20	31	45	48.4
59	458	MC 3A区 覆瓦	ガラス	化粧品 精治 既 開封：無色透明	山口 中須崎寺	完	1950- 1959	20	31 × 40	55	57.6

第5表 遺物観察表(16)

探出番号	遺物番号	遺構名 出土地点	材質	種類	詳 細	遺存状態	時期	法量 (mm)			重さ (g)
								a	b	c	
59	459	MC 3A区 覆瓦	ガラス	マジック 箱	1.緑スクリーン 無色透明 濃緑色粉末状	完		18	22	50	18.3
59	460	AU 1溝内 覆瓦	ガラス	結晶瓶	1.緑スクリーン 無色透明 製法 関根:★★★一星 2.厚板状製品物	完		32	36	54	57.1
59	461	AU 1溝内 覆瓦	ガラス	結晶瓶	1.緑スクリーン 無色透明 製法 関根:★★★一星 底 関根:★★★一星 オレンジ色粉末(乾燥した結晶a)残 2.厚板状製品物	完		27	31	41	40.9
59	462	AU 1溝内 覆瓦	ガラス	結晶瓶	1.緑スクリーン 無色透明 製法 関根:SAREBAGI & Co. 底 関根:手上用エノグ 黄色粉末(乾燥した結晶a)残 「瓶木結晶」吉村商店	完		19	21	32	19.2
59	463	AU 1溝内 覆瓦	ガラス	結晶瓶	1.緑スクリーン 無色透明 製法 関根:SAREBAGI & Co. 底 関根:手上用エノグ コバルトブルー粉末(乾燥した結晶a)残 「瓶木結晶」吉村商店	完		18	21	32	16.9
59	464	AU 1溝内 覆瓦	ガラス	結晶瓶	1.緑スクリーン 無色透明 製法 関根:SAREBAGI & Co. 底 関根:手上用エノグ 黄色粉末(乾燥した結晶a)残 「瓶木結晶」吉村商店	完		18	22	32	18.0
59	465	AU 1溝内 覆瓦	ガラス	インク壺	無色透明	完		115	56	45	506.5
59	466	AU B154	ガラス	インク壺	無色透明	完		88	43	38	210.1
59	467	AU B154	ガラス	インク壺	無色透明	完		90	68	37	352.0
59	468	AU 1溝内 覆瓦	ガラス	インク壺	無色透明	完		80	58	44	258.2
59	469	AU 1溝内 覆瓦	ガラス	インク壺	無色透明	ほぼ 完		90	66	40	303.5
59	470	AU 1溝内 覆瓦	ガラス	インク壺	薄緑透明	完		80	62	39	241.7
59	471	AU 1溝内 覆瓦	ガラス	インク壺	無色透明	ほぼ 完		90	75	42	282.6
59	472	AU 1溝内 覆瓦	ガラス	インク壺	無色透明	完		71	71	36	174.3
59	473	AU B154	ガラス	インク壺	無色透明 469に対応	完		37	33	13	25.7
59	474	MC 2A区 表土	ガラス	油封 オイル瓶	1.緑スクリーン 無色透明 製法 関根:Idaho 社員設計 2.緑スクリーン プラスチック蓋残	完	戦後	18	39 × 21	96	80.9
59	475	AU 7号ゴミ穴	ガラス	ライター オイル瓶	無色透明 製法 関根:新築 内部にパイプ孔。径 1.5mm、長 60mm	完		(10)	38 × 8.8 18	100	76.3
59	476	AU 7号ゴミ穴	ガラス	ライター オイル瓶	1.緑スクリーン 無色透明 製法 関根:TOKYO PAT. 27304	完		5	41 × 18	94	59.4
60	477	MC 323 土	ガラス	瓶容器	青緑透明 1.緑スクリーン 底 関根:ヤマト ヤマト製本舗(現:ヤマト株式(株))	完		47	50	42	80.9
60	478	AU 1溝内 覆瓦	ガラス	水筒瓶	1.緑スクリーン 無色透明 製法 アラビヤ製 泰山工業所	完		21	34	92	50.3
60	479	AU B154	ガラス	海綿容器	1.緑スクリーン 無色透明	完		42	40	31	93.0
60	480	AU 1溝内 覆瓦	ガラス	海綿容器	1.緑スクリーン 無色透明	完		50	40	39	113.5
60	481	AU 1溝内 覆瓦	ガラス	瓶容器	1.緑スクリーン 無色透明 製法 関根:バイオエナジー(株) 菅野重 2.緑スクリーン 薄青透明	ほぼ 完		8	—	(150)	6.9
60	482	MC 325 土	ガラス	瓶容器	1.緑スクリーン 無色透明 製法 関根:菅野重 瓶底本館製造。「瓶底給命」名で販売	完		56	60	42	96.9
60	483	MC 325 土	ガラス	瓶容器	1.緑スクリーン 無色透明 製法 関根:菅野重 瓶底本館製造。「瓶底給命」名で販売	完		62	69	30	107.8
60	484	MC 3A区 覆瓦	ガラス	瓶容器	1.緑スクリーン 無色透明 製法 関根:日機製薬 ○C 日東化学原料工業(現:コロンブス)	完		(51)	53	(40)	120.5
60	485	MC 323 土	ガラス	瓶容器	1.緑スクリーン 無色透明	完		19	19	69	17.9

第5表 遺物観察表(17)

探出番号	遺物番号	遺物名 出土地点	材質	種類	詳 細	遺存状態	時期	法量 (mm)			重さ (g)
								a	b	c	
60	486	MC 323 土	ガラス	記録筒	理化学用品 無色透明 1編 スタンプ: AZUMA A TOKYO	ほぼ 完		18	—	160	9.2
60	487	MC 323 土	ガラス	記録筒	理化学用品 無色透明	破損		—	—	—	60.8
60	488	MC 323 土	ガラス	メス シリンドラー	理化学用品 無色透明	底部		—	65 (99)	(72)	62.3
60	489	MC 3A/K 燧丸	ガラス	フラスコ	理化学用品 無色透明 製法: スタンプ: 読者誌子	ほぼ 完		—	—	(70)	48.9
60	490	AU 1 燧内 燧丸	ガラス	美人形? 波菜コップ	録透明 製法: 陶製: 東京 東高倉 桜田に W(陸上自衛隊倉庫品 W: weap- em)	完		71	35	61	118.6
60	491	MC 3A/K 燧丸	ガラス	不明	1編スクリュー 無色透明	完		16	47	33	72.9
60	492	AU 1 燧内 燧丸	ガラス	不明	1編板 無色透明 製法: 備付: NTK	完		22	33 × 23	67	33.7
61	493	MC 1C/K	合成樹脂	食器	燧内筒 乳白色 プリント: 朝食	完	20.2	40	25	1	0.8
61	494	MC 3A/K 燧丸	合成樹脂	食器	燧内筒 無色 プリント: 夕飯付 陸軍第4本館購買會	完	20.2	30	24	1	0.8
61	495	AU 8154	合成樹脂	食器	長方形 濃赤色 プリント: うどん 陸軍第4本館購買會	完	20.2	34	23	1	0.7
61	496	AU 8154	合成樹脂	食器	長方形 赤色 スタンプ: うどん 陸軍第4本館購買會	完	20.2	34	23	1	0.8
61	497	AU 8154	合成樹脂	食器	長方形 濃褐色 スタンプ: うどん 陸軍第4本館購買會	完	20.2	36	24	1	1.3
62	498	AU 5A/K 燧丸燧丸	合成樹脂	飯取り	料 製法: 花巻マーク (資生堂商標) 資生堂 ンセイ飯取り? 資生堂燧丸(ラシ)型	ほぼ 完	1919-	135	10	—	7.7
62	499	AU 7号びん	合成樹脂	飯取り	料 製法: 花巻マーク (資生堂商標) ハロー燧丸? キリリン 50	完	戦後	158	13	17	9.4
62	500	AU 3B/K	合成樹脂	飯取り	料 製法: ■黒燧丸 ■ ミス燧丸?	ほぼ 完		158	11	—	9.5
62	501	AU 5A/K 燧丸燧丸	合成樹脂	飯	乳白とオレンジ色のマゼール	燧丸		012	023	3	3.0
62	502	MC 324 土	合成樹脂	飯	軍用品 緑色 4穴	完		17	—	2	1.2
62	503	AU 8154	合成樹脂	仁丹ケース	飯取 製法: JINTAN 仁丹キザン西沢 森下仁丹	完		9	8	40	1.2
62	504	MC 325 土	合成樹脂	マスコ	軍用品? 白	ほぼ 完	20.2	115	56	—	1.7
62	505	MC 325 土	合成樹脂	マスコ	軍用品? 白	ほぼ 完	20.2	80	53	—	1.7
62	506	MC 4A/K 燧丸	合成樹脂	円形板	軍用品? 無色透明	完		105	—	1	12.1
63	507	AU 4号びん	皮革	厚紙板	表紙: NGK MANUFACTURED BY NIKON GRAYU KASHA TOKYO & OSAKA JAPAN 日本製板会社(旧) 日産レザー株式会社? 軍用品 製法: 大下田 066号 製法: 人形部+3本入れ 引き金部に人的物を貼る。	完	~ 1935	140	78	45	186.5
63・64	508	AU 5A/K 燧丸燧丸	皮革	手袋	軍用品 製法: 大下田 066号 製法: 人形部+3本入れ 引き金部に人的物を貼る。	1/2		—	—	—	44.8
64・65	509	AU 5A/K 燧丸燧丸	皮革	軍靴	軍用品 海軍陸上靴 結露フック? + 結露シ穴5 トゥ部分ストリートチップ	ほぼ 完		240	90	—	157.7
65	510	MC 322 土	皮革	雪駄	靴底	底部		230	90	—	87.4
66	511	MC 324 土	皮革	高筒靴	靴筒内か	ほぼ 完		—	—	—	180.0
66	512	MC 324 土	皮革	高筒靴	靴筒内か	ほぼ 完		—	—	—	270.0
67	513	AU 4号びん	皮革	一枚履	裏材か 4つ折りに畳まれている。	完		300	300	—	680.0
68	514	MC 323 土	織物	布巾	ほとんど同化しており、からうじて織目を 確認できる。	ほぼ 完		—	—	—	*
68	515	MC 9号燧丸内 襦袢	織物	布巾	ほとんど同化しており、からうじて織目を 確認できる。	破損		—	—	—	*
69	516	AU 4号びん	織物	衣料品	縫製の織目が確認でき、確認がされているが 全体形状は不明。	完		—	—	—	119.8
69	517	MC 325 土	木・織物	フタシ		ほぼ 完		170	26	—	42.6
69	518	MC 3A/K 燧丸	木・織物	フタシ	製フタシ	ほぼ 完		150	60	—	34.8

第5表 遺物観察表(18)

探査番号	遺物番号	遺構名 出土地点	材質	器種	詳 細	遺存状態	時期	法量 (mm)			量さ (g)
								a	b	c	
69	519	MC 4A区 燧石	ゴム	ペルト 半製品か	母体の端になっており、縁部に径2mmの穴が穿入している。その中に金属 棒が挿入されている箇所もある。	完		16	-	-	31.8
69	520	MC B146	ゴム	地下足袋 型		底部		-	87	-	124.8
70	521	AJ1 1溝内 燧石	金属	コハゼ	縁部の穴2か所 隣刻あり (内刻不詳)	完		17	14	1	0.7
70	522	AJ1 1溝内 燧石	金属	コハゼ	縁部の穴2か所 隣刻あり (内刻不詳)	完		17	14	1	0.6
70	523	MC 521土	金属	コハゼ	縁部の穴3か所	完		18	15	1	0.6
70	524	AJ1 B154	金属	鍍金	半製品 銅付 五芒型	完		21	-	-	0.5
70	525	MC 3A区 燧石	金属	鍍金	半製品 フラッチ 口に五芒型	ほぼ 完		16	-	1	0.7
70	526	AJ1 B154	金属	鍍金	半製品 ベンパッチ 五芒型に口と縁部	完		17	-	1	3.0
70	527	MC 3A区	金属	鍍金	半製品 銅付着	完		24	-	110	4.1
70	528	MC 4B区	金属	鍍金	半製品	完		24	-	11	4.6
70	529	9号倉庫内 燧石	金属	銅中	半製品 中央で上部がドーム状になっており、瓶花のモチーフがデ ザインされている。瓶花のサイズがわずかに小さい。	完		20	-	11	2.3
70	530	MC 9号倉庫内 燧石	金属	銅中	半製品 中央で上部がドーム状になっており、瓶花のモチーフがデ ザインされている。	完		20	-	11	2.2
70	531	MC 9号倉庫内 燧石	金属	銅中	半製品 中央で上部は平たい。布地が圧着しており、クルミボタンの可 能性がある。	完		20	-	08	4.2
70	532	MC 1B区 燧石	金属	銅中	半製品 中央で上部は平たい。布地が圧着しており、クルミボタンの可 能性がある。	ほぼ 完		20	-	08	3.3
70	533	MC 9号倉庫内 燧石	金属	銅小	半製品 中央で上部がドーム状になっており、瓶花のモチーフがデ ザインされている。	完		15	-	10	1.2
70	534	MC 9号倉庫内 燧石	金属	銅小	半製品 中央で上部は平たい。布地が圧着しており、クルミボタンの可 能性がある。	完		15	-	08	1.2
70	535	MC 4B区	金属	銅小	半製品	完		15	-	7	2.0
70	536	MC 3B区	金属	銅	半製品	完		17	-	8	2.0
70	537	MC 1A区 黄土	金属	尾錠	半製品 ナカイノ尾錠	ほぼ 完		54	47	5	26.6
70	538	AJ1 2号ゴモ穴	金属	尾錠	半製品 舟型ナカイノ尾錠 同様2個	完		27	25	5	3.7
70	539	AJ1 4号ゴモ穴	金属	尾錠	半製品 舟型ナカイノ尾錠 同様14個	完		27	25	6	3.9
70	540	MC 2B区 燧石	金属	結核部 金具	半製品 二本コシ 先端部凸付き	完		40	26	6	10.3
70	541	AJ1 4号ゴモ穴	金属	結核部 金具	半製品 親錠 同様19個	完		23	32	2	3.9
70	542	AJ1 4号ゴモ穴	金属	結核部 金具	半製品 親錠 有首付き 同様20個	完		12	32	2	2.3
70	543	MC 4A区 燧石	金属	彈頭	半製品 九九式小銃用? 30口径弾	焼片 先端 はぼ 完		-	-	-	10.0
70	544	MC 4B区 内側燧石	金属	彈頭	半製品 三八式歩兵銃用 30口径	ほぼ 完		12	-	080	26.1
70	545	MC 3A区 奥内燧石 土質内	金属	銃剣	半製品 90式銃剣	ほぼ 完		270	237	160	1034.5
71	546	AJ1 B154	金属	円盤	半製品 大円盤	ほぼ 完		245	320	-	1167.0
71	547	MC 4B区	金属	焼銅	半製品 銅海マスク部品 九五式機甲 製部 隣刻: 化工上 短剣 710	ほぼ 完	1932	128	68	120	294.0
71	548	MC 1C区 燧石	金属	ゴーツル レンズ 型	半製品 銅海マスク部品 九五式機甲 在軍・在野部分付録	焼片		-	-	-	77.1
71	549	MC 1C区 燧石	ガラス	ゴーツル レンズ 型	半製品 銅海マスク部品 九五式機甲 無色透明	完		56	-	1	8.4
71	550	MC 4A区 燧石	合成樹脂	ゴーツル レンズ 型 蓋付板	半製品 銅海マスク部品 九五式機甲 無色透明	完		50	-	1	2.1
71	551	MC 4A区 燧石	合成樹脂	ゴーツル レンズ 型 蓋付板 ス ス	半製品 銅海マスク部品 九五式機甲 型	完		56	-	9	6.7
71	552	MC 1C区 燧石	金属	鏡筒用ベッ ト 組立部金具	半製品 銅海マスク部品 九五式機甲 右ベット付着	完		39	27	6	11.5
71	553	MC 1C区 燧石	皮革	ボウズカ バー	半製品 銅海マスク部品 九五式機甲	焼片		-	-	-	22.3
71	554	AJ1 1溝内 燧石	合成樹脂	埋没片	半製品 銅海マスク部品 西濃 Jusenjin Company (安仁31号)製造 中国国民党軍仕様 二七式海軍 「大家草製物製材協会の商標」 隣刻: 田 野民 商標	完	1938-	101	56	49	57.3

第5表 遺物観察表(19)

探出番号	遺物番号	遺物名 出土地点	材質	器種	詳 細	遺存状態	時期	法量 (ml)			量さ (g)	
								a	b	c		
72	555	MC 325 土	金属	缶	内面モルタル付着	完		205	—	—	429.0	
72	556	MC 3 B Ⅰ区 壺形燧瓦	金属	缶	口縁スクラッチ 断面少ベル状：短軸約四〇×三〇 内面付着	ほぼ 完		71	71	(17)	85.1	
72	557	MC 3 B Ⅰ区 壺形燧瓦	金属	缶	口縁スクラッチ 断面少ベル状：■断面 内面付着	ほぼ 完		70	70	13	53.4	
72	558	MC 3 C Ⅰ区 燧瓦	金属	缶皿	断面少ベル状 (断面不明)	完		77	77	35	42.0	
72	559	MC 324 土	金属	薬缶蓋		完		91	81	49	58.2	
72	560	MC 2A Ⅰ区 表土	金属	蓋	成分分析 上面 プリント：ANTI-ENZYM&CHLOROPHYLLIN サンスター シオノギ 藤本利・藤本利人 平塚美穂	ほぼ 完	戦後	75	—	8	6.1	
72	561	AI 2号ゴビ穴	金属	ボウル	銅製品も アルミ製も	ほぼ 完		—	—	—	36.8	
72	562	MC 3A Ⅰ区 燧瓦	金属	C字形金具		完		56	43	3	49.4	
72	563	MC 3A Ⅰ区 燧瓦	金属	C字形金具	6個体連結	完		—	—	—	491.7	
72	564	AI 1 154	金属	建築用釘	鉄釘	完		83	—	8	2000.0	
72	565	AI 5A Ⅰ区 燧形燧瓦	金属	建築用釘	釘状の形状で、一定の範囲で内径または軸径の径が揃っている。	完		31	—	6	6700	
72	566	MC 325 土	金属	建築用釘	釘状の形状で、一定の範囲で内径または軸径の径が揃っている。	腐断 欠		—	—	—	1670.0	
72	567	MC 3A Ⅰ区 燧瓦	金属	平鉄釘		1/2		88	—	—	1470.0	
73	568	MC 1 C Ⅰ区 表土	金属	鉄釘	森永堂 観音開閉	1/2						
72	569	MC 3A Ⅰ区	金属	軌条	原料で口部に塗りが付られており、表面の金属と本体の金属が異なる。	完		30	55	63	3325.0	
76	570	AI 1 154	金属	認識品	銅製品 片刃なし	完		20.2	45	33	1	6.8
77	571	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 片刃打削：鉄一 第一 第一一八	完		20.2	47	34	1	9.0
77	572	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 片刃打削：鐵鉄 大一 第一四	完		20.2	46	34	1	10.5
77	573	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 片刃打削：鐵鉄 大一 第二二	完		20.2	47	34	1	9.3
77	574	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 片刃打削：鐵鉄 大一 第三三	完		20.2	46	34	1	10.5
77	575	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 片刃打削：鐵鉄 大一 第五一	完		20.2	47	34	1	9.4
77	576	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 片刃打削：鐵鉄 中一 第一二	完		20.2	47	34	1	9.9
77	577	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 片刃打削：鐵鉄 中二 第一三	完		20.2	47	35	1	9.6
77	578	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 片刃打削：鐵鉄 中一 第一三〇	完		20.2	47	34	1	10.4
77	579	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 片刃打削：鐵鉄 中二 第一三二	完		20.2	47	34	1	9.8
77	580	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 片刃打削：鐵鉄 中二 第一三六	完		20.2	47	34	1	10.1
77	581	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 片刃打削：鐵鉄 中三 第一二六	完		20.2	46	33	1	9.5
77	582	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 片刃打削：鐵鉄 中三 第一二二	完		20.2	46	33	1	9.6
77	583	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 片刃打削：鐵鉄 中三 第一四二	完		20.2	46	33	1	9.1
77	584	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 片刃打削：鐵鉄 中三 第一四七	完		20.2	47	34	1	9.9
77	585	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 片刃打削：鐵鉄 中三 第一五六	完		20.2	47	34	1	9.4
77	586	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 片刃打削：鐵鉄 中九 第一五五	完		20.2	47	34	1	9.1
78	587	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 両面打削：カワカエ ツネキチ イワナキ アカハネ	完		20.2	46	34	1	8.6
78	588	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 両面打削：ヨシタ ランブ ワタシガ シンダラ アレタノム	完		20.2	46	34	1	7.9
78	589	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 片刃打削：アカガキ ソウキ	完		20.2	46	34	1	9.0
78	590	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 片刃打削：アキキヤ ヤサキチ	完		20.2	46	34	1	9.0
78	591	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 片刃打削：アサノ ツカサ	完		20.2	46	34	1	8.5
78	592	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 片刃打削：アベ タンシシ	完		20.2	46	34	1	8.2
78	593	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 片刃打削：イシイ 仔細物観察	完		20.2	46	34	1	7.4
78	594	AI 2号ゴビ穴	金属	認識品	銅製品 片刃打削：イシイ タイソウ	完		20.2	46	34	1	9.0

第5表 遺物観察表(20)

探出番号	遺物番号	遺構名 出土地点	材質	器種	詳 細	遺存状態	時期	法量 (ml)			量さ (g)
								a	b	c	
78	595	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：イシカワ キヨジ	完	20.2	46	34	1	8.7
78	596	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：イシカワ キヨジ	完	20.2	46	34	1	8.0
78	597	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：イシカワ スタカ	完	20.2	46	34	1	8.5
78	598	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：イセ シンサカ	完	20.2	46	34	1	8.1
78	599	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：イソバ タツオ キヨ ミキ	完	20.2	46	35	1	9.2
78	600	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：イトウ ケンヤ	完	20.2	46	34	1	9.0
79	601	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：イトウ シス	完	20.2	46	34	1	8.9
79	602	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：イトウ シンノジヤウ	完	20.2	46	34	1	8.7
79	603	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：イトウ オボゾウ	完	20.2	46	34	1	8.6
79	604	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：イトウ ヨシロウ	完	20.2	46	34	1	8.8
79	605	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：イナシ スエサク	完	20.2	46	34	1	8.6
79	606	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：イマイ タツゾウ	完	20.2	46	34	1	8.5
79	607	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：イワナミ サイチ	完	20.2	46	34	1	8.8
79	608	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：イワタ ミネヤアロウ	完	20.2	46	34	1	8.7
79	609	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：ウチダ ノボル	完	20.2	46	34	1	8.2
79	610	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：ウムラ ヌイエチ	完	20.2	46	34	1	8.4
79	611	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：ウメダ シンゴユキ	完	20.2	46	34	1	7.4
79	612	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：オオタ	完	20.2	46	34	1	8.2
79	613	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：オオタ ケハチ	完	20.2	46	34	1	8.6
79	614	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：オオタ クマタロウ	完	20.2	46	34	1	8.6
79	615	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：オオタフ フサキチ	完	20.2	46	34	1	8.8
79	616	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：オオハ	完	20.2	47	34	1	8.7
80	617	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：オオハシ フク	完	20.2	46	34	1	8.5
80	618	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：オオハシ フクイネロウ	完	20.2	46	34	1	8.5
80	619	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：オオハシ モリタロウ	完	20.2	46	34	1	8.7
80	620	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：オオアイ モリアキ 付着物剥離	完	20.2	46	34	1	8.8
80	621	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：オオアイ モリアキ	完	20.2	46	34	1	9.1
80	622	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：オオアイ モリアキ	完	20.2	46	34	1	8.5
80	623	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：カアロ トミニロウ	完	20.2	46	34	1	8.6
80	624	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：カクノ オオサク	完	20.2	46	34	1	8.7
80	625	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：カトウ キチタ	完	20.2	46	34	1	8.5
80	626	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：カトウ キチタロウ	完	20.2	46	34	1	8.4
80	627	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：カネコ シンゴサク	完	20.2	46	34	1	8.7
80	628	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：カネコ シンゴサク	完	20.2	46	34	1	8.4
80	629	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：カネコ シンヤ	完	20.2	46	34	1	8.5
80	630	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：カワサキ トミネチ	完	20.2	46	34	1	7.5
80	631	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：カワセ ノアマサ	完	20.2	46	34	1	8.5
80	632	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製：カワノ カツゾウウ	完	20.2	46	34	1	8.9

第5表 遺物観察表(21)

探出番号	遺物番号	遺物名 出土地点	材質	器種	詳 細	遺存状態	時期	法量 (ml)			量さ (g)
								a	b	c	
81	633	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:キムラ シゲオ	完	20.2	46	34	1	8.5
81	634	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:九郎ハシ 五口キチ	完	20.2	46	34	1	8.4
81	635	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:クスヤマ アサノス	完	20.2	46	34	1	8.5
81	636	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:クスヤマ アサノスケ	完	20.2	46	34	1	7.9
81	637	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:クモタ コウタロウ	完	20.2	46	34	1	8.9
81	638	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:クリハヤシ ダンキチ	完	20.2	46	34	1	8.6
81	639	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:コハヤ	完	20.2	46	34	1	8.7
81	640	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:コハヤシ ゼンタロウ	完	20.2	46	34	1	8.5
81	641	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:コハヤシ ヤスヘエ	完	20.2	46	34	1	8.6
81	642	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:サイトウ ヤスタロウ	完	20.2	46	34	1	8.5
81	643	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:サカイ フクイチ	完	20.2	46	34	1	8.5
81	644	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:サトウ ワジロウ	完	20.2	46	34	1	9.0
81	645	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:シウドウ ハルタネ	完	20.2	46	34	1	8.5
81	646	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:シミズ セイジロウ	完	20.2	46	34	1	8.3
81	647	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:シラハタ シンゾロウ	完	20.2	46	34	1	8.5
81	648	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:スガノ ソウタロウ	完	20.2	46	34	1	8.6
82	649	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:スギモト フジロウ	完	20.2	46	34	1	8.5
82	650	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:スズキ キノスケ	完	20.2	46	34	1	8.8
82	651	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:スズキ キンサク	完	20.2	46	34	1	8.9
82	652	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:スズキ コウノスケ	完	20.2	46	34	1	8.9
82	653	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:スズキ ジシ	完	20.2	46	34	1	8.6
82	654	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:スズキ ジシ	完	20.2	46	34	1	8.3
82	655	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:スズキ	完	20.2	46	34	1	8.8
82	656	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:タカハシ ソウジ	完	20.2	46	34	1	8.8
82	657	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:タカハシ マツジロウ	完	20.2	46	34	1	8.0
82	658	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:タカハシ マツヂロウ	完	20.2	46	34	1	8.5
82	659	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:タカヤマキ マサノスケ	完	20.2	46	34	1	8.8
82	660	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:タカヤマ ウラキチ	完	20.2	46	34	1	8.2
82	661	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:タダ シンヂ	完	20.2	46	34	1	8.6
82	662	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:タナノ ニプロウ	完	20.2	46	34	1	8.1
82	663	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:タナノ マサト	完	20.2	46	34	1	8.6
82	664	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:タベイ ハチロウ	完	20.2	46	34	1	8.5
82	665	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:チク ゼンサク	完	20.2	46	34	1	8.3
83	666	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:チハ タツジロウ	完	20.2	46	34	1	9.0
83	667	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:ツチヤ セイ一	完	20.2	46	34	1	8.1
83	668	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:トコヨダ ジヘエ	完	20.2	46	34	1	8.7
83	669	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:トヨダ ナオジロウ	完	20.2	46	34	1	8.6
83	670	AI 2号ゴモ穴	金属	認識品	銅製品 片蓋打製:ナカガワ ヤスタロウ	完	20.2	46	34	1	8.7

第5表 遺物観察表(22)

探出番号	遺物番号	遺物名 出土地点	材質	器種	詳 細	遺存状態	時期	重量 (mg)			量さ (g)
								a	b	c	
83	671	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ナガサカ タサプロウ	完	20.2	46	34	1	8.6
83	672	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ナカシマ テルタダ 付動物断片	完	20.2	46	34	1	8.0
83	673	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ナカムラ ウメキチ	完	20.2	46	34	1	8.7
83	674	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ナカムラ ウメキチ	完	20.2	46	34	1	8.8
83	675	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ナカムラ ケンシー	完	20.2	46	34	1	8.8
83	676	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ナカムラ サイチ	完	20.2	46	34	1	8.2
83	677	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ナカムラ マサジ	完	20.2	46	34	1	8.6
83	678	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ナカムラ ユウシロ	完	20.2	46	34	1	8.8
83	679	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ナカムラ ユウジロウ	完	20.2	46	34	1	8.3
83	680	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ナカムラ ユウジロウ	完	20.2	46	34	1	8.6
84	681	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ニシジマ ヒコシロウ	完	20.2	46	34	1	8.8
84	682	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ニシヤマ マツノスケ	完	20.2	46	34	1	8.7
84	683	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ニシヤマ リキジ	完	20.2	46	34	1	8.4
84	684	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ハヤシ サカジ	完	20.2	46	34	1	8.8
84	685	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ハヤシ シンゲー	完	20.2	46	34	1	8.1
84	686	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ハレヤマ トミノスケ	完	20.2	46	34	1	8.6
84	687	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ヒサメツ トヨジ	完	20.2	46	34	1	8.5
84	688	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ヒラサワ ケスイチロウ	完	20.2	46	34	1	8.7
84	689	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ヒラサワ ケスイチロウ	完	20.2	46	34	1	8.3
84	690	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ヒラサワ オオジ	完	20.2	46	34	1	8.8
84	691	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：フカヤ カメジ	完	20.2	46	34	1	8.7
84	692	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：フジイ ナルキウ	完	20.2	46	34	1	8.2
84	693	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：フジカワ カメタロウ	完	20.2	47	34	1	8.5
84	694	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：フヂサワ トウキチ	完	20.2	46	34	1	8.7
84	695	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ホリダチ マサヒチ	完	20.2	46	34	1	8.9
84	696	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：マツイ コロウチ	完	20.2	46	34	1	8.3
85	697	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：マツイ タツジ	完	20.2	46	34	1	8.7
85	698	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：マヘダ ウチロウ	完	20.2	46	34	1	8.7
85	699	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ミナホ カメエ	完	20.2	46	34	1	8.7
85	700	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ミヤハラ キラヂ 付動物断片	完	20.2	45	34	1	8.0
85	701	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ムトウ センジ	完	20.2	46	34	1	8.6
85	702	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ムラタ ラママタロウ	完	20.2	46	34	1	8.4
85	703	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：メチチ カキチ	完	20.2	46	34	1	9.2
85	704	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：モトシシ レウゾウ	完	20.2	46	34	1	8.5
85	705	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ヤナボウ コウタロウ	完	20.2	46	34	1	8.1
85	706	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ヤナボウ マサミ	完	20.2	47	34	1	8.7
85	707	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ヤベ キヨシ	完	20.2	46	34	1	8.7
85	708	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	銅製品 片蓋打製：ヤマキキ タウ	完	20.2	46	34	1	8.8

第5表 遺物観察表(23)

探出番号	遺物番号	遺物名 出土地点	材質	器種	詳 細	遺存状態	時期	法量 (ml)			量さ (g)
								a	b	c	
85	700	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ヤマザキ ミノジロウ	完	20.2	46	34	1	8.5
85	710	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ヤマザキ メツゾウ	完	20.2	46	34	1	9.0
85	711	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ヤマシキ ママジ	完	20.2	46	34	1	8.8
85	712	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ヤマダ マサ五	完	20.2	46	34	1	8.5
86	713	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ヤマダ キメウ	完	20.2	46	34	1	8.8
86	714	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ヤマダ チーロウ 付動物断片	完	20.2	46	34	1	8.8
86	715	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ヤマナカ ヒロジロウ	完	20.2	46	34	1	9.2
86	716	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ヨコヤマ イワヒサ	完	20.2	46	34	1	8.4
86	717	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ヨシウ ソウジロウ	完	20.2	46	34	1	8.3
86	718	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ヨシウフ ヤタロウ	完	20.2	46	34	1	8.9
86	719	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ヨシウフ ウラネキ	完	20.2	46	34	1	8.4
86	720	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ヨシダ マサゾウ	完	20.2	46	34	1	8.8
86	721	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ヨシダ マツジロウ	完	20.2	46	34	1	8.4
86	722	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ワカバヤシ ダイタロウ	完	20.2	46	34	1	9.1
86	723	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ワタナベ コウタロウ	完	20.2	46	34	1	8.9
86	724	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:エンドウ ミノスケ	完	20.2	46	34	1	8.5
86	725	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:コ ムラサキ 十、五	完	20.2	46	34	1	8.4
86	726	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ブクナナス 十、五	完	20.2	47	35	1	8.8
86	727	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:エト ムラサキ 十、五	完	20.2	46	34	1	8.7
86	728	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ミカフ ムラサキ 十、五	完	20.2	47	34	1	9.0
87	729	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:セイカイ ■ 五	完	20.2	46	34	1	9.0
87	730	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:センカイ 十、五	完	20.2	46	34	1	7.9
87	731	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:リュウ ■ホウ 十、五 付動物断片	完	20.2	46	34	1	9.0
87	732	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ヤクオウ ウナムウ、レフ	完	20.2	47	34	1	8.6
87	733	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:四	完	20.2	46	33	1	9.6
87	734	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:十四	完	20.2	46	33	1	9.1
87	735	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:十四	完	20.2	46	34	1	8.7
87	736	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ヒツナシヨ	完	20.2	47	34	1	9.0
87	737	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:フクシケ 付動物断片	完	20.2	46	34	1	8.2
87	738	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ミツ	完	20.2	46	34	1	8.5
87	739	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ヨツ	完	20.2	46	34	1	8.5
87	740	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ウツ	完	20.2	47	35	1	9.1
87	741	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:スルフ	完	20.2	46	34	1	8.0
87	742	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ハネー 一、五	完	20.2	46	34	1	7.9
87	743	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 片蓋打製:ヤー	完	20.2	47	34	1	8.9
88	744	AI 2号ゴモ穴	金銀	認識品	華蓋品 打削 曲輪製ニールメッキ 本使用 3穴 中央部や内湾り小穴(新り取り用) チェーン付 フランス製?	完	36	-	-	1	38.8
89	745	MC 9号鉄線	銅瓦	貫通銅瓦	平手片蓋に敷付 スタンプ彫刻:単片輪花 小樽製造地	完	19.3-4	226	106	65	2545

第5表 遺物観察表(24)

探出番号	遺物番号	遺物名 出土地点	材質	種類	詳 細	遺存状態	時期	法量 (mm)			量さ (g)
								a	b	c	
89	746	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：単作稲花 小根葉治産?	完	19-3-4	230	110	60	2470
89	747	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：単作稲花一 小根葉治産?	1/2	19-3-4	—	107	58	965
89	748	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：単作稲花一 小根葉治産?	完	19-3-4	222	108	60	2435
89	749	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：単作稲花一 小根葉治産?	完	19-3-4	226	107	61	2415
89	750	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：単作稲花 小根葉治産?	完	19-3-4	230	110	65	2555
90	751	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：複作稲花一 小根葉治産?	完	19-3-4	227	110	60	2345
90	752	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：複作稲花一 小根葉治産?	ほぼ完	19-3-4	215	106	59	2065
90	753	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：複作稲花一 小根葉治産?	2/3	19-3-4	—	108	60	1970
90	754	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：複作稲花一 小根葉治産?	完	19-3-4	229	110	63	2425
90	755	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：複作稲花一 小根葉治産?	完	19-3-4	225	110	60	2435
90	756	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：複作稲花二 小根葉治産?	ほぼ完	19-3-4	226	109	60	2055
91	757	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：複作稲花二 小根葉治産?	完	19-3-4	228	105	60	2335
91	758	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：複作稲花二 小根葉治産?	完	19-3-4	225	110	63	2325
91	759	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：複作稲花三 小根葉治産?	ほぼ完	19-3-4	230	107	60	2320
91	760	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：複作稲花三 小根葉治産?	2/3	19-3-4	—	104	61	1970
91	761	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：複作稲花三 小根葉治産?	完	19-3-4	230	107	64	2530
91	762	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：複作稲花三 小根葉治産?	完	19-3-4	234	110	61	2535
92	763	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：複作稲花三 小根葉治産?	完	19-3-4	230	108	63	2430
92	764	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：複作稲花三 小根葉治産?	完	19-3-4	227	110	64	2525
92	765	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：複作稲花三 小根葉治産?	完	19-3-4	226	110	62	2590
92	766	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：複作稲花× 小根葉治産?	完	19-3-4	224	107	63	2380
92	767	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：複作稲花×× 小根葉治産?	完	19-3-4	225	110	61	2380
92	768	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：蛇の目(赤みあり) 小根葉治産?	1/2	19-3-4	—	110	58	1200
93	769	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：蛇の目(赤みあり) 小根葉治産?	完	19-3-4	220	110	55	2285
93	770	MC 9号遺跡	銅瓦	普通銅瓦	平子八面に敷目 スタンプ陰刻：蛇の目(赤みあり) 小根葉治産?	完	19-3-4	222	108	60	2365

第5表 遺物観察表(25)

探出番号	遺物番号	遺物名 出土地点	材質	種類	詳 細	遺存状態	時期	重量 (mg)			長さ (g)
								a	b	c	
93	771	MC 9号倉庫	銅板	普通銅板	平手内部に転印 スタンプ陰刻：龍の目(赤みあり) 小樽葉造形?	完	19-3-4	225	111	60	2300
93	772	MC 9号倉庫	銅板	普通銅板	平手内部に転印 スタンプ陰刻：龍の目(赤みあり) 小樽葉造形?	完	19-3-4	226	110	60	2390
93	773	MC 9号倉庫	銅板	普通銅板	平手内部に転印 スタンプ陰刻：龍の目(赤みあり) 小樽葉造形?	完	19-3-4	223	110	60	2300
93	774	MC 9号倉庫	銅板	普通銅板	平手内部に転印 スタンプ陰刻：龍の目(赤みあり) 小樽葉造形?	完	19-3-4	225	110	58	2370
94	775	MC 9号倉庫	銅板	普通銅板	平手内部に転印 スタンプ陰刻：龍の目 小樽葉造形?	完	19-3-4	230	110	62	2420
94	776	MC 9号倉庫	銅板	普通銅板	平手内部に転印 スタンプ陰刻：龍の目 小樽葉造形?	完	19-3-4	227	110	64	2400
94	777	MC 9号倉庫	銅板	普通銅板	平手内部に転印 スタンプ印刷：+上敷免製 日本煉瓦製造株式会社	ほぼ完	19-4- 20-2	220	107	60	2095
94	778	MC 9号倉庫	銅板	普通銅板	平手内部に転印 スタンプ印刷：+上敷免製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20-2	227	110	60	2525
94	779	MC 9号倉庫	銅板	普通銅板	平手内部に転印 スタンプ印刷：E(ヨの反転?) 金剛製瓦株式会社?	ほぼ完	19-4- 20-2	227	107	60	2180
94	780	MC 9号倉庫	銅板	普通銅板	平手内部に転印 スタンプ印刷：+上敷免製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20-2	223	105	57	2365
95	781	MC 9号倉庫	銅板	普通銅板	平手内部にチレド目 スタンプ陰刻：+上敷免製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-3-4	222	105	60	2370
95	782	MC 9号倉庫	銅板	普通銅板	平手内部にチレド目 スタンプ陰刻：+上敷免製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-3-4	220	101	60	2310
95	783	MC 9号倉庫	銅板	普通銅板	平手内部にチレド目 スタンプ陰刻：+上敷免製 金剛製瓦株式会社?	ほぼ完	19-4- 20-2	235	115	63	2235
95	784	MC 9号倉庫	銅板	普通銅板	平手内部にチレド目 指輪あり スタンプ陰刻：+上敷免製 金剛製瓦株式会社?	完	19-4- 20-2	233	102	61	2535
95	785	MC 9号倉庫	銅板	普通銅板	平手内部に転印 スタンプ陰刻：山笠+木 赤水上端 (内欠)	完	19-3-4	230	106	59	2605
95	786	MC 9号倉庫	銅板	普通銅板	平手内部に転印 スタンプ陰刻：+上敷免製 製造会社不明	完	19-3-4	223	107	60	2365
96	787	MC 9号倉庫	銅板	普通銅板	平手内部に転印 スタンプ陰刻：龍の目 小樽葉造形	完	19-4- 20-2	224	109	61	2395
96	788	MC 9号倉庫	銅板	普通銅板	平手内部に転印 指輪あり 製造会社不明	完	19-4- 20-2	223	109	60	2380
96	789	MC 1A区 煉瓦建物 (搬出庫)	銅板	普通銅板	平手内部にチレド目 スタンプ陰刻：+上敷免製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20-2	230	114	61	2675
96	790	MC 1A区 煉瓦建物 (搬出庫)	銅板	普通銅板	平手内部にチレド目 スタンプ陰刻：+上敷免製 日本煉瓦製造株式会社	1/2	19-4- 20-2	232	-	57	1850
96	791	MC 1A区 煉瓦建物 (搬出庫)	銅板	普通銅板	平手内部にチレド目 スタンプ陰刻：+上敷免製 日本煉瓦製造株式会社	ほぼ完	19-4- 20-2	234	112	60	2590
96	792	MC 1A区 煉瓦建物 (搬出庫)	銅板	普通銅板	平手内部にチレド目 スタンプ陰刻：+上敷免製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20-2	226	108	59	2505
97	793	MC 1A区 煉瓦建物 (搬出庫)	銅板	普通銅板	平手内部にチレド目 スタンプ陰刻：+上敷免製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20-2	229	110	60	2595
97	794	MC 1A区 煉瓦建物 (搬出庫)	銅板	普通銅板	平手内部にチレド目 スタンプ陰刻：+上敷免製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20-2	227	108	60	2670
97	795	MC 1A区 煉瓦建物 (搬出庫)	銅板	普通銅板	平手内部にチレド目あり スタンプ陰刻：+上敷免製 日本煉瓦製造株式会社	ほぼ完 完	19-4- 20-2	226	108	59	2485

第5表 遺物観察表(26)

探査番号	遺物番号	遺構名 出土地点	材質	種類	詳 細	遺存状態	時期	法量 (mm)			量さ (g)
								a	b	c	
97	796	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	平手両面にチアレ目あり (ワイヤーカット成形) スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20.2	226	112	60	2735
97	797	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	平手両面にチアレ目 スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20.2	222	107	58	2415
97	798	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	平手両面にチアレ目 スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 日本煉瓦製造株式会社	2/3	19-4- 20.2	-	107	59	1610
98	799	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	平手両面にチアレ目 スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 日本煉瓦製造株式会社	ほぼ 完	19-4- 20.2	222	107	58	2545
98	800	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	平手両面にチアレ目 スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20.2	226	111	60	2500
98	801	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	扁平 平手両面にチアレ目 スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20.2	215	106	56	2565
98	802	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	平手両面にチアレ目 スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 日本煉瓦製造株式会社	ほぼ 完	19-4- 20.2	225	109	60	2385
98	803	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	平手両面にチアレ目 スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20.2	227	110	60	2480
98	804	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	平手両面にチアレ目 スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20.2	232	113	61	2775
99	805	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	平手両面にチアレ目 スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 日本煉瓦製造株式会社	3/4	19-4- 20.2	227	110	64	2155
99	806	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	平手両面にチアレ目あり (ワイヤーカット成形) スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20.2	227	107	61	2580
99	807	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	平手両面にチアレ目 スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20.2	227	110	60	2515
99	808	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	平手両面にチアレ目 スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20.2	233	114	60	2665
99	809	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	平手両面にチアレ目 スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20.2	220	106	60	2470
99	810	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	平手両面にチアレ目 スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20.2	230	110	61	2655
100	811	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	平手両面にチアレ目 スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20.2	228	112	61	2680
100	812	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	平手両面にチアレ目 スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20.2	234	111	58	2600
100	813	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	平手両面にチアレ目 スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20.2	228	111	58	2750
100	814	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	平手両面にチアレ目 スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20.2	230	112	60	2640
100	815	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	平手両面にチアレ目 スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20.2	230	111	60	2675
100	816	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	平手両面にチアレ目 スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20.2	225	110	58	2555
101	817	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	平手両面にチアレ目 スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 日本煉瓦製造株式会社	完	19-4- 20.2	229	112	60	2655
101	818	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	扁平 平手両面にチアレ目 スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 金野製瓦株式会社?	完	19-4- 20.2	223	111	60	2480
101	819	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	扁平 平手両面にチアレ目 スタンプ彫刻 (+) 土敷化製 金野製瓦株式会社?	ほぼ 完	19-4- 20.2	227	119	57	2500
101	820	MC 1A 区 塚山遺物 (観察場)	銅瓦	普通銅瓦	扁平 平手両面にチアレ目 手廻り: イ 形 金野製瓦株式会社?	完	19-4- 20.2	221	110	58	2080

第5表 遺物観察表(27)

探洞番号	遺物番号	遺物名 出土形式	材質	種類	詳 細	遺存状態	時期	質量 (ml)			量さ (g)
								a	b	c	
101	821	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	図形 平手両面にチダレ目 手廻り：ナ 金町製瓦株式会社?	2/3	19-4- 20-2	—	108	60	1935
101	822	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目	完	19-4- 20-2	229	113	59	2560
102	823	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	図形 平手両面にチダレ目 前面あり	完	19-4- 20-2	220	112	58	2415
102	824	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目 スタンプ彫刻：子ウ(2か所) 製造会社不明	完	19-4- 20-2	228	117	60	2505
102	825	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目 スタンプ彫刻：子ウ 製造会社不明	完	19-4- 20-2	225	107	60	2300
102	826	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目 スタンプ彫刻：〇にー 製造会社不明	完	19-4- 20-2	222	107	60	2455
102	827	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目 スタンプ彫刻：輪漣 金町製瓦株式会社	ほぼ 完	19-4- 20-2	225	108	60	2415
102	828	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目 スタンプ彫刻：輪漣 金町製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	230	111	61	2495
103	829	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目 スタンプ彫刻：輪漣 金町製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	224	107	59	2395
103	830	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目 スタンプ彫刻：輪漣 金町製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	229	110	60	2640
103	831	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目 スタンプ彫刻：輪漣 金町製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	223	107	60	2540
103	832	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目 スタンプ彫刻：輪漣 金町製瓦株式会社	ほぼ完	19-4- 20-2	195	110	60	1910
103	833	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目 スタンプ彫刻：輪漣 金町製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	222	110	60	2545
103	834	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目 スタンプ彫刻：輪漣イ 金町製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	222	107	60	2235
104	835	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目 スタンプ彫刻：輪漣イ 金町製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	223	108	60	2255
104	836	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目 スタンプ彫刻：輪漣イ 金町製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	225	104	60	2250
104	837	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目 スタンプ彫刻：輪漣イ 金町製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	226	106	60	2360
104	838	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目 スタンプ彫刻：輪漣イ 金町製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	218	114	60	2370
104	839	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目 スタンプ彫刻：輪漣イ 金町製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	230	110	60	2450
104	840	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目 スタンプ彫刻：輪漣イ 金町製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	227	110	61	2495
105	841	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目 スタンプ彫刻：輪漣ハ 金町製瓦株式会社	1/4	19-4- 20-2	—	—	60	675
105	842	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目 スタンプ彫刻：輪漣ニ 金町製瓦株式会社	1/3	19-4- 20-2	—	—	59	835
105	843	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目 スタンプ彫刻：輪漣ホ 金町製瓦株式会社	ほぼ定	19-4- 20-2	223	110	60	2465
105	844	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目 スタンプ彫刻：輪漣ホ 金町製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	228	110	60	2700
105	845	MC 1A区 煉瓦建物 (煉瓦層)	煉瓦	普通煉瓦	平手両面にチダレ目 スタンプ彫刻：輪漣サ[反転] 金町製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	227	110	61	2440

第5表 遺物観察表(28)

探区番号	遺物番号	遺物名 出土地	材質	種類	詳 細	遺存状態	時期	法量 (ml)			量さ (g)
								a	b	c	
105	846	MC 1A 区 焼土建物 (焼土層)	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 スタンプ陰刻：輪造フ 金剛製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	223	110	60	2475
106	847	MC 1A 区 焼土建物 (焼土層)	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 スタンプ陰刻：輪造フ 金剛製瓦株式会社	ほぼ完	19-4- 20-2	223	108	61	2450
106	848	MC 1A 区 焼土建物 (焼土層)	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 スタンプ陰刻：輪造フ [反転] 金剛製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	228	112	60	2400
106	849	MC 1A 区 焼土建物 (焼土層)	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 スタンプ陰刻：輪造フ [反転] 金剛製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	230	113	60	2610
106	850	MC 1A 区 焼土建物 (焼土層)	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 スタンプ陰刻：輪造フ [反転] 金剛製瓦株式会社	ほぼ完	19-4- 20-2	230	111	60	2225
106	851	MC 1A 区 焼土建物 (焼土層)	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 スタンプ陰刻：輪造フ 金剛製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	222	108	60	2420
106	852	MC 1A 区 焼土建物 (焼土層)	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 スタンプ陰刻：輪造キ 金剛製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	229	110	60	2490
107	853	MC 1A 区 焼土建物 (焼土層)	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 スタンプ陰刻：輪造キ 金剛製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	222	107	60	2380
107	854	MC 1A 区 焼土建物 (焼土層)	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 スタンプ陰刻：輪造キ 金剛製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	228	112	61	2720
107	855	MC 1A 区 焼土建物 (焼土層)	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 スタンプ陰刻：輪造キ 金剛製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	225	107	61	2430
107	856	MC 1A 区 焼土建物 (焼土層)	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 スタンプ陰刻：輪造キ 金剛製瓦株式会社	ほぼ 完	19-4- 20-2	226	110	61	2140
107	857	MC 1A 区 焼土建物 (焼土層)	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 スタンプ陰刻：輪造キ 金剛製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	222	110	58	2450
107	858	MC 1A 区 焼土建物 (焼土層)	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 スタンプ陰刻：輪造フ・ 金剛製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	220	113	60	2410
108	859	MC 1A 区 焼土建物 (焼土層)	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 スタンプ陰刻：輪造一 金剛製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	226	110	60	2600
108	860	MC 1A 区 焼土建物 (焼土層)	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 スタンプ陰刻：輪造瓦 [ヨの反転?] 金剛製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	233	110	59	2225
108	861	MC 1A 区 焼土建物 (焼土層)	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 スタンプ陰刻：輪造瓦 [ヨの反転?] 金剛製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	225	110	60	2385
108	862	MC 1A 区 焼土建物 (焼土層)	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 スタンプ陰刻：輪造瓦 [ヨの反転?] 金剛製瓦株式会社	3/4	19-4- 20-2	-	110	61	1470
108	863	MC 1A 区 焼土建物 (焼土層)	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 スタンプ陰刻：輪造瓦 [ヨの反転?] 金剛製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	230	110	60	2480
108	864	MC 1A 区 焼土建物 (焼土層)	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 スタンプ陰刻：輪造瓦 [ヨの反転?] 金剛製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	224	110	59	2370
109	865	MC 1A 区 焼土建物 (焼土層)	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 指痕あり スタンプ陰刻：輪造■ 金剛製瓦株式会社	完	19-4- 20-2	222	109	60	2375
109	866	MC 1A 区 焼土建物 (焼土層)	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 手取り：■ 製造会社不明	1/4	19-4- 20-2	-	-	60	590
109	867	MC 1A 区 焼土建物 (焼土層)	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 製造会社不明	ほぼ完	19-4- 20-2	225	110	60	2345
109	868	MC9 2A 区	焼瓦	普通焼瓦	平手内面に刺目 スタンプ陰刻：1面にト 大和製瓦	完	19-3-4	220	100	60	2185
109	869	MC 1A 区 溝瓦	焼瓦	普通焼瓦	平手内面にチレ目 スタンプ陰刻：型形に5 字形指痕あり	完	19-3-4	214	107	62	2515
109	870	MC 3A 区 溝瓦	焼瓦	普通焼瓦	平手内面に刺目 スタンプ陰刻：○にイ 製造会社不明	1/5	19-3-4	-	-	60	810

第5表 遺物観察表(29)

探査番号	遺物番号	遺物名 出土地点	材質	種類	詳 細	遺存状態	時期	法量 (ml)			量さ (g)
								a	b	c	
100	871	MC 3A区 山内堀	煉瓦	普通煉瓦	平手片部に転印 スタンプ陰刻：○にア 製造会社不明	1/5	19-3-4	-	103	90	1035
110	872	MC 2B区	煉瓦	普通煉瓦	平手片部に転印 スタンプ陰刻：井形裏にニ 製造会社不明	1/2	19-3-4	-	104	57	1320
110	873	AU 5A区 西側堀瓦	煉瓦	普通煉瓦	平手片部に転印 スタンプ陰刻：ニホ十 製造会社不明	1/2	19-3-4	-	107	59	1480
110	874	MC 2A区	煉瓦	普通煉瓦	平手片部に転印 無意：一 製造会社不明	ほぼ完	19-3-4	227	107	61	2290
110	875	AU 5A区 堀瓦	煉瓦	普通煉瓦	10か所に径 20mmの穿孔、平手両面にナゲレ目 製造会社不明	完	19-3-4	224	105	59	2040
110	876	MC 3A区 堀瓦	煉瓦	普通煉瓦	上面の一部が、鉄板状にカットされている。 平手片部に転印 製造会社不明	ほぼ完	19-3-4	220	105	57	2035
111	877	AU 5A区 表土	煉瓦	耐火煉瓦	平手片部 陰刻：SHINAGAWA 志田白煉瓦	完		228	109	90	2440
111	878	AU 5A区 表土	煉瓦	耐火煉瓦	平手片部 陰刻：OYU 大船堂窯耐火煉瓦株式会社	完		229	113	94	3385
111	879	MC 2B区 堀瓦	煉瓦	耐火煉瓦	平手片部 陰刻：S.T. ■ 志田白かマ 三和窯業耐火煉瓦工場	1/2		-	105	90	1035
111	880	AU 1号水路	瓦	軒瓦		瓦当		-	-	-	1581.0
112	881	AU 5A区 表土	瓦	軒平瓦	スタンプ陰刻：一ホ瓦	1/2		-	-	-	1185.0
112	882	AU 5A区 表土	瓦	軒平瓦	スタンプ陰刻：一ホ瓦	1/3		-	-	-	1048.0
112	883	AU 5A区 表土	瓦	軒平瓦	スタンプ陰刻：一ホ瓦	1/3		-	-	-	554.5
112	884	9号倉庫内 掘出	瓦	平瓦	側面 スタンプ陰刻：ヤマ大 物口	破片		-	-	-	2038
112	885	9号倉庫内 掘出	瓦	平瓦	側面 スタンプ陰刻：三浦製/二安口	破片		-	-	-	437.5

○詳細不明 ■判読不明 (→文字) →判読不明(文字数不明) () 欠損部分

※法量欄：a(口徑) b(瓦径) (側面)掘出部分のものはb(転印) c(側面)掘出部分のものは()内に含めた法量

煉瓦等 a(瓦手) b(寸) c(厚み) () 残存量 →欠損のため不明

引用・参考文献

《文献》

- 愛知県陶磁美術館 2022 『昭和レトロモダン—洋食器とデザイン画—』
- 浅川範之 2000 『旧日本陸軍における飲食器使用—軍隊生活の考古学にむけて—』『メタ・アーケオロジー』 第2号 メタ・アーケオロジー研究会
- 天内克史 1988 『統制経済下における陶磁器生産の様相』『村上徹君追悼論文集』同編集委員会
- 安藤洋美 2000 『我が国における明治期の確率・統計の教育について』『教理解析研究所講究録』1130巻
- 石井健一郎 1931 『本邦陶物史の研究(其の二)』『電気製鋼』7—10 電気製鋼研究会
- 井内智子 2010 『明治期における被服協会の活動』『社会経済史学』76-1
- 今村洋一 2020 『東京都内の大規模な旧軍用地及び旧軍建物の1948年の使用状況』『公益財団法人 日本都市計画学会 都市計画報告集』No.19
- 岩本真一 2019 『近代日本の衣服産業』思文閣出版
- 江戸陶磁器研究グループ 1996 『江戸出土陶磁器・土器の諸問題Ⅱ』
- 遠藤 毅 2006 『東京低地における工場等の分布を主体とした土地利用状況の変遷—明治初期から平成17年まで—』『地学雑誌』VOL.115 No.4 東京地学協会
- 2007 『東京低地における工場分布の変遷と21世紀初頭の工場跡地の利用状況』『地学雑誌』VOL.116 No.5 東京地学協会
- 大井祥之・岡田昌彰 2013 『岸和田煉瓦の生産と煉瓦供給に関する史的研究』『土史研究 講演集』Vol.33
- 大沢渡邉 1998 『板橋区内現用の戦時下の統制陶磁器—常盤台天祖神社所蔵品—』『板橋区郷土資料館 紀要』第12号 海軍衣糧廠 『海軍被服物品規格』防衛研究所資料室所蔵
- 株式会社アートプランニングレイ 守屋知子 河合晴生(東京都庭園美術館) 2008 『世界に誇る和製テーブルウェア オールドノリタケと懐かしの洋食器』東方出版
- 金子健一 2019 『瀬戸窯の鉄絵皿について—穴田窯跡出土遺物を中心として—』『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究 紀要』第21輯 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
- 川越市立博物館 2005 『中世陶磁への招待—地中からのメッセージ—』
- 学研 2002 『帝国陸軍戦場の衣食住—糧食を軸に解き明かす*知られざる陸軍の全貌*』『歴史群像』太平洋戦争シリーズ Vol.39
- 喜田信代 2000 『日本れんが紀行：煉瓦組みの面白さに魅せられて』日貿出版社
- 京都市文化市民局 2021 『指月城跡・伏見城跡発掘調査総括報告書』
- 黒尾和久 2003 『東京都日野市南広間地遺跡—一般国道20号(日野バイパス日野地区)改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書—』国土交通省関東地方整備局・相武国道工事事務所
- 公益財団法人 瀬戸市文化振興財団 2022 『戦時下のせとやき—近代後期の瀬戸窯と美濃窯—』
- 小杉 康 1991 『縄文時代の季節性と遺跡群研究』『歴史手帖』第19巻5号
- 小林謙一・渡辺貴子・菅録康弘他 1998 『大橋遺跡』上・下巻 目黒区大橋遺跡調査会
- 小林謙一・渡辺貴子 2002 『物質文化研究としての近現代考古学の課題—大橋遺跡出土の近現代ガラス容器の検討から—』『東京考古』第20号 東京考古談話会
- 財団法人 瀬戸市埋蔵文化財センター 2002 『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター設立10周年記念シンポジウム 戦国・

縄文期の陶磁器流通と瀬戸・美濃大窯製品—東アジアの視野から— シンポジウム討論の記録 『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』 第10輯

- 斎藤照徳 2010 「発見！尾久産の煉瓦—山本煉瓦工場の痕跡—」 『荒川ふるさと文化館だより』 第24号
- 酒石凡平 2022 『日本陸軍野戦築城概観』
- 板井準也 1999 「目黒区大橋遺跡出土の近代遺物—使用者への聞き取り調査を通じて—」 『東京考古』 17
東京考古談話会
- 2000 「近代遺物の表象—機能・記号・身体—」 『メタ・アーケオロジー』 第2号 メタ・アーケオロジー研究会
- 2006 『ガラス瓶の考古学』 六一書房
- 2011 「モノから日本の近代生活を探る」 『国際シンポジウム報告書』 II 国際常民文化研究機構
- 2022 「近代消費生活における個人・ライフスタイル—近現代遺跡の事例から—」 『尚美学園大学総合政策論集』 第34号
- 板井泰仁・平野 仁 1979 『岩淵町郷土誌』 歴史図書社
- 時事通信社 1955 「第二部 第一編 第三章 第七節 日鋼赤羽作業所の争議」 『日本労働年鑑』 第27号
- 白敷夏生 2022 「旧廣島陸軍被服支廠被服品格納庫と陸軍工廠の倉庫設計についての研究」 『大阪市立大学大学院 都市系専攻 修士論文概要集』
- 杉江重誠 1949 『日本ガラス工業史』 日本ガラス工業史編集委員会
- 杉並区郷土博物館 2009 『分館企画展 硝子場の残像』
- 関口正雄 1970 「明治8年測量「習志野原及周辺部落図」をめぐって—日本陸軍の歩みを基礎にした地図発達史の解明・その1—」 『地図』 Vol.8 No.3
- 瀬戸市歴史民俗資料館 2001 『<代用品>としてのやきもの』
- 大日本麦酒株式会社 1936 『大日本麦酒株式会社30年史』
- 高崎市教育委員会 1994 『高崎城VII IX 高崎城三の丸遺跡—高崎市役所新庁舎建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査—』
- 多治見市文化財保護センター 2011 「多治見の陶器商と近代の美濃焼」 『企画展 多治見の陶器商』
- 高遠奈緒美 2006・2007 「稲付地区の民俗 上・下」 『文化財研究紀要』 第19・20集
- 種倉紀昭 1987 「大正期・昭和期（1912—1930）の我国に於ける油彩画材料についての一考察—萬 鉄五郎の油絵具に關連して—」 『岩手大学教育学部研究年報』 第46巻 第2号
- 中世土器研究会 『概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社
- 坪井利弘 1976 『日本の瓦屋根』 理工学社
1977 『図解 瓦屋根（改訂版）』 理工学社
- 東部第二地区市街地再開発事業地内文化財調査団 1995 東町二番 『市街地再開発事業に伴う旧厚木宿の埋蔵文化財発掘調査報告書（1）』 厚木市教育委員会
- 東北新幹線赤羽地区遺跡調査会・東日本旅客鉄道株式会社 1990 『赤羽台遺跡—八幡神社地区—』
1992 『赤羽台遺跡—古墳時代中期—近代—』
- 戸川 弘 1941 『簡易市民防空壕築造早わかり』 日本建築協会
- 富田能次 1901 『帝國陸軍画話』 富田文陽堂
- 長佐古真也 2007 「続・お茶碗考—近代・現代の中形碗に飯碗を探る—」 『考古学が語る日本の近現代』 同成社
- 中西啓太 2019 「企業の移動と地域社会—地方行政—大正期における金町製瓦の事例から—」

『愛知県立大学大学院国際文化研究科論集』第20号

中村 哲 2008 「東京陸軍被服本廠・朝霞作業所(東京陸軍被服支廠)の疎開について—太平洋戦争開戦から戦後処理まで—」

『文化財研究紀要』第21集 東京都北区教育委員会

中村尚夫・吉澤みな子 1997 「特殊栄養食品制度から栄養表示基準制度への変遷—強化食品から栄養表示食品へ—」

『日本食品科学工学会誌』44巻3号

日本中世土器研究会 2022 『新版 概説 中世の土器・陶磁器』真岡社

日本乳製品協会 1978 『日本乳業史』

日本の廃道編集部 『日本の廃道』

第86号 2013 第97号 2014 第137号 2017 第154号 2019

日本煉瓦製造株式会社社史編集委員会 1990 『日本煉瓦100年史』日本煉瓦製造株式会社

沼崎 陽 1999 「戦時下の『生産者別標記記號(いわゆる統制番号リスト)を実見して』『東京考古』17 東京考古談話会

初田 亨 1996 「東京砲兵工廠銃包製造所建造物調査報告書」『文化財研究紀要』別冊第11集 東京都北区教育委員会

初田 亨他 2000 「東京砲兵工廠銃包製造所解体調査報告補稿」文化財研究紀要』第13集 東京都北区教育委員会

服部郁 1993 「瀬戸窯における釉薬成分の変遷—蛍光X線定量分析試料を中心として—」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第1輯 財団法人 瀬戸市埋蔵文化財センター

福田眞人 1991 「肺病の診断と治療—近代日本における結核の文化史—」『言語文化論集』第XIII巻 第2号 平成ボトルクラブ 2017 『日本のレトロびん』

織井将右 2005 「明治初期フランス人地価測量教育者ジュールダンとヴィエイヤールについて」『創価大学教育学部論集』第57号

松岡利英 1921 『陸軍特別大演習記』松岡明文堂

瑞浪市陶磁資料館 2009 「山五陶業の技術に迫る—洋食器生産技術の近代史—」

瑞浪市陶磁資料館 2012 「番号の付されたやきもの 戦時下の瑞浪窯業生産」

水野信太郎 1999 『日本煉瓦史の研究』法政大学出版局

源 昌久 2012 「陸軍士官学校における科目「兵要地学」に関する一研究」

『淑徳大学研究紀要(総合福祉学部・コミュニティ政策学部)』46

美濃窯業株式会社 2002 「美濃窯業社史 1918～2002 83年の歩み」

美濃窯業製陶株式会社 2006 『1919～2002 社史83年の歩み』

桃井 勝・萩谷茂行・舟橋 健 2010 「伝世品にみる戦時中の美濃焼—産地と製品傾向—」『瑞浪市陶磁資料館 研究紀要』第13号

森谷 宏 1996 「陸軍被服本廠の役割と組織—第二次世界大戦期を中心として—」『文化財研究紀要』第9集 東京都北区教育委員会

1998 「陸軍被服本廠年表」『文化財研究紀要』第11集 東京都北区教育委員会

森永乳業株式会社 1967 『森永乳業50年史』

両角まり 2010 「第6章 考察」『鎌司が谷 Ⅲ』豊島区遺跡調査会調査報告22

矢澤好幸 2014 「明治期の東京に於ける牛乳事業の発展と経過の考察」『平成25年度乳の社会文化学術研究・研究報告書』日本酪農乳業史研究会

山田 誠 2021 『戦時改描図論考 偽装された地形図』海清社

- 横芝光町教育委員会 2015 「考古資料で見る横芝光町の歴史展4」 中・近世
 横芝光町教育委員会 2020 「横芝光町出土の中・近世陶磁器」
 横浜都市発展記念館 2018 「横浜都市発展記念館資料調査報告 横浜の近代考古資料」 公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団
 陸軍 「陸軍被服本廠臨時構築物調査」 防衛研究所資料室所蔵
 『施設関係綴』 防衛研究所資料室所蔵
 渡邊高章 2002 「日本住宅公団黎明期における団地設計活動に関する研究」 『第57回日本都市計画学会学術研究論文集』
 P661～666

《閲覧資料》

国立公文書館 アジア歴史資料センター <https://www.jacar.go.jp>

『陸軍省大日記類』（明治期から昭和期にかけて作成された、陸軍省発来簡の公文書類を編冊した簿冊等の総称。各文書は、その種類に応じてサブシリーズとして分類されている—肆大日記・伍大日記など）

【斬壕関連】

- 「実地行軍 天覧に付近衛東京鎮台博導団諸隊西丸へ整列付行軍式演習式等」
 JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C08070744900 明治7年 陸軍省達全書 布第350号（防衛省防衛研究所）
 「第4章 皇室と吾連隊」 JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C14110939000 近衛歩兵第1連隊史（防衛省防衛研究所）
 「第3章 皇室と我連隊」 JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C14110940800
 近衛歩兵第2連隊史 明治7.1.20～昭和5.9.20（防衛省防衛研究所）
 「第95号 11月30日、12月2、3、5、7日」 JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C08010411500
 明治7年 陸軍省日誌 貞 貞丙 第95号付録（防衛省防衛研究所）
 「陸軍一般へ来る十二月三日東京元通沼村へ実地行軍」 JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C04026027500
 明治7年「大日記 官省使及本省布令 11月布 陸軍第1局」（防衛省防衛研究所）
 「宮内省より蒲沼村実地行軍式云々」 JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C040025448000
 明治7年「大日記 諸省使之部月 12月」（防衛省防衛研究所）
 「外務省へ練兵天覧に付各国公使並官共參觀被差許許居に付云々懸合」 JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C04025960800
 明治7年「大日記 官省使府殿 送達 11月 陸軍第一局」（防衛省防衛研究所）
 「近衛局へ蒲沼村辺に於て演習式延引達し」 JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C040025562900
 明治7年「大日記 諸局 12月水 何届弁諸達書 陸軍第一局」（防衛省防衛研究所）
 「陸軍一般へ陸軍中将山形有朋蒲沼村演習師団總指揮官」 JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C07041086200
 明治7年「大日記 官省使及本省布令 11月布 陸軍第1局」（防衛省防衛研究所）
 「板橋地方に於て演習天覧の通達」 JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03030020800
 壹大日記 明治19年3月（防衛省防衛研究所）
 「近衛演習天覧の通達」 JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03030036700 壹大日記 明治19年4月（防衛省防衛研究所）
 「近衛演習天覧の義申入」 JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C07041086200 参大日記 明治19年4月（防衛省防衛研究所）
 「近衛諸兵春季演習天覧の義申入」 JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C07041078300
 参大日記 明治19年3月（防衛省防衛研究所）
 「5.4月13日板橋近傍に於て近衛諸兵演習之節馬丁飛弾之為め負傷に係る件（1）」 JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.
 C13070669200 陸軍諸条例綴 2/3 明治19.1.4～19.11.30（防衛省防衛研究所）

「5. 4月13日板橋近傍に於て近衛諸兵演習之節馬丁飛昇之為め負傷に係る件(2)」JACAR(アジア歴史資料センター) Ref. C13070669300 陸軍諸条例 2/3 明治19. 1. 4～19. 11. 30(防衛省防衛研究所)

〔記念碑関連〕

「陸軍被服本廠土地の一部記念碑建設敷地として使用許可の件」JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C01006120200
永存書類乙集第2類第1冊 昭和3年(防衛省防衛研究所)

「記念碑建設の為陸軍用地の一部使用の件」JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C01006224700
永存書類乙集第2類第1冊 昭和4年(防衛省防衛研究所)

「廃兵器寄贈の件」JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C01006151000 永存書類乙集第2類第3冊 昭和3年(防衛省防衛研究所)
〔陸軍被服本廠建物・移転関連記事〕

「近督より被服廠敷地買収の件」JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C07050265100(防衛省防衛研究所)

「福建より被服廠倉庫配置の件」JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C07041417500 参大日記(防衛省防衛研究所)

「赤羽被服廠倉庫其他工事落成報告」JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C10061740900
陸軍省雑 官房3号編 臨時建築 3冊の3(防衛省防衛研究所)

「被服廠赤羽倉庫構内へ水槽新設の件」JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C03026040400 陸満普大日記(防衛省防衛研究所)

「荷物整理場及貯水池工事実施の件」JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C06084929000 武大日記 3月(防衛省防衛研究所)

「赤羽被服庫構内荷物整理場鉄道上屋設計変更の件」JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C02031345700
大日記乙輯第2類 第2冊(防衛省防衛研究所)

「陸軍被服廠構内医務室増築の件」JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C02031382200
大日記乙輯第2類 第3冊(防衛省防衛研究所)

「陸軍被服本廠赤羽被服倉庫新設の件」JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C02031591100
大日記乙輯第2類 第3冊(防衛省防衛研究所)

「大正6年度工事実施の件」JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C03010937600 大日記乙輯第2類 第3冊(防衛省防衛研究所)

「陸軍被服本廠移転敷地買収の件」JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C03011008700
大日記乙輯第2類 第1冊(防衛省防衛研究所)

「大正7年度工事実施の件」JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C03011051500 大日記乙輯第2類 第3冊(防衛省防衛研究所)

「陸軍被服本廠本部及工場其他移転改増築工事の内貯水槽新設其他工事の件」JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C0301149500
大日記乙輯第2類 第4冊(防衛省防衛研究所)

「陸軍被服本廠本部及工場其他移転改増築工事の内縫靴工場区画刷新築工事の件」JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C0301149400
大日記乙輯第2類 第4冊(防衛省防衛研究所)

「陸軍被服本廠既設縫靴工場へ電燈配線工事の件」JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C03011155300
大日記乙輯第2類 第4冊(防衛省防衛研究所)

「陸軍被服本廠本部及工場其他移転改増築工事の件」JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C03011170800
大日記乙輯第2類 第4冊(防衛省防衛研究所)

「被服本廠移転地構内外線工事の件」JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C03011169400
大日記乙輯第2類 第4冊(防衛省防衛研究所)

「陸軍被服本廠建築物移転改増築工事の件」JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C03011176600
大日記乙輯第2類 第4冊(防衛省防衛研究所)

- 「陸軍被服本廠原動所内諸機械其他移転据付工事の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03011189300
大日記乙輯第2類 第4冊（防衛省防衛研究所）
- 「陸軍被服本廠移転改築増築工事延期の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03011149300
大日記乙輯第2類 第4冊（防衛省防衛研究所）
- 「陸軍被服本廠建造物移転改築増築工事の内瓦葺殺虫新築其他工事の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03011303300
大日記乙輯第2類 第3冊（防衛省防衛研究所）
- 「陸軍被服本廠建造物移転改築増築工事の内外線及電燈配線工事の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03011317000
大日記乙輯第2類 第3冊（防衛省防衛研究所）
- 「保育所設置の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03011332700 大日記乙輯第2類 第3冊（防衛省防衛研究所）
- 「大正14年度震災復旧工事の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03012068700
大日記乙輯第2類 第2冊（防衛省防衛研究所）
- 「陸軍被服本廠鑿井揚水設備震災復旧工事実施の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C01006045700
大日記乙輯第2類 第1冊（防衛省防衛研究所）
- 「陸軍被服本廠に診療所設置の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C01000981800 大日記甲輯第3類（防衛省防衛研究所）
- 「陸軍被服本廠養成分兵舎新築其他工事実施の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C01002213100
大日記乙輯第2類 第1冊（防衛省防衛研究所）
- 「陸軍被服本廠朝霞分廠新設工事実施の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C01002353100
大日記乙輯第2類 第1冊（防衛省防衛研究所）
- 「陸軍被服本廠構内（赤羽・朝霞地区）建物疎開計画」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C15011064000
施設関係綴（防衛省防衛研究所）
- 〔軍用鉄道関連〕
- 「被服廠内輕便鉄道増設の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03025469100 満大日記 2月 坤 乙（防衛省防衛研究所）
- 「鉄道工事実施の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03027550500 満大日記 5月（防衛省防衛研究所）
- 「軍用鉄道線路等管理換の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C07072700400 肆大日記 12月（防衛省防衛研究所）
- 「軌道保管転換の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C02031538100 大日記乙輯第2類 第7冊（防衛省防衛研究所）
- 〔認識票関連〕
- 「其2 戦用諸品兵器を除く定数表（1）」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C14010679600 昭和20年度
陸軍臨時動員計画令細則 附録（乙）（陸機密第152号別冊） 昭20.4.20（防衛省防衛研究所）
- 「第107野戦飛行場設定隊 陣中日誌 自昭和18年10月1日 至昭和18年10月31日」
JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C19010289200（防衛省防衛研究所）
- 「51. 埼玉県北足立郡朝霞町朝霞支廠内（戦用品、作業用物品）現数表 昭和20年10月」JACAR（アジア歴史資料センター）
Ref.C15010952100（防衛省防衛研究所）
- 「英国陸軍省より被服装具品貰受の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C03025270100
欣受大日記 其2 共5 大正10年（防衛省防衛研究所）
- 「認識票送付に関する件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C01007353050
永存書類 乙集 第4・5類合冊 昭和14年「雑」（防衛省防衛研究所）
- 「軍隊手歴、認識票及朝鮮地函寄附の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C04014678800

喜大日記 明治 43 年 10 月 (防衛省防衛研究所)

「仏蘭西陸軍々服類標本交付の件」JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C03024769100 欧受大日記 大正 6 年 5 月 (防衛省防衛研究所)

[その他]

「昭和 20 年 1 月」JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C15120355700 会報録 昭和 20. 1 ~ 12 月 (防衛省防衛研究所)

「昭和 20 年 2 月」JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C15120355800 会報録 昭和 20. 1 ~ 12 月 (防衛省防衛研究所)

「昭和 20 年 3 月」JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C15120355900 会報録 昭和 20. 1 ~ 12 月 (防衛省防衛研究所)

「昭和 20 年 4 月」JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C15120356000 会報録 昭和 20. 1 ~ 12 月 (防衛省防衛研究所)

「昭和 20 年 5 月」JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C15120356100 会報録 昭和 20. 1 ~ 12 月 (防衛省防衛研究所)

「昭和 20 年 6 月」JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C15120356200 会報録 昭和 20. 1 ~ 12 月 (防衛省防衛研究所)

「昭和 20 年 7 月」JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C15120356300 会報録 昭和 20. 1 ~ 12 月 (防衛省防衛研究所)

「昭和 20 年 8 月」JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C15120356400 会報録 昭和 20. 1 ~ 12 月 (防衛省防衛研究所)

「昭和 20 年 9 月」JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C15120356500 会報録 昭和 20. 1 ~ 12 月 (防衛省防衛研究所)

「昭和 20 年 10 月」JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C15120356600 会報録 昭和 20. 1 ~ 12 月 (防衛省防衛研究所)

「昭和 20 年 11 月」JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C15120356700 会報録 昭和 20. 1 ~ 12 月 (防衛省防衛研究所)

「昭和 20 年 12 月」JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C15120356800 会報録 昭和 20. 1 ~ 12 月 (防衛省防衛研究所)

『宮武選報』

・「都市防空」第 184 号 昭和 16 年 9 月 3 日

・「防空おぼえ帖」第 29 号 昭和 13 年 8 月 31 日

国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/>

島津化学器械目録 第 200 号 第 5 版

野戦築城教範 明治 34・37 年、大正 15 年、昭和 2・9・14 年

野戦築城教範改正草案 明治 41 年

独野戦築城教範

歩兵の築城

塹溝築設教法略則

臨時築城教程 第一部・第二部

陸軍被服仕様集 上中下巻 追録

陸軍縫工卒靴工卒要則

明治軍事史：明治天皇御伝記史料 上 (明治百年史叢書)

日本の洋食器史 (2) ノリタケと競った製陶所のモダンデザイン (前編)

日本の洋食器史 (3) ノリタケと競った製陶所のモダンデザイン (瀬米陶器編)

日本の洋食器史 (5) 井出製陶

関西地方煉瓦製造工場消長表・刻印表の作成：煉瓦製造業史研究のための基礎資料として

関東地方煉瓦工場刻印表・工場表

甲信駿地方煉瓦工場 工場表

中部地方煉瓦工場表

関西地方煉瓦刻印表・同工場表

中国地方煉瓦刻印表・同工場表

四国地方煉瓦工場表

九州地方煉瓦工場表

大日本商工録：公認 第1輯

宮内庁書陵部

書陵部所蔵資料目録・画像公開システム <https://www.kunaicho.go.jp/kunaicho/shinsei/toshoryo.html>

天覧演習写真帖〈近衛歩兵第一旅団諸兵連合演習並近衛工兵大隊及工兵第一大隊工兵作業〉〈

書陵部所蔵資料目録・画像公開システム〈図書寮文庫〈宮内庁〉ホーム

陶磁器関連

陶片窟の引き出し <http://hikidasi1.exblog.jp/>

肝油猪口 2007/06/23

NoPhoto NoLife <http://tideline.exblog.jp/7988308/>

陶製インキ瓶 アイラブマルゼン・2<2008年5月23日

時のかけら〜統制陶器〜 <http://tokinokake.exblog.jp/>

平成ボトル倶楽部日記 <http://heiseibot.exblog.jp/20344969>

「ごちそうさん」土のびん〈代用品〉2014年02月11日

ゴロンディーナーの電柱趣味! <http://gorondeener.web.fc2.com/>

電柱上に取り付けられている端子やパーツの名称編<ゴロンディーナーの電柱ファイル<TOP

豊島屋造漆株式会社 <http://www.toshimayasyuzou.co.jp/>

宮坂醸造株式会社 <http://www.masumi.co.jp/index.php>

西山製糖株式会社 <http://www.seimen.co.jp/wonderland/tsu/top.html>

ラーメン丼の図柄の意味は?<これであなたもラーメン通<TOP

ヤマト株式会社 <http://www.yamato.co.jp/item/>

陶町ホームページ <http://suechou.com/index.html>

第21・22号<陶町歴史ロマン<ホーム

陶房日報 <http://to-bo-nippo.sblo.jp/>

JPDC 公益財団法人 日本陶磁器意匠センター <http://www.pottery-design.jp/index.html>

陶磁器意匠データベース<保存資料について<戦前戦後の製品調査及び裏印調査<HOME

カネ定製陶機 <http://www.kanesada-seito.com/index.html>

沿革

散歩三昧 私のページ <http://mimidaikon.cocolog-nifty.com/blog/2007/02/toki-koshitsu.html>

2007/02/07 TOKI KOSHITSU

近代輸出陶磁器に魅せられて <http://blog.livedoor.jp/momo2011/archives/4704621.html>

プリンクリー 『ケラミック アート』日立(水戸桃)日本陶磁器 近代の発展、陶器の裏印

星期六的愉快研究 http://xingqi6.cocolog-nifty.com/blog/2008/02/post_f546.html

統制陶器 その1. 偽りの産地表示

瑞浪市公式ホームページ <https://www.city.mizunami.lg.jp/>

国登録有形文化財「美濃の陶磁器生産用具及び製品」<瑞浪市陶磁資料館<瑞浪市のおすすめ観光スポット<観光・文化<トップ

ジャパンアーカイブズ - Japan Archives <https://jaa2100.org/entry/detail/058841.html>

栄養 (昭和 8 年)▷肝油「眼鏡肝油」(現・ワカサ)〜ビタミン A・D 含有の鰵の魚油

医 (昭和 17 年)▷メガネ肝油球・体質改善・結核予防 (伊藤千太郎商会、現・ワカサ)

HYPER Philatelist http://topofswan.tea-nifty.com/hyper_philatelist_annex/

硫酸瓶の歴史

History TOTO 百年史 <https://jp.toto.com/history/100yearshistory/>

< TOTO の歩み < TOTO

ガラス瓶関連

レトロびん WEB 写真館 <http://retorobin.takara-bune.net/Tukudani.html>

飲料・酒瓶

調味料瓶・佃煮瓶

糊・クリーム瓶

化粧品・オイル・白髪染瓶

薬・医薬品瓶

インク・染料・その他瓶

Keep your face to the sunshine <https://marimotosarah.exblog.jp/28529302/>

レトロ瓶< 2019_03_15 <日記<まよりも<< exeite blog

朝の日、暮の日 <http://kika.blog56.fc2.com/blog-entry-247.html>

ビール業界の変遷 2008/6/27

(財)吉田秀雄記念事業財団 アド・ミュージアム東京 http://www.yhmf.jp/pdf/activity/adstudies/vol_34_06.pdf

業種別広告シリーズ第6回 飲料(2)ビール〜なくてはならないリフレッシュの友〜<Vol.34 Autumn 2010(11月25日号)

<詳細<研究広

雑誌「アド・スタディーズ」発行<事業内容<ホーム

NAVER まとめ ビールのポスターってレトロで哀愁があつてなんかいいよね? <http://matome.naver.jp/odai/2134941055298256701>

別冊 温泉と銭湯巡り <http://onsen.onsenzuki.iinaa.net/howto/beerhowto.htm>

『ビール』のウンチク<ビール知識<日本のワイン<ウンチク

青山学院大学国際政治経済学部 田辺ゼミ ツツミ ヨシエ (堤 淑恵)

<http://www.sipec-square.net/~mt-home/alumni/tsutsumi/projects/2001personal/graph.html>

日本ビールの産業史<ビールの歴史< 2001 年 個人プロジェクト < TOP

ビール造酒組合 <http://www.brewers.or.jp/tips/histry.html>

ビールの歴史<ビールの豆知識<ホーム

神戸大学付属図書館 http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentViewM.jsp?METAID=00059355&TYPE=IMAGE_FILE&POS=1

東西醸造界に寿屋の大発展 (789) 1928.12.11 (昭和 3) < 1928 年<大阪毎日新聞<新聞別一覧<新聞記事文庫<デジタルアーカイブ< HOME

キリンホールディングス <http://www.kirinholdings.co.jp/company/history/index.html>

キリン歴史ミュージアム<キリングループの歴史<企業情報<トップ

- あびこ電脳考古博物館 <http://kouko.bird-mus.abiko.chiba.jp/main/theme/glass1.html>
 ガラス瓶のある風景<テーマ展示<展示室<ホーム
- 日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所 http://d-arch.ide.go.jp/je_archive/society/wp_unu_jpn20.html
 菊浦 重雄 1979 「明治初期のガラス工業の系譜」<この研究テーマの論文一覧をみる<雑貨産業<研究テーマ別に論文を読む
 「日本の経験」を伝える<デジタルコレクション<図書館<HOME
- 一般財団法人日本乳容器・機器協会 <http://www.namp.or.jp/column0.html>
 思い出すまぐコラム<HOME
- 一般財団法人日本清涼飲料検査協会 http://seiryouden.jp/link_soft_drinks.html
 第五話「びんについてのお話」<清涼飲料よもやま話<清涼飲料の基礎知識(Soft Drinks)<home
- ガラスビンリサイクル促進協議会 <http://www.glass-recycle-as.gr.jp/>
- 日本ガラスびん協会 <http://glassbottle.org/what/index.html>
 ガラスびんの歴史<ガラスびんミュージアム—ガラスびんについて<トップ
- マルコンペイトウの日々 <http://ameblo.jp/teru-hisa/entry-11547692256.html>
 琴線 2013年06月08日<ビーチコミング<トップ
- 川原の一本松 <http://blog.goo.ne.jp/987signature/e/806827db60aa8cc5c8ff9452e92ccc5c>
 金線サイダー・金線ポート 2009-10-16 <2009年10月<びん・瓶・壺<トップ
 均質牛乳瓶 2009_07_25
 日本麦酒監製株式会社 2011-10-13
 西洋御料理 其の二 2014_01_22
 ライターオイル TSCO 2016_04_30
 ライターオイル 其の二 2019_04_28
- 八郷の日々 <http://koharu2009.blogspot.com/>
- 暮らしのアンティーク SHOP「蔵の中」 <http://news.kurano-naka.com/?day=20140619>
 2014.06.19 古いガラス瓶、京友禅訪問着
- 一般財団法人日本清涼飲料検査協会 http://seiryouden.jp/yomoyama/yomoyama_09.html
 第九話「サイダー、シトロン、レモン、ライム等の透明炭酸飲料」<清涼飲料よもやま話
- 書肆ゲンシャ / 幻視者の集い https://twitter.com/book_genshisha/status/1015574277838422016
 赤旗ポートワイン絵葉書
- 香霞葡萄酒と電気ブランのはなし | オエノングループ <https://www.oenon.jp/tr/individual/story.html>
- レファレンス協同データベース https://crd.ndl.go.jp/reference/modules/d3ndlcrdentry/index.php?page=ref_view&id=1000239603
 赤旗ポートワイン
- ホワイトロック ジンジャーエール | コレクターウィークリー <https://www.collectorsweekly.com/stories/240627-white-rock-ginger-ale>
- コカ・コーラボトルの変遷 | STAR-COLA Laboratory | MUUSEO My Lab & Publishing <https://museo.com/riou179419/diaries/3>
- コカ・コーラ ボトル コレクション <https://www.ne.jp/asahi/com/koyama/coke/index.html>
 1940年代~1960年代/Japan
 1970年代/Japan
 1980年代/Japan

コカ・コーラ年表・日本編

「カルピス」の歴史 | 「カルピス」を知る | カラダにピース「カルピス」 <https://www.calpis.info/knowledge/history/>

ボルド 340ml? : Drink! Drink! Drink! : SS ブログ <https://me-young-sitter.blog.ss-blog.jp/2021-04-14>

スター食品工業 <http://star-food.co.jp/label/labels/after-war/a-15.html>

ラベルミュージアム・歴史資料館<トップ

牛の博物館 <http://www.isop.ne.jp/atru/mhaku.html>

戦時下の乳利用<第14回企画展 ミルクの夜明け<企画展プレーバック<トップ

森永乳業株式会社 <http://www.morinagamilk.co.jp/products/milk/>

森永製菓株式会社 <http://www.morinaga.co.jp/>

MORINAGA MUSEUM <http://www.morinaga.co.jp/museum/>

HISTORY・GALLERY・EPISODE <森永ミュージアム<ホーム

一般社団法人全国牛乳流通改善協会 <http://zenkaikyuo.or.jp/>

第2回 牛乳の容器編<宅配牛乳歴史資料館<牛乳について知ってください<消費者のみなさまへくホーム

清流乳業 <http://www.citymilk.net/>

牛乳瓶の容量 / 保存温度 / 銘柄標示の変遷について | 製瓶会社の固有記号 / 管理記号の打刻について | 牛乳瓶の全体形状 / 開口部形状の種類と変遷について<牛乳瓶を調べる<牛乳瓶研究資料・調査報告<トップ

牛乳キャップ収集家の活動ブログ Milk Cap Archive <http://blogs.yahoo.co.jp/mtkazagasira/16730281.html>

【栃木県 / 09-09】磯田牧場<09 : 栃木県<トップ

足利市販西商工会 <http://www.ashikaga-sakanishi.jp/detail.html>

磯田乳業有限会社<事業名検索<トップ

ガラクタ共存記 <http://mabochan-saeki.blog.jp/archives/31277628.html>

No.295「均質牛乳」ビンと、半世紀前の牛乳ビンのフタ

ヤクルト ニッポン・ロングセラー考・COMZINE by ntt コムウェア https://www.nttcom.co.jp/comzine/no035/long_seller/index.html

特別用途食品制度の変遷 chrome-extension://efaidnbmnnnnibpcjpcglclefindmkaj/<https://www.mhlw.go.jp/shingi/200>

MY MILK CAPS & COVERS ビルマン フルーツヨーグルト <http://yungyuu.blog77.fc2.com/blog-entry-31.html>

古道具 古家具 昭和レトロのお店 <https://ameblo.jp/myr88/entry-12026559106.html>

古いアンカーコップ

「古いアンカーコップ」のヤギのマークについて

石塚硝子商標マークの変遷写真 <https://www.facebook.com/photo/?fbid=1377728635721661&set=pcb.1377728705721654>

小梅と小麦と小豆 <http://blogs.yahoo.co.jp/koumetokomugi/26447880.html>

ウオーキングでは誘惑がいっぱい。芸の細かい手作り（ガラスびん） 2014/8/14

ごった煮 <http://www.010.upp.so-net.ne.jp/n991213/isodajo.htm>

磯田乳業<関東地方<牛乳屋さん情報<牛乳のフタ収集リスト<TOP

骨董大好きぬりひよん <http://blog.livedoor.jp/mp38/archives/6421952.html>

「ラムネの瓶の色」のガラス瓶たち 2012年06月08日

蔵の中 民家再構 NEWS <http://news.kurano-naka.com/?eid=1034424>

古いガラス瓶、京友禅訪問着 2014.06.19

古道具のささや <http://furudougunosasaya.blog120.fc2.com/blog-entry-803.html>

古道具の入荷案内 2010/02/18 < TOP

真央亭日乗 <https://417mao.blog.fc2.com/blog-entry-2975.html?sp>

『粉もん文化』というても、エエんちやう

文化的行動部● <http://nidnidid66.blog.fc2.com/blog-entry-191.html>

カメセ 2017/02/09

特集 : 名古屋税関 Nagoya Customs

<chrome-extension://efaidnbmnmlbpcjpcglclefindmkaj/https://www.customs.go.jp/nagoya/boueki/tokur0411-1.pdf>

税関 150 周年記念特集<輸入編> <特集<貿易統計<名古屋税関<ホーム

株式会社 にんべん <https://www.ninben.co.jp/>

にんべんの歴史<にんべんとは<ホーム

雑学 .com <https://kerokero-info.com/2017/11/25/post-14115/>

食べ物雑学<ホーム

まぼろしチャンネル http://www.maboroshi-ch.com/old/sun/pha_18.htm

第 10 回「桃屋」の巻<まぼろし食料品店

GLASS BOTTLE MARKS <http://www.glassbottlemarks.com/glass-insulator-manufacturers/>

北多摩薬剤師会 おくすり博物館 <https://www.tpa-kitatama.jp/museum/index.html>

薬と歴史シリーズ<おくすり博物館<ホーム

昔はこんな薬もありました

売薬紹介シリーズ

今は昔 売薬歴史シリーズ

薬業界 老舗歴史シリーズ

試薬瓶博物館 <https://twitter.com/Ks93mugjdKTy5UV>

くすりや本舗 http://blogs.yahoo.co.jp/br5m_kzi/folder/555976.html

ラヂウム製薬 ヴィタミン剤のチラシと穿孔切手貼りの薬書 2009/6/13 <製薬各社 (薬書他)<トップ

介護士小森榮の薬物問題ノート http://33765910.at.webry.info/200905/article_6.html

世界大戦とあへん・麻薬 1 | 日本人と薬物、150 年の戦い 2009/05/09 <薬物乱用の歴史<トップ

一般社団法人北多摩薬剤師会 http://www.tpa-kitatama.jp/museum/museum_42.html

10. 赤チン (ヨードチンキ) <昔はこんな薬もありました<おくすり博物館<ホーム

平成ボトル倶楽部日記 <http://heiseibot.exblog.jp/147/>

整腸ヘルプ<健脳丸<トップ

森下仁丹株式会社 <http://www.jintan.co.jp/museum/index.html>

森下仁丹歴史博物館< HOME

あれこれこれ B 爺のあれこれスケッチ <http://bee-gee.blog.so-net.ne.jp/2005-11-26>

森下仁丹 2005-11-26

東京湾要塞 <https://tokyowanyosai.com/index.html>

ネオスエーの広告<広告<社会<軍事文物<トップ

河野薬品 <https://graycolor-history.jp/tag/%E6%B2%B3%E9%87%8E%E8%96%AC%E5%93%81/>
第9回 特別編 白髪染・ガラス瓶の世界（その1）<ちょっと詳しい白髪染の歴史
第10回 特別編 白髪染・ガラス瓶の世界（その2）

「わかもと」の歴史 | 強力わかもと研究所 https://www.wakamoto-pharm.co.jp/health_si/labo/02.html
徹底分析「強力わかもと」「わかもと」の歴史<強力わかもと研究所<胃腸の健康<わかもと製薬

株式会社ウテナ <http://www.utena.co.jp/company/history.html>
沿革<会社情報<TOP

caramel*maple brown <http://tamaharu810.blog.fc2.com/blog-date-20121025.html>
古いクリーム容器 2012.10.25

ジュジュ化粧品株式会社 <http://www.juju.co.jp/company/history/>
ジュジュ化粧品の歩み<企業情報<ホーム

Ham* Log ～うみうさぎ堂の日常～ <http://umiusagi.jugem.jp/>
25才以下の方は、お使いにはいけません!!(クリームびん) 2009.02.18

オリチナル株式会社 <http://www.original-co.jp/item/mo003/>
ももの花ハンドクリーム<ももの花シリーズ<HOME

昭和的心の遺産を求めて・・・ <http://blogs.yahoo.co.jp/naohiro064/7711232.html>
ももの花ハンドクリーム 2011/12/2 <昭和なももの花<TOP

昭和的心の遺産を求めて・・・ <http://blogs.yahoo.co.jp/naohiro064/folder/431383.html>
ウテナ男性クリーム. 2013/3/1 <昭和なウテナクリーム<TOP

株式会社桃谷天館 <http://www.e-cosmetics.co.jp/history/>
歴史ミュージアム<歴史<TOP

いざりうおのブログ <http://blogs.yahoo.co.jp/athp100l/53531497.html>
一長一短(白色美顔水) 2013/5/19

あんていかーゆ便り <http://antiquaille.jp/blog/?tag=%E5%8C%96%E7%B2%A7%E5%93%81&paged=2>
化粧品瓶 化粧品<トップ

ジリジリ <http://ziriz.blog69.fc2.com/blog-entry-93.html>
君が代 2011-06-08 <ガラス<ホーム

NCM NET http://www.jncm.co.jp/cosmetics/history/1886_1911.html
業界の歴史<化粧品資料目次<トップ

むかしの装い:伊東胡蝶園(バビリオ)の御園化粧品と広告 http://blog.livedoor.jp/mukashi_no/archives/48308152.html

マンダム五十年史 chrome-extension://efaidnbmnmlbpcapgcclefindmkaj/http://www.tga-j.org/documents/pdf/0327_01.pdf

LAITFOOD (レートフード) | hiroimono <http://seaglass.ashbee.net/?eid=1215930>

◆NCM-化粧品・日用品・流通 http://www.jncm.co.jp/cosmetics/history/1957_1964.html

最新記事一覧 | ちょっと詳しい白髪染の歴史 <https://graycolor-history.jp/>
第16回 昭和時代の白髪染(その1) 第17回 昭和時代の白髪染(その2) 第18回 昭和時代の白髪染(その3)

桂屋ファイングッズ株式会社(みやこ染め) <http://www.katsuraya-fg.com/>

輸入・廃番文房具の発掘メモ http://blogs.yahoo.co.jp/tai_michi/folder/271981.html?m=lc&p=5

水欄、アラビア糊 2013/9/17 <その他文具く TOP

文具屋さんドットコム <https://www.bunbougyasan.com/un.asp?Code=21>

これなむ アラビア糊♪:けふこの本欄と文具の引き出し http://book-stationery.cocolog-nifty.com/blog/2007/06/post_db8d.html

株式会社共立 <http://abikofudousan.jugem.jp/?day=20081013>

ガラスびん 2008.10.13 <我孫子催しく TOP

ウエル万年筆 | 白壁さん日記 <https://ameblo.jp/kisaka/entry-12348438248.html>

ウエル 戦前 戦取紙 4種 | 万年筆グラフ 目録 <https://ameblo.jp/kamisama-samasama/entry-12072743532.html>

パイロットインキの変遷 (品名・発売年月・定価) - 骨董、古民具、古書の“芳栄堂”

<https://www.nasushiobara-hoeido.com/index.php>

プラトンインキ | 文化的行動部 ● <http://nidnid66.blog.fc2.com/blog-entry-183.html?ps>

レトロの小部屋 <https://blog.goo.ne.jp/mz88/e/f6675202ee452213e712e8d0d0c60591>

インクびん 各種メーカー 2 -

文具のとびら <https://www.buntobi.com/>

【連載】文具具百年 #7 「インク瓶、色々」 <文具具百年>連載企画くホーム

【連載】文具具百年 #8 「西洋の墨汁、東洋のインク」前編

【連載】文具具百年 #9 「西洋の墨汁、東洋のインク」後編

【連載】文具具百年 #44 謎の筆記具「複写ペン」の使い方 |

ホルベイン油絵具進化の歴史 | ホルベインオフィシャルウェブサイト <https://www.holbein.co.jp/company/history/history.html>

株式会社ジュエル <http://www.jewelweb.jp/pages/history.html>

当社の歴史 < HOME

株式会社コロンブス <http://www.columbus.co.jp/company/history/index.html>

沿革 < 会社案内 < HOME

雨上がりの秋月レトロ市 Glam Drive <http://glamorousdrive.blog.fc2.com/blog-entry-256.html>

アオイガイとピン:うたかた雑記帳 http://blog.livedoor.jp/kuro_demekin-musicbox/archives/51538487.html

神戸大学附属図書館 http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentViewM.jsp?METAID=10055978&TYPE=IMAGE_FILE&POS=1

儀式にも国民服 (913) 1940.10.5 (昭和 15) < 1940 年 < 大阪毎日新聞 < 新聞別一覽 < 新聞記事文庫 < デジタルアーカイブ < HOME

平成ボトル倶楽部日記 <http://heiseibot.exblog.jp>

ちよいハケ-2 2011 年 10 月 10 日 | 今期シーズンの踏ん張り -1 2009 年 07 月 26 日 < ニッキ永 < トップ

株式会社パイロットコーポレーション <http://www.pilot.co.jp/company/history/>

パイロットのあゆみ < 会社情報 < TOP

破れ傘の骨杉林みづほの運命の方程式 <http://blog.goo.ne.jp/m8181>

パイロットインクのびん 2013-7-3 | 墨池のピン 2013-3-30 | 白色美顔水 2012-3-16 < 骨董 インクびん ガラス物 < トップ

丸善株式会社 http://www.maruzen.co.jp/corp/history/h_meiji.html

沿革 < 丸善の歩み < 会社案内 < HOME

開明株式会社 (開明墨汁) <http://www.kaimei1898.com/index.php>

やきものの代用品 <http://daiyouhin.exblog.jp/7636247/>

墨汁瓶 2008-04-04 <各種容器> TOP

ヤマト株式会社 <https://www.yamato.co.jp/story/story2.html>

糊物語 < TOP

エスエス製薬株式会社 <http://www.ssp.co.jp/corporate/history/>

249 年のあゆみ < 企業情報 > TOP

びーチコブログ 海辺で出会った拾いもの、アレコレ。 <http://seaglass.ashibee.net/?month=200710>

なまきん 2007.10.16 < October 2007 > 硝子 < TOP

寺西化学工業株式会社 <http://www.guitar-mg.co.jp/index.html>

合成樹脂・認識票その他

歯磨き(歯ブラシと歯磨き剤)の歴史 しのぎき歯科医院の公式サイト <https://www.dentopia.jp>

街の歯医者さんのこんな話 | 資生堂歯ブラシ http://www.onyx.dti.ne.jp/satoshika/dentist_talk/dentistalk61.html

ライオン歯科衛生研究所 <https://www.lion-dent-health.or.jp/100years/article/habit/003.htm>

122 年前に登場したライオン歯みがき第 1 号 | 歯みがき習慣がつけられた 100 年 |

現役の昭和の画像 <https://ameblo.jp/welovemotorsports/image-12211106997-13776588683.html>

新生ケンコー吸入器の使い方 < 現役の昭和 > アメブロ < ビグ > ホーム

くすりの博物館 <https://www.eisai.co.jp/museum/curator/column/090703c.html>

吸入器とマスク < 学会員のちょっとコラム > もうひとつの学会員室

自衛隊員の私物と官給品 | 自衛隊婚活パーティー <https://www.exeo-jieitaiparty.com/contents/13.html>

自衛隊員の私物と官給品 < お役立ちコンテンツ > HOME

フランス軍の軍用プレート - APTG France <https://www.aptg-france.fr/histoire/les-plaques-didentite-de-larmee-francaise/>

世界のドッグタグ / 認識票 <https://www.mash-japan.co.jp/dogtag/world/index.html>

D-カンパニー <https://dco442.cart.fc2.com/>

WW2 英軍 認識票 British fibre dog tags < WW2 英軍 パーソナル・エクイップメント > 全件表示 < ホーム

煉瓦・瓦関連

渋沢社史データベース https://shashi.shibusawa.or.jp/details_siryu.php?sid=4400

日本煉瓦製造(株)『95年の歩み』(1983.07) |

煉瓦研究ネットワーク関東 <https://main.renga.tokyo/>

刻印 < HOME

東京藝術大学正門再生プロジェクト <https://seimon.geidai.ac.jp/category/about/>

基本情報

葛飾区ホームページ <http://www.city.katsushika.lg.jp/36/164/001287.html>

葛飾区工業の歴史 1 < 製造業 > 産業 < 観光・産業情報 > トップ

葛飾の産業遺産 <http://homepage3.nifty.com/s1868/0014.htm>

小菅煉瓦製造所 < トップ

煉瓦博物館 <http://www.2s.biglobe.ne.jp/~stakers/arch/brick.html>

有限会社フカダソフト <http://www.geocities.jp/fukadasoft/renga/index.html>

刻印煉瓦 | 機械抜きと手抜き | 煉瓦樋門全般に関する注釈 (日本煉瓦製造と中小煉瓦工場く埼玉県の煉瓦樋門～注釈～)

第6回 埼玉県煉瓦水門くまぐれ旅写真館くトップ

路傍学会 <https://robougakkai.blog.fc2.com/>

煉瓦の Landscape 7

Ami #どぼくとかだニャン <http://aminyan123.blog.fc2.com/>

五ヶ門樋合不思議なレンガを見つけたよ

▼▼2枠の悪魔▼▼:SS ブログ <https://sinn-niwakunoakuma.blog.ss-blog.jp/>

琴音の煉瓦刻印発見録♪『千葉県野田市・キッコーマン茂木本家の煉瓦塀の刻印☆』金野煉瓦の刻印

やまだくんのせかい <http://yamada.sailog.jp/weblog/2016/05/post-551d.html>

田下野煉化製造会社煉瓦窓メモ (1) (2)

歩鉄の達人 <https://www.hotetu.net/Brick/Brickstructure/160528shimotukerengaseizou.html>

下野煉化製造ホフマン窓

煉瓦の刻印写真集

石黒産業株式会社 <https://www.ishikuro.jp/>

沿革く会社概要く HOME

トンネル煉瓦学 1～5 https://aigi-tunnel.org/09A/tunnel_brick.htm

煉瓦魂 加賀耐火煉瓦株式会社 <http://www.taikarenga.com/item05.html>

耐火度についてく耐火材についてくトップページ

テクノ窯工 <https://tekunoyoko.jp/>

沿革く会社概要く HOM

レファレンス協同データベース (国立国会図書館)

http://crd.ndl.go.jp/reference/modules/d3ndlcrdentry/index.php?page=ref_view&id=1000031138

管理番号 C2006F0676 「耐火煉瓦に刻された刻印ならびに耐火煉瓦を製造する会社およびその内容 (明治から現在まで)」

く耐火煉瓦 (検索) くレファレンス事例詳細

渋沢社史データベース http://shashi.shibusawa.or.jp/details_nenpyo.php?sid=4410&query=&class=&d=all&page=6

日本煉瓦製造く社史を検索く TOP

岸和田市 <http://www.city.kishiwada.osaka.jp/soshiki/70/kosyasin-burnkazai-4.html>

古写真からみる岸和田の文化財 [4] 岸和田煉瓦編く文化財データく生涯学習郷土文化室く組織で探すくトップ

岸和田本町のまちづくり <http://blogs.yahoo.co.jp/masatakaoku/22376454.html>

岸和田煉瓦 (岸煉) の保存を願う 2007/7/22 く TOP

瓦の凶器 <http://www8.ocn.ne.jp/~kawarak/zukan.html>

ひろやす瓦 <http://hiroyasu-kawara.com/reform/kawara.php#type>

瓦の種類く瓦の葺き替え・屋根のリフォームについてくトップ

日本いぶし瓦 <http://www.nihon-ibushikawara.co.jp/>

軒瓦く瓦の種類くホーム

瓦 WEB : 三州瓦 <http://www.kawara.gr.jp/>

三州瓦の豆辞典く三州瓦の紹介くトップ

瓦屋根ドットコム <http://www.kawarayane.com/gekitan/dictionary/Lhtm>

軍事施設関連・軍用品その他

座敷半 <http://www.warbirds.jp/prince/pr0001.html>

ゼロハン 2001.03.06 <過去のテキスト 1 > TOP

GI 倶楽部 2003 <http://www.5e.biglobe.ne.jp/~to82to/newpage9gasumasuku200306012128.htm>

ガスマスク&キャリアー<装備品等> TOP

MILITARY BLOG 日本陸軍軍装品 <http://yodo4072.militaryblog.jp/e320327.html>

日本軍 陸軍 被甲 被甲費 九九式<ガス 防毒 装備品 | 日本軍 陸軍 編上靴 靴底ゴム製<陸軍靴類< TOP

熊谷市立江南文化財センター 熊谷デジタルミュージアム

<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/dokusyo/koramu/gobousei/gobousei.htm>

コラム 14 五芒星と軍帽<コラム<読書室<ホーム

毒ガス島歴史研究所 <http://homepage3.nifty.com/dokugasu/kaihou02/kaihou022.htm>

大川淳三 「大久野島の語りをもう少し続けていきたい」< HOME

H O R M S H P <http://homepage1.nifty.com/horms/suteishi03.html>

入営前<捨て石< HOME

軍医少尉の資料館 <http://www.roswitha.jp/jyugono.html>

銃後の遺品・従軍看護婦の遺品<大日本帝國陸海軍軍装資料<ホーム

米国特許最新情報 <http://www.5b.biglobe.ne.jp/~USPinfom/nihonhatsumeirekisi1.htm>

ビランジガスにて汚染せる皮革又は同製品の消毒法<日本国の発明の歴史<日本<発明の歴史<トップ

帝國陸海軍と銃後 <http://www13.ocn.ne.jp/~seiroku/senmengu.html>

洗面道具、筆記用具<生活に必要な物<兵士の所持品< HOME

セルロイドライブラリ・メモリアルハウス <http://www.celluloidhouse.com/salon23.htm>

サロン 23 セルロイドと歯ブラシ<セルロイド製品紹介シリーズ<セルロイドサロン<ホーム

Crazy-Doctor <http://mijinko38.exblog.jp/m2013-05-01/>

保革油 2013年05月12日<トップ

帝國ノ犬達 紅殻 <http://ameblo.jp/wa500/entry-11745880113.html>

貴方の犬を、御國の為に(第5回)(犬毛皮)<銃後の犬達<トップ

武蔵大学学術機関リポジトリ http://repository.musashi.ac.jp/dspace/bitstream/11149/582/1/sogo_2012n021_003.pdf

武田 尚子 2011 「近代東京における軍用地と都市空間—渋谷・代々木周辺の都市基盤の形成—」

< 2011年度・2011.No21(2012-06-15) <巻号一覧<武蔵大学総合研究所紀要<ホーム

趣味の和菓子 喜屋 <http://www.kitanet.ne.jp/~kiya/>

軍都赤羽<赤羽時間旅行< MY HOMETOWN 赤羽<奥へご案内<トップ

北区ドットインフォ 北区の街角 <http://www.kitaku.info/>

第一造兵廠の歴史<十条街角情報< TOP 赤羽街角情報 | 北区のあゆみ | 北区産業と文化< TOP

Good Old Rail <http://homepage3.nifty.com/EF57/haisen/akabane.htm>

東京陸軍造兵廠 電気鉄道跡<古き良き時代< HOME

日本防弾工学研究所 <http://www.jbl.jp.cn/>

銃の基礎知識 | 弾丸の基礎知識 < HOME

FM-3 | 防毒マスクと人工呼吸器 Wiki | ファンダム

[https://gasmaskandrespirator.fandom.com/wiki/FM-3#China_\(various_manufacturers\)](https://gasmaskandrespirator.fandom.com/wiki/FM-3#China_(various_manufacturers))

【陸軍瓦斯マスク・99式防毒面（甲）】 <http://www.roswitha.jp/%5b20%5dgasmask%99shiki.html>

軍用兎 <https://twitter.com/767Tu/status/745170817097469952>

2016年6月21日

日本の武器兵器 <http://xn-u9j370humdba539qcybpym.jp/>

2-1 門砲<装具品

7、日本の対化学兵器用防毒面・装具など

鎮魂の旧大日本帝國陸海軍 <http://cb1100fb10.coreserver.jp/>

帝國陸海軍資料館

陸軍の軍装 I ~ X X X IX、X L ~ X L IX、L ~ L II

海軍の軍装 I ~ X X X IX、X L ~ X L IX、L ~ L IV、S P

マネー現代 | 講談社 <https://gendai.media/money>

じつは侮れない「戦時中の日本の技術」…いまはもう作れない「意外なモノ」

道は六百八拾里 <https://akabasa.blogspot.com/>

豊橋市美術博物館 <https://toyohashi-bihaku.jp/>

高師原・天伯原陸軍演習場<その他の軍事施設<郷土の戦争遺跡・資料<豊橋の美術・歴史・文化財・戦争遺跡を知る<
栃木県護国神社 <http://www.gokoku.gr.jp/index.html>

再現 大正・昭和の味

【日本陸軍の生活】ぐんたいぐらし！5巻目【トイレ】・Man On a Mission

<https://oplern.hatenablog.com/entry/2018/05/12/223606>

三井住友トラスト不動産 <https://smtrc.jp/>

6：『軍部』としての発展とその後～王子・滝野川 | <このまちアーカイブス<トップ

全国あかばね紀行 <http://nature1818.jp/index.html>

東京都北区赤羽 歴史編

北区の街角 <http://www.kitaku.info/frame/mainpage.htm>

交通<北区の産業と文化

第2章 「戦争の形態」- 切手で見る「第一次世界大戦」

<https://blog.goo.ne.jp/higuchi-stamp1/e/f30b589dbf08c0e99c14c949b0c883de>

北海道のしっぽ <https://blog.goo.ne.jp/norakuro50/e/f1791619f0c684fb46786411d5d0b501>

襟裳岬 第2駐車場にある丘に登ってみました。6月6日 旧日本軍 塹壕跡

【赤羽】赤羽西5丁目にあった大塚古墳と鉄柱の行方 <https://www.youtube.com/watch?v=EUtWRKFerkw>

古墳なう <http://gogohiderin.blog.fc2.com/?mode=m&no=223>

「大塚古墳」

「今昔写語」https://konjaku-photo.com/?p_mode=view&p_photo=9132

東京都 | 陸軍被服本廠の古写真

Nichimy Corporation U.S. Office ニチマイ米国事務所 <https://www.nichimiyus.jp/>

東京兵器補給廠 (Tokyo Ordnance Depot) について

電脳 大本営 <https://daihonnei.com/>

鉄道連隊と老婦人<帝國陸軍<ホーム

習志野市ホームページ <https://www.city.narashino.lg.jp/index.html>

鉄道連隊の歴史<津田沼の鉄道連隊<ならしの歴史<ならしの歴史・文化<歴史・文化・観光<習志野市シティーセール
スサイト<ホーム

1960～1970年代の鉄道の写真と資料 <http://steam.fan.coocan.jp/JS-index.html>

東京陸軍造兵廠電気鉄道跡 1～5<配線探訪<古き良き時代<ホーム

東京陸軍兵器補給廠線跡

ken のデジカメライフ <https://ken201407.exblog.jp/30696397/>

続・東京鉄道遺産 13 陸軍兵器補給廠引込線跡

好奇心いっぱいこころ旅 <http://blog.livedoor.jp/kayoko1227/archives/35798931.html>

軍用貨物引込線跡 (東京都北区)

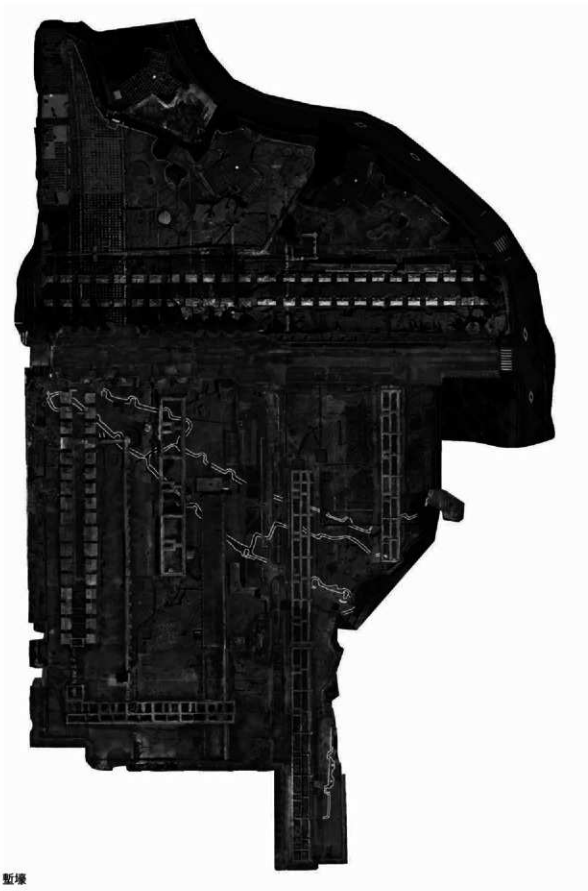
じてんしゃ三昧 <https://jitenshazanmai.jp/archives/11291>

鉄道遺構を巡るじてんしゃの旅 (4) 東京兵器補給廠線

魅了されたもの・・・ https://blog.goo.ne.jp/hakusyu_20031201/e/2c7abf6e5894f49cecb286e8fdeb168b

東京第二陸軍造兵廠 電気軌道 B (板橋火薬製造所)

写 真 图 版



1 新墟



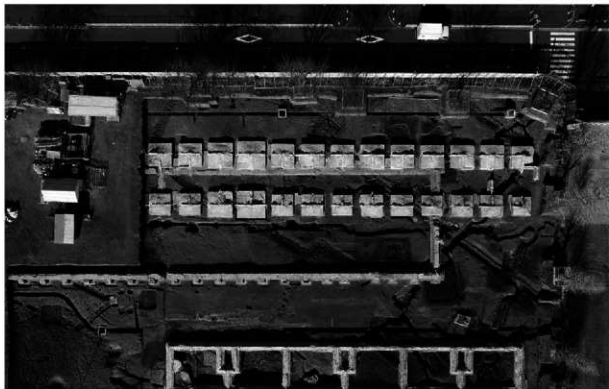
1 塹壕・被服本廠建物等切り合い関係 (1)



2 塹壕・被服本廠建物等切り合い関係 (2)



1 3B区新墟(南)



2 3B区新墟(南)



1 3B 区塹壕 (南)



2 3A 区塹壕 (南)



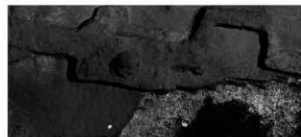
1 3A区塼塚(南東)



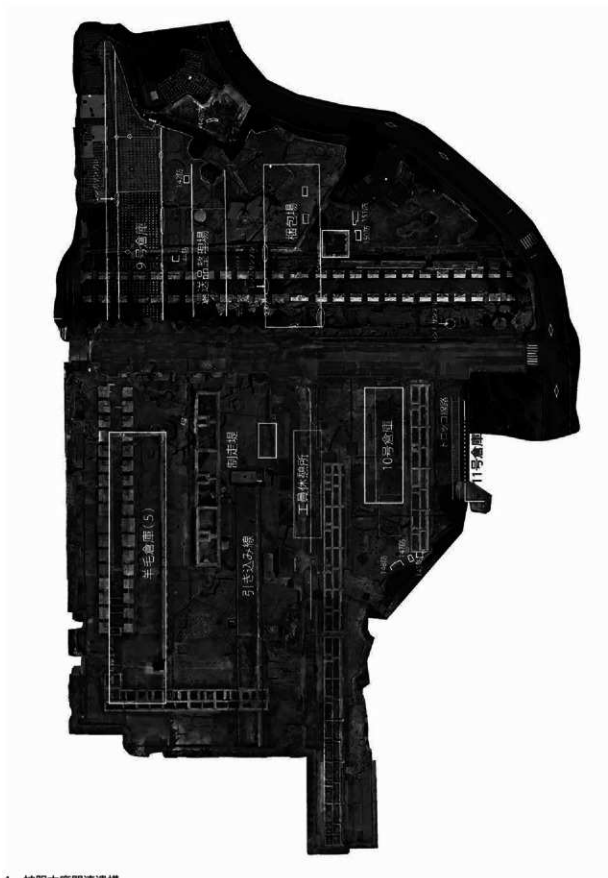
2 4A区塼塚(南)



3 4A区塼塚張り出し部(南)



4 4A区塼塚張り出し部(南)



1 被服本廠閔連遺構



1 5号倉庫（羊毛倉庫）（南）



2 5号倉庫（羊毛倉庫）（北）



3 5号倉庫基礎レンガ（東）



4 5号倉庫基礎レンガ（東）



1 5号倉庫基礎レンガ(東)



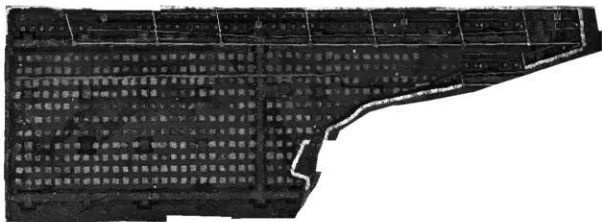
2 5号倉庫基礎レンガ(南)



3 5号倉庫基礎レンガ(南)



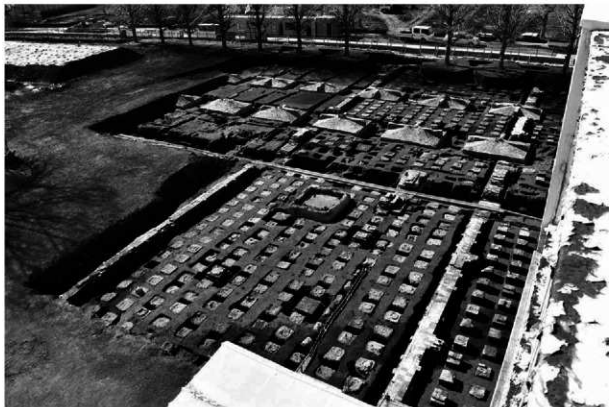
4 5号倉庫基礎レンガ保存用切り出し



5 9号倉庫(南)



1 9号倉庫(東)



2 9号倉庫(東)



1 9号倉庫 (南)



2 9号倉庫 (西)



3 9号倉庫 (西)



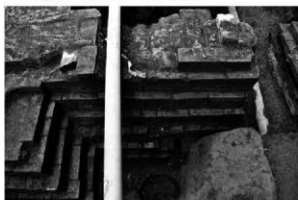
4 9号倉庫 (東)



5 9号倉庫 地中基礎レンガ (南西)



6 9号倉庫 地中基礎レンガ (南)



7 9号倉庫 地中基礎レンガ (南)



8 9号倉庫 地中基礎レンガ (南)



1 10号倉庫 (南)



2 運送品整理場 (南)



3 工具休憩所 (南)



4 トロック線路跡 (南)



5 梱包場 (南)



6 梱包場 (南)



7 引き込み線・貯水タンク (北)



1 引き込み線・貯水タンク (南)



2 引き込み線砂利敷 (東)



3 引き込み線砂利敷 (西)



4 貯水タンク地中部分 (南東)



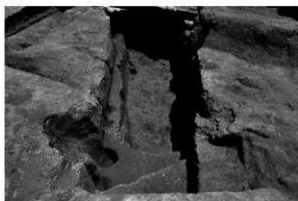
5 貯水タンク地中部分 (東)



6 貯蔵タンク (解体取り上げ後)



7 貯蔵タンク (解体取り上げ後)



1 146号防空退避壕(西)



2 146号防空退避壕(南)



3 146号防空退避壕出入口阶段(南)



4 149号防空退避壕(北)



5 149号防空退避壕出入口阶段(西)



6 150号防空退避壕(南)



7 151号防空退避壕(南)



8 152号防空退避壕(南)



1 153号防空避难壕(南)



2 321号土坑(西)



3 322号土坑(东)



4 322号土坑土层断面(东)



5 323号土坑(东)



6 323号土坑土层断面(东)



7 324号土坑(北)



1 赤羽上ノ台 被服本廠関連遺構（西）



1 18号倉庫基礎 (東)



2 20号倉庫基礎 (渡り廊下) (南)



3 20号倉庫基礎 (倉庫・廊下隔壁) (南)



4 20号倉庫基礎 関東大震災後の補強 (右側鉄筋コンクリート)



5 20号倉庫基礎 関東大震災後の補強



6 20号倉庫基礎 関東大震災後の補強



7 20号倉庫基礎 関東大震災後の補強



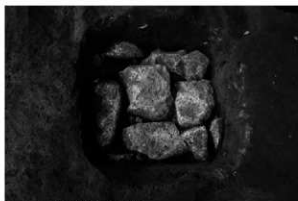
1 1・2号建物跡（中央部小柱穴が1号）（西）



2 1号建物跡柱基礎（南）



3 2号建物跡柱基礎（南）



4 2号建物跡柱基礎（南）



5 1・2号建物跡柱新旧関係（左上1号）（南）



6 第三貯水池脇建物（東）



7 第三貯水池基礎（東）



8 第三貯水池基礎（北）



1 20号倉庫東際トロッコ枕木跡(北)



2 20号倉庫東際トロッコ枕木跡(東)



3 20号倉庫東際トロッコ枕木跡(西)



4 20号倉庫東際トロッコ枕木跡(南)



5 18号倉庫北側前面排水路(奥:1・2号建物跡)(南)



6 18号倉庫北側前面排水路(矢印:水流方向)(東)



7 18号倉庫北側前面排水路 石蓋(東)



8 18号倉庫北側前面排水路 枝管結合部研(西)



1 18号倉庫北側前面排水路 枝管設置場所(東)



2 18号倉庫北側前面排水路 枝管設置場所(北)



3 18号倉庫北側前面排水路 石蓋除去状況(矢印・水流方向)(東)



4 18号倉庫北側前面排水路 西端部石蓋設置状況(東)



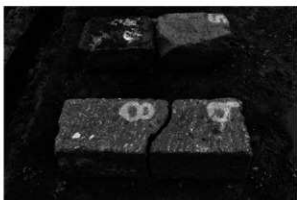
5 18号倉庫北側前面排水路 側石・底面煉瓦敷状況(東)



6 18号倉庫北側前面排水路 底面煉瓦敷(東)



1 排水路石蓋接合状況



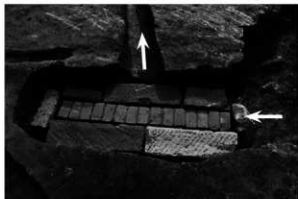
2 排水路石蓋接合状況



3 排水路石蓋接合状況



4 排水路石蓋接合状況



5 排水路枝管方向転換部樹 (矢印: 水流方向) (北)



6 排水路枝管 (北)



7 排水路枝管 本管への連結部



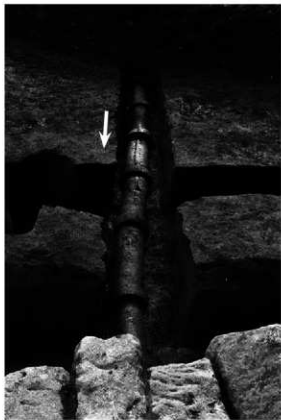
8 排水路 本管と枝管



1 排水路枝管 (矢印: 水流方向) (南)



2 排水路枝管 (矢印: 水流方向) (北)



3 排水路枝管 (矢印: 水流方向) (北)



4 1号防空退避壕 (東)



5 1号防空退避壕 出入口階段 (南)



1 2号防空避难壕(北)



2 2号防空避难壕 底面炭化材(北)



3 2号防空避难壕完掘(北)



4 2号防空避难壕 壁面壁材(炭化)(北)



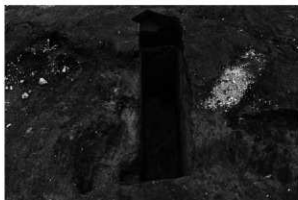
5 3号防空避难壕(南)



6 3号防空避难壕 出入口阶段部分(南)



7 3号防空避难壕 出入口阶段部分(北)



1 5号防空退避壕(南)



2 5号防空退避壕 出入口阶段部分(南)



3 7号防空退避壕(北西)



4 7号防空退避壕 出入口阶段部分(北东)



5 8号防空退避壕(北西)



6 9号防空退避壕(北西)

報告書抄録

ふりがな	みちあいせいせき あかばねうすのだいせいせき							
書名	道合遺跡 赤羽上ノ台遺跡							
副書名	赤羽台団地（第Ⅳ期）建替事業に伴う埋蔵文化財発掘調査							
シリーズ名	東京都埋蔵文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第381集							
編著者名	鈴木伸哉・丹野雅人・両角まり・伊藤 茂・加藤和浩・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtadidze・小林克也・黒沼保子・米田恭子・宮田佳樹・宮内信雄・堀内晶子・鬼崎 華・渡邊稜也・小野綾子・江口誠一							
編集機関	（公財）東京都教育支援機構 東京都埋蔵文化財センター							
所在地	〒206-0033 東京都多摩市落合一丁目14番2 TEL 042 - 374 - 8044							
発行年月日	2024年3月 29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	道跡番号					
みちあいせいせき 道合遺跡	とうきょうとくさくあかばねだい 東京都北区赤羽台 ちやうめ 1・2丁目	13117	北区	35°46'34"	139°42'56"	20190501 3 20221208	30,912 m ²	集合住宅 建替
		13117	北区	35°46'47"	139°43'05"	20201201 3 20231008		
あかばね うすのだいせいせき 赤羽 上ノ台遺跡	とうきょうとくさくあかばねだい 東京都北区赤羽台 ちやうめ 1丁目							
所収遺跡名	種別	主な遺構			主な遺物		特記事項	
道合遺跡	旧石器時代							
	縄文時代	住居跡 3軒 炉穴 16基 土坑 12基 ビット群 3 ビット 4	土器：早期前葉・中葉・後葉、前期初頭・中葉・後葉、 中期後葉、後期後葉 石器：石鏃、二次加工刮片、打製 石斧、磨石、礫石、石皿、刮片					
	弥生時代	住居跡 17軒 掘立柱建物跡 2軒 土坑 3基 埴土範圍 2 ビット 8	土器：壺・広口壺・高坏・鉢・甕・台付甕 土製品：勾玉、 土製刀鏃、埴成粘土 石器製品：台付					
	古墳時代	竪穴住居跡 16軒 土坑 5基 埴土範圍 1 ビット 15	土器：土師器高坏・坏・鉢・甕・壺、手づくね土器					
	奈良・平安時代	竪穴住居跡 21軒 土坑 9基 ビット 27	土器：須恵器蓋・坏・坏・鉢・甕・壺等 土師器：坏・ 甕等 土製品：支脚、管状土睡 石製品：碧玉、白玉 金属製品：鉄鍔					
	中世 近世	土坑（地下式横穴）4基 溝 76条 土坑 19基 ビット 96	磁器・陶器・土器					
赤羽 上ノ台遺跡	旧石器時代				石器：尖頭器、刮片			
	縄文時代	炉穴 38基 ビット群4 ビット7	土器：早期前葉・中葉・後葉・末葉、前期初頭・中葉・後葉 中期中葉・後葉 土製品：二次利用土器片 石器：石鏃、磨石、礫石、石皿、刮片					
	弥生時代	竪穴住居跡4軒 土坑1基	土器：壺・高坏・鉢・甕・台付甕 土製品：碧玉、二次 利用土器片 石製品：礫石、石皿					
	古墳～平安時代 中世・近世	竪穴住居跡 16軒 溝 9条	土器：須恵器蓋・坏・甕・壺 土師器：坏・壺・坏・甕・ 鉢・甕・台付甕・壺 二次利用土器片 石製品：勾玉 磁器・陶器・土器					
要約	<p>道合遺跡第9次調査と赤羽上ノ台遺跡第6次調査がおこなわれた。2つの遺跡は武蔵野台地の北東端の赤羽台上に隣り合って立地する。後期旧石器時代の石器と、縄文時代早期（とくに平坂式）の炉穴54基・早期～前期の竪穴住居跡3軒、弥生時代中期（宮ノ台式）の竪穴住居跡1軒、後期の竪穴住居跡21軒、掘立柱式建物跡2軒、土坑3基、古墳時代前期の土坑1基、古墳時代後期～平安時代の竪穴住居跡51軒と土坑10基、中世の地下式横穴、近世の溝・道路が調査され、とくに縄文時代早期～前期と弥生時代後期、古墳時代～平安時代の集落跡の様相が解明された。</p> <p>道合遺跡では、明治7年（1874）に日本陸軍がおこなった天覧演習の際に作られた塹壕跡が見つかった。2つの遺跡から近代の被服本廠の建物跡や線路跡、軍用品と日用品が発見された。</p> <p>放射性炭素年代測定や脂肪酸分析、植物珪酸体の分析を実施し、新しい知見が得られた。</p>							

印刷仕様

表紙	レザック	215kg (四六判)
見返し	上質紙	135kg (四六判)
本文	マットコート紙	90kg (四六判)
写真図版	マットコート紙	90kg (四六判)
印刷方式	オフセット印刷	
使用インク	エコマーク商品認定基準に適合	
製版線数	150線 (カラー 175線)	

本書は永久保存を考慮し、すべて中性紙を使用

北区

道合遺跡・赤羽上ノ台遺跡

—赤羽台団地(第Ⅵ期)建替事業に伴う埋蔵文化財発掘調査—

東京都埋蔵文化財センター調査報告 第381集

2024年3月29日 発行

編集・発行 (公財)東京都教育支援機構
東京都埋蔵文化財センター
東京都多摩市落合一丁目14番2
TEL 042 - 374 - 8044

印刷 株式会社 外為印刷
東京都台東区浅草二丁目28番31号
